



## ドキュメント管理サービスSDK リファレンスガイド ArcSuite 4.0

## はじめに

このたびは富士フィルムビジネスイノベーションのArcSuite<sup>®</sup>をご利用いただき、まことにありがとうございます。

一般に、企業活動では、各業務に関する情報はさまざまな形態のドキュメントとして存在しています。ここでいうドキュメントとは、紙に書かれた文書だけを示す狭義のものではありません。紙はもちろんのこと、ホワイトボードに書かれた文字や図表、プロジェクターやテレビに映し出された映像などを含む広義なものを指します。

ドキュメントは一般に、ひとりの手で作成されるものではなく、複数の人の意見交換や討議を経て作成されます。単純な作業や複雑な計算はコンピューターに委ねられ、あらゆる分野でさまざまなソリューションが展開されていますが、ドキュメントの作成では一般に人が中心なのです。

ArcSuiteは、「ドキュメント」に着目して「人」と「人」をつなぐ、「ドキュメント指向」のソリューション・パッケージです。ArcSuiteをご利用いただくことによって、さまざまなコンピューターシステムを統合したうえでのドキュメントの共有や管理が可能になります。

お使いの商品構成によって、次の機能が標準で提供されないことがあります。

コラボスペース、ドキュメントレビューオプション、ワークフロー、分類ビュー、関連文書検索サービス、原本性保証オプション、キャプチャリングサービス、統合検索サービス、オンラインバックアップオプション、ドキュメント一括操作ツール、連携フォルダ for DocuWorks、連携オプション for Working Folder

本書の内容は、Microsoft Windows Operating System、およびWebブラウザの基本的な知識や操作方法を習得されているかたを対象として記述しています。

Excel、Microsoft、Windows、およびWindows Serverは、米国Microsoft Corporationの、米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Oracle とJava は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

Xerox、Xeroxロゴ、およびFuji Xerox ロゴは、米国ゼロックス社の登録商標または商標です。

その他の社名または商品名などは、各社の登録商標または商標です。

Microsoft Corporation の許可を得て画面写真を使用しています。

### ご注意

- ・ 本書の編集、変更、または無断での転載はしないでください。
- ・ 本書に記載されている内容は、将来予告なしに変更されることがあります。
- ・ 本書に記載されている画面やイラストは一例です。ご使用の機種やソフトウェア、OS のバージョンによって異なることがあります。

FUJIFILM、およびFUJIFILM ロゴは、富士フィルム株式会社の登録商標または商標です。

ArcSuite、およびDocuWorksは、富士フィルムビジネスイノベーション株式会社の登録商標または商標です。

## 著作権について

本ソフトウェア、およびバックアップのために複製されたソフトウェアに関する著作権等を含む一切の無体財産権は、弊社および弊社への供給者に帰属します。

(c) 2002-2021 FUJIFILM Business Innovation Corp.

## マニュアル体系

ArcSuiteには、次のマニュアルおよびヘルプがあります。

マニュアルは、PDFファイルまたはヘルプの形式で提供しています。

主なマニュアルは、『ポータル画面のヘルプ』から参照できます。『ポータル画面のヘルプ』は、Webブラウザの操作画面にある [ヘルプ] から表示できます。

**補足** お使いの商品構成によっては、提供されない機能の説明がマニュアルに含まれることがあります。

### ■ 管理者ユーザー向け

名称	概要
セットアップガイド	本製品全体のセットアップ方法について説明しています。
システム管理者ガイド	リソース管理サービスの概要、機能、管理操作を行うコマンドについて説明しています。また、本製品の運用に必要な管理作業について説明しています。
ドキュメント管理サービス管理者ガイド	ドキュメント管理サービスの概要、機能、および管理操作を行うコマンドについて説明しています。
ドキュメント管理サービス管理アプリケーション デスクトップ版のヘルプ	サーバーで行うドキュメント管理サービスの管理操作について説明しています。
ドキュメント管理サービス管理アプリケーション Web版のヘルプ	クライアントPCで行うドキュメント管理サービスの管理操作について説明しています。
オフラインバックアップ・リストア運用ガイド	オフラインバックアップ機能の操作、およびリストア機能の操作について説明しています。
リソース管理アプリケーションのヘルプ	ユーザー、グループ、ユーザーロールの追加、およびライセンスの編集、検索について説明しています。
ログインサーバー管理アプリケーションのヘルプ	ログインサーバーでの認証モードの設定について説明しています。
メッセージ通知管理アプリケーションのヘルプ	メッセージ通知サーバーの設定、メッセージのプール管理、メッセージテンプレートの設定について説明しています。
ポータル管理アプリケーションのヘルプ	ユーザープロフィールに表示する項目の設定、お知らせの設定について説明しています。
ドキュメントスペース管理アプリケーションのヘルプ	属性テンプレートや表示する属性の設定、表示するボタンの設定、およびシステム環境の設定について説明しています。
表示アプリケーション管理ツールのヘルプ	表示アプリケーションのテンプレート、システム環境の設定について説明しています。
ログ管理アプリケーションのヘルプ	ログを表示する機能、ログを取得する機能、および保守情報を一括で取得する機能について説明しています。

名称	概要
監視ツールのヘルプ	ArcSuiteのコンポーネントにアクセスしているユーザー、データベースの状態、およびセッションの状態を監視する機能について説明しています。
ドキュメントスペースドキュメント操作URLリファレンスガイド	ドキュメントスペースの機能にURLを使用して接続する機能について説明しています。
オンラインバックアップ・リストア運用ガイド	オンラインバックアップ機能の操作、およびリストア機能の操作について説明しています。
e-文書法対応 概要説明書	e-文書法対応の概要および原本性保証オプションの機能について説明しています。
コラボスペース管理アプリケーションのヘルプ	コラボスペースのメールの設定、ログの設定、およびタスクやメッセージの用語をカスタマイズする設定について説明しています。
ワークフロー管理アプリケーションのヘルプ	ワークフロー定義または起動テンプレートの作成者および公開者の設定、ログの設定、外部コマンドの設定について説明しています。
キャプチャリング管理アプリケーションのヘルプ	キャプチャリングサービスの監視キューに対する操作について説明しています。
統合検索サービス管理アプリケーションのヘルプ	統合検索サービスのリソースの設定、収集スケジュールの設定、およびシステム環境の設定について説明しています。
コラボスペースタスク操作URLリファレンスガイド	コラボスペースの機能にURLを使用して接続する機能について説明しています。
ワークフロー操作URLリファレンスガイド	ワークフローの機能にURLを使用して接続する機能について説明しています。
Webサービスインターフェイスリファレンスガイド	ArcSuiteの機能にSOAPを使用して接続するAPIについて説明しています。
ドキュメント管理サービスSDKリファレンスガイド (本書)	ドキュメント管理サービスのオブジェクトを処理するコマンドについて説明しています。
コラボスペースInterface Toolkitリファレンスガイド	コラボスペースのオブジェクトを処理するコマンドについて説明しています。
ワークフロー Interface Toolkitリファレンスガイド	ワークフローのオブジェクトを処理するコマンドについて説明しています。

## ■ クライアントユーザー向け

名称	概要
ポータル画面のヘルプ	ポータル画面で、お気に入りの編集、ユーザープロフィールを変更する操作について説明しています。 Webブラウザの操作画面にある [ヘルプ] から参照してください。
アドレス帳のヘルプ	アドレス帳で、ユーザー、グループ、ユーザーロール、およびタスクを検索する操作について説明しています。
ドキュメントスペースのヘルプ	ドキュメントスペースで、登録、属性の変更、検索などのドキュメントを管理する機能の操作について説明しています。
表示アプリケーションのヘルプ	表示アプリケーションで、ブラウザーイメージ変換された画像を編集する操作、およびユーザー設定について説明しています。
検索条件式のヘルプ	ドキュメントスペースの詳細検索で、全文検索または属性検索の条件式をXMLで指定するときの記述方法について説明しています。

名称	概要
簡易操作のヘルプ	簡易操作画面でドキュメントを管理する機能の操作、および操作画面の設定方法について説明しています。
コラボスペースのヘルプ	コラボスペースで、タスクの作成、メッセージの登録、および検索などの操作について説明しています。
ワークフローのヘルプ	ワークフローで、ワークフロー定義の作成、公開および起動する操作、作業を実行する操作について説明しています。
ドキュメント一括操作ツール説明書	Microsoft Excelを使って、ドキュメント管理サービスのオブジェクトを処理する操作について説明しています。
デスクトップクライアント セットアップガイド	デスクトップクライアントのセットアップ方法について説明しています。
デスクトップクライアント 操作説明書	デスクトップクライアントで、ドキュメント管理サービスのフォルダーやドキュメントにアクセスする操作方法について説明しています。
連携フォルダ for DocuWorks セットアップガイド	連携フォルダ for DocuWorksのセットアップ方法について説明しています。
連携フォルダ for DocuWorksの ヘルプ (*1)	DocuWorks Deskで、ArcSuiteに登録されているドキュメントを操作する方法について説明しています。

\* 1: 連携フォルダ for DocuWorks をインストールした DocuWorks Desk のヘルプから参照してください。

## 本書の使い方

本書は、ドキュメント管理サービスが管理するオブジェクトをコマンド操作によって処理するためのドキュメント管理サービスInterface Tool Kitとライブラリ・APIについて説明しています。

また、Interface Tool Kit、ライブラリ、およびAPI を総称してSDK (Software Development Kit) と定義しています。

本書は、ドキュメント管理サービスが管理するオブジェクトをコマンド操作で処理するためのInterface Tool Kit について詳細に説明しています。ドキュメント管理サービスに対するバッチ処理などを行うときに、本書をお読みください。

### ■ 本書の構成

本書は、次の部、章、付録から構成されています。

#### [第1部 ドキュメント管理サービス Interface Tool Kit 編](#)

##### [1 ドキュメント管理サービス Interface Tool Kit の概要](#)

ドキュメント管理サービスInterface Tool Kit の概要について説明しています。

##### [2 オブジェクト操作コマンド群の使い方](#)

オブジェクト操作コマンド群の使い方について説明しています。

##### [3 実行パラメーターファイルを用意する](#)

オブジェクト操作のために用意する実行パラメーターファイルの記述内容について説明しています。

##### [4 操作対象オブジェクト指定ファイルを用意する](#)

オブジェクト操作コマンドのために用意する、操作対象オブジェクト指定ファイルの記述内容について説明しています。

---

## [5 検索条件記述ファイルを用意する](#)

オブジェクト操作コマンドのために用意する、検索条件記述ファイルの記述内容について説明しています。

## [6 ACL ファイルを用意する](#)

オブジェクト操作コマンドのために用意する、ACL ファイルの記述内容について説明しています。

## [7 オブジェクト操作を実行する](#)

オブジェクト操作コマンドの実行方法について説明しています。

## [8 メッセージのフォーマット](#)

オブジェクト操作コマンドの実行時に出力されるログファイルと正常結果情報のフォーマットについて説明しています。

## [9 属性値のフォーマット](#)

オブジェクト操作コマンドの実行時に出力される属性値のフォーマットについて説明します。

## [10 オブジェクト操作コマンドの使用例](#)

オブジェクト操作コマンドの使用例をサンプルと共に説明しています。

# [第 2 部 ドキュメント管理サービス 一括登録コマンド編](#)

## [1 一括登録機能の概要](#)

一括登録コマンドの概要について説明しています。

## [2 オブジェクト登録ファイルを用意する](#)

一括登録実行のために用意する、オブジェクト登録ファイルの記述内容について説明しています。

## [3 基本パラメーターファイルを用意する](#)

一括登録実行のために用意する、基本パラメーターファイルの記述内容について説明しています。

## [4 参照先属性転記ファイルを用意する](#)

一括登録実行のために用意する、参照先属性転記ファイルの記述内容について説明しています。

## [5 一括登録を実行する](#)

一括登録コマンドの実行方法について説明しています。

## [6 一括登録のログ](#)

一括登録コマンドで作成されるログについて説明しています。

## [7 一括登録コマンドの使用例](#)

一括登録コマンドの使用例をサンプルと共に説明しています。

## [付録](#)

ドキュメント管理サービスSDKのインストールとアンインストールの方法、検索条件式の記述形式、エディションキーパラメーターのフォーマット、XMLによる検索条件の記述方法、ライブラリ・API、および Windows のファイアウォール機能に対する設定内容について説明しています。

## ■ 本書の表記

- ・本書では、次の記号を使用しています。

< > キー	キーボードのキーを表します。 例：<Enter>キーを押します。
[ ]	画面に表示されるメニュー、ボタン、項目を表します。 例：[新規作成] をクリックします。
[ ]	同一マニュアル内の参照箇所を表します。 また、強調する用語やメッセージも表します。 例：「1.2 システム構成」を参照してください。 「名前が指定されていません。」と表示されます。
『 』	参照するマニュアルの名前を表します。 例：『システム管理者ガイド』を参照してください。
{ }	ユーザー名やサーバー名など、操作時に変わる値を表します。 例：[{ユーザー名}] をクリックします。
>	メニューやWebページの階層を表します。 例：[システムとセキュリティ] > [管理ツール]
<b>注記</b>	一般的な注意事項を表します。
<b>補足</b>	機能や操作に関する補足説明を表します。
<b>参照</b>	参照する事項があることを表します。
<u>          </u>	参照先タイトルやページへのリンクがあることを表します。 例： <a href="#">[1 概要] (P.6)</a>

- ・コマンドラインを次のように表記しています。

abc	画面に表示される文字列、またはユーザーが入力する文字列を表します。 例：showDrawerInformation
{abc}	ユーザー名やサーバー名など、操作時に変わる値を表します。 例：cabinetId {or RETURN} = {キャビネットID}

- ・Microsoft Windows Operating System を「Windows」と表記しています。
- ・パーソナルコンピュータを「PC」と表記しています。
- ・お使いの環境によって、マニュアルに記載の画面と実際の画面が異なることがあります。
- ・特に表記がない場合の製品のバージョン番号は「4.0」です。

# 目次

## 第 1 部 ドキュメント管理サービス Interface Tool Kit 編

### 1 ドキュメント管理サービス Interface Tool Kit の概要

1.1	概要	21
1.1.1	オブジェクト操作コマンド	21
	オブジェクトの属性の取り出し	21
	オブジェクトのコンテンツの取り出し	21
	フォルダーの取り出し	21
	オブジェクトの削除	21
	オブジェクトのリストの取得	21
	ドキュメント管理サービス内のオブジェクトの転記	21
	ドキュメント管理サービス内のオブジェクトの移動	21
	オブジェクトのロック	22
	オブジェクトのアンロック	22
	オブジェクトのアクセス権の変更	22
	オブジェクトのデフォルトアクセス権の変更	22
	オブジェクトの版管理下への追加	22
	オブジェクトの版管理の除外	22
	オブジェクトの状態の変更	22
	オブジェクトのクラスの変更	22
	リファレンスオブジェクトの実体化	22
	オブジェクトの内容依存情報の更新	22
	オブジェクトのリビジョンリストの取得	22
	オブジェクトのリビジョンの削除	22
	オブジェクトパスの取得	22
	ごみ箱内オブジェクトの復元	22
1.1.2	一括登録コマンド	23
	ドキュメント登録	23
	リファレンス生成	23
	リファレンス同時生成	23
	フォルダー登録	23
	改版	23
	改訂 (リビジョンアップ)	23
	上書き	23
	マージ	23
1.2	コマンドの実行方法	24
	コマンドの実行方法	24
2	オブジェクト操作コマンド群の使い方	
2.1	オブジェクト操作コマンドの形式	26
2.2	オブジェクト操作コマンドのためのファイル	27
2.2.1	実行パラメーターファイルとは	27
2.2.2	操作対象オブジェクト指定ファイルとは	28
3	実行パラメーターファイルを用意する	
3.1	実行パラメーターファイルの書式	30
3.1.1	parameter 要素	30
3.1.2	logFile 要素	31

3.1.3	resultFile 要素	32
3.1.4	getAtomId 要素	34
3.1.5	getRefId 要素	34
3.1.6	aclFileStoreDir 要素	35
3.1.7	defAclFileStoreDir 要素	36
3.1.8	getObjectId 要素	37
3.1.9	noticeAction 要素	38
3.1.10	textSearch 要素	39
3.1.11	delObjExecMode 要素	40
3.1.12	getListExecMode 要素	40
3.1.13	csvCharset 要素	41

## 4 操作対象オブジェクト指定ファイルを用意する

4.1	操作対象オブジェクト指定ファイルの書式	43
4.1.1	操作対象オブジェクト指定ファイルに記述できるパラメーター一覧	44
4.2	操作対象指定パラメーター	54
4.2.1	ダイレクト形式 (サービス) での指定	56
4.2.2	ダイレクト形式 (キャビネット) での指定	56
4.2.3	ダイレクト形式での指定	57
4.2.4	検索条件での指定	57
	検索条件形式での指定 (検索起点がキャビネット)	57
	検索条件形式での指定 (検索起点がドロワー)	58
	検索条件形式での指定 (検索起点がドロワー、フォルダー)	58
4.2.5	エディションキー指定	59
4.2.6	リビジョン番号指定	59
4.3	転記先/移動先/復元先指定パラメーター	60
4.3.1	ダイレクト形式での指定	61
4.3.2	検索条件での指定	62
	検索条件形式での指定 (検索起点がキャビネット)	62
	検索条件形式での指定 (検索起点がドロワー)	62
	検索条件形式での指定 (検索起点がドロワー、フォルダー)	62
4.4	転記位置/移動位置指定パラメーター	63
4.4.1	ダイレクト形式での指定 (nextObjectId)	64
4.4.2	ダイレクト形式での指定 (nextDreplId)	65
4.4.3	検索条件式での指定 (検索起点が転記先/移動先オブジェクト)	65
4.5	操作対象範囲指定パラメーター	66
4.6	取り出し先指定パラメーター	67
4.6.1	オブジェクトのコンテンツ取り出しコマンドで記述した場合	67
4.6.2	フォルダーオブジェクト取り出しコマンドで記述した場合	68
4.7	コメントパラメーター	69
4.8	アクセス権変更パラメーター	70
4.9	エディションキー属性パラメーター	71
4.10	状態変更パラメーター	72
4.11	クラス変更パラメーター	73
4.12	内容依存情報更新パラメーター	74
4.13	ソートパラメーター	75
4.14	ハードリファレンス削除モードパラメーター	76
4.15	破棄パラメーター	77
4.15.1	disposalOfAttributes パラメーター	77

4.15.2	disposalOfContents パラメーター .....	77
4.15.3	disposalOfObjectType パラメーター .....	77
4.15.4	disposalOfEditionKey パラメーター .....	78
4.15.5	disposalOfUniqueKey パラメーター .....	78
4.16	リファレンス変換パラメーター .....	79
4.17	ACL 継承パラメーター .....	80
4.18	属性マージモードパラメーター .....	81
4.19	リビジョン削除モードパラメーター .....	82
4.20	パス情報取得パラメーター .....	83
4.21	ローカルファイル名に使用する属性パラメーター .....	84
4.22	オフラインコンテンツの取得エラーパラメーター .....	85
<b>5</b>	<b>検索条件記述ファイルを用意する</b>	
5.1	検索条件記述ファイルの書式 .....	87
<b>6</b>	<b>ACL ファイルを用意する</b>	
6.1	ACL ファイルの書式 .....	89
<b>7</b>	<b>オブジェクト操作を実行する</b>	
7.1	オブジェクト属性取り出しコマンド .....	92
7.1.1	drgetattr .....	92
	コマンド形式 .....	92
	コマンドパラメーター .....	92
	コマンド戻り値 .....	93
	エラー .....	93
	備考 .....	93
7.1.2	wfgetattr .....	93
	コマンド形式 .....	93
	コマンドパラメーター .....	93
	コマンド戻り値 .....	94
	エラー .....	94
7.2	オブジェクトのコンテンツ取り出しコマンド .....	95
7.2.1	drgetcont .....	95
	コマンド形式 .....	95
	コマンドパラメーター .....	96
	コマンド戻り値 .....	96
	エラー .....	96
	備考 .....	96
7.2.2	wfgetcont .....	97
	コマンド形式 .....	97
	コマンドパラメーター .....	97
	コマンド戻り値 .....	97
	エラー .....	98
7.3	フォルダーオブジェクトの取り出しコマンド .....	99
	コマンド形式 .....	99
	コマンドパラメーター .....	99
	コマンド戻り値 .....	100
	エラー .....	100
	備考 .....	100

<b>7.4</b>	<b>オブジェクト削除コマンド</b> .....	<b>101</b>
7.4.1	drdelobj.....	101
	コマンド形式.....	101
	コマンドパラメーター .....	101
	コマンド戻り値 .....	102
	エラー .....	102
	備考.....	102
7.4.2	wfdelobj .....	102
	コマンド形式.....	102
	コマンドパラメーター .....	102
	コマンド戻り値 .....	103
	エラー .....	103
<b>7.5</b>	<b>オブジェクトリスト取得コマンド</b> .....	<b>104</b>
7.5.1	drgetlist.....	104
	コマンド形式.....	105
	コマンドパラメーター .....	105
	コマンド戻り値 .....	105
	エラー .....	105
	備考.....	105
7.5.2	wfgetlist .....	106
	コマンド形式.....	106
	コマンドパラメーター .....	106
	コマンド戻り値 .....	107
	エラー .....	107
<b>7.6</b>	<b>ドキュメント管理サービス内オブジェクト転記コマンド</b> .....	<b>108</b>
7.6.1	drcpobj.....	108
	コマンド形式.....	108
	コマンドパラメーター .....	108
	コマンド戻り値 .....	109
	エラー .....	109
	備考.....	109
7.6.2	wfcpobj .....	110
	コマンド形式.....	110
	コマンドパラメーター .....	110
	コマンド戻り値 .....	110
	エラー .....	110
<b>7.7</b>	<b>ドキュメント管理サービス内オブジェクト移動コマンド</b> .....	<b>111</b>
7.7.1	drmvobj.....	111
	コマンド形式.....	111
	コマンドパラメーター .....	111
	コマンド戻り値 .....	112
	エラー .....	112
	備考.....	112
7.7.2	wfmvobj .....	112
	コマンド形式.....	113
	コマンドパラメーター .....	113
	コマンド戻り値 .....	113
	エラー .....	113
<b>7.8</b>	<b>オブジェクトのロックコマンド</b> .....	<b>114</b>
	コマンド形式.....	114
	コマンドパラメーター .....	114
	コマンド戻り値 .....	114

エラー .....	114
備考 .....	115
<b>7.9 オブジェクトのアンロックコマンド .....</b>	<b>116</b>
コマンド形式 .....	116
コマンドパラメーター .....	116
コマンド戻り値 .....	116
エラー .....	117
備考 .....	117
<b>7.10 オブジェクトのアクセス権変更コマンド .....</b>	<b>118</b>
コマンド形式 .....	118
コマンドパラメーター .....	118
コマンド戻り値 .....	118
エラー .....	119
備考 .....	119
<b>7.11 オブジェクトのデフォルトアクセス権変更コマンド .....</b>	<b>120</b>
コマンド形式 .....	120
コマンドパラメーター .....	120
コマンド戻り値 .....	120
エラー .....	121
備考 .....	121
<b>7.12 オブジェクトの版管理下追加コマンド .....</b>	<b>122</b>
コマンド形式 .....	122
コマンドパラメーター .....	122
コマンド戻り値 .....	122
エラー .....	123
備考 .....	123
<b>7.13 オブジェクトの版管理除外コマンド .....</b>	<b>124</b>
コマンド形式 .....	124
コマンドパラメーター .....	124
コマンド戻り値 .....	124
エラー .....	124
備考 .....	125
<b>7.14 オブジェクトの状態変更コマンド .....</b>	<b>126</b>
コマンド形式 .....	126
コマンドパラメーター .....	126
コマンド戻り値 .....	126
エラー .....	126
備考 .....	127
<b>7.15 オブジェクトのクラス変更コマンド .....</b>	<b>128</b>
コマンド形式 .....	128
コマンドパラメーター .....	128
コマンド戻り値 .....	128
エラー .....	129
備考 .....	129
<b>7.16 リファレンスオブジェクトの実体化コマンド .....</b>	<b>130</b>
コマンド形式 .....	130
コマンドパラメーター .....	130
コマンド戻り値 .....	130
エラー .....	131
備考 .....	131

7.17	オブジェクトの内容依存情報の更新コマンド .....	132
	コマンド形式 .....	132
	コマンドパラメーター .....	132
	コマンド戻り値 .....	132
	エラー .....	133
	備考 .....	133
7.18	オブジェクトのリビジョンリスト取得コマンド .....	134
	コマンド形式 .....	134
	コマンドパラメーター .....	134
	コマンド戻り値 .....	134
	エラー .....	135
	備考 .....	135
7.19	オブジェクトのリビジョンの削除コマンド .....	136
	コマンド形式 .....	136
	コマンドパラメーター .....	136
	コマンド戻り値 .....	136
	エラー .....	137
	備考 .....	137
7.20	オブジェクトパスの取得コマンド .....	138
	コマンド形式 .....	138
	コマンドパラメーター .....	138
	コマンド戻り値 .....	138
	エラー .....	139
	備考 .....	139
7.21	ごみ箱内オブジェクトの復元コマンド .....	140
	コマンド形式 .....	140
	コマンドパラメーター .....	140
	コマンド戻り値 .....	140
	エラー .....	141
	備考 .....	141
8	メッセージのフォーマット	
8.1	ログファイルのフォーマット .....	143
8.2	正常結果情報のフォーマット .....	145
8.2.1	「オブジェクトの属性取り出しコマンド」、 「オブジェクトリスト取得コマンド」の場合 ..	145
8.2.2	「オブジェクトのコンテンツ取り出しコマンド」 の場合 .....	148
8.2.3	「フォルダー取り出しコマンド」の場合 .....	149
8.2.4	「オブジェクトのリビジョンリスト取得コマンド」 の場合 .....	150
8.2.5	「オブジェクトパスの取得コマンド」の場合 .....	151
8.2.6	「オブジェクト削除コマンド」の場合 .....	152
8.2.7	それ以外のコマンドの場合 .....	153
9	属性値のフォーマット	
9.1	使用できる属性の型 .....	155
9.2	取得した属性の値のフォーマット .....	156
9.2.1	特殊な使い方を する文字 .....	156
9.2.2	数値型属性 .....	156
9.2.3	日時型属性 .....	156
9.2.4	文字列型属性 .....	157
9.2.5	ブール型属性 .....	157

9.2.6	アトム型属性 .....	157
9.2.7	URI 型属性 .....	158
9.2.8	プリンシパル型 .....	158
9.2.9	ユーザーロール型 .....	159
9.2.10	多値属性 .....	159

## 10 オブジェクト操作コマンドの使用例

10.1	サンプル環境 .....	161
10.2	オブジェクト属性取り出しコマンド (drgetattr) 使用例 1 .....	162
	コマンド実行例 .....	162
	実行パラメーターファイル (C:%Temp%iftktest%drgetattr_1%sample.xml) .....	162
	操作対象オブジェクト指定ファイル (C:%Temp%iftktest%drgetattr_1%sample.csv) ...	162
	実行結果 (上記の例を実行した場合 result.csv) .....	162
	ログファイル (上記の例を実行した場合 drgetattr.log) .....	162
10.3	オブジェクト属性取り出しコマンド (drgetattr) 使用例 2 .....	163
	コマンド実行例 .....	163
	実行パラメーターファイル (C:%Temp%iftktest%drgetattr_2%sample.xml) .....	163
	操作対象オブジェクト指定ファイル (C:%Temp%iftktest%drgetattr_2%sample.csv) ...	163
	実行結果 (上記の例を実行した場合 result.csv) .....	164
	ログファイル (上記の例を実行した場合 drgetattr.log) .....	164
10.4	オブジェクトのコンテンツ取り出しコマンド (drgetcont) 使用例 .....	165
	コマンド実行例 .....	165
	実行パラメーターファイル (C:%Temp%iftktest%drgetcont%sample.xml) .....	165
	操作対象オブジェクト指定ファイル (C:%Temp%iftktest%drgetcont%sample.csv) .....	165
	実行結果 (上記の例を実行した場合 result.csv) .....	166
	ログファイル (上記の例を実行した場合 drgetcont.log) .....	166
10.5	オブジェクトパスの取得コマンド (drgetpath) 使用例 .....	167
	コマンド実行例 .....	167
	実行パラメーターファイル (C:%Temp%iftktest%drgetpath%sample.xml) .....	167
	操作対象オブジェクト指定ファイル (C:%Temp%iftktest%drgetpath%sample.csv) .....	167
	実行結果 (上記の例を実行した場合 result.csv) .....	167
	ログファイル (上記の例を実行した場合 drgetcont.log) .....	167
10.6	オブジェクトのリビジョンリスト取得コマンド (drlistrev) 使用例 .....	168
	コマンド実行例 .....	168
	実行パラメーターファイル (C:%Temp%iftktest%drlistrev%sample.xml) .....	168
	操作対象オブジェクト指定ファイル (C:%Temp%iftktest%drlistrev%sample.csv) .....	168
	実行結果 (上記の例を実行した場合 result.csv) .....	168
	ログファイル (上記の例を実行した場合 drlistrev.log) .....	168
10.7	オブジェクトのロックコマンド (drlkobj) 使用例 .....	169
	コマンド実行例 .....	169
	実行パラメーターファイル (C:%Temp%iftktest%drlkobj%sample.xml) .....	169
	操作対象オブジェクト指定ファイル (C:%Temp%iftktest%drlkobj%sample.csv) .....	169
	実行結果 (上記の例を実行した場合 result.csv) .....	169
	ログファイル (上記の例を実行した場合 drlkobj.log) .....	169
10.8	オブジェクトのアンロックコマンド (drunlkobj) 使用例 .....	170
	コマンド実行例 .....	170
	実行パラメーターファイル (C:%Temp%iftktest%drunlkobj%sample.xml) .....	170
	操作対象オブジェクト指定ファイル (C:%Temp%iftktest%drunlkobj%sample.csv) .....	170
	実行結果 (上記の例を実行した場合 result.csv) .....	170
	ログファイル (上記の例を実行した場合 drunlkobj.log) .....	170

## 第 2 部 ドキュメント管理サービス 一括登録コマンド編

### 1 一括登録機能の概要

1.1	一括登録でできること	172
	ドキュメント登録	172
	リファレンス生成	172
	リファレンス同時生成	173
	フォルダー登録	173
	改版	173
	改訂 (リビジョンアップ)	173
	上書き	173
	マージ	173
1.2	コマンドの実行方法	174
	コマンドの実行方法	174
1.3	一括登録コマンドの形式	175
1.4	一括登録コマンドのためのファイル	176
1.4.1	オブジェクト登録ファイルとは	176
1.4.2	基本パラメーターファイルとは	176
1.4.3	参照先属性転記ファイルとは	177

### 2 オブジェクト登録ファイルを用意する

2.1	オブジェクト登録ファイルの書式	179
2.1.1	オブジェクト登録ファイルの構成要素	179
	システム属性値	179
	ユーザー属性	179
	パラメーター	180
2.1.2	オブジェクト登録ファイルの記述ルール	180
	ヘッダー行の記述	180
	データ行の記述	180
	文字列型属性値の記述	180
	多値属性値の記述	181
	日時型属性値の記述	181
	URI 型属性値の記述	181
	アトム型属性値の記述	181
	記号の記述	181
2.2	オブジェクト登録ファイル中の指定項目となるシステム属性	183
2.3	オブジェクト登録ファイルのパラメーター	184
2.3.1	パラメーター一覧	184
2.3.2	登録先、生成先の指定方法	190
	直前に登録したフォルダーを指定する方法	192
	フォルダーラベルを指定する方法	192
	ダイレクト形式で指定する方法	193
	キャビネット起点の検索条件で指定する方法	193
	ドロワー起点の検索条件で指定する方法	194
	ドロワー、フォルダー起点の検索条件で指定する方法	194
2.3.3	登録位置、生成位置の指定方法	195
	ダイレクト形式 (nextObjectId パラメーター) で指定する方法	196
	ダイレクト形式 (nextDreplId パラメーター) で指定する方法	197
	データ検索先起点の検索条件で指定する方法	197
2.3.4	リファレンス参照先オブジェクトの指定方法	197
	ダイレクト形式で指定する方法	200

	ダイレクト形式（キャビネット）で指定する方法.....	200
	キャビネット起点の検索条件で指定する方法.....	200
	ドロワー起点の検索条件で指定する方法.....	201
	ドロワー、フォルダー起点の検索条件で指定する方法.....	201
	版番号およびリビジョン番号で指定する方法.....	202
2.3.5	存在チェックの対象オブジェクトの指定方法.....	203
	ダイレクト形式で指定する方法.....	205
	キャビネット起点の検索条件で指定する方法.....	206
	ドロワー起点の検索条件で指定する方法.....	206
	ドロワー、フォルダー起点の検索条件で指定する方法.....	207
2.3.6	版管理の指定方法.....	208
	版番号を指定する方法.....	208
	版ラベルを指定する方法.....	209
	最新版番号を割り当てる方法.....	209
2.3.7	処理対象オブジェクトの指定方法.....	209
	最新エディションのオブジェクトを指定する方法.....	210
	検索条件で指定する方法.....	210
	ダイレクトにオブジェクトを指定する方法.....	211
2.3.8	改版前のオブジェクトの状態の指定方法.....	212
2.3.9	コンテンツファイルの指定方法.....	212
	絶対パスを指定する方法.....	212
	ルートディレクトリーからのパスを指定する方法.....	213
	相対パスを指定する方法.....	213
	セカンダリコンテンツを指定する方法.....	213
2.3.10	コンテンツファイルの変換を指定する方法.....	214
2.3.11	内容依存情報の更新を指定する方法.....	214
2.3.12	検索条件の記述形式.....	215
<b>2.4</b>	<b>処理内容に応じたオブジェクト登録ファイル.....</b>	<b>216</b>
2.4.1	ドキュメント登録の場合.....	216
	システム属性値の指定.....	216
	ユーザー属性の指定.....	216
	パラメーターの指定.....	216
	指定例.....	217
2.4.2	リファレンス生成の場合.....	218
	システム属性値の指定.....	218
	ユーザー属性の指定.....	218
	パラメーターの指定.....	218
	指定例.....	219
2.4.3	リファレンス同時生成の場合.....	220
	システム属性値の指定.....	220
	ユーザー属性の指定.....	220
	パラメーターの指定.....	220
	指定例.....	220
2.4.4	フォルダー登録の場合.....	221
	システム属性値の指定.....	221
	ユーザー属性の指定.....	221
	パラメーターの指定.....	221
	指定例.....	222
2.4.5	改版の場合.....	223
	システム属性値の指定.....	223
	ユーザー属性の指定.....	223
	パラメーターの指定.....	223
	指定例.....	224

2.4.6	改訂 (リビジョンアップ) の場合 .....	224
	システム属性値の指定 .....	224
	ユーザー属性の指定 .....	224
	パラメーターの指定 .....	224
	指定例 .....	227
2.4.7	上書きの場合 .....	227
	システム属性値の指定 .....	227
	ユーザー属性の指定 .....	227
	パラメーターの指定 .....	227
	指定例 .....	229
2.4.8	マージの場合 .....	230
	システム属性値の指定 .....	230
	ユーザー属性の指定 .....	230
	パラメーターの指定 .....	230
	指定例 .....	232
<b>3</b>	<b>基本パラメーターファイルを用意する</b>	
3.1	基本パラメーターファイルの構成要素 .....	234
3.2	基本パラメーターファイルのタグ .....	235
3.2.1	ルートタグ .....	235
3.2.2	実行パラメータータグ .....	235
3.2.3	デフォルトパラメータータグ .....	237
3.3	entryMode と使用されるパラメーターの関係 .....	242
<b>4</b>	<b>参照先属性転記ファイルを用意する</b>	
4.1	参照先属性転記ファイルの構成要素 .....	247
4.2	参照先属性転記ファイルのタグ .....	248
4.2.1	ルートタグ .....	248
4.2.2	タグ .....	248
<b>5</b>	<b>一括登録を実行する</b>	
5.1	一括登録コマンドを実行する .....	250
5.1.1	drregist .....	250
	コマンド形式 .....	250
	コマンドパラメーター .....	250
	実行結果 .....	251
	コマンド戻り値 .....	252
	エラー .....	252
5.1.2	wfregist .....	252
	コマンド形式 .....	252
	コマンドパラメーター .....	252
	実行結果 .....	252
	コマンド戻り値 .....	252
	エラー .....	253
5.2	一括登録の実行例 .....	254
<b>6</b>	<b>一括登録のログ</b>	
6.1	一括登録のログ情報 .....	257
	ログ情報の形式 .....	257
	ログに含まれる情報 .....	257

## 7 一括登録コマンドの使用例

7.1 サンプル環境 .....	261
7.2 一括登録コマンドの使用例 1.....	262
コマンド実行例 .....	262
実行パラメーターファイル (C:¥Temp¥iftktest¥drregist_1¥sample.xml) .....	262
操作対象オブジェクト指定ファイル (C:¥Temp¥iftktest¥drregist_1¥sample.csv) .....	262
ログファイル (上記の例を実行した場合 entry.log) .....	262
7.3 一括登録コマンドの使用例 2.....	263
コマンド実行例 .....	263
実行パラメーターファイル (C:¥Temp¥iftktest¥drregist_2¥sample.xml) .....	263
操作対象オブジェクト指定ファイル (C:¥Temp¥iftktest¥drregist_2¥sample.csv) .....	263
ログファイル (上記の例を実行した場合 entry.log) .....	264
7.4 一括登録コマンドの使用例 3.....	265
コマンド実行例 .....	265
実行パラメーターファイル (C:¥Temp¥iftktest¥drregist_3¥sample.xml) .....	265
操作対象オブジェクト指定ファイル (C:¥Temp¥iftktest¥drregist_3¥sample.csv) .....	265
ログファイル (上記の例を実行した場合 entry.log) .....	266

## 付録

付録A インストールとアンインストール.....	268
付録 A.1 インストールの前に確認すること .....	268
付録 A.2 インストール .....	269
付録 A.3 インストールの内容 .....	270
付録 A.4 アンインストール.....	271
付録 A.5 バージョンアップ.....	271
付録B 検索条件の記述形式.....	272
付録 B.1 記述フォーマット.....	272
付録 B.2 条件値の入力フォーマット .....	273
数値型.....	273
日時型.....	273
文字列型.....	273
ブール型.....	274
アトム型.....	274
プリンシパル型.....	274
ユーザーロール型.....	275
検索条件の記述例.....	275
付録C エディションキーパラメーターのフォーマット .....	276
付録D 用語集 .....	277
付録E XMLによる検索条件の記述方法.....	281
付録 E.1 XML 形式での全文検索条件式の記述方法 .....	281
記述ルール.....	281
XML の要素.....	284
検索条件の記述例.....	287
付録 E.2 XML 形式での属性検索条件式の記述方法 .....	288
記述ルール.....	288
XML の要素.....	291
検索条件の記述例.....	296
付録F JavaAPI .....	297

---

付録 F.1	JavaAPI の概要 .....	297
	ライブラリ版 .....	297
	API 版 .....	297
付録 F.2	API ドキュメントとサンプルプログラムの利用.....	298
付録 F.3	サンプルプログラム .....	299
	ライブラリ版 .....	299
	API 版 .....	299
付録 F.4	動作環境 .....	299
付録 F.5	注意事項 .....	303
<b>付録 G</b>	<b>Windowsのファイアウォール機能に対する設定内容 .....</b>	<b>304</b>
付録 G.1	Windows のファイアウォール機能について .....	304
付録 G.2	「セキュリティが強化された Windows ファイアウォール」に対する設定.....	304
付録 G.3	「Windows ファイアウォール」に対する設定.....	306
付録 G.4	登録される「例外」、「規則」一覧 .....	306
	プログラムを指定して登録される「例外」、「規則」の一覧.....	306
<b>付録 H</b>	<b>ロック、チェックアウトによる操作の可否 .....</b>	<b>307</b>

# 第1部 ドキュメント管理サービス Interface Tool Kit 編

## 1 ドキュメント管理サービスInterface Tool Kitの概要

ドキュメント管理サービスInterface Tool Kitとは、ドキュメント管理サービスが管理するオブジェクトの属性やコンテンツの取り出しなどのオブジェクトの操作、およびドキュメントやフォルダーの一括登録、リファレンスの一括生成などを行うコマンド群です。

## 1.1 概要

ドキュメント管理サービスInterface Tool Kit（以降、「ドキュメント管理サービスIFTK」と表記します）には、大きく分けて次の2種類の機能があります。

- ・オブジェクト操作コマンド
- ・一括登録コマンド

### 1.1.1 オブジェクト操作コマンド

ドキュメント管理サービスのオブジェクトに対して、コマンド操作によって次の操作を行う機能を提供します。

**注記** オブジェクト操作コマンドで操作できるのは、ドキュメントスペースの標準キャビネットだけです。コラボスペース用キャビネットやワークスペース用キャビネットに対して、オブジェクト操作コマンドを実行することはできません。

なお、ワークフロー用キャビネットに登録されているオブジェクトを操作する機能として、ワークフロードキュメントアクセスツールがあります。

ワークフロードキュメントアクセスツールでは、次の操作を行う機能を提供します。

- ・オブジェクト属性の取り出し
- ・オブジェクトのコンテンツの取り出し
- ・オブジェクトの削除
- ・オブジェクトのリストの取得
- ・ドキュメント管理サービス内のオブジェクトの転記
- ・ドキュメント管理サービス内のオブジェクトの移動

オブジェクト操作コマンドによって行える処理を次に示します。

#### オブジェクトの属性の取り出し

ドキュメント管理サービスに存在するオブジェクトから、指定した属性を取り出します。

#### オブジェクトのコンテンツの取り出し

ドキュメント管理サービスに存在するドキュメントオブジェクトから、指定したコンテンツと指定した属性を取り出します。

#### フォルダーの取り出し

ドキュメント管理サービスに存在する指定したフォルダーオブジェクトを、下位の階層を含めてローカルに取り出します。

#### オブジェクトの削除

ドキュメント管理サービスに存在するオブジェクトを削除します。

#### オブジェクトのリストの取得

ドキュメント管理サービスに存在するオブジェクトを指定して、直下の子オブジェクトのリストを取得します。

#### ドキュメント管理サービス内のオブジェクトの転記

ドキュメント管理サービスに存在するオブジェクトを、指定されたオブジェクトの下に転記します。

#### ドキュメント管理サービス内のオブジェクトの移動

ドキュメント管理サービスに存在するオブジェクトを、指定されたオブジェクトの下に移動します。

## オブジェクトのロック

ドキュメント管理サービスに存在するオブジェクトをロックします。

## オブジェクトのアンロック

ドキュメント管理サービスに存在するオブジェクトをアンロックします。

## オブジェクトのアクセス権の変更

ドキュメント管理サービスに存在するオブジェクトのアクセス権を変更します。

## オブジェクトのデフォルトアクセス権の変更

ドキュメント管理サービスに存在するフォルダーオブジェクトのデフォルトアクセス権を変更します。

## オブジェクトの版管理下への追加

ドキュメント管理サービスに存在するオブジェクトに対して、エディションキー属性の値を追加します。

## オブジェクトの版管理の除外

ドキュメント管理サービスに存在するオブジェクトのエディションキー属性の値を削除します。

## オブジェクトの状態の変更

ドキュメント管理サービスに存在するオブジェクトの状態を変更します。

## オブジェクトのクラスの変更

ドキュメント管理サービスに存在するオブジェクトのクラスを変更します。

## リファレンスオブジェクトの実体化

ドキュメント管理サービスに存在するリファレンスオブジェクトを実体化します。

## オブジェクトの内容依存情報の更新

ドキュメント管理サービスに存在するオブジェクトの内容依存情報を更新します。

## オブジェクトのリビジョンリストの取得

ドキュメント管理サービスに存在するドキュメントオブジェクトのリビジョンリストを取得します。

## オブジェクトのリビジョンの削除

ドキュメント管理サービスに存在するドキュメントオブジェクトのリビジョンを削除します。

## オブジェクトパスの取得

ドキュメント管理サービスに存在するオブジェクトの登録先を、パス情報として取得します。

## ごみ箱内オブジェクトの復元

ごみ箱内のオブジェクトをごみ箱から復元します。

## 1.1.2 一括登録コマンド

ドキュメント管理サービスにドキュメントやフォルダーを登録したり、リファレンスを生成したりするには、通常、ドキュメントスペースを使用します。ドキュメントスペースのウィンドウ操作による登録や生成は直感的で容易ですが、登録先、属性などを個々に指定しなければならないので、大量の登録や生成を行う場合は手間がかかります。

このため、ドキュメント管理サービスに大量のデータ登録や生成を一括処理するための機能として、「ドキュメント管理サービス一括登録コマンド（略して一括登録コマンド）」を提供します。

**注記** 一括登録コマンドの登録対象は、ドキュメントスペースの標準キャビネットだけです。コラボスペース用キャビネットやワークスペース用キャビネットに対して、一括登録を行うことはできません。

なお、ワークフロー用キャビネットに登録されているオブジェクトを操作する機能として、ワークフロードキュメントアクセスツールがあります。

ワークフロードキュメントアクセスツールでは、一括登録コマンドの機能のうち、次の操作を行う機能を提供します。

- ・「ドキュメント登録」
- ・「フォルダー登録」
- ・「マージ」

一括登録コマンドによって行える処理を次に示します。

### ドキュメント登録

指定したファイルをドキュメントスペースのドキュメントとして登録します。

### リファレンス生成

指定したオブジェクトを参照するリファレンスを生成します。

### リファレンス同時生成

ドキュメントの登録と同時に、そのドキュメントを参照するリファレンスを生成します。

### フォルダー登録

指定したドロワー内、またはフォルダー内に、空のフォルダーを登録します。

### 改版

指定したエディションキーのエディショングループ内の、最新エディションのオブジェクトのコピーを作成し、そのコピーを最新エディションとします。

### 改訂（リビジョンアップ）

指定したファイルを、最新リビジョンのドキュメントとして新たに登録します。

### 上書き

指定したファイルで、ドキュメント管理サービスに登録済みのドキュメントを上書きして置き換えます。

### マージ

ドキュメント管理サービスに登録済みのオブジェクトが持つ属性値を変更します。

## 1.2 コマンドの実行方法

ドキュメント管理サービスIFTKで使用する、コマンド操作の実行方法について説明します。

### コマンドの実行方法

各コマンド（バッチファイル）を実行する手順は、次のとおりです。

1. ドキュメント管理サービス SDK をインストールした PC に、コマンドを実行するユーザーでサインインします。

**注記** コマンドを実行するユーザー名には、全角スペースまたは次の文字を含めないでください。全角スペースまたは次の文字が含まれているとコマンドを実行したときにエラーになります。  
∨（全称記号）、—（ダッシュ）、一（漢数字の1）、稀、紀、儀、言、最、部、需、退、刀、謀、堀、耀、椀、囿、愀、戀、攀、簧、蜀、B（ギリシャ字のベータ）、T（ギリシャ字のタウ）、逢、栢、漢、索、嬢、琢、夢、尢、崢、榧、槁、癩、滕、菴、籠、蠹、錢、鬢

**補足** コマンドは、Windows の標準アカウント以上の権限のあるユーザーで実行できます。

2. [管理者：コマンド プロンプト] 画面を表示します。

#### ◆ Windows Server 2016、Windows Server 2019、Windows 10 の場合

- (1) Windows の [スタート] メニューから、[Windows システムツール] > [コマンドプロンプト] を右クリックし、[その他] > [管理者として実行] を選択します。

#### ◆ Windows 8.1 の場合

- (1) Windows のスタート画面で、左下に表示された [↓] をクリックします。
- (2) [Windows システムツール] カテゴリの [コマンドプロンプト] を右クリックし、[管理者として実行] を選択します。

**補足** [ユーザーアカウント制御] 画面が表示された場合は、[はい] をクリックします。

3. コマンドの格納先ディレクトリーへ移動します。

コマンドの格納先は次のとおりです。

[{プログラムホーム} %Tool%dRepTools%Bin]

**補足** {プログラムホーム} は、デフォルトでは、「C:%Program Files%FUJIFILM%ArcSuite」になります。

4. 実行したいコマンドを、必要な引や数パラメーターと共に入力し、最後に <Enter> キーを押します。



## 2 オブジェクト操作コマンド群の使い方

オブジェクト操作コマンド群の使い方について説明します。

## 2.1 オブジェクト操作コマンドの形式

オブジェクト操作コマンドは次の形式で実行します。

```
コマンド名 [-c] -param {parameter-file} -csv {target-file} -user {userName} [-passwd {password} ]
```

- ・ -c を指定すると、処理中にエラーが発生した場合に処理を続行します。
- ・ -param パラメーターでは、実行パラメーターファイルを指定します。
- ・ -csv パラメーターでは、操作対象オブジェクト指定ファイルを指定します。
- ・ -user パラメーターでは、コマンドを実行するユーザーを指定します。
- ・ -passwd パラメーターでは、コマンドを実行するユーザーのパスワードを指定します。

**注記** ドキュメント管理サービス SDK のインストールでは、環境変数「PATH」を設定しません。そのため、オブジェクト操作コマンドを実行するには、各コマンドへのフルパスを指定するか、環境変数「PATH」に「bin」および「workflow¥bin」へのパスを設定してください。

**参照** ドキュメント管理サービス SDK のインストール方法については、[\[付録 A.2 インストール\] \(P.269\)](#) を参照してください。

## 2.2 オブジェクト操作コマンドのためのファイル

オブジェクト操作コマンド実行のために使う各種ファイルの概要を次に示します。

### 2.2.1 実行パラメーターファイルとは

「実行パラメーターファイル」は、次のパラメーターを含む、XML形式のファイルです。

- ・ ログ情報の出力先ファイルのファイル名を指定するパラメーター
- ・ 正常結果情報の出力先ファイルのファイル名を指定するパラメーター
- ・ オブジェクトを取得する場合の、取得するオブジェクトの AtomID を指定するパラメーター
- ・ 対象オブジェクトがリファレンスオブジェクトの場合の、参照先のオブジェクト ID を取得するかどうかを指定するパラメーター
- ・ 操作対象オブジェクトを全文検索で検索する場合の、全文検索の条件を指定するパラメーター
- ・ ACL を記述したファイルの出力先ディレクトリーを指定するパラメーター
- ・ デフォルト ACL を記述したファイルの出力先ディレクトリーを指定するパラメーター
- ・ ログ情報、正常結果情報に出力するオブジェクトの ID の形式を指定するパラメーター
- ・ 通知情報の動作を指定するパラメーター
- ・ オブジェクト削除時の実行モードを指定するパラメーター
- ・ オブジェクトリスト取得時の実行モードを指定するパラメーター
- ・ 操作対象オブジェクト指定ファイル、実行ログファイル、正常結果情報ファイルで使用する文字セットを指定するパラメーター

実行パラメーターファイルは必須ファイルです。オブジェクト操作コマンドを実行するときには、実行パラメーターファイル名をコマンド引数に指定しなければなりません。オブジェクト操作コマンドを実行する前に、実行パラメーターファイルを必ず用意してください。

**参照** 実行パラメーターファイルの記述内容の詳細については、[\[3 実行パラメーターファイルを用意する\] \(P.29\)](#) を参照してください。

## 2.2.2 操作対象オブジェクト指定ファイルとは

「操作対象オブジェクト指定ファイル」は、次のパラメーターを含む、CSV形式のファイルです。

- ・ 操作対象オブジェクトを指定するパラメーター
- ・ 転記先 / 移動先を指定するパラメーター
- ・ 転記位置 / 移動位置を指定するパラメーター
- ・ 取り出し先を指定するパラメーター
- ・ コメントパラメーター
- ・ アクセス権変更パラメーター
- ・ エディション属性パラメーター
- ・ 状態変更パラメーター
- ・ 内容依存情報更新のパラメーター
- ・ 操作対象範囲を指定するパラメーター
- ・ ソートパラメーター
- ・ ハードリファレンス削除モードパラメーター
- ・ 破棄パラメーター
- ・ リファレンス変換パラメーター
- ・ ACL 継承パラメーター
- ・ 属性マージモードパラメーター
- ・ リビジョン削除モードパラメーター
- ・ パス情報取得パラメーター
- ・ ローカルファイル名に使用する属性パラメーター
- ・ クラス変更パラメーター
- ・ オフラインコンテンツの取得エラーパラメーター

操作対象オブジェクト指定ファイルは必須ファイルです。オブジェクト操作コマンドを実行するときには、操作対象オブジェクト指定ファイル名をコマンド引数に指定しなければなりません。オブジェクト操作コマンドを実行する前に、操作対象オブジェクト指定ファイルを必ず用意してください。

**参照** 操作対象オブジェクト指定ファイルの記述内容の詳細については、[\[4 操作対象オブジェクト指定ファイルを用意する\] \(P.42\)](#) を参照してください。



# 3 実行パラメーターファイルを用意する

オブジェクト操作のために用意する実行パラメーターファイルの記述内容について説明します。

## 3.1 実行パラメーターファイルの書式

実行パラメーターファイルはXML形式のファイルです。

実行パラメーターファイルに記述するXMLの要素は次のとおりです。

- ・ parameter
- ・ logFile
- ・ resultFile
- ・ getAtomId
- ・ getRefId
- ・ aclFileStoreDir
- ・ defAclFileStoreDir
- ・ textSearch
- ・ getObjectId
- ・ noticeAction
- ・ delObjExecMode
- ・ getListExecMode
- ・ csvCharset

### 3.1.1 parameter 要素

parameter要素は、パラメーターファイルのルート要素です。

すべてのコマンドで必ず1つだけ記述します。記述がない場合は、エラーになります。

ほかの要素は、すべてparameter要素の子要素として記述します。

parameter要素の記述例を次に示します。

```
<parameter>
<logFile>c:%tmp%log</logFile>
<resultFile>c:%tmp%result.csv</resultFile>
<getAtomId>system:name|user:drawingNumber</getAtomId>
</parameter>
```

## 3.1.2 logFile 要素

要素内容に、ログ情報の出力先ファイルを記述します。

すべてのコマンドで記述できます。記述されていない場合は、標準出力に出力されます。

要素内容で指定したファイルがすでに存在する場合は、追記されます。

要素内容で指定したファイルには、処理の結果と、エラーの場合のエラー内容が出力されます。

操作対象オブジェクト指定ファイルで操作対象オブジェクトを検索条件で指定した場合は、要素内容で指定したファイルには、処理を行ったオブジェクトの個数分の行数が出力されます。

条件を満たすオブジェクトが存在しなかった場合は、1行だけ出力されます。

操作対象オブジェクト指定ファイルで操作対象オブジェクトを検索条件で指定し、エラー無視オプションを指定しなかった場合は、エラーが発生したオブジェクトまでが出力されます。エラー無視オプションを指定した場合は、検索でヒットしたオブジェクトの数だけ出力されます。

ログファイルは、次の形式で出力されます。

```
{日時} , {行番号} , {エラーレベル} , {メッセージ} , {serviceId の値} , {cabinetId の値} ,  
{drepId の値}
```

または、

```
{日時} , {行番号} , {エラーレベル} , {メッセージ} , {オブジェクト ID の文字列表記値}
```

**参照** ログファイルの詳細については、[\[8.1 ログファイルのフォーマット\] \(P.143\)](#) を参照してください。

logFile要素の記述例を次に示します。

```
<logFile>c:¥tmp¥log</logFile>
```

### 3.1.3 resultFile 要素

要素内容に、正常結果情報の出力先ファイルのファイル名を記述します。  
すべてのコマンドで必ず記述します。記述がない場合は、エラーになります。

要素内容に指定したファイルが存在する場合は、上書きされます。  
要素内容で指定したファイルには、正常に処理が終わった結果だけ、CSV形式で出力されます。  
次の場合は、ヘッダー行だけ出力されます。

- ・ダイレクト指定のオブジェクトでエラーになった場合
- ・検索条件指定で、最初のオブジェクトでエラーになり、エラー無視オプションを指定しなかった場合
- ・検索条件にヒットするオブジェクトがなかった場合

出力されるファイルのフォーマットは次のとおりです。

- ・「オブジェクトの属性取り出しコマンド」、「オブジェクトリスト取得コマンド」、および「オブジェクトパスの取得コマンド」の場合

```
lineNumber,serviceId,cabinetId,drepId, {AtomID1} , {AtomID2}
{CSV の行番号} , {serviceId} , {cabinetId} , {drepId} , {AtomID1 の値} , {AtomID2 の値}
```

または、

```
lineNumber,objectId, {AtomID1} , {AtomID2}
{CSV の行番号} , {オブジェクト ID の文字列表記値} , {AtomID1 の値} , {AtomID2 の値}
```

- ・「オブジェクトのコンテンツ取り出しコマンド」の場合

```
lineNumber,serviceId,cabinetId,drepId, {AtomID1} , {AtomID2} , ..., {コンテンツラベル名.storePath} , ...
{CSV の行番号} , {serviceId} , {cabinetId} , {drepId} , {AtomID1 の値} , {AtomID2 の値} , ..., {取り出し先パス} , ...
```

または、

```
lineNumber,objectId, {AtomID1} , {AtomID2} , ..., {コンテンツラベル名.storePath}
, ...
{CSV の行番号} , {オブジェクト ID の文字列表記値} , {AtomID1 の値} , {AtomID2 の値} , ...,
{取り出し先パス} , ...
```

- ・「フォルダー取り出しコマンド」の場合

```
lineNumber,serviceId,cabinetId,drepId,storePath
{CSV の行番号} , {serviceId} , {cabinetId} , {drepId} , {取り出し先パス}
```

または、

```
lineNumber,objectId,storePath
{CSV の行番号} , {オブジェクト ID の文字列表記値} , {取り出し先パス}
```

- ・「オブジェクトのリビジョンリスト取得コマンド」の場合

```
lineNumber,serviceId,cabinetId,drepId,revisionNumber
{CSV の行番号} , {serviceId} , {cabinetId} , {drepId} , {revisionNumber}
```

または、

```
lineNumber,objectId
{CSV の行番号} , {オブジェクト ID の文字列表記値}
```

- ・「オブジェクト削除コマンド」の場合

```
lineNumber,serviceId,cabinetId,drepId,delObjExecMode
{CSV の行番号値} , {serviceId 値} , {cabinetId 値} , {drepId 値} , {削除結果}
```

または、

```
lineNumber,objectId,delObjExecMode
{CSV の行番号値} , {オブジェクト ID の文字列表記値} , {削除結果}
```

- ・それ以外のコマンドの場合

```
lineNumber,serviceId,cabinetId,drepId
{CSV の行番号} , {serviceId} , {cabinetId} , {drepId}
```

または、

```
lineNumber,objectId
{CSV の行番号} , {オブジェクト ID の文字列表記値}
```

**参照** 正常結果情報の詳細については、[\[8.2 正常結果情報のフォーマット\] \(P.145\)](#) を参照してください。

getRefIdに真の値を指定した場合は、上記フォーマットに参照先の情報が追加して出力されます。

**参照** getRefIdの詳細については、[\[3.1.5 getRefId 要素\] \(P.34\)](#) を参照してください。

「オブジェクトの属性取り出しコマンド」と「オブジェクトのコンテンツ取り出しコマンド」で、出力したファイルは、一部を追加、または編集することによって、一括登録コマンドで使用できます。

**参照** 一括登録コマンドの詳細については、[\[第2部 ドキュメント管理サービス 一括登録コマンド編\] \(P.171\)](#) を参照してください。

### 3.1.4 getAtomId 要素

要素内容に、取得するAtomIDを記述します。複数記述する場合は、セパレーター「|」（半角縦棒）で区切ります。

この要素で記述したパラメーターは、「オブジェクトの属性取り出しコマンド」、「オブジェクトのコンテンツ取り出しコマンド」、「オブジェクトリスト取得コマンド」、および「オブジェクトパスの取得コマンド」で使用できます。「オブジェクトの属性取り出しコマンド」では必ず記述します。記述がない場合は、エラーになります。

ほかのコマンドでこのパラメーターの記述がある場合は、無視されます。

RMSに登録されていない属性を指定すると、エラーになります。

RMSには登録されているが、キャビネットに登録されていない属性（ほかのキャビネットでは使われているユーザー属性など）を指定した場合は、値を取得できません。

次の例では、システム属性nameの値とユーザー属性drawingNumberの値を取得しています。さらに、ユーザー属性のnamespaceをuserにしています。

```
<getAtomId>system:name|user:drawingNumber</getAtomId>
```

コンテンツの属性を取得する場合は、次の例のように「コンテンツのラベル名.AtomID」を記述します。この要素で記述したパラメーターは、「オブジェクトの属性取り出しコマンド」、「オブジェクトのコンテンツ取り出しコマンド」、および「オブジェクトパスの取得コマンド」で使用できます。

```
<getAtomId>system:name|user:drawingNumber|system:view.system:contentType</getAtomId>
```

### 3.1.5 getRefId 要素

要素内容に、対象オブジェクトがリファレンスオブジェクトの場合に、参照先のオブジェクトIDを取得するかを指定します。

要素内容には、true (1) またはfalse (0) が記述できます (true、falseについては、大文字でも小文字でもかまいません)。

true (1) を指定した場合は、参照先のオブジェクトIDを取得します。

false (0) を指定した場合は、参照先のオブジェクトIDを取得しません。

デフォルトは、falseです。

この要素で記述したパラメーターは、「オブジェクトの属性取り出しコマンド」、「オブジェクトリスト取得コマンド」で使用できます。

ほかのコマンドでこのパラメーターの記述がある場合は、無視されます。

参照先のオブジェクトIDを取得したとき、対象オブジェクトが「リファレンス」の場合は、参照先を特定するIDが結果ファイルに出力されます。対象オブジェクトが「リファレンス」以外の場合は、対応するカラムは空になります。

参照先を特定するIDは、refServiceId、refCabinetId、refEditionKey、refEditionNumber、refDrepld、refRevisionNumberから構成され、それぞれ、参照先のserviceId、参照先のcabinetId、参照先オブジェクトのエディションキー属性、参照先オブジェクトの版番号、参照先オブジェクトのdrepld、参照先オブジェクトのリビジョン番号が値として返されます。

リファレンスには、次の3種類があり、返される値が異なります。値がない部分に対応するカラムは空になります。

- ・最新エディションを指すリファレンス  
refServiceId、refCabinetId、refEditionKey、refEditionNumber

- ・ダイレクトリファレンス  
refServiceId、refCabinetId、refDrepId
- ・ダイレクトリファレンス（特定のレビジョンを参照）  
refServiceId、refCabinetId、refDrepId、refRevisionNumber

これらの情報は、「resultFile要素」に指定した正常結果情報ファイルに出力されます。正常結果情報のフォーマットは次のようになります。

```
lineNumber, serviceId, cabinetId, drepId, refServiceId, refCabinetId,
refEditionKey, refEditionNumber, refDrepId, refRevisionNumber, {AtomID1} ,
{AtomID2}
{CSV の行番号} , {serviceId 値} , {cabinetId 値} , {drepId 値} , {参照先オブジェクトの
serviceId 値} , {参照先オブジェクトの cabinetId 値} , {参照先オブジェクトのエディションキー属
性値} , {参照先オブジェクトの版番号} , {参照先オブジェクトの drepId 値} , {参照先オブジェクトの
レビジョン番号} , {AtomID1 の値} , {AtomID2 の値}
```

または、

```
lineNumber, objectId, refServiceId, refCabinetId, refEditionKey, refEditionNumber,
refDrepId, refRevisionNumber, {AtomID1} , {AtomID2}
{CSV の行番号} , {オブジェクト ID の文字列表記値} , {参照先オブジェクトの serviceId 値} , {参
照先オブジェクトの cabinetId 値} , {参照先オブジェクトのエディションキー属性値} , {参照先オブ
ジェクトのエディション番号} , {参照先オブジェクトの drepId 値} , {参照先オブジェクトのレビジョ
ン番号} , {AtomID1 の値} , {AtomID2 の値}
```

### 3.1.6 aclFileStoreDir 要素

要素内容には、ACLを記述したACLファイルを生成するディレクトリーのパスを記述します。

この要素で記述したパラメーターは、「オブジェクトの属性取り出しコマンド」、「オブジェクトリスト取得コマンド」で使用できます。

ほかのコマンドでこのパラメーターの記述がある場合は、無視されます。

生成先のディレクトリーが存在しない場合および書き込みができない場合は、エラーになります。

ACLを取得した場合、正常結果情報ファイルのヘッダーにaclカラムが追加され、対応するデータ行のカラムに、"file:" + "ACLファイルのパス"が記述されます。そのため、正常結果ファイルのフォーマットが次のようになります。

```
lineNumber, serviceId, cabinetId, drepId, acl, {AtomId1} , {AtomId2}
{CSV の行番号} , {serviceId 値} , {cabinetId 値} , {drepId 値} , file: {ACL ファイルのパス} , {AtomId1 の値} , {AtomId2 の値}
```

または、

```
lineNumber, objectId, acl, {AtomId1} , {AtomId2}
{CSV の行番号} , {オブジェクト ID の文字列表記値} , file: {ACL ファイルのパス} , {AtomId1 の値} , {AtomId2 の値}
```

参照先のオブジェクトIDを取得した場合は、参照先を特定するIDの次にACLが出力されます。

ACLファイルは、CSV形式で出力され、1つのオブジェクトに1つのACLファイルが生成されます。ACLファイルのファイル名は、「"name属性値" + "\_acl"」になります。

すでに同じ名前のファイルが存在する場合は、「"name属性値"+ "\_acl" + "~" (チルダ) + [n] (1から始まる整数)」とし、重複しないようにします。

**参照** ACL ファイルのフォーマットの詳細については、[\[6 ACL ファイルを用意する\] \(P.88\)](#) を参照してください。

### 3.1.7 defAclFileStoreDir 要素

要素内容には、デフォルトACLを記述したACLファイルを作成するディレクトリーのパスを記述します。

この要素で記述したパラメーターは、「オブジェクトの属性取り出しコマンド」、「オブジェクトリスト取得コマンド」で使用できます。

ほかのコマンドでこのパラメーターの記述がある場合は、無視されます。

生成先のディレクトリーが存在しない場合、および書き込みができない場合は、エラーになります。

デフォルトACLを取得した場合、正常結果情報ファイルのヘッダーにdefAclカラムが追加され、対応するデータ行のカラムに、"file:" + "ACLファイルのパス"が記述されます。そのため、正常結果ファイルのフォーマットが次のようになります。

```
lineNumber,serviceId,cabinetId,drepId,defAcl, {AtomID1} , {AtomID2}
{CSV の行番号} , {serviceId 値} , {cabinetId 値} , {drepId 値} ,file: {ACL ファイルのパス} , {AtomId1 の値} , {AtomId2 の値}
```

または、

```
lineNumber,objectId,defAcl, {AtomId1} , {AtomId2}
{CSV の行番号} , {オブジェクト ID の文字列表記値} ,file: {ACL ファイルのパス} , {AtomId1 の値} , {AtomId2 の値}
```

ACLを取得した場合は、ACLの次にデフォルトACLが出力されます。

ACLファイルは、CSV形式で出力され、1つのオブジェクトに1つのACLファイルが生成されます。

ACLファイルのファイル名は、「"name属性値"+ "\_defAcl"」になります。

すでに同じ名前のファイルが存在する場合は、「"name属性値"+ "\_defAcl" + "~" (チルダ) + [n] (1から始まる整数)」とし、重複しないようにします。

**参照** ACL ファイルのフォーマットの詳細については、[\[6 ACL ファイルを用意する\] \(P.88\)](#) を参照してください。

デフォルトACLを持たないオブジェクトを指定した場合は、ACLファイルにヘッダ行のみ記述されます。

### 3.1.8 getObjectId 要素

この要素で記述したパラメーターは、すべてのコマンドで使用できます。

要素内容には、ログ情報および正常結果情報に出力されるオブジェクトIDのフォーマットを「オブジェクトIDの文字列表記」で出力するかを指定します。要素内容には、true、1またはfalse、0が記述できます(true、falseについては、大文字、小文字、どちらも記述できます)。

true、1を指定した場合は、「オブジェクトIDの文字列表記」で出力されます。

false、0を指定した場合は、serviceld、cabinetId、drepIdを別カラムにして出力します。

デフォルトは、falseです。

要素内容により、ログ情報および正常結果情報のフォーマットが変わります。true、1を指定した場合は、オブジェクトIDが1つのカラムで出力され、false、0を指定した場合は、3つのカラムから構成され出力されません。

ログ情報は、要素内容により次のフォーマットになります。

- ・ true、1 を指定した場合

```
{日時} , {行番号} , {エラーレベル} , {メッセージ} , {オブジェクト ID の文字列表記値}
```

- ・ false、0 を指定した場合

```
{日時} , {行番号} , {エラーレベル} , {メッセージ} , {serviceId の値} , {cabinetID の値} ,  
{drepID の値}
```

正常結果情報は、要素内容により次のフォーマットになります。ここでは、すべてのコマンドで共通の部分である行番号とオブジェクトIDの部分のみ抜き出して記述します。

- ・ true、1 を指定した場合

```
lineNumber,objectId  
{行番号} , {オブジェクト ID の文字列表記値}
```

- ・ false、0 を指定した場合

```
lineNumber,serviceId,cabinetId,drepId  
{行番号} , {serviceId 値} , {cabinetId 値} , {drepId 値}
```

**参照** オブジェクト ID の文字列表記については、『ドキュメントスペース ドキュメント操作 URL リファレンスガイド』を参照してください。

## 3.1.9 noticeAction 要素

---

この要素で記述したパラメーターは、すべてのコマンドで使用できます。

要素内容には、ドキュメント管理サービスから通知情報を受け取った場合の動作を指定します。要素内容には、ignore、error、messageが記述できます。

ignore（デフォルト）を指定した場合は、通知情報は無視します。

errorを指定した場合は、通知情報をエラーとして扱い、ログ情報には、次のよう出力されます。

- ・ {エラーレベル} に、1 以上の値が出力されます。
- ・ {メッセージ} に、通知情報の内容が出力されます。
- ・ {serviceld} {cabinetld} {drepld} {オブジェクト Id の文字列表記} は、オブジェクトの Id が出力されます。

messageを指定した場合は、通知情報をメッセージとして扱い、ログ情報には、次のよう出力されます。

- ・ {エラーレベル} に、-1 が出力されます。
- ・ {メッセージ} に、通知情報が出力されます。
- ・ {serviceld} {cabinetld} {drepld} {オブジェクト Id の文字列表記} には、オブジェクトの Id が出力されます。

### 3.1.10 textSearch 要素

操作対象オブジェクトを全文検索で検索する場合に、全文検索の条件をXML形式で記述します。

この要素で記述したパラメーターは、次のコマンドで使用できます。

- ・「オブジェクト属性取り出しコマンド」
- ・「オブジェクトのコンテンツ取り出しコマンド」
- ・「オブジェクト削除コマンド」
- ・「ドキュメント管理サービス内オブジェクト転記コマンド」
- ・「ドキュメント管理サービス内オブジェクト移動コマンド」
- ・「オブジェクトのロックコマンド」
- ・「オブジェクトのアンロックコマンド」
- ・「オブジェクトのアクセス権変更コマンド」
- ・「オブジェクトの版管理下追加コマンド」
- ・「オブジェクトの版管理除外コマンド」
- ・「オブジェクトの状態変更コマンド」
- ・「オブジェクトのクラス変更コマンド」
- ・「オブジェクトの内容依存情報の更新コマンド」
- ・「オブジェクトのリビジョンリスト取得コマンド」
- ・「オブジェクトのリビジョンの削除コマンド」
- ・「オブジェクトパスの取得コマンド」
- ・「ごみ箱内オブジェクトの復元コマンド」

ほかのコマンドでこのパラメーターの記述がある場合は、無視されます。

このパラメーターを指定した場合は、「操作対象オブジェクト指定ファイル」のリスト行は、1行だけ実行されます。複数行記述されていても無視されます。

検索対象となるキャビネットは、「操作対象オブジェクト指定ファイル」のtargetServiceId、targetCabinetIdで指定したキャビネットです。

このパラメーターは、操作対象指定パラメーターを「検索条件式 (キャビネット)」、または「ダイレクト形式 (キャビネット)」で指定した場合にだけ有効で、それ以外の形式で記述した場合は無視されます。

操作対象指定パラメーターの形式によって無視される場合でも、値に記述誤りがあるとエラーになります。

操作対象指定パラメーターを「検索条件式 (キャビネット)」で記述した場合は、AND結合になります。

ワークフロードキュメントアクセスツールの各コマンドで指定すると、エラーになります。

**参照** 検索条件の記述フォーマットについては、[\[付録 E.1 XML形式での全文検索条件式の記述方法\] \(P.281\)](#) を参照してください。

### 3.1.11 delObjExecMode 要素

---

この要素で記述したパラメーターは、「オブジェクト削除コマンド」で使用できます。ほかのコマンドでは、記述する必要がなく、記述がある場合は、無視されます。

要素内容には、操作対象のオブジェクトをごみ箱に移動するかどうかを指定します。要素内容には、delete、disuseOnError、disuseOrDeleteが記述できます。

deleteを指定した場合は、操作対象のオブジェクトを削除します。

disuseOnErrorを指定した場合は、操作対象のオブジェクトをごみ箱に移動します。ごみ箱がないキャビネットの場合は、エラーとします。

disuseOrDeleteを指定した場合は、操作対象のオブジェクトをごみ箱に移動します。ごみ箱がないキャビネットの場合は、操作対象のオブジェクトを削除します。

デフォルトは、deleteです。処理の結果、オブジェクトが削除されたか、ごみ箱に移動されたかは、正常結果ファイルのdelObjExecModeの列に出力されます。

**参照** 詳細は、[\[8.2.6 「オブジェクト削除コマンド」の場合\] \(P.152\)](#) を参照してください。

### 3.1.12 getListExecMode 要素

---

この要素で記述したパラメーターは、「オブジェクトリスト取得コマンド」で使用できます。ほかのコマンドでは、記述する必要がなく、記述がある場合は、無視されます。

操作対象指定パラメーターを「ダイレクト形式 (キャビネット)」で指定したときに、ごみ箱内のオブジェクトリストを取得するかどうかを指定します。

要素内容には、listChildren、listDisusedObjects、listDisusedAllObjectsが記述できます。

listChildrenを指定した場合は、操作対象のオブジェクト直下の子オブジェクトのリストを取得します。

listDisusedObjectsを指定した場合は、ごみ箱直下のオブジェクトのリストを取得します。コマンド実行者がごみ箱へ移動したオブジェクトで、getAttribute権があるもののみ取得します。

listDisusedAllObjectsを指定した場合は、ごみ箱直下のオブジェクトのリストを取得します。getAttribute権があるもののみ取得します。

デフォルトは、listChildrenです。

getListExecMode要素にlistDisusedObjectsまたはlistDisusedAllObjectsを指定し、操作対象指定パラメーターを「ダイレクト形式 (キャビネット)」以外で指定した場合、エラーとなります。

### 3.1.13 csvCharset 要素

---

この要素で記述したパラメーターは、全コマンドで使用できます。

次のファイルの入出力で使用する文字セットを指定します。

- ・ 操作対象オブジェクト指定ファイルの読み込み
- ・ ログ情報ファイルへの書き込み
- ・ 正常結果情報ファイルへの書き込み

サポートする値は、次のとおりです。

- ・ UTF-8
- ・ windows-31j (日本語)
- ・ windows-1252 (英語)
- ・ GBK、GB18030 (Unicode で基本面に入るもののみ) (簡体中国語)
- ・ x-windows-950 (繁体中国語)
- ・ x-windows-949 (韓国語)

指定がない場合は、コマンドを実行したJavaVMのデフォルトエンコーディングで処理されます。

# 4 操作対象オブジェクト指定ファイルを用意する

オブジェクト操作コマンドのために用意する、操作対象オブジェクト指定ファイルの記述内容について説明します。

## 4.1 操作対象オブジェクト指定ファイルの書式

操作対象オブジェクト指定ファイルには、操作対象のオブジェクトを記述します。

操作対象オブジェクト指定ファイルは、CSV形式のファイルです。1行目がヘッダ行で、2行目以降がデータ行になります。1つのデータ行が、操作対象の1種類のオブジェクトに対応します。ヘッダ行およびデータ行の中では、それぞれの指定項目を「, (半角のカンマ)」で区切ります。

操作対象オブジェクト指定ファイルのヘッダ行に記述できるパラメーターは次のとおりです。

- ・ 操作対象オブジェクトを指定するパラメーター
- ・ 転記先／移動先／復元先を指定するパラメーター
- ・ 転記位置／移動位置を指定するパラメーター
- ・ 取り出し先を指定するパラメーター
- ・ コメントパラメーター
- ・ アクセス権変更パラメーター
- ・ エディション属性パラメーター
- ・ 状態変更パラメーター
- ・ 内容依存情報更新のパラメーター
- ・ 操作対象範囲を指定するパラメーター
- ・ ソートパラメーター
- ・ ハードリファレンス削除モードパラメーター
- ・ 破棄パラメーター
- ・ リファレンス変換パラメーター
- ・ ACL 継承パラメーター
- ・ 属性マージモードパラメーター
- ・ リビジョン削除モードパラメーター
- ・ パス情報取得パラメーター
- ・ ローカルファイル名に使用する属性パラメーター
- ・ クラス変更パラメーター
- ・ オフラインコンテンツの取得エラーパラメーター

各パラメーターは、決められた文字列を大文字・小文字の違いも含めて、正確に記述する必要があります。

## 4.1.1 操作対象オブジェクト指定ファイルに記述できるパラメーター一覧

次の表に、操作対象オブジェクト指定ファイルに記述できるパラメーターの一覧を示します。

表：操作対象オブジェクト指定ファイルに記述できるパラメーター

パラメーター	説明	
操作対象指定パラメーター	targetServiceId	操作対象オブジェクトのドキュメント管理サービスIdを指定します。
	targetCabinetId	操作対象オブジェクトのcabinetIdを指定します。
	targetDrawerName	操作対象オブジェクトのドロワー名を指定します。
	targetDrepld	操作対象オブジェクトのdrepldを指定します。
	targetObjectId	操作対象オブジェクトのオブジェクトIDの文字列表記を指定します。
	targetCondition	操作対象オブジェクトの検索条件を指定します。
	targetSearchFile	操作対象オブジェクトの検索条件を記述した検索条件記述ファイルを指定します。
	targetDepthFromSearchRoot	操作対象オブジェクトの検索範囲となる階層数を指定します。(targetConditionまたはtargetSearchFileを指定した場合のみ有効)
	targetEditionKey	操作対象オブジェクトのエディションキー属性を指定します。
	targetEditionNumber	操作対象オブジェクトの版番号を指定します。
	targetRevisionNumber	操作対象オブジェクトのリビジョン番号を指定します。
転記先／移動先／復元先指定パラメーター	locationServiceId	転記先／移動先／復元先のドキュメント管理サービスIdを指定します。
	locationCabinetId	転記先／移動先／復元先のcabinetIdを指定します。
	locationDrawerName	転記先／移動先／復元先のドロワー名を指定します。
	locationDrepld	転記先／移動先／復元先のdrepldを指定します。
	locationObjectId	転記先／移動先／復元先のオブジェクトIDの文字列表記を指定します。
	locationCondition	転記先／移動先／復元先の検索条件を指定します。
	locationSearchFile	転記先／移動先／復元先の検索条件を記述した検索条件記述ファイルを指定します。
	locationDepthFromSearchRoot	転記先／移動先／復元先の検索範囲となる階層数を指定します。(locationConditionまたはlocationSearchFileを指定した場合のみ有効)

表 :操作対象オブジェクト指定ファイルに記述できるパラメーター (続き)

パラメーター	説明	
転記位置／移動位置指定パラメーター	nextDrepld	転記位置／移動位置のdrepldを指定します。
	nextObjectId	転記位置／移動位置のオブジェクトIDの文字列表記を指定します。
	nextCondition	転記位置／移動位置の検索条件を指定します。 (検索起点は、転記先／移動先オブジェクト)
	nextSearchFile	転記位置の検索条件を記述した検索条件記述ファイルを指定します。(検索起点は、転記先／移動先オブジェクト)
操作対象範囲指定パラメーター	operationRange	処理内容が下位のオブジェクトに影響するかを指定します。 shallow:指定されたオブジェクトのみ deep:下位のオブジェクトすべてに影響 (デフォルト)
取り出し先指定パラメーター	コンテンツラベル名 .storeDir または、 storeDir	コンテンツ／フォルダーを取り出すフォルダーのパスを指定します。 コンテンツを取り出す場合は、取り出すコンテンツのコンテンツラベルを指定します。 例) system:primary.storeDir フォルダーを取り出す場合は、プライマリコンテンツしか取り出せないため、コンテンツラベルを指定しません。 例) storeDir
コメントパラメーター	comment	ロック時のコメントを指定します。
アクセス権パラメーター	acl	オブジェクトに設定するアクセス権を記述したファイルのパスを指定します。
	defAcl	オブジェクトに設定するデフォルトアクセス権を記述したファイルのパスを指定します。
エディション属性パラメーター	editionKey	オブジェクトに設定するエディションキー属性を指定します。
	editionNumber	版番号を指定します。
	editionLabel	版ラベルを指定します。
状態変更パラメーター	status	オブジェクトに設定する状態属性を指定します。
クラス変更パラメーター	class	オブジェクトに設定するクラス属性を指定します。

表 :操作対象オブジェクト指定ファイルに記述できるパラメーター (続き)

パラメーター	パラメーター	説明
内容依存情報更新 パラメーター	updateContentInformation	プライマリコンテンツに依存する属性の更新を行うかを指定します。 true:更新する false:更新しない (デフォルト)
	updateSecondaryContent	作成するセカンダリコンテンツのラベルを指定します。 複数記述する場合は、「  (半角縦棒)」で区切ります。
	forceMode	プライマリコンテンツより新しい内容依存情報を更新するかどうかを指定します。 true: 更新する false: 更新しない (デフォルト)
ソートパラメーター	sort	オブジェクトのリストで 順番のソート条件を指定します。
ハードリファレンス 削除モードパラメーター	hardRefDeleteMode	削除対象オブジェクトがハードリファレンスより参照されているオブジェクトの場合の動作を指定します。 error:エラーになり、削除しない delete:削除する (デフォルト)
破棄パラメーター	disposalOfAttributes	設定されていないユーザー属性を破棄するかを指定します。 設定されていないユーザー属性は、ドキュメント管理サービスで、Others属性として扱われます。そのため、このパラメーターを指定しても無視され、ドキュメント管理サービスで設定されている処理が実行されます。 true: 破棄する false: 破棄しない (デフォルト)
	disposalOfContents	設定されていないラベルのコンテンツを破棄するかを指定します。 true: 破棄する false: 破棄しない (デフォルト)
	disposalOfEditionKey	エディションキー属性を破棄するかを指定します。 true: 破棄する false: 破棄しない (デフォルト)
	disposalOfObjectType	設定されていないオブジェクトタイプを破棄するかを指定します。(未サポート) true: 破棄する false: 破棄しない (デフォルト)
	disposalOfUniqueKey	ユニークキー属性を破棄するかを指定します。 true: 破棄する false: 破棄しない (デフォルト)
リファレンス変換 パラメーター	alternationOfHardRefs	ハードリファレンスを通常リファレンスにするかを指定します。 true: 通常リファレンスにする false: 通常リファレンスにしない (デフォルト)

表 :操作対象オブジェクト指定ファイルに記述できるパラメーター (続き)

パラメーター		説明
ACL 継承パラメーター	aclMode	ACLを継承するかを指定します。ただし、同一キャビネット内での移動では、このパラメーターを指定しても無視され、unheritで動作します。 inherit: 元になるオブジェクトのACLを継承する (デフォルト) dispose: 元になるオブジェクトのACLを破棄する
属性マージモードパラメーター	attrMergeMode	リファレンスオブジェクトを実体化するときに、属性のマージモードを指定します。 reference: リファレンスの属性のみ有効 referent: 参照先オブジェクトの属性のみ有効 (デフォルト) referenceMerge: 参照先オブジェクトの属性を優先してリファレンスの属性で補完 referentMerge: リファレンスの属性を優先して参照先オブジェクトの属性で補完
リビジョン削除モードパラメーター	removeRevMode	オブジェクトのリビジョンを削除するときに、どのリビジョンを削除するかを指定します。 latest: 最新のリビジョンを削除する (デフォルト) oldest: 最古のリビジョンを削除する
パス情報取得パラメーター	getFullPath	オブジェクトのパス情報を取得するときに、キャビネットまでのパスが取得できなかった場合の動作を指定します。 true: エラーにする false: 取得可能なオブジェクトの情報まで取得する
ローカルファイル名に使用する属性パラメーター	storeFileName	コンテンツ/フォルダーを取り出すときに、ローカルファイル名に使用する属性値です。ファイル名の属性、または名前の属性を指定します。 system:fileName: 「ファイル名属性」を表す system:name: 「名前属性」を表す
オフラインコンテンツの取得エラーパラメーター	rejectionOfOfflineContent	オフライン中のコンテンツを取得しようとした場合に、エラーにするかどうかを指定します。 true: エラーにする false: エラーにせず、オフライン中のコンテンツは無視して処理を行う

各コマンドで使える属性とパラメーターを次の表に示します。

**補足** 表中の記号の意味は次のとおりです。

- ◎: 必須のパラメーターです。
- : 省略できるパラメーターです。
- ×: 記述があるとエラーになります。

表 :各コマンドで使用できる属性とパラメーター (1)

	drgetattr	drgetcont	drgetfdr	drdelobj	drgetlist
操作対象指定パラメーター	◎	◎	◎	◎	◎
転記先/移動先/復元先指定パラメーター	×	×	×	×	×

表 :各コマンドで使用できる属性とパラメーター (1)

	drgetattr	drgetcont	drgetfdr	drdelobj	drgetlist
転記位置／移動位置指定パラメーター	×	×	×	×	×
操作対象範囲パラメーター	×	×	×	×	×
取り出し先指定パラメーター	×	◎	◎	×	×
コメントパラメーター	×	×	×	×	×
アクセス権変更パラメーター	×	×	×	×	×
エディションキー属性パラメーター	×	×	×	×	×
状態変更パラメーター	×	×	×	×	×
クラス変更パラメーター	×	×	×	×	×
内容依存情報更新パラメーター	×	×	×	×	×
ソートパラメーター	○	○	×	×	○
ハードリファレンス削除モードパラメーター	×	×	×	○	×
破棄パラメーター	×	×	×	×	×
リファレンス変換パラメーター	×	×	×	×	×
ACL 継承パラメーター	×	×	×	×	×
属性マージモードパラメーター	×	×	×	×	×
リビジョン削除モードパラメーター	×	×	×	×	×
パス情報取得パラメーター	×	×	×	×	×
ローカルファイル名に使用する属性パラメーター	×	○	○	×	×
オフラインコンテンツの取得エラーパラメーター	×	○	○	×	×

表 :各コマンドで使用できる属性とパラメーター (2)

	drcpobj	drmvobj	drlkobj	drunlkobj	drchacl
操作対象指定パラメーター	◎	◎	◎	◎	◎
転記先／移動先／復元先指定パラメーター	◎	◎	×	×	×
転記位置／移動位置指定パラメーター	○	○	×	×	×
操作対象範囲パラメーター	○	×	○	○	○
取り出し先指定パラメーター	×	×	×	×	×
コメントパラメーター	×	×	○	×	×
アクセス権変更パラメーター	×	×	×	×	◎

表 :各コマンドで使用できる属性とパラメーター (2)

	drcpobj	drmvobj	drlkobj	drunkobj	drchacl
エディションキー属性パラメーター	×	×	×	×	×
状態変更パラメーター	×	×	×	×	×
クラス変更パラメーター	×	×	×	×	×
内容依存情報更新パラメーター	×	×	×	×	×
ソートパラメーター	×	×	×	×	×
ハードリファレンス削除モードパラメーター	×	×	×	×	×
破棄パラメーター	○	○	×	×	×
リファレンス変換パラメーター	○	×	×	×	×
ACL 継承パラメーター	○	○	×	×	×
属性マージモードパラメーター	×	×	×	×	×
リビジョン削除モードパラメーター	×	×	×	×	×
パス情報取得パラメーター	×	×	×	×	×
ローカルファイル名に使用する属性パラメーター	×	×	×	×	×
オフラインコンテンツの取得エラーパラメーター	×	×	×	×	×

表 :各コマンドで使用できる属性とパラメーター (3)

	drchdefacl	drchstat	drrefref	drupcont	draddekey
操作対象指定パラメーター	◎	◎	◎	◎	◎
転記先/移動先/復元先指定パラメーター	×	×	×	×	×
転記位置/移動位置指定パラメーター	×	×	×	×	×
操作対象範囲パラメーター	○	×	○	×	×
取り出し先指定パラメーター	×	×	×	×	×
コメントパラメーター	×	×	×	×	×
アクセス権変更パラメーター	◎	×	×	×	×
エディションキー属性パラメーター	×	×	×	×	◎
状態変更パラメーター	×	◎	×	×	×
クラス変更パラメーター	×	×	×	×	×
内容依存情報更新パラメーター	×	×	×	◎	×
ソートパラメーター	×	×	×	×	×

表 :各コマンドで使用できる属性とパラメーター (3)

	drchdefacl	drchstat	drref	drupcont	draddekey
ハードリファレンス削除モード パラメーター	×	×	×	×	×
破棄パラメーター	×	×	○	×	×
リファレンス変換パラメーター	×	×	○	×	×
ACL 継承パラメーター	×	×	○	×	×
属性マージモードパラメーター	×	×	○	×	×
リビジョン削除モードパラメーター	×	×	×	×	×
パス情報取得パラメーター	×	×	×	×	×
ローカルファイル名に使用する 属性パラメーター	×	×	×	×	×
オフラインコンテンツの取得エ ラーパラメーター	×	×	×	×	×

表 :各コマンドで使用できる属性とパラメーター (4)

	drmekey	drlistrev	drmmrev	drgetpath	drreuseobj
操作対象指定パラメーター	◎	◎	◎	◎	◎
転記先／移動先／復元先指定パ ラメーター	×	×	×	×	○
転記位置／移動位置指定パラ メーター	×	×	×	×	×
操作対象範囲パラメーター	×	×	×	×	×
取り出し先指定パラメーター	×	×	×	×	×
コメントパラメーター	×	×	×	×	×
アクセス権変更パラメーター	×	×	×	×	×
エディションキー属性パラメー ター	×	×	×	×	×
状態変更パラメーター	×	×	×	×	×
内容依存情報更新パラメーター	×	×	×	×	×
クラス変更パラメーター	×	×	×	×	×
ソートパラメーター	×	×	×	×	×
ハードリファレンス削除モード パラメーター	×	×	×	×	×
破棄パラメーター	×	×	×	×	×
リファレンス変換パラメーター	×	×	×	×	×
ACL 継承パラメーター	×	×	×	×	×
属性マージモードパラメーター	×	×	×	×	×

表 :各コマンドで使用できる属性とパラメーター (4)

	drmekey	drlstrev	drmmrev	drgetpath	drreuseobj
リビジョン削除モードパラメーター	×	×	○	×	×
パス情報取得パラメーター	×	×	×	○	×
ローカルファイル名に使用する属性パラメーター	×	×	×	×	×
オフラインコンテンツの取得エラーパラメーター	×	×	×	×	×

表 :各コマンドで使用できる属性とパラメーター (5)

	drchclass
操作対象指定パラメーター	◎
転記先／移動先／復元先指定パラメーター	×
転記位置／移動位置指定パラメーター	×
操作対象範囲パラメーター	×
取り出し先指定パラメーター	×
コメントパラメーター	×
アクセス権変更パラメーター	×
エディションキー属性パラメーター	×
状態変更パラメーター	×
クラス変更パラメーター	◎
内容依存情報更新パラメーター	×
ソートパラメーター	×
ハードリファレンス削除モードパラメーター	×
破棄パラメーター	○ (*1)
リファレンス変換パラメーター	×
ACL 継承パラメーター	×
属性マージモードパラメーター	×
リビジョン削除モードパラメーター	×
パス情報取得パラメーター	×
ローカルファイル名に使用する属性パラメーター	×
オフラインコンテンツの取得エラーパラメーター	×

\* 1 : 破棄パラメーターのうち、disposalOfEditionKey と disposalOfUniqueKey 以外は × です。

表 :各コマンドで使用できる属性とパラメーター (6)

	wfgetattr	wfgetcont	wfdelobj	wfgetlist
操作対象指定パラメーター	◎	◎	◎	◎

表 : 各コマンドで使用できる属性とパラメーター (6) (続き)

	wfgetattr	wfgetcont	wfdeobj	wfgetlist
転記先/移動先/復元先指定パラメーター	×	×	×	×
転記位置/移動位置指定パラメーター	×	×	×	×
操作対象範囲パラメーター	×	×	×	×
取り出し先指定パラメーター	×	◎	×	×
コメントパラメーター	×	×	×	×
アクセス権変更パラメーター	×	×	×	×
エディションキー属性パラメーター	×	×	×	×
状態変更パラメーター	×	×	×	×
クラス変更パラメーター	×	×	×	×
内容依存情報更新パラメーター	×	×	×	×
ソートパラメーター	×	×	×	○
ハードリファレンス削除モードパラメーター	×	×	○	×
破棄パラメーター	×	×	×	×
リファレンス変換パラメーター	×	×	×	×
ACL 継承パラメーター	×	×	×	×
属性マージモードパラメーター	×	×	×	×
リビジョン削除モードパラメーター	×	×	×	×
パス情報取得パラメーター	×	×	×	×
ローカルファイル名に使用する属性パラメーター	×	○	×	×
オフラインコンテンツの取得エラーパラメーター	×	○	×	×

表 : 各コマンドで使用できる属性とパラメーター (7)

	wfcpobj	wfmvobj
操作対象指定パラメーター	◎	◎
転記先/移動先/復元先指定パラメーター	◎	◎
転記位置/移動位置指定パラメーター	○	○
操作対象範囲パラメーター	○	×
取り出し先指定パラメーター	×	×
コメントパラメーター	×	×
アクセス権変更パラメーター	×	×
エディションキー属性パラメーター	×	×
状態変更パラメーター	×	×
クラス変更パラメーター	×	×

表 :各コマンドで使用できる属性とパラメーター (7) (続き)

	wfcpobj	wfmvobj
内容依存情報更新パラメーター	×	×
ソートパラメーター	×	×
ハードリファレンス削除モードパラメーター	×	×
破棄パラメーター	○	○
リファレンス変換パラメーター	○	×
ACL 継承パラメーター	○	○
属性マージモードパラメーター	×	×
リビジョン削除モードパラメーター	×	×
パス情報取得パラメーター	×	×
ローカルファイル名に使用する属性パラメーター	×	×
オフラインコンテンツの取得エラーパラメーター	×	×

## 4.2 操作対象指定パラメーター

このパラメーターは、各コマンドで必ず記述します。記述がない場合は、エラーになります。

このパラメーターは、転記／移動コマンドでは、転記元／移動元となるオブジェクトを指定し、ほかのコマンドでは、操作対象となるオブジェクトを指定します。

操作対象指定パラメーターは、次のとおりです。

- ・ targetObjectId
- ・ targetServiceId
- ・ targetCabinetId
- ・ targetDrawerName
- ・ targetDrepld
- ・ targetCondition
- ・ targetSearchFile
- ・ targetDepthFromSearchRoot
- ・ targetEditionKey
- ・ targetEditionNumber
- ・ targetRevisionNumber

targetObjectIdを指定した場合は、targetServiceId、targetCabinetId、targetDrawerName、targetDrepld、targetRevisionNumberの5つのパラメーターを指定しても無視されます。

targetDepthFromSearchRootは、targetConditionまたはtargetSearchFileを指定した場合のみ有効になります。

これらのパラメーターを使って操作対象を記述する方法には、次の4種類があります。

- (1) オブジェクトをダイレクトに指定
- (2) オブジェクトを検索条件で指定
- (3) オブジェクトをエディションキー属性で指定
- (4) オブジェクトをリビジョン番号で指定

ただし、[\[\(4\) オブジェクトをリビジョン番号で指定\]](#)は、「オブジェクト属性取り出しコマンド」と「オブジェクトのコンテンツ取り出しコマンド」でだけ使用できます。

また、「ごみ箱内オブジェクトの復元コマンド」では、[\[\(1\) オブジェクトをダイレクトに指定\]](#)だけ使用できません。

さらに、[\[\(2\) オブジェクトを検索条件で指定\]](#)は、検索起点によって、次の3種類の方法があります。

- ・ 検索起点がキャビネット
- ・ 検索起点がドロワー
- ・ 検索起点がドロワー、フォルダー

なお、いずれの検索起点の場合も、ごみ箱やごみ箱にあるオブジェクトは指定できません。また、検索結果には、ごみ箱にあるオブジェクトは含まれません。

これらの記述方法と使用されるパラメーターの関係を次の表に示します。表では、対象オブジェクト（起点オブジェクト）をtargetObjectIdによる指定とtargetServiceIdによる指定の2つの方法に分けて示します。

**補足** 表中の記号の意味は次のとおりです。

- ◎：必須のパラメーターです。
- ：有効なパラメーターです。
- △：条件によって有効なパラメーターです。
- ：指定しても無視されます。
- ×：指定するとエラーになります。
- ◆：指定すると、意図と異なる記述と判断します。

#### ◇ targetObjectId による指定

パラメーター／記述方法	ダイレクト形式 (キャビネット)	ダイレクト形式	リビジョン番号指定	検索条件形式 (キャビネット)	検索条件形式 (ドロワー、フォルダー)	エディションキー指定
targetObjectId	◎ (*10)	◎ (*10)	◎ (*10)	◎ (*12)	◎ (*12)	◎ (*13)
targetCondition	◆ (*1)	◆ (*1)	× (*11)	◎ (*9)	◎ (*9)	—
targetSearchFile	◆ (*1)	◆ (*1)	× (*11)	◎ (*9)	◎ (*9)	—
targetDepthFromSearchRoot	—	—	—	○	○	—
targetEditionKey	◆ (*5)	◆ (*5)	× (*11)	◆ (*5)	◆ (*5)	◎
targetEditionNumber	◆ (*5)	◆ (*5)	× (*11)	◆ (*5)	◆ (*5)	◎

#### ◇ targetServiceId による指定

パラメーター／記述方法	ダイレクト形式 (サービス)	ダイレクト形式 (キャビネット)	ダイレクト形式	リビジョン番号指定	検索条件形式 (キャビネット)	検索条件形式 (ドロワー)	検索条件形式 (ドロワー、フォルダー)	エディションキー指定
targetServiceId	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
targetCabinetId	◆ (*7)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
targetDrawerName	◆ (*8)	◆ (*8)	◎ (*2)	—	◆ (*3)	◎	◆ (*3)	—
targetDrepld	◆ (*8)	◆ (*8)	◎ (*2)	◎	◆ (*4)	—	◎	—
targetCondition	◆ (*1)	◆ (*1)	◆ (*1)	—	◎	◎	◎	—
targetSearchFile	◆ (*1)	◆ (*1)	◆ (*1)	—	◎ (*9)	◎ (*9)	◎ (*9)	—
targetDepthFromSearchRoot	—	—	—	—	○	○	○	—
targetEditionKey	◆ (*5)	◆ (*5)	◆ (*5)	—	◆ (*5)	◆ (*5)	◆ (*5)	◎
targetEditionNumber	◆ (*5)	◆ (*5)	◆ (*5)	—	◆ (*5)	◆ (*5)	◆ (*5)	◎
targetRevisionNumber	◆ (*6)	◆ (*6)	◆ (*6)	◎	◆ (*6)	◆ (*6)	◆ (*6)	◆ (*6)

\* 1：指定された場合は、「検索条件形式での指定（検索起点がドロワー）」、または「検索条件形式での指定（検索起点がドロワー、フォルダー）」で記述されたとみなします。

- \* 2 : オブジェクトリスト取得コマンド」以外では、targetDrawerName、targetDrepld のどちらか一方を必ず指定する必要があります。  
両方指定された場合は、targetDrawerName の指定を優先します。
- \* 3 : targetDrawerName が指定された場合は、「検索条件形式での指定（検索起点がドロワー）」で記述されたとみなします。
- \* 4 : targetDrawerName が指定されておらず、targetDrepld が指定された場合は、「検索条件形式での指定（検索起点がドロワー、フォルダー）」で記述されたとみなします。
- \* 5 : 指定された場合は、「3. エディションキー指定」で記述されたとみなします。
- \* 6 : 指定された場合は、「4. リビジョン番号指定」で記述されたとみなします。
- \* 7 : 指定された場合は、「ダイレクト形式（キャビネット）での指定」で記述されたとみなします。
- \* 8 : 指定された場合は、「ダイレクト形式での指定」で記述されたとみなします。
- \* 9 : targetCondition、targetSearchFile の両方を指定した場合は、targetSearchFile を優先します。
- \* 10 : targetObjectId に指定した「オブジェクト ID の文字列表記」の形式によります。
- \* 11 : 検索起点のオブジェクトをリビジョンで指定することになり、エラーになります。
- \* 12 : targetObjectId で指定したオブジェクトが検索起点となります。検索起点のオブジェクトカテゴリーは、「オブジェクト ID の文字列表記」の形式によります。
- \* 13 : targetObjectId に指定されているキャビネット内から検索します。

**参照** オブジェクト ID の文字列表記については、『ドキュメントスペース ドキュメント操作 URL リファレンスガイド』を参照してください。

## 4.2.1 ダイレクト形式（サービス）での指定

操作対象をダイレクト形式で記述し、ドキュメント管理サービス上のオブジェクトを指定します。

targetServiceId以外が指定されているとダイレクト形式（サービス）とは解釈されません。

targetObjectIdでは指定できません。

「オブジェクトリスト取得コマンド」で、キャビネットのリストを取得する場合に使用します。リストで取得できるキャビネットは、cabinetLabelが「public」のキャビネットだけです。ただし、ワークフロー上のオブジェクトに対しては、cabinetLabelが「workflow」のキャビネットだけです。

この形式は、「オブジェクトリスト取得コマンド」でだけ指定でき、ほかのコマンドで指定するとエラーになります。

次に記述例を示します。

```
,targetServiceId,  
,service,
```

## 4.2.2 ダイレクト形式（キャビネット）での指定

操作対象をダイレクト形式で記述し、ドキュメント管理サービス上のオブジェクトを指定します。

targetObjectIdによる指定の場合は、パラメーター値が「オブジェクトIDの文字列表記」の「キャビネット用」の形式である必要があります。

targetServiceIdによる指定の場合は、targetServiceId、targetCabinetId以外が指定されているとダイレクト形式（キャビネット）とは解釈されません。

「オブジェクトリスト取得コマンド」で、ドロワーのリスト、およびごみ箱にあるオブジェクトのリストを取得する場合に使用します。

この形式は、「オブジェクトリスト取得コマンド」でだけ指定でき、ほかのコマンドで指定するとエラーになります（textSearchを指定した場合を除く）。

次に記述例を示します。

```
,targetServiceId,targetCabinetId,  
,service,cabinet01,
```

```
,targetObjectId,  
,service:cabinet01,
```

### 4.2.3 ダイレクト形式での指定

操作対象をダイレクト形式で記述し、ドキュメント管理サービス上のオブジェクトを指定します。

targetConditionが指定されていると、ダイレクト形式とは解釈されません。

targetObjectIdによる指定の場合は、パラメーター値が「オブジェクトIDの文字列表記」の「キャビネット以外のオブジェクト用」の形式でなければなりません。

targetServiceIdによる指定の場合に、targetDrawerNameとtargetDrepIdの両方が指定された場合は、targetDrawerNameの指定を優先し、targetDrawerNameで指定したドロワーをダイレクト形式で指定したと解釈されます。

ただし、データ登録先がドロワーで、ドロワーのdrepIdがあらかじめわかっている場合は、targetDrawerNameを指定せずにtargetDrepIdにドロワーのdrepIdを指定する方が、パフォーマンスが良くなります。

「ごみ箱内オブジェクトの復元コマンド」では、targetDrawerNameパラメーターを指定できません。

次に記述例を示します。

```
,targetServiceId,targetCabinetId,targetDrepId,  
,service,cabinet01,102731626053681,
```

```
,targetServiceId,targetCabinetId,targetDrawerName,  
,service,cabinet01,drawer01,
```

```
,targetObjectId,  
,service:cabinet01:102731626053681,
```

### 4.2.4 検索条件での指定

一度オブジェクトの検索を行うため、ダイレクト形式と比べて、パフォーマンスが低下します。

#### 検索条件形式での指定（検索起点がキャビネット）

操作対象を検索条件形式で記述し、ドキュメント管理サービス上のオブジェクトを指定します。

targetCondition、またはtargetSearchFileを指定しないと、検索条件形式とは解釈されません。

targetObjectIdによる指定の場合は、パラメーター値が「オブジェクトIDの文字列表記」の「キャビネット用」の形式でなければなりません。

targetServiceIdによる指定の場合は、targetDrepIdやtargetDrawerNameを指定すると、検索起点がキャビネットにはなりません。

targetDepthFromSearchRootパラメーターを指定した場合、検索起点となるキャビネットから、指定された階層にあるオブジェクトだけが検索対象となります。このパラメーターに指定できる値の範囲は、2以上で、キャビネット作成時に指定したフォルダー階層限界値以下の値です。

次に記述例を示します。

```
,targetServiceId,targetCabinetId,targetCondition,  
,service,cabinet01,system:name "TEST",
```

```
,targetServiceId,targetCabinetId,targetSearchFile,
,service,cabinet01,c:¥search¥search.xml
```

```
,targetObjectId,targetSearchFile,
,service:cabinet01,c:¥search¥search.xml,
```

### 検索条件形式での指定（検索起点がドロワー）

操作対象を検索条件形式で記述し、ドキュメント管理サービス上のオブジェクトを指定します。  
 targetCondition、またはtargetSearchFileを指定しないと、検索条件形式とは解釈されません。  
 targetObjectIdによる指定は、できません（targetDrawerNameが無視されるため）。  
 targetDepthFromSearchRoot/パラメーターを指定した場合、検索起点となるドロワーから、指定された階層にあるオブジェクトだけが検索対象となります。このパラメーターに指定できる値の範囲は、1以上で、キャビネット作成時に指定したフォルダー階層限界値以下の値です。  
 検索起点がドロワーで、ドロワーのdrepldがあらかじめわかっている場合は、targetDrepldにドロワーのdrepldを指定する方が、パフォーマンスが良くなります。  
 次に記述例を示します。

```
,targetServiceId,targetCabinetId,targetDrawerName,targetCondition,
,service,cabinet01,drawer01,system:name "TEST",
```

```
,targetServiceId,targetCabinetId,targetDrawerName,targetSearchFile,
,service,cabinet01,drawer01,c:¥search¥search.xml
```

### 検索条件形式での指定（検索起点がドロワー、フォルダー）

操作対象を検索条件形式で記述し、ドキュメント管理サービス上のオブジェクトを指定します。  
 targetCondition、またはtargetSearchFileを指定しないと、検索条件形式とは解釈されません。  
 targetObjectIdによる指定の場合は、パラメーター値が「オブジェクトIDの文字列表記」の「キャビネット以外のオブジェクト用」の形式でなければなりません。  
 targetServiceIdによる指定の場合は、targetDrepldには、ドロワーやフォルダーのdrepldを指定します。  
 targetDrawerNameを指定すると検索起点がドロワーになり、targetDrepldの指定より優先されます。検索条件形式での指定（検索対象がドロワー）と解釈されます。  
 targetDepthFromSearchRoot/パラメーターを指定した場合、検索起点となるドロワーやフォルダーから、指定された階層にあるオブジェクトだけが検索対象となります。このパラメーターに指定できる値の範囲は、1以上で、キャビネット作成時に指定したフォルダー階層限界値以下の値です。  
 次に記述例を示します。

```
,targetServiceId,targetCabinetId,targetDrepld,targetCondition,
,service,cabinet01,102731626053690,system:name "TEST",
```

```
,targetServiceId,targetCabinetId,targetDrepld,targetSearchFile,
,service,cabinet01,102731626053690,c:¥search¥search.xml
```

```
,targetObjectId,targetSearchFile,
,service:cabinet01:102731626053690,c:¥search¥search.xml,
```

## 4.2.5 エディションキー指定

操作対象をエディションキー属性と版番号の組み合わせで指定します。

版番号に-1を指定した場合は、現時点での最新版番号のオブジェクトが対象になります。

targetEditionKeyとtargetEditionNumberの両方の記述が必要です。どちらかが記述されていないとエラーになります。

次に記述例を示します。

```
,targetServiceId,targetCabinetId,targetEditionKey,targetEditionNumber,  
,service,cabinet01,user:userString "E1",1,
```

```
,targetObjectId,targetEditionKey,targetEditionNumber,  
,service:cabinet01,user:userString "E1",1,
```

## 4.2.6 リビジョン番号指定

操作対象をリビジョン番号で指定します。

「オブジェクト属性取り出しコマンド」、「オブジェクトのコンテンツ取り出しコマンド」以外では、エラーになります。

リビジョン番号は、「オブジェクト属性取り出しコマンド」、「オブジェクトリスト取得コマンド」、「オブジェクトのリビジョンリスト取得コマンド」で、参照先の情報を取得した場合に取得できます。

targetObjectIdによる指定の場合は、パラメーター値が「オブジェクトIDの文字列表記」の「特定リビジョンのドキュメント用」の形式でなければなりません。

targetServiceIdによる指定の場合に、リビジョン番号に-1を指定した場合は、作業リビジョンが対象になります。

次に記述例を示します。

```
,targetServiceId,targetCabinetId,targetDrepId,targetRevisionNumber,  
,service,cabinet01,102731626053681,1,
```

## 4.3 転記先／移動先／復元先指定パラメーター

このパラメーターは、「ドキュメント管理サービス内のオブジェクト転記コマンド」や「ドキュメント管理サービス内のオブジェクト移動コマンド」では、必ず記述します。記述がない場合は、エラーになります。「ごみ箱内オブジェクトの復元コマンド」では、記述できます。

ほかのコマンドでこのパラメーターの記述がある場合は、エラーになります。

このパラメーターで、転記先／移動先／復元先のオブジェクトを指定します。

転記先／移動先／復元先指定パラメーターは、次のとおりです。

- ・ locationObjectId
- ・ locationServiceId
- ・ locationCabinetId
- ・ locationDrawerName
- ・ locationDrepld
- ・ locationCondition
- ・ locationSearchFile
- ・ locationDepthFromSearchRoot

locationObjectIdを指定した場合は、locationServiceId、locationCabinetId、locationDrawerName、locationDrepldの4つのパラメーターを指定しても無視されます。

locationDepthFromSearchRootは、locationConditionまたはlocationSearchFileを指定した場合に有効になります。

これらのパラメーターを使って、データ登録先を記述する方法には、次の2種類があります。

- (1) オブジェクトをダイレクトに指定
- (2) オブジェクトを検索条件で指定

また、オブジェクトを検索条件で指定する方法には、検索起点によって、次の3種類があります。

- ・ 検索起点がキャビネット
- ・ 検索起点がドロワー
- ・ 検索起点がドロワー、フォルダー

なお、いずれの検索起点の場合も、ごみ箱やごみ箱にあるオブジェクトを指定できません。

また、検索結果には、ごみ箱にあるオブジェクトは含まれません。

これらの記述方法と使用されるパラメーターの関係を、登録先オブジェクト（起点オブジェクト）をlocationObjectIdによる指定とlocationServiceIdによる指定の2つの方法に分けて示します。

**補足** 表中の記号の意味は次のとおりです。

- ◎：必須のパラメーターです。
- ：有効なパラメーターです。
- △：条件によって有効なパラメーターです。
- －：指定しても無視されます。
- ×：指定するとエラーになります。
- ◆：指定すると、意図と異なる記述と判断します。

## ◇ locationObjectId パラメーターによる指定

パラメーター/記述方法	ダイレクト形式	検索条件形式 (キャビネット)	検索条件形式 (ドロワー、フォルダー)
locationObjectId	○	○	○
locationCondition	◆ (*1)	○ (*5)	○ (*5)
locationSearchFile	◆ (*1)	○ (*5)	○ (*5)
locationDepthFromSearchRoot	—	○	○

## ◇ locationServiceId による指定

パラメーター/記述方法	ダイレクト形式	検索条件形式 (キャビネット)	検索条件形式 (ドロワー)	検索条件形式 (ドロワー、フォルダー)
locationServiceId	○	○	○	○
locationCabinetId	○	○	○	○
locationDrawerName	○ (*2)	◆ (*3)	○	◆ (*3)
locationDrepld	○ (*2)	◆ (*4)	—	○
locationCondition	◆ (*1)	○ (*5)	○ (*5)	○ (*5)
locationSearchFile	◆ (*1)	○ (*5)	○ (*5)	○ (*5)
locationDepthFromSearchRoot	—	○	○	○

- \* 1：指定された場合は、「検索条件形式での指定（検索起点がドロワー）」、または「検索条件形式での指定（検索起点がドロワー、フォルダー）」で記述されたときとみなします。
- \* 2：locationDrawerName、locationDrepld どちらか一方の指定が必要です。両方指定された場合は、locationDrawerName の指定を優先します。
- \* 3：locationDrawerName が指定された場合は、「検索条件形式での指定（検索起点がドロワー）」で記述されたときとみなします。
- \* 4：locationDrawerName が指定されず、locationDrepld が指定された場合は、「検索条件形式での指定（検索起点がドロワー、フォルダー）」で記述されたときとみなします。
- \* 5：locationCondition、locationSearchFile の両方を指定した場合は、locationSearchFile を優先します。

## 4.3.1 ダイレクト形式での指定

転記先/移動先/復元先をダイレクト形式で記述し、ドキュメント管理サービス上のオブジェクトを指定します。

locationCondition、またはlocationSearchFileが指定されていると、ダイレクト形式とは解釈されません。locationObjectIdによる指定の場合は、パラメーター値が「オブジェクトIDの文字列表記」の「キャビネット以外のオブジェクト用」の形式でなければなりません。

locationServiceIdによる指定の場合に、locationDrawerNameとlocationDrepldの両方が指定されると、locationDrawerNameの指定を優先し、locationDrawerNameで指定したドロワーをダイレクト形式で指定したと解釈されます。

ただし、データ登録先がドロワーで、ドロワーのdrepldがあらかじめわかっている場合は、locationDrawerNameを指定せずにlocationDrepldにドロワーのdrepldを指定する方が、パフォーマンスが良くなります。

## 4.3.2 検索条件での指定

---

一度オブジェクトの検索を行うため、ダイレクト形式と比べてパフォーマンスが低下します。

### 検索条件形式での指定（検索起点がキャビネット）

転記先を検索条件形式で記述し、ドキュメント管理サービス上のオブジェクトを指定します。

locationCondition、またはlocationSearchFileを指定しないと、検索条件形式とは解釈されません。

locationObjectIdによる指定の場合は、パラメーター値が「オブジェクトIDの文字列表記」の「キャビネット用」の形式でなければなりません。

また、locationServiceIdによる指定の場合は、locationDrepldやlocationDrawerNameを指定すると、検索起点がキャビネットにはなりません。

locationDepthFromSearchRootパラメーターを指定した場合、検索起点となるキャビネットから、指定された階層にあるオブジェクトだけが検索対象となります。このパラメーターに指定できる値の範囲は、2以上で、キャビネット作成時に指定したフォルダー階層限界値以下の値です。

### 検索条件形式での指定（検索起点がドロワー）

転記先／移動先／復元先を検索条件形式で記述し、ドキュメント管理サービス上のオブジェクトを指定します。

locationCondition、またはlocationSearchFileを指定しないと、検索条件形式とは解釈されません。

locationObjectIdによる指定は、できません（locationDrawerNameが無視されるため）。

locationDepthFromSearchRootパラメーターを指定した場合、検索起点となるドロワーから、指定された階層にあるオブジェクトだけが検索対象となります。このパラメーターに指定できる値の範囲は、1以上で、キャビネット作成時に指定したフォルダー階層限界値以下の値です。

転記先がドロワーで、ドロワーのdrepldがあらかじめわかっている場合は、locationDrepldにドロワーのdrepldを指定する方が、パフォーマンスが良くなります。

### 検索条件形式での指定（検索起点がドロワー、フォルダー）

転記先／移動先／復元先を検索条件形式で記述し、ドキュメント管理サービス上のオブジェクトを指定します。

locationCondition、またはlocationSearchFileを指定しないと、検索条件形式とは解釈されません。

locationObjectIdによる指定の場合は、パラメーター値が「オブジェクトIDの文字列表記」の「キャビネット以外のオブジェクト用」の形式でなければなりません。

また、locationServiceIdによる指定の場合、locationDrepldには、ドロワーやフォルダーのdrepldを指定します。

locationServiceIdによる指定の場合に、locationDrawerNameを指定すると検索起点がドロワーになり、locationDrepldの指定より優先されます。（検索条件形式での指定（検索対象がドロワー）と解釈されます。）

locationDepthFromSearchRootパラメーターを指定した場合、検索起点となるドロワーやフォルダーから、指定された階層にあるオブジェクトだけが検索対象となります。このパラメーターに指定できる値の範囲は、1以上で、キャビネット作成時に指定したフォルダー階層限界値以下の値です。

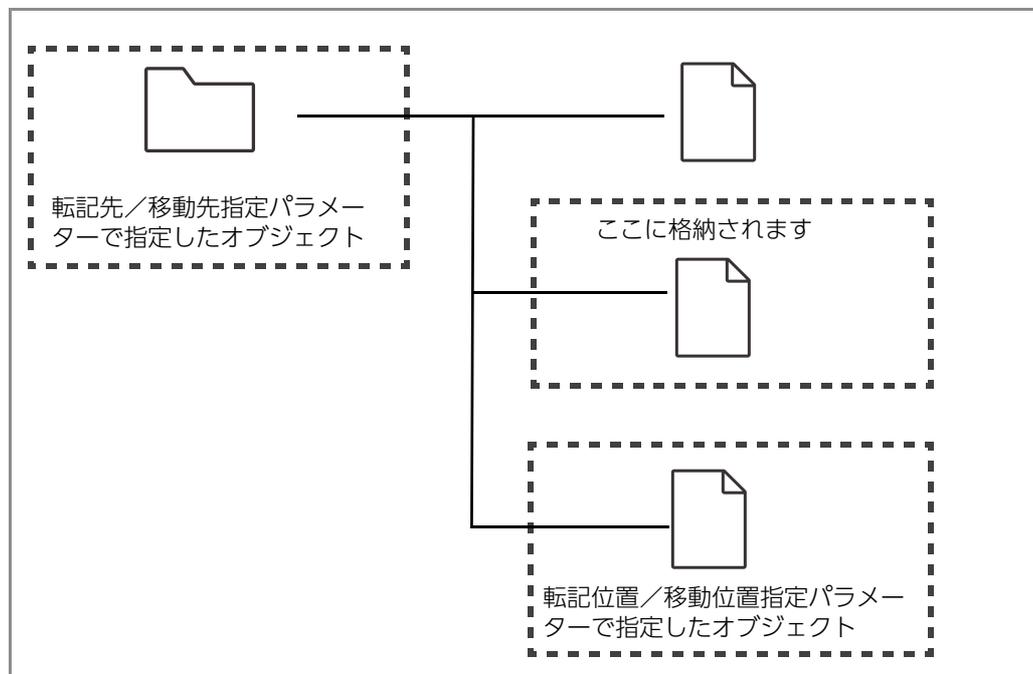
## 4.4 転記位置／移動位置指定パラメーター

このパラメーターは、「ドキュメント管理サービス内のオブジェクト転記コマンド」で、記述できます。

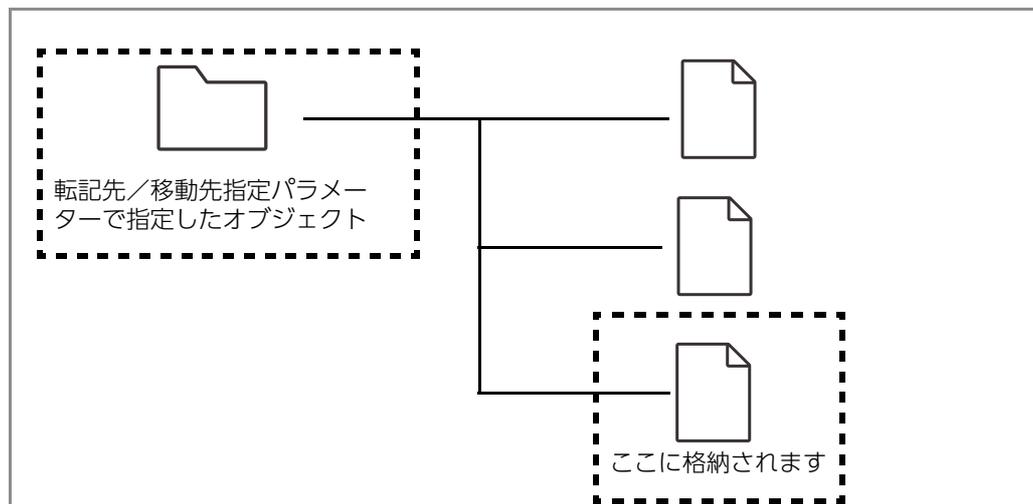
ほかのコマンドでこのパラメーターの記述がある場合は、エラーになります。

このパラメーターは、「転記先／移動先／復元先指定パラメーター」と組み合わせて使用します。

「転記先／移動先／復元先指定パラメーター」で指定したオブジェクトの直下のオブジェクトを指定することによって、そのオブジェクトの前に格納できます。



このパラメーターの指定がない場合は、「転記先／移動先／復元先指定パラメーター」で指定したオブジェクト直下の最後尾に格納されます。



ただし、転記先／移動先にドロワーを指定した場合は、このパラメーターが指定されていても無視され、最後尾に格納されます。

転記位置／移動位置の指定に関連する属性は、次のとおりです。

- ・ 転記先／移動先オブジェクト
- ・ nextObjectId
- ・ nextDreplId
- ・ nextCondition

・ nextSearchFile

転記先／移動先オブジェクトとは、「転記先／移動先／復元先指定パラメーター」で指定したオブジェクトです。「転記先／移動先／復元先指定パラメーター」をどの形式で指定しても、転記先／移動先オブジェクトが存在する場合は、そのオブジェクトが転記先／移動先オブジェクトとなります。

これらの属性を使って転記位置／移動位置を記述する方法には、次の2種類があります。

- (1) 転記位置／移動位置をダイレクトに指定
- (2) 転記位置／移動位置を検索条件で指定（検索起点は、転記先／移動先オブジェクト）

転記位置／移動位置を検索条件で指定して、複数のオブジェクトが検索条件に該当した場合は、エラーになります。

これらの記述方法と使用されるパラメーターの関係を次の表に示します。

- 補足** 表中の記号の意味は次のとおりです。
- ◎：必須のパラメーターです。
  - ：有効なパラメーターです。
  - △：条件によって有効なパラメーターです。
  - ：指定しても無視されます。
  - ×：指定するとエラーになります。
  - ◆：指定すると、意図と異なる記述と判断します。

パラメーター／記述方法	ダイレクト形式		検索条件形式 (転記先／移動先が検索起点)
転記先／移動先オブジェクト	—	○ (*1)	○ (*3)
nextObjectId	◎	◆ (*2)	◆ (*2)
nextDrepld	—	◎	◆ (*4)
nextCondition	—	—	◎ (*5)
nextSearchFile	—	—	◎ (*5)

- \* 1：転記先／移動先オブジェクトの serviceld および cabinetld と組み合わせて登録位置オブジェクトをダイレクト形式で指定します。
- \* 2：指定した場合は、ダイレクト形式（nextObjectId 指定）で記述されたと見なします。
- \* 3：転記先／移動先オブジェクトを検索起点として検索を行います。
- \* 4：指定された場合は、ダイレクト形式（nextDrepld 指定）で記述されたと見なします。
- \* 5：nextCondition、nextSearchFile の両方を指定した場合は、nextSearchFile を優先します。

#### 4.4.1 ダイレクト形式での指定（nextObjectId）

転記位置／移動位置をダイレクト形式で記述し、dRepository上のオブジェクトを指定します。

nextDrepldとnextCondition、nextSearchFileは、記述しても無視されます。

パラメーター値が「オブジェクトIDの文字列表記」の「キャビネット以外のオブジェクト用」の形式でなければなりません。

## 4.4.2 ダイレクト形式での指定 (nextDrepld)

---

転記位置／移動位置をダイレクト形式で記述し、dRepository上のオブジェクトを指定します。

nextObjectIdが指定されていると、「ダイレクト形式での指定 (nextObjectId)」とみなされます。

nextCondition、nextSearchFileは、記述しても無視されます。

転記先／移動先オブジェクトからサービスとキャビネットを指定する情報を取り出し、本パラメーター値と組み合わせて、転記位置／移動位置オブジェクトをダイレクト形式で指定します。

## 4.4.3 検索条件式での指定 (検索起点が転記先／移動先オブジェクト)

---

一度オブジェクトの検索を行うため、ダイレクト形式と比べて、パフォーマンスが低下します。

nextObjectIdが指定されていると、「ダイレクト形式での指定 (nextObjectId)」とみなされます。

nextDrepldが指定されていると、「ダイレクト形式での指定 (nextDrepld)」とみなされます。

転記先／移動先オブジェクトを検索起点とし、パラメーター値の条件に該当するオブジェクトが転記位置／移動位置となります。

## 4.5 操作対象範囲指定パラメーター

---

このパラメーターは、次のコマンドで記述できます。

- ・「ドキュメント管理サービス内オブジェクト転記コマンド」
- ・「オブジェクトのロックコマンド」
- ・「オブジェクトのアンロックコマンド」
- ・「オブジェクトのアクセス権変更コマンド」
- ・「オブジェクトのデフォルトアクセス権変更コマンド」
- ・「リファレンスオブジェクトの実体化コマンド」

ほかのコマンドでこのパラメーターの記述がある場合は、エラーになります。

このパラメーターは、「shallow」か「deep」を指定できます。指定がない場合は、deepとみなされます。

転記対象のオブジェクトがフォルダーだった場合、次のような動作の違いが発生します。

- ・ shallow を指定した場合  
処理対象のオブジェクトだけ処理を行います。  
たとえば転記コマンドの場合に、転記対象がフォルダーだった場合、そのフォルダーだけが転記されます。
- ・ deep を指定した場合  
処理対象の下位のオブジェクトを含めて処理を行います。  
たとえば転記コマンドの場合に、転記対象がフォルダーだった場合、そのフォルダーの階層すべてが、転記されます。

## 4.6 取り出し先指定パラメーター

このパラメーターは、「オブジェクトのコンテンツ取り出しコマンド」、「フォルダーオブジェクト取り出しコマンド」では、必ず記述します。記述がない場合は、エラーになります。

ほかのコマンドでこのパラメーターの記述がある場合は、エラーになります。

### 4.6.1 オブジェクトのコンテンツ取り出しコマンドで記述した場合

コンテンツの取り出し先パスを指定します。パスには、すでに存在するディレクトリーを指定します。

パラメーターのフォーマットは、「コンテンツラベル名.storeDir」と記述し、値に対応するセルに取り出し先のパスを記述します。コンテンツラベル名は、アトム型なので「nameSpace:name」で記述します。

たとえば、プライマリコンテンツをc:%tmp%destに取り出す場合は、次のように記述します。

```
, system:primary.storeDir,  
, c:%tmp%dest,
```

複数のコンテンツを取り出す場合は、複数のセルに分けて記述します。

たとえば、コンテンツラベル名がsystem:printとsystem:viewのコンテンツを、それぞれc:%tmp%dest%print、c:%tmp%dest%viewに取り出す場合は、次のように記述します。

```
, system:print.storeDir, system:view.storeDir,  
, c:%tmp%dest%print, c:%tmp%dest%view,
```

拡張子は、ファイル名属性値の最後の「.」（ピリオド）から後ろの文字列とします。

取り出したコンテンツのパスは、resultFileパラメーターで指定したファイルの「コンテンツラベル名.storePath」の値に記述されます。

## 4.6.2 フォルダーオブジェクト取り出しコマンドで記述した場合

フォルダーの取り出し先パスを指定します。パスにはすでに存在するディレクトリーを指定します。パラメーターのフォーマットは、「storeDir」と記述し、値に対応するセルに取り出し先のパスを記述します。たとえば、c:%tmp%destに取り出す場合は、次のように記述します。

```
,storeDir,  
,c:%tmp%dest,
```

取り出したオブジェクトがフォルダーの場合は、name属性を元にディレクトリーを作成します。すでに同じ名前のディレクトリーが存在する場合は、「"name属性値" + "~" (チルダ) + [n] (1から始まる整数)」とし、重複しないようにします。

ドキュメントオブジェクトの場合は、プライマリコンテンツを取り出します。

取り出されたプライマリコンテンツのファイル名は、「コンテンツ取り出し機能」でコンテンツを取り出した場合と同じです。

取り出したコンテンツのパスは、resultFileパラメーターで指定したファイルの「storePath」の値に記述されます。値は、対象となったフォルダーです。つまり、一番上のルートフォルダーのパスだけ出力されます。取り出したすべてのフォルダー／コンテンツが記述されるわけではありません。

## 4.7 コメントパラメーター

---

このパラメーターは、「オブジェクトのロックコマンド」で、記述できます。  
ほかのコマンドでこのパラメーターの記述がある場合は、エラーになります。  
このパラメーターで指定した文字列が、ロック時のコメントになります。

## 4.8 アクセス権変更パラメーター

このパラメーターは、「オブジェクトのアクセス権変更コマンド」、「オブジェクトのデフォルトアクセス権変更コマンド」では、必ず記述します。記述がない場合は、エラーになります。ほかのコマンドでこのパラメーターの記述がある場合は、エラーになります。

このパラメーターでは、オブジェクトに設定するACL（アクセスコントロールリスト）を記述したファイル（ACLファイル）を指定します。

値は、「file:」+ ACLファイル」と記述します。

ACLファイルが存在しない場合、ACLファイルにアクセスできない場合は、エラーになります。

「オブジェクトのアクセス権変更コマンド」では、aclパラメーターが必要です。defAclパラメーターを記述するとエラーになります。

「オブジェクトのデフォルトアクセス権変更コマンド」では、defAclパラメーターが必要です。aclパラメーターを記述するとエラーになります。

**参照** ACL ファイルのフォーマットの詳細については、[\[6 ACL ファイルを用意する\] \(P.88\)](#) を参照してください。

オブジェクトのACLをC:¥ACL-DATA¥ACL1.csvというACLファイルに記述した値に設定する場合は、次のように記述します。

```
,acl,  
,file:C:¥ACL-DATA¥ACL1.csv,
```

デフォルトACLをC:¥ACL-DATA¥DefAcl1.csvというACLファイルに記述した値に設定する場合は、次のように記述します。

```
,defAcl,  
,file:C:¥ACL-DATA¥DefAcl1.csv,
```

## 4.9 エディションキー属性パラメーター

このパラメーターは、「オブジェクトの版管理下追加コマンド」では、必ず記述します。記述がない場合はエラーになります。

ほかのコマンドでこのパラメーターの記述がある場合は、エラーになります。

このパラメーターでは、オブジェクトに付加するエディションキー属性を指定します。

対象オブジェクトのキャビネットにエディションキー属性が設定されていない場合や、エディションキー属性以外の属性を記述した場合は、エラーになります。

記述は、属性名 属性値の組で記述し、セパレーターは半角空白とします。

エディションキー属性が複数の設定されている場合は、半角空白をセパレーターとします。

たとえば、ユーザー属性のnameSpaceが「user」であり、エディションキーが文字列型のユーザー属性UserDefのキャビネットで、エディションキー値がABCの版管理下にオブジェクトを追加する場合の例を次に示します。

```
targetServiceId,targetCabinetId,targetDrepId,editionKey
drep,CAB01,102731626053681,user:UserDef "ABC"
```

また、ユーザー属性のnameSpaceが「user」であり、エディションキーが文字列型のユーザー属性UserDef1と数値型のユーザー属性UserDef2の2つの属性の組で設定されているキャビネットで、エディションキー値がそれぞれABCと100の版管理下に、オブジェクトを追加する場合の例を次に示します。

```
targetServiceId,targetCabinetId,targetDrepId,editionKey
drep,CAB01,102731626053681,user:UserDef1 "ABC" user:userUserDef2 100
```

エディションキーを付加する時に版番号を指定できます。

版番号は、editionNumberパラメーターかeditionLabelパラメーターで指定します。両方指定した場合は、editionNumberパラメーターが優先されます。

指定した版番号がすでに存在する場合は、エラーになります。

版番号を指定しなかった場合は、editionKeyパラメーターで指定したエディショングループ内の最大値+1の値が版番号に設定されます。

次の例では、版番号に10を指定しています。

```
targetServiceId,targetCabinetId,targetDrepId,editionKey,editionNumber
drep,CAB01,102731626053681,user:UserDef1 "ABC" userUserDef2 100,10
```

**参照** エディションキーパラメーターの詳細については、[\[付録 C エディションキーパラメーターのフォーマット\] \(P.276\)](#) を参照してください。

## 4.10 状態変更パラメーター

---

このパラメーターは、「オブジェクトの状態変更コマンド」では、必ず記述します。記述がない場合は、エラーになります。

ほかのコマンドでこのパラメーターの記述がある場合は、エラーになります。

次に記述例を示します。

```
targetServiceId,targetCabinetId,targetDrepId,status  
drep,CAB01,102731068523277,system:fixed
```

statusに指定できる状態の種類は、対象となるキャビネットにより異なりますが、どのキャビネットでも次の値を指定できます。

- ・ system:editable (編集可能)
- ・ system:fixed (固定)
- ・ system:obsolete (廃棄)

キャビネットの設定により、状態に上記以外の値を持たせることもできます。

**参照** 詳細については、『ドキュメント管理サービス管理者ガイド』を参照してください。

## 4.11 クラス変更パラメーター

このパラメーターは、「オブジェクトのクラス変更コマンド」で使用するパラメーターです。

記述がない場合は、エラーになります。

「クラスなし」に変更する場合は、「¥0」を指定します。

ほかのコマンドでこのパラメーターの記述がある場合は、エラーになります。

次に例を示します。

```
targetServiceId,targetCabinetId,targetDrepId,class  
drep,CAB01,102731068523277,user:contract_doc
```

classに指定できるクラスの種類は、キャビネットにより異なります。どのキャビネットでも「クラスなし (¥0)」だけは、指定が可能です。

**参照** 詳細については、『ドキュメント管理サービス管理者ガイド』を参照してください。

## 4.12 内容依存情報更新パラメーター

このパラメーターは、「オブジェクトの内容依存情報の更新コマンド」では、必ず記述します。記述がない場合は、エラーになります。

ほかのコマンドでこのパラメーターの記述がある場合は、エラーになります。

updateContentInformation、updateSecondaryContent、forceModeの3種類のパラメーターから構成されます。

updateContentInformation、updateSecondaryContentの2種類のパラメーターのどちらか1つまたは両方を指定できます。指定されない場合は、エラーになります。

updateContentInformationは、プライマリコンテンツに依存する属性を更新します。

**参照** 内容依存情報の更新の詳細については、『ドキュメント管理サービス管理者ガイド』を参照してください。

updateSecondaryContentは、プライマリコンテンツから指定されたセカンダリコンテンツを作成します。

**参照** セカンダリコンテンツのコンテンツラベル指定できる値の詳細については、『ドキュメント管理サービス管理者ガイド』を参照してください。

updateSecondaryContentに、プライマリコンテンツを表すコンテンツラベルである「system:primary」を指定するとエラーになります。

forceModeは、作成する内容依存情報の更新日が、プライマリコンテンツの作成日より新しい場合でも、強制的に依存情報の更新を行うかを指定します。

trueを指定した場合は、更新日が新しくても更新します。

false（デフォルト）を指定した場合は、更新日が新しい場合には、更新しません。

次に記述例を示します。

```
targetServiceId,targetCabinetId,targetDrepId,updateContentInformation,updateSecondaryContent
drep,CAB01,102783119004410,true,system:view
```

## 4.13 ソートパラメーター

このパラメーターは、「オブジェクト属性取り出しコマンド」、「オブジェクトのコンテンツ取り出しコマンド」、「オブジェクトリスト取得コマンド」で記述可能なパラメーターです。

ほかのコマンドでこのパラメーターの記述がある場合は、エラーになります。

このパラメーターは、オブジェクトのリストを取得するときに、リストの優先順位となる属性を指定してソートを行う場合に指定します。

「属性名 順序」の形式で記述します。「属性名」と「順序」の間は、半角スペースで区切ります。

順序は、昇順の場合は「ascending」を、降順の場合は「descending」を指定します。この2つ以外の順序を指定するとエラーになります。

複数のソートパラメーターを指定する場合は、優先する順に記述します。

ソートできない属性を指定すると、エラーとなります。

次に記述例を示します。

```
targetServiceId,targetCabinetId,targetDrepId,sort  
drep,CAB01,102798350021177,user:UserDef1 ascending user:UserDef2 descending
```

## 4.14 ハードリファレンス削除モードパラメーター

---

このパラメーターは、「オブジェクト削除コマンド」で記述可能なパラメーターです。

ほかのコマンドでこのパラメーターの記述がある場合は、エラーになります。

このパラメーターは、削除対象のオブジェクトがハードリファレンスにより参照されていた場合に削除をするか、削除しないかを指定します。

delete (デフォルト) かerrorの値を指定できます。それ以外の値を指定した場合は、エラーになります。

errorを指定した場合は、削除対象のオブジェクトがハードリファレンスにより参照されていた場合は、エラーとなり削除できません。

deleteを指定した場合は、削除対象のオブジェクトをハードリファレンスで参照しているオブジェクトも同時に削除されます。

次に記述例を示します。

```
targetServiceId,targetCabinetId,targetDrepId,hardRefDeleteMode  
drep,CAB01,102731626053681,delete
```

## 4.15 破棄パラメーター

---

このパラメーターは、「ドキュメント管理サービス内オブジェクト転記コマンド」、「ドキュメント管理サービス内オブジェクト移動コマンド」、「リファレンスオブジェクトの実体化コマンド」「オブジェクトのクラス変更コマンド」で記述可能なパラメーターです。

ほかのコマンドで、このパラメーターの記述がある場合は、エラーになります。

「オブジェクトのクラス変更コマンド」では、`disposalOfEditionKey`パラメーターと`disposalOfUniqueKey`パラメーターを利用できます。そのほかのパラメーターを記述した場合は、エラーとなります。

### 4.15.1 `disposalOfAttributes` パラメーター

---

転記先／移動先／実体化先のキャビネットに設定されていないユーザー属性の処理を指定します。

`true`を指定した場合は、設定されていない属性を取り除いて転記／移動／実体化します。

`false`を指定した場合は、そのまま転記／移動／実体化します。この場合キャビネットに設定されていないユーザー属性が含まれていた場合は、エラーになります。

キャビネットに設定されていないユーザー属性は、ドキュメント管理サービスで、Others属性として扱われます。そのため、このパラメーターを指定しても無視され、ドキュメント管理サービスで設定されている処理が実行されます。このパラメーターは、操作対象オブジェクト指定ファイルの互換性を保持するために定義されています。

**参照** Others 属性の詳細と、キャビネットに定義されていないユーザー属性の処理については、『ドキュメント管理サービス管理者ガイド』を参照してください。

### 4.15.2 `disposalOfContents` パラメーター

---

転記先／移動先／実体化先のキャビネットに設定されていないラベルのコンテンツ処理を指定します。

`true`を指定した場合は、設定されていないコンテンツを取り除いて転記／移動／実体化します。

`false`を指定した場合は、そのまま転記／移動／実体化します。キャビネットに設定されていないコンテンツが含まれていた場合は、エラーになります。

転記先／移動先／実体化先のキャビネットと、転記元／移動元／実体化元のキャビネットが同一の場合は、無視されます。

### 4.15.3 `disposalOfObjectType` パラメーター

---

転記先／移動先／実体化先のキャビネットに設定されていないオブジェクトタイプの処理を指定します。

`true`を指定した場合は、コンテンツタイプをカテゴリーに応じたデフォルトのタイプに変更して転記／移動／実体化します。

`false`を指定した場合は、そのまま転記／移動／実体化します。キャビネットに設定されていないオブジェクトタイプの場合は、エラーになります。

転記先／移動先／実体化先のキャビネットと、転記元／移動元／実体化元のキャビネットが同一の場合は、無視されます。

## 4.15.4 disposalOfEditionKey パラメーター

---

転記先／移動先／実体化先、およびクラス変更の操作対象のキャビネットに設定されているエディションキー属性の処理を指定します。

trueを指定した場合は、エディションキー属性を取り除いて転記／移動／実体化／クラス変更します。

falseを指定した場合は、そのまま転記／移動／実体化／クラス変更します。

移動先のキャビネットと、移動元のキャビネットが同一の場合は、無視されます。

クラス変更前とクラス変更後のクラスが同一の場合は、無視されます。

## 4.15.5 disposalOfUniqueKey パラメーター

---

転記先／移動先／実体化先、およびクラス変更の操作対象のキャビネットに設定されているユニークキー属性の処理を指定します。

trueを指定した場合は、ユニークキー属性を取り除いて転記／移動／実体化／クラス変更します。ユニークキーに削除できない属性が含まれているとエラーになります。

falseを指定した場合は、そのまま転記／移動／実体化／クラス変更します。

移動先のキャビネットと、移動元のキャビネットが同一の場合は、無視されます。

クラス変更前とクラス変更後のクラスが同一の場合は、無視されます。

## 4.16 リファレンス変換パラメーター

---

このパラメーターは、「ドキュメント管理サービス内オブジェクト転記コマンド」、「リファレンスオブジェクトの実体化コマンド」で記述可能なパラメーターです。

ほかのコマンドでこのパラメーターの記述がある場合は、エラーになります。

転記元／参照先にハードリファレンスが含まれている場合にハードリファレンスを通常リファレンスとして作成するかを指定します。

ハードリファレンスは、参照先と異なるキャビネットに作成することができません。そのため、転記元／参照先と異なるキャビネットに対して、転記／実体化する場合は、通常リファレンスにして生成する必要があります。

trueかfalse（デフォルト）の値を指定できます。それ以外の値を指定した場合は、エラーになります。

trueを指定した場合は、ハードリファレンスを通常リファレンスにして生成します。

falseを指定した場合は、ハードリファレンスのまま生成します。

## 4.17 ACL 継承パラメーター

---

このパラメーターは、「ドキュメント管理サービス内オブジェクト転記コマンド」、「ドキュメント管理サービス内オブジェクト移動コマンド」、「リファレンスオブジェクトの実体化コマンド」で記述可能なパラメーターです。

「ドキュメント管理サービス内のオブジェクト移動コマンド」において、同一キャビネット内の移動となる場合は、パラメーターの値に関わらず、移動元のACLを継承します。

ほかのコマンドでこのパラメーターの記述がある場合は、エラーになります。

転記元／移動元／参照先のACLを継承するか、破棄するかを指定します。disposeかinherit（デフォルト）の値を指定でき、それ以外の値を指定した場合は、エラーになります。

disposeを指定した場合は、転記／移動／実体化する時にACLを破棄してから転記／移動／実体化を行います。つまり、転記先／移動先／実体化先の親オブジェクトのデフォルトACLに従うことになります。

inheritを指定した場合は、転記／移動／実体化する時にACLを破棄しません。そのため転記先／移動先／実体化先に存在しないユーザーロールがACLに含まれていた場合はエラーになります。

## 4.18 属性マージモードパラメーター

---

このパラメーターは、「リファレンスオブジェクトの実体化コマンド」で記述可能なパラメーターです。

ほかのコマンドでこのパラメーターの記述がある場合は、エラーになります。

リファレンスオブジェクトの実体化を行うときに、参照先とリファレンスオブジェクトのどちらの属性を有効にするかを指定します。

referent (デフォルト)、reference、referentMerge、referenceMergeの値を指定でき、それ以外の値を指定した場合は、エラーになります。

referentを指定した場合は、実体 (参照先) オブジェクトの属性のみ有効になります。

referenceを指定した場合は、リファレンス (実体化するオブジェクト) の属性のみ有効になります。

referentMergeを指定した場合は、リファレンスの属性を優先して実体オブジェクトの属性で補完します。

referenceMergeを指定した場合は、実体オブジェクトの属性を優先してリファレンスの属性で補完します。

## 4.19 リビジョン削除モードパラメーター

---

このパラメーターは、「オブジェクトのリビジョンの削除コマンド」で記述可能なパラメーターです。

ほかのコマンドでこのパラメーターの記述がある場合は、エラーになります。

オブジェクトのリビジョンを削除するときに、最新のリビジョンを削除するか、最古のリビジョンを削除するかを指定します。

latest (デフォルト)、oldestの値を指定でき、それ以外の値を指定した場合は、エラーになります。

latestを指定した場合は、最新のリビジョンを削除します。

oldestを指定した場合は、最古のリビジョンを削除します。

## 4.20 パス情報取得パラメーター

---

このパラメーターは、「オブジェクトパスの取得コマンド」で記述可能なパラメーターです。

ほかのコマンドでは、記述する必要がなく、記述がある場合はエラーになります。

オブジェクトのパス情報を取得するときに、パス情報を構成するオブジェクトにアクセス権がなかった場合、エラーとするか、アクセス可能な範囲で取得するのかを指定します。

true (デフォルト) またはfalseの値を指定できます。それ以外の値を指定した場合は、エラーになります。

trueを指定した場合は、パス情報を構成するオブジェクトにアクセス権がなかったときにエラーとなります。

falseを指定した場合は、アクセス可能な範囲でパス情報を取得します。

## 4.21 ローカルファイル名に使用する属性パラメーター

ローカルファイル名に使用する属性を指定するパラメーターです。

パラメータ値として、「system:name」、または「system:fileName」を指定できます。大文字と小文字のどちらでも記述できます。

このパラメーターは、「オブジェクトのコンテンツ取り出しコマンド」と「フォルダーオブジェクト取り出しコマンド」で記述できます。ほかのコマンドで記述がある場合は、エラーになります。

ローカルファイル名属性パラメーターを指定すると、取得したドキュメントオブジェクトのローカルでのファイル名を指定できます。

取得したコンテンツのファイル名は、次の規則で作成されます。

- ・ ローカルファイル名属性パラメーターを指定した場合  
パラメーター値が「system:name」の場合は、取得したドキュメントオブジェクトの name 属性の値でファイルを作成します。  
パラメーター値が「system:fileName」の場合は、取得したドキュメントオブジェクトにファイル名属性がある場合には、ファイル名属性の値でファイルを作成します。ファイル名属性がない場合には、name 属性の値でファイルを作成します。  
パラメーター値が「system:name」、「system:fileName」以外の場合は、エラーになります。
- ・ ローカルファイル名属性パラメーターを指定しない場合  
取得したドキュメントオブジェクトにファイル名属性がある場合は、ファイル名属性の値でファイルを作成します。  
ファイル名属性がない場合は、name 属性の値でファイルを作成します。

すでに同じ名前のファイル名が存在する場合は、

- ・ ファイル名属性値からファイル名を作成した場合  
「"ファイル名属性値の拡張子を除いた文字列"+"~" (チルダ) +[n] (1 から始まる整数) +"ファイル名属性値の拡張子」
- ・ name 属性値からファイル名を作成した場合  
「"name 属性値"+"~" (チルダ) +[n] (1 から始まる整数)」

として、重複しないようにします。

拡張子は、次の規則によって決定されます。

- ・ コンテンツのファイル名として「ファイル名属性」が採用された場合  
ファイル名属性の最後の . (ピリオド) から後ろの文字列を拡張子とします。  
例：ファイル名属性値が「サンプル.xdw」の場合：拡張子は、「xdw」
- ・ コンテンツのファイル名として「name 属性」が採用された場合  
Oname 属性に拡張子がない場合は、メディアタイプ属性値に対応する拡張子を値の拡張子とします。  
MimetypesFile から取得できる場合は、その値を拡張子とします。  
取得できない場合は、拡張子は無いものとします。  
Oname 属性に拡張子がある場合は、name 属性の最後の . (ピリオド) から後ろの文字列を拡張子とします。  
例：name 属性値が「サンプル.txt」の場合：拡張子は、「txt」

**補足** name 属性値、ファイル名属性値にファイル名として使えない文字が含まれていた場合は、その文字が消去されます。

## 4.22 オフラインコンテンツの取得エラーパラメーター

---

オフライン状態のコンテンツを取得しようとしたときに、エラーにするか、無視して処理を行うかを指定するパラメーターです。

エラーにする場合は、「true」を、無視して処理を行う場合は、「false」を指定します。値を指定しない場合は、「false」を指定したときの処理が行われます。

このパラメーターは、「オブジェクトのコンテンツ取り出しコマンド」と「フォルダーオブジェクト取り出しコマンド」で記述できます。ほかのコマンドで記述がある場合は、エラーになります。



# 5 検索条件記述ファイルを用意する

検索条件記述ファイルの記述内容について説明します。

## 5.1 検索条件記述ファイルの書式

検索条件記述ファイルは、XML形式で記述します。

ルート要素は、<search>とし、子要素に検索条件を記述します。

<search>以外のルート要素を記述した場合は、エラーになります。

属性検索条件は、<attrSearch>要素の子要素に記述します。<attrSearch>要素は、<search>要素の子要素として記述します。

<attrSearch>要素が記述されていない場合は、エラーになります。

<attrSearch>要素の内容が記述されていない場合は、エラーになります。

検索条件記述ファイルは、次のフォーマットで記述します。

```
<?xml version="1.0" encoding="Windows-31J" ?>
<search>
  <attrSearch>
    {検索条件}
  </attrSearch>
</search>
```

たとえば、name属性値がTESTのオブジェクトを検索する場合は、次のように記述します。

```
<?xml version="1.0" encoding="Windows-31J" ?>
<search>
  <attrSearch>
    <api:equal xmlns:api="http://www.fujifilm.com/fb/2021/09/drep/api">
      <api:funcExpr api:operation="upper">
        <api:idExpr>
          <system:name xmlns:system="http://www.fujifilm.com/fb/2021/09/drep/atom/
system"/>
        </api:idExpr>
      </api:funcExpr>
    </api:equal>
  </attrSearch>
</search>
```

**参照** 検索条件の記述フォーマットについては、[【付録 E.2 XML形式での属性検索条件式の記述方法】\(P.288\)](#) を参照してください。



# 6 ACLファイルを用意する

ACLファイルの記述内容について説明します。

## 6.1 ACL ファイルの書式

ACLファイルは、CSV形式のフォーマットで記述します。

1つのオブジェクトに対して、1つのACLファイルを記述します。

ACLは、複数のACE（アクセスコントロールエントリ）から構成されます。

ACEは、「アクセス許可の対象となる主体」と「アクセスの権利」から構成されます。

ACLファイルでは、「アクセス許可の対象となる主体」をroleパラメーターで指定し、「アクセスの権利」をprivilegeパラメーターで指定します。

ACLファイルは、次のフォーマットで記述します。

```
role,privilege
{アクセス許可の対象となる主体} , {アクセス権利値 (多値)}
```

1行のデータ行が、1つのACEになるので、複数のACEを記述する場合は、次のように複数行記述します。

```
role,privilege
{アクセス許可の対象となる主体} , {アクセス権利値 (多値)}
{アクセス許可の対象となる主体} , {アクセス権利値 (多値)}
.....,.....
```

roleパラメーターの値は、必ず記述します。記述していない場合はエラーになります。

roleパラメーターには、RMSに設定されているユーザーロールをDN形式で記述します。ただし、特別な値としてEveryoneかOthersを記述することもできます。

roleパラメーターに、Everyoneを指定した場合は、「Everyoneアクセスコントロールエントリ」を指定したことになり、Othersを指定した場合は、「Othersアクセスコントロールエントリ」を指定したことになります。

privilegeパラメーターには、次の表の「アクセスの権利」に記述されている値を記述します。複数記述する場合は、「|」（半角縦棒）をセパレーターにします。値を記述していない場合は、何も権利を与えていないこととなります。

表 : privilege パラメーターに記述する値

アクセスの権利	許可される操作
getAttribute	オブジェクトの属性やリファレンスの参照先を取り出す権利
setAttribute	オブジェクトの属性設定および削除やリファレンスの参照先を設定する権利
getContent	オブジェクトのコンテンツを取り出す権利
setContent	オブジェクトのコンテンツの書き込みを行う権利。また、そのコンテンツ自身を削除する権利
deleteObject	オブジェクト自身を削除する権利
addChild	キャビネット、ドロワー、フォルダーにおいて子供を追加する権利
removeChild	キャビネット、ドロワー、フォルダーにおいて子供を削除する権利
printContent	印刷のためにオブジェクトを取り出す権利
viewContent	表示のためにオブジェクトを取り出す権利
changeStatus	オブジェクトの状態を変更する権利
changeAcl	オブジェクトのアクセス権・デフォルトアクセス権を変更する権利
changeLock	オブジェクトをロック／アンロックする権利

表 :privilege パラメーターに記述する値 (続き)

アクセスの権利	許可される操作
addRevision	チェックアウト・チェックイン操作によりオブジェクトのリビジョンを追加する権利
removeRevision	オブジェクトのリビジョンを削除する権利

次にACLファイルの記述例を示します。

```
role,privilege
"uid=yamada,ou=users,dc=FUJIFILM,dc=co,dc=jp",getAttribute|setAttribute|viewContent
|getContent|deleteObject
"cn=designer,ou=userRoleNames,dc=FUJIFILM,dc=co,dc=jp",getAttribute|viewContent|get
Content
Others,getAttribute
```

**参照** 「ACE」、「ACL」、「ユーザーロール」、「Everyone アクセスコントロールエントリ」、「Others アクセスコントロールエントリ」については、『ドキュメント管理サービス管理者ガイド』を参照してください。



# 7 オブジェクト操作を実行する

オブジェクト操作コマンドの実行方法について説明します。

## 7.1 オブジェクト属性取り出しコマンド

オブジェクト属性取り出しコマンドは、次のとおりです。

- ・ drgetattr
- ・ wfgetattr

### 7.1.1 drgetattr

ドキュメント管理サービスに存在するオブジェクトから、指定した属性を取り出します。

取り出し時に、条件を指定することによって、一度に複数のオブジェクトから属性値を取り出せます。

ソートパラメーターにソート条件を指定することで、オブジェクトのリスト順番を指定できます。

属性を取り出した結果は、CSV形式で出力します。

ごみ箱内のオブジェクトを指定した場合は、エラーとなります。

**注記** このコマンドでは、オブジェクトのコンテンツは取得できません。オブジェクトのコンテンツを取得する場合は、「オブジェクトのコンテンツ取り出しコマンド」を使用してください。

### コマンド形式

```
drgetattr [-c] -param {parameter-file} -csv {target-file} -user {userName}
[-passwd {password} ]
```

### コマンドパラメーター

-c

-cパラメーターを指定すると、処理中にエラーが発生した場合に処理を続行します。省略できます。

-param {parameter-file}

実行パラメーターファイルの名前を、「[drive:][path]parameter-file」の形式で指定します。省略できません。

**参照** 実行パラメーターファイルの記述内容については、[\[3 実行パラメーターファイルを用意する\] \(P.29\)](#) を参照してください。

-csv {target-file}

取得対象のオブジェクトと取得する属性を指定した操作対象オブジェクト指定ファイルのファイル名を、「[drive:][path]file」の形式で指定します。省略できません。

**参照** 操作対象オブジェクト指定ファイルの記述内容については、[\[4 操作対象オブジェクト指定ファイルを用意する\] \(P.42\)](#) を参照してください。

-user {userName}

コマンドを実行するユーザーのユーザー ID (DN形式またはUFN形式) を指定します。RMSに登録済みのユーザー IDを指定します。省略できません。

-passwd {password}

-userパラメーターで指定した、ユーザー IDに対応するパスワードを指定します。-passwdパラメーターを省略した場合は、標準入力でパスワードを入力します。

## コマンド戻り値

コマンドの処理がすべて正常に終了した場合は、「0」を返します。  
 コマンドの処理に1つでもエラーが発生した場合は、「1」を返します。

## エラー

次の場合にエラーになります。

- ・入力ファイルに記述ミスがあった場合
- ・必須パラメーターが記述されていなかった場合
- ・不要なパラメーターが記述されていた場合
- ・何らかの原因でドキュメント管理サービスでエラーが発生した場合
- ・ユーザー認証に失敗した場合

## 備考

取り出し元のオブジェクトを条件指定した場合、オブジェクトの検索を行ってから取り出しを実行するので、パフォーマンスに影響があります。

### 7.1.2 wfgetattr

ワークフローの外部コマンドとして使用する場合、ワークフローキャビネットに存在するオブジェクトから、指定した属性を取り出します。

属性を取り出した結果は、CSV形式で出力します。

- 注記**
- ・操作対象指定パラメーターは、ダイレクト形式 (targetObjectId) だけ指定できます。そのため、操作対象オブジェクト指定ファイルの1行で、一度に複数のオブジェクトからコンテンツを取り出すことはできません。
  - ・ソートパラメーターを指定した場合は、エラーになります。
  - ・このコマンドでは、オブジェクトのコンテンツは取得できません。オブジェクトのコンテンツを取得する場合は、「オブジェクトのコンテンツ取り出しコマンド」を使用してください。

## コマンド形式

```
wfgetattr [-c] -param {parameter-file} -csv {target-file} -user {userName}
[-passwd {password} ]
```

## コマンドパラメーター

-c

-cパラメーターを指定すると、処理中にエラーが発生した場合に処理を続行します。省略できます。

-param {parameter-file}

実行パラメーターファイルの名前を、「[drive:][path]parameter-file」の形式で指定します。省略できません。

- 参照** 実行パラメーターファイルの記述内容については、[\[3 実行パラメーターファイルを用意する\] \(P.29\)](#) を参照してください。

### -csv {target-file}

取得対象のオブジェクトと取得する属性を指定した操作対象オブジェクト指定ファイルのファイル名を、`[[drive:][path]file]` の形式で指定します。省略できません。

**参照** 操作対象オブジェクト指定ファイルの記述内容については、[\[4 操作対象オブジェクト指定ファイルを用意する\] \(P.42\)](#) を参照してください。

### -user {userName}

コマンドを実行するユーザーのユーザー ID (DN形式またはUFN形式) を指定します。RMSに登録済みのユーザー IDを指定します。省略できません。

### -passwd {password}

-userパラメーターで指定した、ユーザー IDに対応するパスワードを指定します。-passwdパラメーターを省略した場合は、標準入力でパスワードを入力します。

## コマンド戻り値

コマンドの処理がすべて正常に終了した場合は、「0」を返します。

コマンドの処理に1つでもエラーが発生した場合は、「1」を返します。

## エラー

次の場合にエラーになります。

- ・入力ファイルに記述ミスがあった場合
- ・必須パラメーターが記述されていなかった場合
- ・不要なパラメーターが記述されていた場合
- ・何らかの原因でドキュメント管理サービスでエラーが発生した場合
- ・ユーザー認証に失敗した場合
- ・wfgetattr コマンドを、ワークフローがインストールされていないサーバー（オールインワン構成の場合は ArcSuite サーバー以外、2 台構成の場合はコンポーネントサーバー以外）で実行した場合
- ・ソートパラメーターを指定した場合

## 7.2 オブジェクトのコンテンツ取り出しコマンド

オブジェクトのコンテンツ取り出しコマンドは、次のとおりです。

- ・ drgetcont
- ・ wfgetcont

### 7.2.1 drgetcont

ドキュメント管理サービスに存在するドキュメントオブジェクトから、指定したコンテンツと指定した属性を取り出します。

属性およびコンテンツは、対象のドキュメントオブジェクトが属性およびコンテンツを保持している場合にだけ取得できます。指定したコンテンツと属性を保持していなくても、エラーになりません。ただし、オフラインコンテンツ取得エラーパラメーターを指定することによって、オフラインコンテンツを取得しようとしたときに、エラーになる場合があります。

ドキュメントオブジェクト以外からコンテンツを取り出した場合は、エラーになります。  
ごみ箱内のオブジェクトを指定した場合は、エラーとなります。

取り出し時に条件を指定することによって、一度に複数のオブジェクトからコンテンツを取り出せます。  
ソートパラメーターにソート条件を指定することによって、オブジェクトのリスト順番を指定できます。  
取り出したプライマリコンテンツ、セカンダリコンテンツをローカルのファイルに保存します。

ファイル名は、ローカルファイル名に使用する属性パラメーターを指定することによって、ドキュメント管理サービスで保持しているファイル名属性、または名前属性を使用します。  
オブジェクトの属性は、正常結果情報の出力先ファイルにCSV形式で保存されます。

属性およびコンテンツは、対象のドキュメントオブジェクトが保持している場合にだけ取得可能です。指定したコンテンツおよび属性を保持していなくてもエラーとはなりません。ただし、オフラインコンテンツの取得エラーパラメーターを指定することによって、オフラインコンテンツを取得しようとしたときに、エラーにすることができます。

### コマンド形式

```
drgetcont [-c] -param {parameter-file} -csv {target-file} -user {userName}
[-passwd {password} ]
```

## コマンドパラメーター

-c

-cパラメーターを指定すると、処理中にエラーが発生した場合に処理を続行します。省略できます。

**-param {parameter-file}**

実行パラメーターファイルの名前を、「[drive:][path]parameter-file」の形式で指定します。省略できません。

**参照** 実行パラメーターファイルの記述内容については、[\[3 実行パラメーターファイルを用意する\] \(P.29\)](#) を参照してください。

**-csv {target-file}**

取得対象のオブジェクト、取得するコンテンツラベル、および取り出しパスを指定した操作対象オブジェクト指定ファイルのファイル名を、「[drive:][path]file」の形式で指定します。省略できません。コンテンツの取り出し先を指定する取り出しパスには、実際に存在するローカルのフォルダーを指定してください。

**参照** 操作対象オブジェクト指定ファイルの記述内容については、[\[4 操作対象オブジェクト指定ファイルを用意する\] \(P.42\)](#) を参照してください。

**-user {userName}**

コマンドを実行するユーザーのユーザー ID (DN形式またはUFN形式) を指定します。RMSに登録済みのユーザー IDを指定します。省略できません。

**-passwd {password}**

-userパラメーターで指定した、ユーザー IDに対応するパスワードを指定します。-passwdパラメーターを省略した場合は、標準入力でパスワードを入力します。

## コマンド戻り値

コマンドの処理がすべて正常に終了した場合は、「0」を返します。

コマンドの処理に1つでもエラーが発生した場合は、「1」を返します。

## エラー

次の場合にエラーになります。

- ・入力ファイルに記述ミスがあった場合
- ・必須パラメーターが記述されていなかった場合
- ・不要なパラメーターが記述されていた場合
- ・対象オブジェクトがドキュメント以外の場合
- ・オフラインコンテンツ取得パラメーターの値に「true」を指定して、オフラインコンテンツを取得しようとした場合
- ・何らかの原因でドキュメント管理サービスでエラーが発生した場合
- ・ユーザー認証に失敗した場合

## 備考

取り出し元のオブジェクトを条件指定した場合、オブジェクトの検索を行ってから取り出しを実行するので、パフォーマンスに影響があります。

## 7.2.2 wfgetcont

ワークフローの外部コマンドとして使用する場合、ワークフローキャビネットに存在するオブジェクトから、指定したコンテンツと指定した属性を取り出します。

- 注記**
- ・操作対象指定パラメーターは、ダイレクト形式 (targetObjectId) だけ指定できます。そのため、操作対象オブジェクト指定ファイルの 1 行で、一度に複数のオブジェクトからコンテンツを取り出すことはできません。
  - ・ソートパラメーターを指定した場合は、エラーになります。

属性およびコンテンツは、対象のドキュメントオブジェクトが属性およびコンテンツを保持している場合にだけ取得できます。ただし、指定したコンテンツおよび属性を保持していなくても、エラーになりません。

ドキュメントオブジェクト以外からコンテンツを取り出した場合は、エラーになります。

取り出し時に条件を指定することによって、一度に複数のオブジェクトからコンテンツを取り出せます。

取り出したプライマリコンテンツ、セカンダリコンテンツをローカルのファイルに保存します。

ファイル名は、ドキュメント管理サービスで保持しているファイル名属性を使用します。

オブジェクトの属性は、正常結果情報の出力先ファイルにCSV形式で保存されます。

### コマンド形式

```
wfgetcont [-c] -param {parameter-file} -csv {target-file} -user {userName}
[-passwd {password} ]
```

### コマンドパラメーター

**-c**

-cパラメーターを指定すると、処理中にエラーが発生した場合に処理を続行します。省略できます。

**-param {parameter-file}**

実行パラメーターファイルの名前を、「[drive:][path]parameter-file」の形式で指定します。省略できません。

**参照** 実行パラメーターファイルの記述内容については、[\[3 実行パラメーターファイルを用意する\] \(P.29\)](#) を参照してください。

**-csv {target-file}**

取得対象のオブジェクト、取得するコンテンツラベル、および取り出しパスを指定した操作対象オブジェクト指定ファイルのファイル名を、「[drive:][path]file」の形式で指定します。省略できません。コンテンツの取り出し先を指定する取り出しパスには、実際に存在するローカルのフォルダーを指定してください。

**参照** 操作対象オブジェクト指定ファイルの記述内容については、[\[4 操作対象オブジェクト指定ファイルを用意する\] \(P.42\)](#) を参照してください。

**-user {userName}**

コマンドを実行するユーザーのユーザー ID (DN形式またはUFN形式) を指定します。RMSに登録済みのユーザー IDを指定します。省略できません。

**-passwd {password}**

-userパラメーターで指定した、ユーザー IDに対応するパスワードを指定します。-passwdパラメーターを省略した場合は、標準入力でパスワードを入力します。

### コマンド戻り値

コマンドの処理がすべて正常に終了した場合は、「0」を返します。

コマンドの処理に 1 つでもエラーが発生した場合は、「1」を返します。

## エラー

次の場合にエラーになります。

- ・ 入力ファイルに記述ミスがあった場合
- ・ 必須パラメーターが記述されていなかった場合
- ・ 不要なパラメーターが記述されていた場合
- ・ 対象オブジェクトがドキュメント以外の場合
- ・ 何らかの原因でドキュメント管理サービスでエラーが発生した場合
- ・ ユーザー認証に失敗した場合
- ・ wfgetcont コマンドを、ワークフローがインストールされていないサーバー（オールインワン構成の場合は ArcSuite サーバー以外、2 台構成の場合はコンポーネントサーバー以外）で実行した場合
- ・ ソートパラメーターを指定した場合

## 7.3 フォルダーオブジェクトの取り出しコマンド

ドキュメント管理サービスに存在する指定したフォルダーオブジェクトを、下位の階層を含めてローカルに取り出します。

取り出し時に条件指定した場合、および条件が複数のオブジェクトに合致した場合は、エラーになります。

ごみ箱内のオブジェクトを指定した場合は、エラーになります。

フォルダー以下のオブジェクトの順序は、保存されません。

フォルダーオブジェクト、ドキュメントオブジェクトの属性は取り出せません。

ドキュメントオブジェクトは、プライマリコンテンツをファイルとして取り出します。

ファイル名は、ローカルファイル名に使用する属性パラメーターを指定することによって、ドキュメント管理サービスで保持しているファイル名属性、または名前属性を使用します。

セカンダリコンテンツ、リファレンスオブジェクトは取り出せません。

オフラインコンテンツの取得エラーパラメーターを指定することによって、オフラインコンテンツを取得しようとしたときに、エラーにすることができます。

### コマンド形式

```
drgetfdr [-c] [-t] -param {parameter-file} -csv {target-file} -user
{userName} [-passwd {password} ]
```

### コマンドパラメーター

**-c**

-cパラメーターを指定すると、処理中にエラーが発生した場合に処理を続行します。省略できます。

**-t**

-tパラメーターを指定すると、取り出し途中でエラーが発生した場合に、ローカルに取り出したフォルダーを削除します。

**-param {parameter-file}**

実行パラメーターファイルの名前を、`[[drive:][path]parameter-file]` の形式で指定します。省略できません。

**参照** 実行パラメーターファイルの記述内容については、[\[3 実行パラメーターファイルを用意する\] \(P.29\)](#) を参照してください。

**-csv {target-file}**

取得対象のフォルダーオブジェクトと取り出し先のパスを指定した、操作対象オブジェクト指定ファイルのファイル名を、`[[drive:][path]file]` の形式で指定します。省略できません。

**参照** 操作対象オブジェクト指定ファイルの記述内容については、[\[4 操作対象オブジェクト指定ファイルを用意する\] \(P.42\)](#) を参照してください。

**-user {userName}**

コマンドを実行するユーザーのユーザー ID (DN形式またはUFN形式) を指定します。RMSに登録済みのユーザー IDを指定します。省略できません。

**-passwd {password}**

-userパラメーターで指定した、ユーザー IDに対応するパスワードを指定します。-passwdパラメーターを省略した場合は、標準入力でパスワードを入力します。

## コマンド戻り値

コマンドの処理がすべて正常に終了した場合は、「0」を返します。

コマンドの処理に1つでもエラーが発生した場合は、「1」を返します。

## エラー

次の場合にエラーになります。

- ・入力ファイルに記述ミスがあった場合
- ・必須パラメーターが記述されていなかった場合
- ・不要なパラメーターが記述されていた場合
- ・対象オブジェクトがフォルダー以外の場合
- ・対象オブジェクトが複数該当した場合
- ・オフラインコンテンツの取得パラメーターの値に「true」を指定して、オフラインコンテンツを取得しようとした場合
- ・何らかの原因でドキュメント管理サービスでエラーが発生した場合
- ・ユーザー認証に失敗した場合

## 備考

取り出し元のオブジェクトを条件指定した場合、オブジェクトの検索を行ってから取り出しを実行するので、パフォーマンスに影響があります。

## 7.4 オブジェクト削除コマンド

オブジェクト削除コマンドは、次のとおりです。

- ・ drdelobj
- ・ wfdelobj

### 7.4.1 drdelobj

ドキュメント管理サービスに存在するオブジェクトを削除します。  
削除時に条件を指定することによって、一度に複数のオブジェクトを削除できます。

ハードリファレンス削除モードパラメーターを指定することで、ハードリファレンスから参照されているオブジェクトを削除するか、エラーにして削除しないようにするかを選択できます。

実行パラメーターのdelObjExecMode要素を指定することで、削除する代わりに、ごみ箱へ移動できます。

ごみ箱内のオブジェクトを削除するには、delObjExecMode要素にdeleteを指定し、ごみ箱直下のオブジェクトをダイレクト形式で指定します。

### コマンド形式

```
drdelobj [-c] -param {parameter-file} -csv {target-file} -user {userName} [-passwd {password} ]
```

### コマンドパラメーター

-c

-cパラメーターを指定すると、処理中にエラーが発生した場合に処理を続行します。省略できます。

-param {parameter-file}

実行パラメーターファイルの名前を、「[drive:][path]parameter-file」の形式で指定します。省略できません。

**参照** 実行パラメーターファイルの記述内容については、[\[3 実行パラメーターファイルを用意する\] \(P.29\)](#) を参照してください。

-csv {target-file}

削除対象のオブジェクトを指定した操作対象オブジェクト指定ファイルのファイル名を、「[drive:][path]file」の形式で指定します。省略できません。

**参照** 操作対象オブジェクト指定ファイルの記述内容については、[\[4 操作対象オブジェクト指定ファイルを用意する\] \(P.42\)](#) を参照してください。

-user {userName}

コマンドを実行するユーザーのユーザー ID (DN形式またはUFN形式) を指定します。RMSに登録済みのユーザー IDを指定します。省略できません。

-passwd {password}

-userパラメーターで指定した、ユーザー IDに対応するパスワードを指定します。-passwdパラメーターを省略した場合は、標準入力でパスワードを入力します。

## コマンド戻り値

コマンドの処理がすべて正常に終了した場合は、「0」を返します。  
 コマンドの処理に1つでもエラーが発生した場合は、「1」を返します。

## エラー

次の場合にエラーになります。

- ・入力ファイルに記述ミスがあった場合
- ・必須パラメーターが記述されていなかった場合
- ・不要なパラメーターが記述されていた場合
- ・何らかの原因でドキュメント管理サービスでエラーが発生した場合
- ・ユーザー認証に失敗した場合

## 備考

削除対象のオブジェクトを条件指定した場合、オブジェクトの検索を行ってから削除を実行するので、パフォーマンスに影響があります。

## 7.4.2 wfdelobj

ワークフローの外部コマンドとして使用する場合、ワークフローキャビネットに存在するオブジェクトを削除します。

**注記** 操作対象指定パラメーターは、ダイレクト形式 (targetObjectId) だけ指定できます。

そのため、操作対象オブジェクト指定ファイルの1行で、一度に複数のオブジェクトを削除することはできません。

## コマンド形式

```
wfdelobj [-c] -param {parameter-file} -csv {target-file} -user {userName} [-passwd {password} ]
```

## コマンドパラメーター

-c

-cパラメーターを指定すると、処理中にエラーが発生した場合に処理を続行します。省略できます。

-param {parameter-file}

実行パラメーターファイルの名前を、「[drive:][path]parameter-file」の形式で指定します。省略できません。

**参照** 実行パラメーターファイルの記述内容については、[\[3 実行パラメーターファイルを用意する\] \(P.29\)](#) を参照してください。

-csv {target-file}

削除対象のオブジェクトを指定した操作対象オブジェクト指定ファイルのファイル名を、「[drive:][path]file」の形式で指定します。省略できません。

**参照** 操作対象オブジェクト指定ファイルの記述内容については、[\[4 操作対象オブジェクト指定ファイルを用意する\] \(P.42\)](#) を参照してください。

-user {userName}

コマンドを実行するユーザーのユーザー ID (DN形式またはUFN形式) を指定します。RMSに登録済みのユーザー IDを指定します。省略できません。

`-passwd {password}`

`-user`パラメーターで指定した、ユーザー IDに対応するパスワードを指定します。`-passwd`パラメーターを省略した場合は、標準入力でパスワードを入力します。

## コマンド戻り値

コマンドの処理がすべて正常に終了した場合は、「0」を返します。

コマンドの処理に1つでもエラーが発生した場合は、「1」を返します。

## エラー

次の場合にエラーになります。

- ・入力ファイルに記述ミスがあった場合
- ・必須パラメーターが記述されていなかった場合
- ・不要なパラメーターが記述されていた場合
- ・何らかの原因でドキュメント管理サービスでエラーが発生した場合
- ・ユーザー認証に失敗した場合
- ・`wfdeobj` コマンドを、ワークフローがインストールされていないサーバー（オールインワン構成の場合は ArcSuite サーバー以外、2 台構成の場合はコンポーネントサーバー以外）で実行した場合
- ・`wfdeobj` コマンドの操作対象に、オブジェクトタイプが `system:wfdocfolder` のオブジェクトを指定した場合

## 7.5 オブジェクトリスト取得コマンド

オブジェクトリスト取得コマンドは、次のとおりです。

- ・ drgetlist
- ・ wfgetlist

### 7.5.1 drgetlist

ドキュメント管理サービスに存在するオブジェクトを指定して、直下の子オブジェクトのリストを取得します。

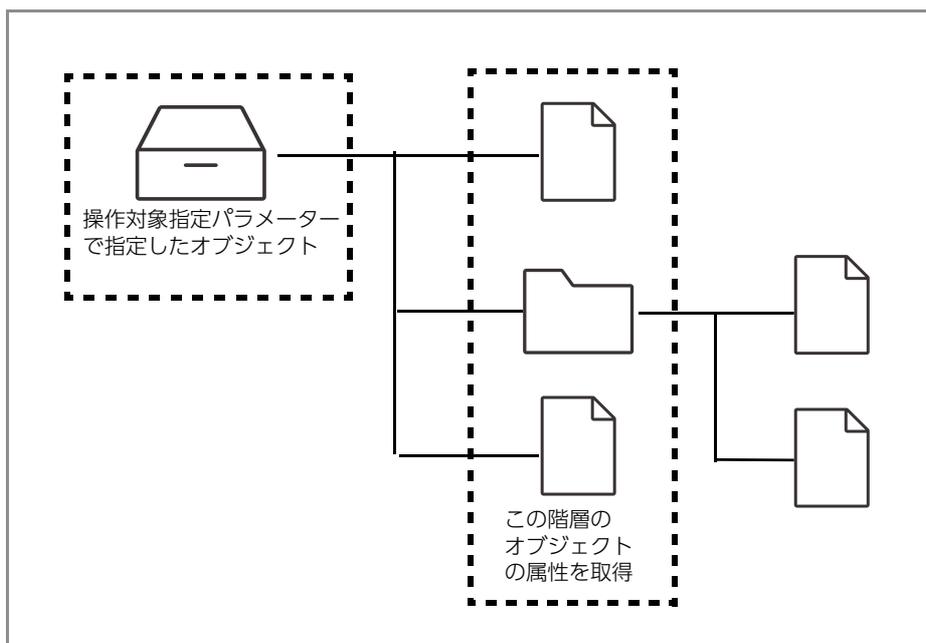
リスト取得対象に指定できるオブジェクトは、サービスオブジェクト、キャビネットオブジェクト、ドロワーオブジェクト、フォルダーオブジェクトだけです。

リスト取得対象にキャビネットオブジェクトを指定し、実行パラメーターのgetListExecMode要素にlistDisusedObjectsまたはlistDisusedAllObjectsを指定することで、ごみ箱直下のオブジェクトリストを取得できます。

リスト取得対象を条件指定し、複数のオブジェクトが該当した場合は、エラーになります。

ごみ箱内のオブジェクトを指定した場合は、エラーとなります。

取得する子オブジェクトのソートパラメーターにソート条件を指定できます。



**注記** このコマンドでは、コンテンツの属性は取得できません。コンテンツの属性を取得する場合は、「オブジェクト属性取り出しコマンド」を使用してください。

## コマンド形式

```
drgetlist [-c] -param {parameter-file} -csv {target-file} -user {userName}
[-passwd {password} ]
```

## コマンドパラメーター

**-c**

-cパラメーターを指定すると、処理中にエラーが発生した場合に処理を続行します。省略できます。

**-param {parameter-file}**

実行パラメーターファイルの名前を、「[drive:][path]parameter-file」の形式で指定します。省略できません。

**参照** 実行パラメーターファイルの記述内容については、[\[3 実行パラメーターファイルを用意する\] \(P.29\)](#) を参照してください。

**-csv {target-file}**

リスト取得対象と取得する属性を指定した操作対象オブジェクト指定ファイルのファイル名を、「[drive:][path]file」の形式で指定します。省略できません。

**参照** 操作対象オブジェクト指定ファイルの記述内容については、[\[4 操作対象オブジェクト指定ファイルを用意する\] \(P.42\)](#) を参照してください。

**-user {userName}**

コマンドを実行するユーザーのユーザー ID (DN形式またはUFN形式) を指定します。RMSに登録済みのユーザー IDを指定します。省略できません。

**-passwd {password}**

-userパラメーターで指定した、ユーザー IDに対応するパスワードを指定します。-passwdパラメーターを省略した場合は、標準入力でパスワードを入力します。

## コマンド戻り値

コマンドの処理がすべて正常に終了した場合は、「0」を返します。

コマンドの処理に1つでもエラーが発生した場合は、「1」を返します。

## エラー

次の場合にエラーになります。

- ・入力ファイルに記述ミスがあった場合
- ・必須パラメーターが記述されていなかった場合
- ・不要なパラメーターが記述されていた場合
- ・対象オブジェクトがキャビネット、ドロワー、フォルダー以外だった場合
- ・対象オブジェクトが複数該当した場合
- ・何らかの原因でドキュメント管理サービスでエラーが発生した場合
- ・ユーザー認証に失敗した場合

## 備考

取得対象のオブジェクトを条件指定した場合、オブジェクトの検索を行ってからリストを取得するので、パフォーマンスに影響があります。

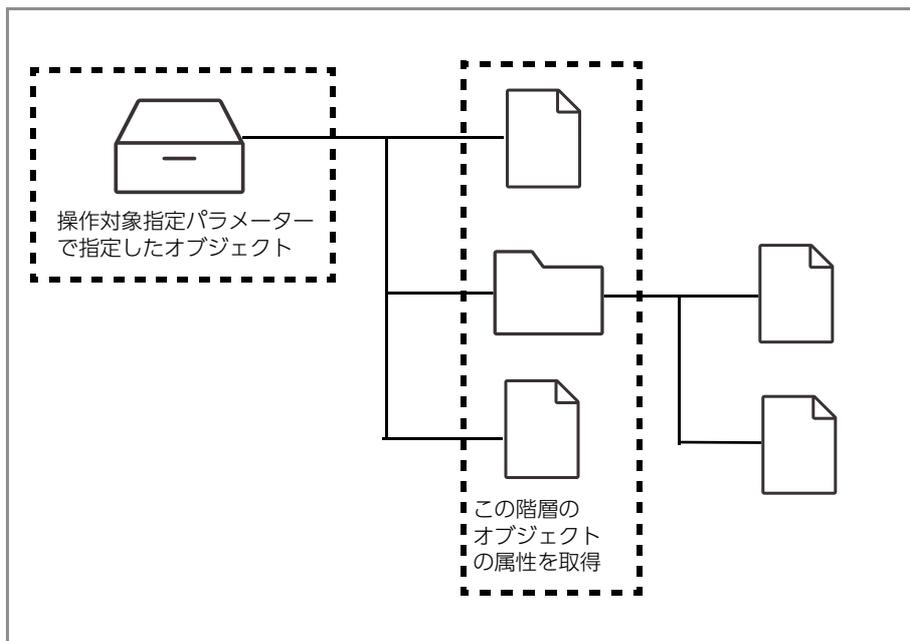
## 7.5.2 wfgetlist

ワークフローの外部コマンドとして使用する場合、ワークフローキャビネットに存在するオブジェクトを指定して、直下の子オブジェクトのリストを取得します。

**注記** 操作対象指定パラメーターは、ダイレクト形式 (targetObjectId) だけ指定できます。そのため、操作対象オブジェクト指定ファイルの1行で、一度に複数のオブジェクトからリストを取り出すことはできません。

リスト取得対象に指定できるオブジェクトは、ワークフロードキュメントフォルダー、フォルダーオブジェクトだけです。

リスト取得対象を条件指定し、複数のオブジェクトが該当した場合は、エラーになります。取得する子オブジェクトのソートパラメーターにソート条件を指定できます。



**注記** このコマンドでは、コンテンツの属性は取得できません。コンテンツの属性を取得する場合は、「オブジェクト属性取り出しコマンド」を使用してください。

### コマンド形式

```
wfgetlist [-c] -param {parameter-file} -csv {target-file} -user {userName}
[-passwd {password} ]
```

### コマンドパラメーター

-c

-cパラメーターを指定すると、処理中にエラーが発生した場合に処理を続行します。省略できます。

-param {parameter-file}

実行パラメーターファイルの名前を、「[[drive:][path]parameter-file]」の形式で指定します。省略できません。

**参照** 実行パラメーターファイルの記述内容については、[\[3 実行パラメーターファイルを用意する\] \(P.29\)](#) を参照してください。

**-csv {target-file}**

リスト取得対象と取得する属性を指定した操作対象オブジェクト指定ファイルのファイル名を、`[[drive:][path]file]` の形式で指定します。省略できません。

**参照** 操作対象オブジェクト指定ファイルの記述内容については、[\[4 操作対象オブジェクト指定ファイルを用意する\] \(P.42\)](#) を参照してください。

**-user {userName}**

コマンドを実行するユーザーのユーザー ID (DN形式またはUFN形式) を指定します。RMSに登録済みのユーザー IDを指定します。省略できません。

**-passwd {password}**

-userパラメーターで指定した、ユーザー IDに対応するパスワードを指定します。-passwdパラメーターを省略した場合は、標準入力でパスワードを入力します。

## コマンド戻り値

コマンドの処理がすべて正常に終了した場合は、「0」を返します。

コマンドの処理に1つでもエラーが発生した場合は、「1」を返します。

## エラー

次の場合にエラーになります。

- ・入力ファイルに記述ミスがあった場合
- ・必須パラメーターが記述されていなかった場合
- ・不要なパラメーターが記述されていた場合
- ・対象オブジェクトがキャビネット、ドロワー、フォルダー以外だった場合
- ・対象オブジェクトが複数該当した場合
- ・何らかの原因でドキュメント管理サービスでエラーが発生した場合
- ・ユーザー認証に失敗した場合
- ・wfgetlist コマンドを、ワークフローがインストールされていないサーバー（オールインワン構成の場合は ArcSuite サーバー以外、2 台構成の場合はコンポーネントサーバー以外）で実行した場合

## 7.6 ドキュメント管理サービス内オブジェクト転記コマンド

ドキュメント管理サービス内オブジェクト転記コマンドは、次のとおりです。

- ・ drcpobj
- ・ wfcplib

オブジェクトの転記には、次の3つのパターンがあります。

- ・ ドキュメント管理サービス内の指定されたオブジェクトを、同一キャビネットの指定されたオブジェクトの下に転記する
- ・ ドキュメント管理サービス内の指定されたオブジェクトを、同ドキュメント管理サービス内にある異なるキャビネット内の指定されたオブジェクトの下に転記する
- ・ ドキュメント管理サービス内の指定されたオブジェクトを、異なるドキュメント管理サービス内にある指定されたオブジェクトの下に転記する

転記元のオブジェクト、および転記先、転記位置のオブジェクトの条件を指定できます。

転記元オブジェクトがフォルダーオブジェクトの場合は、フォルダー自身だけ転記することを指定できます。

転記元オブジェクトを条件指定し、複数のオブジェクトが条件に該当する場合は、該当するすべてのオブジェクトを転記します。

条件指定によって、転記先オブジェクトが複数該当した場合は、エラーになります。

条件指定によって、転記先位置オブジェクトが複数該当した場合は、エラーになります。

転記先または転記元オブジェクトに、ごみ箱内のオブジェクトを指定した場合は、エラーとなります。

**注記** このコマンドでは、すでにドキュメント管理サービスに存在するオブジェクトに対して、上書きできません。

### 7.6.1 drcpobj

ドキュメント管理サービスに存在するオブジェクトを指定されたオブジェクトの下に転記します。

#### コマンド形式

```
drcpobj [-c] -param {parameter-file} -csv {target-file} -user {userName} [-passwd {password} ]
```

#### コマンドパラメーター

-c

-cパラメーターを指定すると、処理中にエラーが発生した場合に処理を続行します。省略できます。

-param {parameter-file}

実行パラメーターファイルの名前を、「[drive:][path]parameter-file」の形式で指定します。省略できません。

**参照** 実行パラメーターファイルの記述内容については、[\[3 実行パラメーターファイルを用意する\] \(P.29\)](#) を参照してください。

**-csv {target-file}**

転記先オブジェクトと転記元オブジェクトを指定した操作対象オブジェクト指定ファイルのファイル名を、`[[drive:][path]file]` の形式で指定します。省略できません。

**参照** 操作対象オブジェクト指定ファイルの記述内容については、[\[4 操作対象オブジェクト指定ファイルを用意する\] \(P.42\)](#) を参照してください。

**-user {userName}**

コマンドを実行するユーザーのユーザー ID (DN形式またはUFN形式) を指定します。RMSに登録済みのユーザー IDを指定します。省略できません。

**-passwd {password}**

-userパラメーターで指定した、ユーザー IDに対応するパスワードを指定します。-passwdパラメーターを省略した場合は、標準入力でパスワードを入力します。

## コマンド戻り値

コマンドの処理がすべて正常に終了した場合は、「0」を返します。

コマンドの処理に1つでもエラーが発生した場合は、「1」を返します。

## エラー

次の場合にエラーになります。

- ・ 入力ファイルに記述ミスがあった場合
- ・ 必須パラメーターが記述されていなかった場合
- ・ 不要なパラメーターが記述されていた場合
- ・ 転記先のオブジェクトがドロワー、フォルダー以外だった場合
- ・ 転記先のオブジェクトが複数存在した場合
- ・ 転記位置のオブジェクトが複数存在した場合
- ・ 何らかの原因でドキュメント管理サービスでエラーが発生した場合
- ・ ユーザー認証に失敗した場合

## 備考

- ・ 転記元オブジェクト、転記先オブジェクトを条件指定した場合、各オブジェクトの検索を行ってから転記を実行するので、パフォーマンスに影響があります。
- ・ 破棄パラメーターの指定により、
  - 転記先のキャビネットに設定されていないコンテンツを取り除く
  - 転記先のキャビネットにエディションキーとして設定されている属性を取り除く
  - 転記先のキャビネットにユニークキーとして設定されている属性を取り除く
  - 転記先のキャビネットに設定されていないオブジェクトタイプをデフォルトのオブジェクトタイプに変更の処理を行ってから転記することができます。

## 7.6.2 wfcpobj

ワークフローの外部コマンドとして使用する場合、ドキュメント管理サービスに存在するオブジェクトを指定されたオブジェクトの下に転記します。

転記先オブジェクトと転記元オブジェクトのどちらかが、ワークフローキャビネット内のオブジェクトの場合に、処理を実行します。

- 注記**
- ・操作対象指定パラメーター、転記先／移動先／復元先指定パラメーター、および転記位置／移動位置指定パラメーターは、ダイレクト形式 (targetObjectId、locationObjectId、nextObjectId) だけ指定できます。そのため、操作対象オブジェクト指定ファイルの 1 行で、一度に複数のオブジェクトを転記することはできません。
  - ・操作対象パラメーターと転記先／移動先／復元先指定パラメーターで指定したオブジェクトのいずれかが、キャビネットラベルが workflow であるキャビネットに存在しなければなりません。両方のパラメーターに、キャビネットラベルが public であるキャビネットに存在するオブジェクトを指定した場合には、エラーになります。

### コマンド形式

```
wfcpobj [-c] -param {parameter-file} -csv {target-file} -user {userName} [-passwd {password} ]
```

### コマンドパラメーター

**参照** コマンドパラメーターについては、[\[7.6.1 drcpobj\] \(P.108\)](#) を参照してください。

### コマンド戻り値

**参照** コマンド戻り値については、[\[7.6.1 drcpobj\] \(P.108\)](#) を参照してください。

### エラー

次の場合、エラーになります。

- ・ワークフローがインストールされていないサーバー（オールインワン構成の場合は ArcSuite サーバー以外、2 台構成の場合はコンポーネントサーバー以外）で実行した場合
- ・転記元に、オブジェクトタイプが system:wfdocfolder のオブジェクトを指定した場合
- ・操作対象指定パラメーターで、オブジェクトタイプが system:wfdocfolder のオブジェクトを指定した場合
- ・転記先／移動先／復元先指定パラメーターで、オブジェクトタイプが system:drawer のオブジェクトを指定した場合

**参照** そのほかのエラーについては、[\[7.6.1 drcpobj\] \(P.108\)](#) を参照してください。

## 7.7 ドキュメント管理サービス内オブジェクト移動コマンド

ドキュメント管理サービス内オブジェクト移動コマンドは、次のとおりです。

- ・ drmvobj
- ・ wfmvobj

オブジェクトの移動には、次の3つのパターンがあります。

- ・ ドキュメント管理サービス内の指定されたオブジェクトを、同一キャビネットの指定されたオブジェクトの下に移動する
- ・ ドキュメント管理サービス内の指定されたオブジェクトを、同ドキュメント管理サービス内にある異なるキャビネット内の指定されたオブジェクトの下に移動する
- ・ ドキュメント管理サービス内の指定されたオブジェクトを、異なるドキュメント管理サービス内にある指定されたオブジェクトの下に移動する

移動元のオブジェクト、および移動先、移動位置のオブジェクトの条件を指定できます。

移動元オブジェクトを条件指定し、複数のオブジェクトが条件に該当する場合は、該当するすべてのオブジェクトを移動します。

条件指定によって、移動先オブジェクトが複数該当した場合は、エラーになります。

条件指定によって、移動先位置オブジェクトが複数該当した場合は、エラーになります。

移動先または移動元オブジェクトに、ごみ箱内のオブジェクトを指定した場合は、エラーとなります。

**注記** このコマンドでは、すでにドキュメント管理サービスに存在するオブジェクトに対して、上書きできません。

### 7.7.1 drmvobj

ドキュメント管理サービスに存在するオブジェクトを指定されたオブジェクトの下に移動します。

#### コマンド形式

```
drmvobj [-c] -param {parameter-file} -csv {target-file} -user {userName} [-passwd {password} ]
```

#### コマンドパラメーター

-c

-cパラメーターを指定すると、処理中にエラーが発生した場合に処理を続行します。省略できます。

-param {parameter-file}

実行パラメーターファイルの名前を、「[drive:][path]parameter-file」の形式で指定します。省略できません。

**参照** 実行パラメーターファイルの記述内容については、[\[3 実行パラメーターファイルを用意する\] \(P.29\)](#) を参照してください。

### -csv {target-file}

移動先オブジェクトと移動元オブジェクトを指定した操作対象オブジェクト指定ファイルのファイル名を、`[[drive:][path]file]` の形式で指定します。省略できません。

**参照** 操作対象オブジェクト指定ファイルの記述内容については、[\[4 操作対象オブジェクト指定ファイルを用意する\] \(P.42\)](#) を参照してください。

### -user {userName}

コマンドを実行するユーザーのユーザー ID (DN形式またはUFN形式) を指定します。RMSに登録済みのユーザー IDを指定します。省略できません。

### -passwd {password}

-userパラメーターで指定した、ユーザー IDに対応するパスワードを指定します。-passwdパラメーターを省略した場合は、標準入力でパスワードを入力します。

## コマンド戻り値

コマンドの処理がすべて正常に終了した場合は、「0」を返します。

コマンドの処理に1つでもエラーが発生した場合は、「1」を返します。

## エラー

次の場合にエラーになります。

- ・入力ファイルに記述ミスがあった場合
- ・必須パラメーターが記述されていなかった場合
- ・不要なパラメーターが記述されていた場合
- ・移動先のオブジェクトがフォルダーおよびドロワー以外だった場合
- ・移動先のオブジェクトが複数存在した場合
- ・移動位置のオブジェクトが複数存在した場合
- ・何らかの原因でドキュメント管理サービスでエラーが発生した場合
- ・ユーザー認証に失敗した場合

## 備考

- ・移動元オブジェクト、移動先オブジェクトを条件指定した場合、各オブジェクトの検索を行ってから移動を実行するので、パフォーマンスに影響があります。
  - ・破棄パラメーターの指定により、
    - 移動先のキャビネットに設定されていないコンテンツを取り除く
    - 移動先のキャビネットにエディションキーとして設定されている属性を取り除く (\* 1)
    - 移動先のキャビネットにユニークキーとして設定されている属性を取り除く (\* 1)
    - 移動先のキャビネットに設定されていないオブジェクトタイプをデフォルトのオブジェクトタイプに変更 (\* 1)
- の処理を行ってから移動することができます。
- \* 1: : キャビネット内の移動の場合は、この破棄パラメーターは無視されます。

## 7.7.2 wfmvobj

---

ワークフローの外部コマンドとして使用する場合、ドキュメント管理サービスに存在するオブジェクトを指定されたオブジェクトの下に移動します。

移動先オブジェクトと移動元オブジェクトのどちらかが、ワークフローキャビネット内のオブジェクトの場合に、処理を実行します。

- 注記**
- 操作対象指定パラメーター、転記先／移動先／復元先指定パラメーター、および転記位置／移動位置指定パラメーターは、ダイレクト形式 (targetObjectId、locationObjectId、nextObjectId) だけ指定できます。そのため、操作対象オブジェクト指定ファイルの 1 行で、一度に複数のオブジェクトを移動することはできません。
  - 操作対象パラメーターと転記先／移動先／復元先指定パラメーターで指定したオブジェクトのいずれかが、キャビネットラベルが workflow であるキャビネットに存在しなければなりません。両方のパラメーターに、キャビネットラベルが public であるキャビネットに存在するオブジェクトを指定した場合には、エラーになります。

## コマンド形式

```
wfmvobj [-c] -param {parameter-file} -csv {target-file} -user {userName} [-passwd {password} ]
```

## コマンドパラメーター

**参照** コマンドパラメーターについては、[\[7.7.1 drmvobj\] \(P.111\)](#) を参照してください。

## コマンド戻り値

**参照** コマンド戻り値については、[\[7.7.1 drmvobj\] \(P.111\)](#) を参照してください。

## エラー

次の場合、エラーになります。

- ワークフローがインストールされていないサーバー（オールインワン構成の場合は ArcSuite サーバー以外、2 台構成の場合はコンポーネントサーバー以外）で実行した場合
- 移動元に、オブジェクトタイプが system:wfdocfolder のオブジェクトを指定した場合
- 操作対象指定パラメーターで、オブジェクトタイプが system:wfdocfolder のオブジェクトを指定した場合
- 転記先／移動先／復元先指定パラメーターで、オブジェクトタイプが system:drawer のオブジェクトを指定した場合

**参照** そのほかのエラーについては、[\[7.7.1 drmvobj\] \(P.111\)](#) を参照してください。

## 7.8 オブジェクトのロックコマンド

ドキュメント管理サービスに存在するオブジェクトをロックします。  
 ロック時に条件指定をすることにより、一度に複数のオブジェクトをロックできます。  
 ごみ箱内のオブジェクトを指定した場合は、エラーとなります。

### コマンド形式

```
drlkobj [-c] -param {parameter-file} -csv {target-file} -user {userName} [-passwd {password} ]
```

### コマンドパラメーター

-c

-cパラメーターを指定すると、処理中にエラーが発生した場合に処理を続行します。省略できます。

-param {parameter-file}

実行パラメーターファイルの名前を、「[drive:][path]parameter-file」の形式で指定します。省略できません。

**参照** 実行パラメーターファイルの記述内容については、[\[3 実行パラメーターファイルを用意する\] \(P.29\)](#) を参照してください。

-csv {target-file}

ロックするオブジェクトを指定した操作対象オブジェクト指定ファイルのファイル名を、「[drive:][path]file」の形式で指定します。省略できません。

**参照** 操作対象オブジェクト指定ファイルの記述内容については、[\[4 操作対象オブジェクト指定ファイルを用意する\] \(P.42\)](#) を参照してください。

-user {userName}

コマンドを実行するユーザーのユーザー ID (DN形式またはUFN形式) を指定します。RMSに登録済みのユーザー IDを指定します。省略できません。

-passwd {password}

-userパラメーターで指定した、ユーザー IDに対応するパスワードを指定します。-passwdパラメーターを省略した場合は、標準入力でパスワードを入力します。

### コマンド戻り値

コマンドの処理がすべて正常に終了した場合は、「0」を返します。  
 コマンドの処理に1つでもエラーが発生した場合は、「1」を返します。

### エラー

次の場合にエラーになります。

- ・入力ファイルに記述ミスがあった場合
- ・必須パラメーターが記述されていなかった場合
- ・不要なパラメーターが記述されていた場合
- ・何らかの原因でドキュメント管理サービスでエラーが発生した場合
- ・ユーザー認証に失敗した場合

## 備考

ロック対象のオブジェクトを条件指定した場合、オブジェクトの検索を行ってからロックを行うので、パフォーマンスに影響があります。

## 7.9 オブジェクトのアンロックコマンド

ドキュメント管理サービスに存在するオブジェクトをアンロックします。  
自分のロックしたオブジェクトのみアンロックできます。  
アンロック時に条件指定をすることにより、一度に複数のオブジェクトをアンロックできます。  
ごみ箱内のオブジェクトを指定した場合は、エラーとなります。

### コマンド形式

```
drunkobj [-c] -param {parameter-file} -csv {target-file} -user {userName}
[-passwd {password} ]
```

### コマンドパラメーター

**-c**

-cパラメーターを指定すると、処理中にエラーが発生した場合に処理を続行します。省略できます。

**-param {parameter-file}**

実行パラメーターファイルの名前を、`[[drive:][path]parameter-file]` の形式で指定します。省略できません。

**参照** 実行パラメーターファイルの記述内容については、[\[3 実行パラメーターファイルを用意する\] \(P.29\)](#) を参照してください。

**-csv {target-file}**

アンロックするオブジェクトを指定した操作対象オブジェクト指定ファイルのファイル名を、`[[drive:][path]file]` の形式で指定します。省略できません。

**参照** 操作対象オブジェクト指定ファイルの記述内容については、[\[4 操作対象オブジェクト指定ファイルを用意する\] \(P.42\)](#) を参照してください。

**-user {userName}**

コマンドを実行するユーザーのユーザー ID (DN形式またはUFN形式) を指定します。RMSに登録済みのユーザー IDを指定します。省略できません。

**-passwd {password}**

-userパラメーターで指定した、ユーザー IDに対応するパスワードを指定します。-passwdパラメーターを省略した場合は、標準入力でパスワードを入力します。

### コマンド戻り値

コマンドの処理がすべて正常に終了した場合は、「0」を返します。

コマンドの処理に1つでもエラーが発生した場合は、「1」を返します。

## エラー

次の場合にエラーになります。

- ・入力ファイルに記述ミスがあった場合
- ・必須パラメーターが記述されていなかった場合
- ・不要なパラメーターが記述されていた場合
- ・何らかの原因でドキュメント管理サービスでエラーが発生した場合
- ・ユーザー認証に失敗した場合

## 備考

アンロック対象のオブジェクトを条件指定した場合、オブジェクトの検索を行ってからアンロックを行うので、パフォーマンスに影響があります。

## 7.10 オブジェクトのアクセス権変更コマンド

ドキュメント管理サービス内に存在するオブジェクトに対して、アクセス権の変更を行います。キャビネットおよびドロワーのアクセス権を変更することはできません。アクセス権変更時に条件指定することにより、一度に複数のオブジェクトのアクセス権を変更できます。ごみ箱内のオブジェクトを指定した場合は、エラーとなります。

### コマンド形式

```
drchacl [-c] -param {parameter-file} -csv {target-file} -user {userName} [-passwd {password} ]
```

### コマンドパラメーター

**-c**

-cパラメーターを指定すると、処理中にエラーが発生した場合に処理を続行します。省略できます。

**-param {parameter-file}**

実行パラメーターファイルの名前を、`[[drive:][path]parameter-file]` の形式で指定します。省略できません。

**参照** 実行パラメーターファイルの記述内容については、[\[3 実行パラメーターファイルを用意する\] \(P.29\)](#) を参照してください。

**-csv {target-file}**

アクセス権を変更するオブジェクトを指定した操作対象オブジェクト指定ファイルのファイル名を、`[[drive:][path]file]` の形式で指定します。省略できません。

**参照** 操作対象オブジェクト指定ファイルの記述内容については、[\[4 操作対象オブジェクト指定ファイルを用意する\] \(P.42\)](#) を参照してください。

**-user {userName}**

コマンドを実行するユーザーのユーザー ID (DN形式またはUFN形式) を指定します。RMSに登録済みのユーザー IDを指定します。省略できません。

**-passwd {password}**

-userパラメーターで指定した、ユーザー IDに対応するパスワードを指定します。-passwdパラメーターを省略した場合は、標準入力でパスワードを入力します。

### コマンド戻り値

コマンドの処理がすべて正常に終了した場合は、「0」を返します。

コマンドの処理に1つでもエラーが発生した場合は、「1」を返します。

## エラー

次の場合にエラーになります。

- ・入力ファイルに記述ミスがあった場合
- ・必須パラメーターが記述されていなかった場合
- ・不要なパラメーターが記述されていた場合
- ・何らかの原因でドキュメント管理サービスでエラーが発生した場合
- ・ユーザー認証に失敗した場合

## 備考

変更対象のオブジェクトを条件指定した場合、オブジェクトの検索を行ってからアクセス権の変更を行うので、パフォーマンスに影響があります。

## 7.11 オブジェクトのデフォルトアクセス権変更コマンド

ドキュメント管理サービス内に存在するフォルダーオブジェクトに対して、デフォルトアクセス権の変更を行います。

デフォルトアクセス権変更時に条件指定することにより、一度に複数のオブジェクトのデフォルトアクセス権を変更できます。

キャビネットおよびドロワーのデフォルトアクセス権を変更することはできません。

ごみ箱内のオブジェクトを指定した場合は、エラーとなります。

### コマンド形式

```
drchdefacl [-c] -param {parameter-file} -csv {target-file} -user {userName}
[-passwd {password} ]
```

### コマンドパラメーター

-c

-cパラメーターを指定すると、処理中にエラーが発生した場合に処理を続行します。省略できます。

-param {parameter-file}

実行パラメーターファイルの名前を、「[[drive:][path]parameter-file]」の形式で指定します。省略できません。

**参照** 実行パラメーターファイルの記述内容については、[\[3 実行パラメーターファイルを用意する\] \(P.29\)](#) を参照してください。

-csv {target-file}

デフォルトアクセス権を変更するオブジェクトを指定した操作対象オブジェクト指定ファイルのファイル名を、「[[drive:][path]file]」の形式で指定します。省略できません。

**参照** 操作対象オブジェクト指定ファイルの記述内容については、[\[4 操作対象オブジェクト指定ファイルを用意する\] \(P.42\)](#) を参照してください。

-user {userName}

コマンドを実行するユーザーのユーザー ID (DN形式またはUFN形式) を指定します。RMSに登録済みのユーザー IDを指定します。省略できません。

-passwd {password}

-userパラメーターで指定した、ユーザー IDに対応するパスワードを指定します。-passwdパラメーターを省略した場合は、標準入力でパスワードを入力します。

### コマンド戻り値

コマンドの処理がすべて正常に終了した場合は、「0」を返します。

コマンドの処理に1つでもエラーが発生した場合は、「1」を返します。

## エラー

次の場合にエラーになります。

- ・入力ファイルに記述ミスがあった場合
- ・必須パラメーターが記述されていなかった場合
- ・不要なパラメーターが記述されていた場合
- ・何らかの原因でドキュメント管理サービスでエラーが発生した場合
- ・ユーザー認証に失敗した場合

## 備考

変更対象のオブジェクトを条件指定した場合、オブジェクトの検索を行ってからデフォルトアクセス権の変更を行うので、パフォーマンスに影響があります。

## 7.12 オブジェクトの版管理下追加コマンド

ドキュメント管理サービスに存在するオブジェクトに対して、エディションキー属性の値を追加します。エディションキー属性が設定されているキャビネット以外のオブジェクトを指定するとエラーになります。すでに版管理下になっているオブジェクトを指定するとエラーになります。

ごみ箱内のオブジェクトを指定した場合は、エラーとなります。

対象オブジェクトを条件指定で行った場合に、複数のオブジェクトが該当する場合は、エラーになります。

### コマンド形式

```
draddekey [-c] -param {parameter-file} -csv {target-file} -user {userName}
[-passwd {password} ]
```

### コマンドパラメーター

-c

-cパラメーターを指定すると、処理中にエラーが発生した場合に処理を続行します。省略できます。

-param {parameter-file}

実行パラメーターファイルの名前を、「[drive:][path]parameter-file」の形式で指定します。省略できません。

**参照** 実行パラメーターファイルの記述内容については、[\[3 実行パラメーターファイルを用意する\] \(P.29\)](#) を参照してください。

-csv {target-file}

付加するエディションとエディションを付加するオブジェクトを指定した操作対象オブジェクト指定ファイルのファイル名を、「[drive:][path]file」の形式で指定します。省略できません。

**参照** 操作対象オブジェクト指定ファイルの記述内容については、[\[4 操作対象オブジェクト指定ファイルを用意する\] \(P.42\)](#) を参照してください。

-user {userName}

コマンドを実行するユーザーのユーザー ID (DN形式またはUFN形式) を指定します。RMSに登録済みのユーザー IDを指定します。省略できません。

-passwd {password}

-userパラメーターで指定した、ユーザー IDに対応するパスワードを指定します。-passwdパラメーターを省略した場合は、標準入力でパスワードを入力します。

### コマンド戻り値

コマンドの処理がすべて正常に終了した場合は、「0」を返します。

コマンドの処理に1つでもエラーが発生した場合は、「1」を返します。

## エラー

次の場合にエラーになります。

- ・入力ファイルに記述ミスがあった場合
- ・必須パラメーターが記述されていなかった場合
- ・不要なパラメーターが記述されていた場合
- ・何らかの原因でドキュメント管理サービスでエラーが発生した場合
- ・ユーザー認証に失敗した場合

## 備考

変更対象のオブジェクトを条件指定した場合、オブジェクトの検索を行ってからアクセス権の変更を実行するので、パフォーマンスに影響があります。

## 7.13 オブジェクトの版管理除外コマンド

ドキュメント管理サービスに存在するオブジェクトのエディションキー属性の値を削除します。

版管理下のオブジェクト以外を指定するとエラーになります。

ごみ箱内のオブジェクトを指定した場合は、エラーとなります。

エディションキー値の削除時に条件指定することによって、一度に複数のオブジェクトのエディションキー値を削除できます。

### コマンド形式

```
drremekey [-c] -param {parameter-file} -csv {target-file} -user {userName} [-passwd {password} ]
```

### コマンドパラメーター

-c

-cパラメーターを指定すると、処理中にエラーが発生した場合に処理を続行します。省略できます。

-param {parameter-file}

実行パラメーターファイルの名前を、「[drive:][path]parameter-file」の形式で指定します。省略できません。

**参照** 実行パラメーターファイルの記述内容については、[\[3 実行パラメーターファイルを用意する\] \(P.29\)](#) を参照してください。

-csv {target-file}

エディション属性を削除するオブジェクトを指定した操作対象オブジェクト指定ファイルのファイル名を、「[drive:][path]file」の形式で指定します。省略できません。

**参照** 操作対象オブジェクト指定ファイルの記述内容については、[\[4 操作対象オブジェクト指定ファイルを用意する\] \(P.42\)](#) を参照してください。

-user {userName}

コマンドを実行するユーザーのユーザー ID (DN形式またはUFN形式) を指定します。RMSに登録済みのユーザー IDを指定します。省略できません。

-passwd {password}

-userパラメーターで指定した、ユーザー IDに対応するパスワードを指定します。-passwdパラメーターを省略した場合は、標準入力でパスワードを入力します。

### コマンド戻り値

コマンドの処理がすべて正常に終了した場合は、「0」を返します。

コマンドの処理に1つでもエラーが発生した場合は、「1」を返します。

### エラー

次の場合にエラーになります。

- ・入力ファイルに記述ミスがあった場合
- ・必須パラメーターが記述されていなかった場合
- ・不要なパラメーターが記述されていた場合
- ・何らかの原因でドキュメント管理サービスでエラーが発生した場合
- ・ユーザー認証に失敗した場合

## 備考

変更対象のオブジェクトを条件指定した場合、オブジェクトの検索を行ってからアクセス権の変更を実行するので、パフォーマンスに影響があります。

## 7.14 オブジェクトの状態変更コマンド

ドキュメント管理サービスに存在するオブジェクトの状態を変更します。  
状態変更対象時に条件指定することによって、一度に複数のオブジェクトの状態を変更できます。  
ごみ箱内のオブジェクトを指定した場合は、エラーとなります。

### コマンド形式

```
drchstat [-c] -param {parameter-file} -csv {target-file} -user {userName} [-passwd {password} ]
```

### コマンドパラメーター

-c

-cパラメーターを指定すると、処理中にエラーが発生した場合に処理を続行します。省略できます。

-param {parameter-file}

実行パラメーターファイルの名前を、「[drive:][path]parameter-file」の形式で指定します。省略できません。

**参照** 実行パラメーターファイルの記述内容については、[\[3 実行パラメーターファイルを用意する\] \(P.29\)](#) を参照してください。

-csv {target-file}

状態を変更するオブジェクトと変更後の状態を指定した操作対象オブジェクト指定ファイルのファイル名を、「[drive:][path]file」の形式で指定します。省略できません。

**参照** 操作対象オブジェクト指定ファイルの記述内容については、[\[4 操作対象オブジェクト指定ファイルを用意する\] \(P.42\)](#) を参照してください。

-user {userName}

コマンドを実行するユーザーのユーザー ID (DN形式またはUFN形式) を指定します。RMSに登録済みのユーザー IDを指定します。省略できません。

-passwd {password}

-userパラメーターで指定した、ユーザー IDに対応するパスワードを指定します。-passwdパラメーターを省略した場合は、標準入力でパスワードを入力します。

### コマンド戻り値

コマンドの処理がすべて正常に終了した場合は、「0」を返します。  
コマンドの処理に1つでもエラーが発生した場合は、「1」を返します。

### エラー

次の場合にエラーになります。

- ・入力ファイルに記述ミスがあった場合
- ・必須パラメーターが記述されていなかった場合
- ・不要なパラメーターが記述されていた場合
- ・何らかの原因でドキュメント管理サービスでエラーが発生した場合
- ・ユーザー認証に失敗した場合

## 備考

変更対象のオブジェクトを条件指定した場合、オブジェクトの検索を行ってから変更を実行するので、パフォーマンスに影響があります。

## 7.15 オブジェクトのクラス変更コマンド

ドキュメント管理サービスに存在するオブジェクトのクラスを変更します。

ごみ箱内のオブジェクトを指定した場合は、エラーになります。

クラス変更対象時に条件指定することによって、一度に複数のオブジェクトのクラスを変更できます。

破棄パラメーターの指定によって、次の処理を行ってからクラス変更できます。

- ・操作対象のキャビネットにエディションキーとして設定されている属性を取り除く
- ・操作対象のキャビネットにユニークキーとして設定されている属性を取り除く

### コマンド形式

```
drchclass [-c] -param {parameter-file} -csv {target-file} -user {userName}
[-passwd {password} ]
```

### コマンドパラメーター

**-c**

処理中にエラーが発生した場合に処理を続行します。

**-param {parameter-file}**

実行パラメーターファイルの名前を、「[drive:][path]parameter-file」の形式で指定します。省略できません。

**参照** 実行パラメーターファイルの記述内容については、[\[3 実行パラメーターファイルを用意する\] \(P.29\)](#) を参照してください。

**-csv {target-file}**

クラスを変更するオブジェクトとクラスを指定した、操作対象オブジェクト指定ファイルのファイル名を、「[drive:][path]file」の形式で指定します。省略できません。

**参照** 操作対象オブジェクト指定ファイルの記述内容については、[\[4 操作対象オブジェクト指定ファイルを用意する\] \(P.42\)](#) を参照してください。

**-user {userName}**

コマンドを実行するユーザーのユーザー ID (DN形式またはUFN形式) を指定します。RMSに登録済みのユーザー IDを指定します。省略できません。

**-passwd {password}**

-userパラメーターで指定した、ユーザー IDに対応するパスワードを指定します。-passwdパラメーターを省略した場合は、標準入力でパスワードを入力します。

### コマンド戻り値

コマンドの処理がすべて正常に終了した場合は、「0」を返します。

コマンドの処理に1つでもエラーが発生した場合は、「1」を返します。

## エラー

次の場合にエラーになります。

- ・入力ファイルに記述ミスがあった場合
- ・必須パラメーターが記述されていなかった場合
- ・不要なパラメーターが記述されていた場合
- ・disposalOfEditionKey パラメーターと disposalOfUniqueKey パラメーター以外のパラメーターが記述されていた場合
- ・対象オブジェクトがリファレンス以外だった場合
- ・何らかの原因でドキュメント管理サービスでエラーが発生した場合
- ・ユーザー認証に失敗した場合

## 備考

変更対象のオブジェクトを条件指定で指定した場合は、オブジェクトの検索を行ってから変更を行うので、パフォーマンスに影響があります。

## 7.16 リファレンスオブジェクトの実体化コマンド

ドキュメント管理サービスに存在するオブジェクトを実体化します。

実体化時に条件指定することにより、一度に複数のオブジェクトを実体化できます。

直接指定、または条件指定により該当したオブジェクトがリファレンスオブジェクトでない場合は、エラーとなります。

該当したリファレンスオブジェクトがドキュメント管理サービスで実体化できない形式のリファレンスオブジェクトだった場合、エラーとなります。

ごみ箱内のオブジェクトを指定した場合は、エラーとなります。

### コマンド形式

```
drref [-c] -param {parameter-file} -csv {target-file} -user {userName} [-passwd {password} ]
```

### コマンドパラメーター

**-c**

-cパラメーターを指定すると、処理中にエラーが発生した場合に処理を続行します。省略できます。

**-param {parameter-file}**

実行パラメーターファイルの名前を、「[drive:][path]parameter-file」の形式で指定します。省略できません。

**参照** 実行パラメーターファイルの記述内容については、[\[3 実行パラメーターファイルを用意する\] \(P.29\)](#) を参照してください。

**-csv {target-file}**

実体化するオブジェクトを指定した操作対象オブジェクト指定ファイルのファイル名を、「[drive:][path]file」の形式で指定します。省略できません。

**参照** 操作対象オブジェクト指定ファイルの記述内容については、[\[4 操作対象オブジェクト指定ファイルを用意する\] \(P.42\)](#) を参照してください。

**-user {userName}**

コマンドを実行するユーザーのユーザー ID (DN形式またはUFN形式) を指定します。RMSに登録済みのユーザー IDを指定します。省略できません。

**-passwd {password}**

-userパラメーターで指定した、ユーザー IDに対応するパスワードを指定します。-passwdパラメーターを省略した場合は、標準入力でパスワードを入力します。

### コマンド戻り値

コマンドの処理がすべて正常に終了した場合は、「0」を返します。

コマンドの処理に1つでもエラーが発生した場合は、「1」を返します。

## エラー

次の場合にエラーになります。

- ・入力ファイルに記述ミスがあった場合
- ・必須パラメーターが記述されていなかった場合
- ・不要なパラメーターが記述されていた場合
- ・対象オブジェクトがリファレンス以外だった場合
- ・何らかの原因でドキュメント管理サービスでエラーが発生した場合
- ・ユーザー認証に失敗した場合

## 備考

- ・実体化対象のオブジェクトを条件指定した場合、オブジェクトの検索を行ってから実体化を行うので、パフォーマンスに影響があります。
- ・破棄パラメーターの指定により、
  - 転記先のキャビネットに設定されていないコンテンツを取り除く
  - 転記先のキャビネットにエディションキーとして設定されている属性を取り除く
  - 転記先のキャビネットにユニークキーとして設定されている属性を取り除く
  - 転記先のキャビネットに設定されていないオブジェクトタイプをデフォルトのオブジェクトタイプに変更  
の処理を行ってから転記することができます。

## 7.17 オブジェクトの内容依存情報の更新コマンド

ドキュメント管理サービスに存在するオブジェクトの内容依存情報を更新します。

更新時に条件を指定することによって、一度に複数のオブジェクトの内容依存情報を更新できます。

直接指定、または条件指定によって該当したオブジェクトがドキュメントオブジェクトでない場合は、エラーになります。

ごみ箱内のオブジェクトを指定した場合は、エラーとなります。

### コマンド形式

```
drupcont [-c] -param {parameter-file} -csv {target-file} -user {userName} [-passwd {password} ]
```

### コマンドパラメーター

**-c**

-cパラメーターを指定すると、処理中にエラーが発生した場合に処理を続行します。省略できます。

**-param {parameter-file}**

実行パラメーターファイルの名前を、`[[drive:][path]parameter-file]` の形式で指定します。省略できません。

**参照** 実行パラメーターファイルの記述内容については、[\[3 実行パラメーターファイルを用意する\] \(P.29\)](#) を参照してください。

**-csv {target-file}**

内容依存情報の更新を行うオブジェクトと更新するセカンダリコンテンツを指定した操作対象オブジェクト指定ファイルのファイル名を、`[[drive:][path]file]` の形式で指定します。省略できません。

**参照** 操作対象オブジェクト指定ファイルの記述内容については、[\[4 操作対象オブジェクト指定ファイルを用意する\] \(P.42\)](#) を参照してください。

**-user {userName}**

コマンドを実行するユーザーのユーザー ID (DN形式またはUFN形式) を指定します。RMSに登録済みのユーザー IDを指定します。省略できません。

**-passwd {password}**

-userパラメーターで指定した、ユーザー IDに対応するパスワードを指定します。-passwdパラメーターを省略した場合は、標準入力でパスワードを入力します。

### コマンド戻り値

コマンドの処理がすべて正常に終了した場合は、「0」を返します。

コマンドの処理に1つでもエラーが発生した場合は、「1」を返します。

## エラー

次の場合にエラーになります。

- ・入力ファイルに記述ミスがあった場合
- ・必須パラメーターが記述されていなかった場合
- ・不要なパラメーターが記述されていた場合
- ・対象オブジェクトがドキュメント以外だった場合
- ・何らかの原因でドキュメント管理サービスでエラーが発生した場合
- ・ユーザー認証に失敗した場合

## 備考

更新対象のオブジェクトを条件指定した場合、オブジェクトの検索を行ってから内容依存情報の更新を実行するので、パフォーマンスに影響があります。

## 7.18 オブジェクトのリビジョンリスト取得コマンド

ドキュメント管理サービスに存在するドキュメントオブジェクトのリビジョンリストを取得します。取得対象を条件指定することにより、一度に複数のオブジェクトのリビジョンリストを取得できます。直接指定、または条件指定により該当したオブジェクトがリビジョン管理対象外のオブジェクトカテゴリーに属する場合は、エラーになります。ごみ箱内のオブジェクトを指定した場合は、エラーとなります。

### コマンド形式

```
drlistrev [-c] -param {parameter-file} -csv {target-file} -user {userName}
[-passwd {password} ]
```

### コマンドパラメーター

-c

-cパラメーターを指定すると、処理中にエラーが発生した場合に処理を続行します。省略できます。

-param {parameter-file}

実行パラメーターファイルの名前を、「[drive:][path]parameter-file」の形式で指定します。省略できません。

**参照** 実行パラメーターファイルの記述内容については、[\[3 実行パラメーターファイルを用意する\] \(P.29\)](#) を参照してください。

-csv {target-file}

リビジョンリストの取得を行うオブジェクトを指定した操作対象オブジェクト指定ファイルのファイル名を、「[drive:][path]file」の形式で指定します。省略できません。

**参照** 操作対象オブジェクト指定ファイルの記述内容については、[\[4 操作対象オブジェクト指定ファイルを用意する\] \(P.42\)](#) を参照してください。

-user {userName}

コマンドを実行するユーザーのユーザー ID (DN形式またはUFN形式) を指定します。RMSに登録済みのユーザー IDを指定します。省略できません。

-passwd {password}

-userパラメーターで指定した、ユーザー IDに対応するパスワードを指定します。-passwdパラメーターを省略した場合は、標準入力でパスワードを入力します。

### コマンド戻り値

コマンドの処理がすべて正常に終了した場合は、「0」を返します。

コマンドの処理に1つでもエラーが発生した場合は、「1」を返します。

## エラー

次の場合にエラーになります。

- ・入力ファイルに記述ミスがあった場合
- ・必須パラメーターが記述されていなかった場合
- ・不要なパラメーターが記述されていた場合
- ・対象オブジェクトがドキュメント以外だった場合
- ・何らかの原因でドキュメント管理サービスでエラーが発生した場合
- ・ユーザー認証に失敗した場合

## 備考

更新対象のオブジェクトを条件指定した場合、オブジェクトの検索を行ってからリビジョンリストの取得を行うので、パフォーマンスに影響があります。

## 7.19 オブジェクトのリビジョンの削除コマンド

ドキュメント管理サービスに存在するドキュメントオブジェクトのリビジョンを削除します。

最後のリビジョンは、削除できません。つまり、オブジェクトを削除する場合は、「オブジェクト削除コマンド」を使用します。

削除対象を条件指定することにより、一度に複数のオブジェクトのリビジョンを削除できます。

直接指定、または条件指定により該当したオブジェクトがリビジョン管理対象外のオブジェクトカテゴリーに属する場合は、エラーになります。

ごみ箱内のオブジェクトを指定した場合は、エラーとなります。

### コマンド形式

```
drmmrev [-c] -param {parameter-file} -csv {target-file} -user {userName} [-passwd {password} ]
```

### コマンドパラメーター

-c

-cパラメーターを指定すると、処理中にエラーが発生した場合に処理を続行します。省略できます。

-param {parameter-file}

実行パラメーターファイルの名前を、「[drive:][path]parameter-file」の形式で指定します。省略できません。

**参照** 実行パラメーターファイルの記述内容については、[\[3 実行パラメーターファイルを用意する\] \(P.29\)](#) を参照してください。

-csv {target-file}

リビジョンを削除するオブジェクトを指定した操作対象オブジェクト指定ファイルのファイル名を、「[drive:][path]file」の形式で指定します。省略できません。

**参照** 操作対象オブジェクト指定ファイルの記述内容については、[\[4 操作対象オブジェクト指定ファイルを用意する\] \(P.42\)](#) を参照してください。

-user {userName}

コマンドを実行するユーザーのユーザー ID (DN形式またはUFN形式) を指定します。RMSに登録済みのユーザー IDを指定します。省略できません。

-passwd {password}

-userパラメーターで指定した、ユーザー IDに対応するパスワードを指定します。-passwdパラメーターを省略した場合は、標準入力でパスワードを入力します。

### コマンド戻り値

コマンドの処理がすべて正常に終了した場合は、「0」を返します。

コマンドの処理に1つでもエラーが発生した場合は、「1」を返します。

## エラー

次の場合にエラーになります。

- ・入力ファイルに記述ミスがあった場合
- ・必須パラメーターが記述されていなかった場合
- ・不要なパラメーターが記述されていた場合
- ・対象オブジェクトがドキュメント以外だった場合
- ・何らかの原因でドキュメント管理サービスでエラーが発生した場合
- ・ユーザー認証に失敗した場合

## 備考

更新対象のオブジェクトを条件指定した場合、オブジェクトの検索を行ってからリビジョンの削除を行うので、パフォーマンスに影響があります。

## 7.20 オブジェクトパスの取得コマンド

ドキュメント管理サービスに存在するオブジェクトの登録先を、パス情報として取得します。

対象オブジェクトを起点として、キャビネットまたはアクセス可能な範囲までのオブジェクトの情報を取得できません。

対象オブジェクトを検索条件にて指定したとき、複数のオブジェクトが該当する場合は、エラーになります。

パス情報の取得パラメーターの指定によって、パス情報を構成するオブジェクトにアクセス権がなかった場合、エラーとするか、アクセス可能な範囲で取得するのかを指定できます。

ごみ箱内のオブジェクトを指定した場合は、エラーとなります。

### コマンド形式

```
drgetpath [-c] -param {parameter-file} -csv {target-file} -user {userName}
[-passwd {password} ]
```

### コマンドパラメーター

**-c**

-cパラメーターを指定すると、処理中にエラーが発生した場合に処理を続行します。省略できます。

**-param {parameter-file}**

実行パラメーターファイルの名前を、「[drive:][path]parameter-file」の形式で指定します。省略できません。

**参照** 実行パラメーターファイルの記述内容については、[\[3 実行パラメーターファイルを用意する\] \(P.29\)](#) を参照してください。

**-csv {target-file}**

パス情報を取得するオブジェクトとパス情報の取得モードを指定した操作対象オブジェクト指定ファイルのファイル名を、「[drive:][path]file」の形式で指定します。省略できません。

**-user {userName}**

コマンドを実行するユーザーのユーザー ID (DN形式またはUFN形式) を指定します。RMSに登録済みのユーザー IDを指定します。省略できません。

**-passwd {password}**

-user パラメーターで指定した、ユーザー IDに対応するパスワードを指定します。-passwdパラメーターを省略した場合は、標準入力でパスワードを入力します。

### コマンド戻り値

コマンドの処理がすべて正常に終了した場合は、「0」を返します。

コマンドの処理に1つでもエラーが発生した場合は、「1」を返します。

## エラー

次の場合にエラーになります。

- ・入力ファイルに記述ミスがあった場合
- ・必須パラメーターが記述されていなかった場合
- ・不要なパラメーターが記述されていた場合
- ・何らかの原因によって、ドキュメント管理サービスでエラーが発生した場合

## 備考

取得対象のオブジェクトを条件指定で指定した場合、オブジェクトの検索を行ってから、パス情報の取得を行うので、パフォーマンスに影響があります。

## 7.21 ごみ箱内オブジェクトの復元コマンド

ごみ箱内のオブジェクトをごみ箱から復元します。

フォルダーが指定された場合は、子オブジェクトも復元されます。

復元対象のオブジェクトは、ごみ箱直下に存在するオブジェクトを直接指定します。復元対象オブジェクトを条件指定出来ません。ごみ箱内にドロワーは入らないので、ドロワー名も指定できません。

ごみ箱の外に存在するオブジェクトを操作対象に指定すると、エラーとなります。ごみ箱の中に存在するオブジェクトの場合でも、ごみ箱の直下に存在しない場合は、エラーとなります。

復元先のオブジェクトを条件指定できます。

条件指定により、復元先オブジェクトが複数該当した場合には、エラーとなります。

復元先を指定しない場合は、ごみ箱へ移動する前の親ドロワーまたはフォルダーの下に復元します。

復元先となるオブジェクトが存在しない場合はエラーとなります。

### コマンド形式

```
drreuseobj [-c] -param {parameter-file} -csv {target-file} -user {userName}
[-passwd {password} ]
```

### コマンドパラメーター

**-c**

-cパラメーターを指定すると、処理中にエラーが発生した場合に処理を続行します。省略できます。

**-param {parameter-file}**

実行パラメーターファイルの名前を、「[drive:][path]parameter-file」の形式で指定します。省略できません。

**参照** 実行パラメーターファイルの記述内容については、[「3 実行パラメーターファイルを用意する」\(P.29\)](#)を参照してください。

**-csv {target-file}**

ごみ箱から復元するオブジェクトを指定した操作対象オブジェクト指定ファイルのファイル名を、「[drive:][path]file」の形式で指定します。省略できません。

**-user {userName}**

コマンドを実行するユーザーのユーザー ID (DN形式またはUFN形式) を指定します。RMSに登録済みのユーザー IDを指定します。省略できません。

**-passwd {password}**

-userパラメーターで指定した、ユーザー IDに対応するパスワードを指定します。-passwdパラメーターを省略した場合は、標準入力でパスワードを入力します。

### コマンド戻り値

コマンドの処理がすべて正常に終了した場合は、「0」を返します。

コマンドの処理に1つでもエラーが発生した場合は、「1」を返します。

## エラー

次の場合にエラーになります。

- ・入力ファイルに記述ミスがあった場合
- ・必須パラメーターが記述されていなかった場合
- ・余計なパラメーターが記述されていた場合
- ・対象のオブジェクトが、ごみ箱直下のオブジェクトでない場合
- ・何らかの原因により、ドキュメント管理サービスでエラーが発生した場合

## 備考

復元対象のオブジェクトを条件指定で指定できません。

# 8 メッセージのフォーマット

オブジェクト操作コマンドの実行時に出力されるログファイルと正常結果情報のフォーマットについて説明します。

## 8.1 ログファイルのフォーマット

ログファイルは、次のフォーマットで出力されます。

getObjectId値がfalse（デフォルト）の場合

```
{日時} , {行番号} , {エラーレベル} , {メッセージ} , {serviceId の値} , {cabinetId の値} , {drepId の値}
```

getObjectId値がtrueの場合

```
{日時} , {行番号} , {エラーレベル} , {メッセージ} , {オブジェクト ID の文字列表記値}
```

表 : ログファイルの項目の詳細

項目	説明
日時	処理を行った時間を出力します。
行番号	処理を行った行を出力します。
エラーレベル	エラーレベルを出力します。 正常終了の場合は、0を出力します。 1以上の場合は、エラーが発生したことを示します。
メッセージ	メッセージを出力します。 {エラーレベル} が0の場合は、「SUCCESS」、または「NOTHING」と出力されます。 {エラーレベル} が1以上の場合は、エラーメッセージが出力されます。
serviceId の値	操作対象のオブジェクトのserviceIdが出力されます。
cabinetId の値	操作対象のオブジェクトのcabinetIdが出力されます。
drepId の値	操作対象のオブジェクトのdrepIdが出力されます。
オブジェクト ID の文字列表記値	操作対象オブジェクトのオブジェクトIDの文字列表現値が出力されます。

ログは、操作対象オブジェクトの数だけ出力されます。つまり、操作対象オブジェクトをダイレクト形式で指定した場合は1行出力され、検索条件形式で指定した場合は、検索にヒットしたオブジェクトの数だけ出力されます。検索条件形式で指定し、検索条件を満たすオブジェクトが存在しなかった場合は、1行出力され、次のフォーマットで出力されます。

getObjectId値がfalse（デフォルト）の場合

```
{日時} , {行番号} , 0 , NOTHING , , ,
```

getObjectId値がtrueの場合

```
{日時} , {行番号} , 0 , NOTHING ,
```

{エラーレベル} が「0」は、検索処理が正常に行われたことを示します。

{メッセージ} が「NOTHING」で、serviceId、cabinetId、drepIdが空であるのは、検索にヒットしたオブジェクトがなかったことを示します。

logFileを指定した場合は、指定したファイルに出力されます。ただし、次の場合は、標準出力に出力されます。このときのログのフォーマットは、{メッセージ} にエラー内容が出力され、serviceld、cabinetId、drepldは空になります。

- ・実行パラメーターが読み込めなかった場合
- ・実行パラメーターファイルに記述ミスがあった場合
- ・ログファイルが作成できなかった場合
- ・ログファイルに書き込めなかった場合

logFileの指定がない場合は、次のように出力されます。

- ・エラーレベルが 0 のメッセージは、標準出力に出力
- ・エラーレベルが 1 以上のメッセージは、標準出力に出力

エラーメッセージは、次のような言語で出力されます。

- ・実行ユーザーの RMS 言語指定が日本語の場合、日本語で出力
- ・実行ユーザーの RMS 言語指定が日本語以外の場合、英語で出力
- ・実行ユーザーの RMS 言語指定値が取得できない場合、
  - 実行ホストのデフォルト言語が日本語のとき、日本語で出力
  - 実行ホストのデフォルト言語が日本語以外のとき、英語で出力

## 8.2 正常結果情報のフォーマット

正常結果情報メッセージは、CSV形式で出力されます。

コマンド、パラメーターの指定によって、出力内容が異なります。

異常処理の場合、検索条件にヒットするオブジェクトが存在しなかったときは、ヘッダー行だけがファイルに出力されます。ただし、実行パラメーターファイルの記述ミスの場合や、正常結果ファイルが出力できなかった場合は、ファイルは作成されません。

### 8.2.1 「オブジェクトの属性取り出しコマンド」、「オブジェクトリスト取得コマンド」の場合

次の形式で出力されます。

getObjectId値がfalse（デフォルト）の場合

```
lineNumber,serviceId,cabinetId,drepId, {AtomID1} , {AtomID2} ,.....
{行番号値} , {serviceId 値} , {cabinetId 値} , {drepId 値} , {AtomID1 の値} , {AtomID2 の値} ,.....
```

getObjectId値がtrueの場合

```
lineNumber,objectId, {AtomID1} , {AtomID2} ,.....
{行番号値} , {オブジェクト ID の文字列表記値} , {AtomID1 の値} , {AtomID2 の値} ,.....
```

表：正常結果情報メッセージの項目の詳細

項目	説明
lineNumber	処理を行った行の値
serviceId	操作対象オブジェクトのserviceIdの値
cabinetId	操作対象オブジェクトのcabinetIdの値
drepId	操作対象オブジェクトのdrepIdの値
objectId	操作対象オブジェクトのobjectIdの文字列表現値
AtomID	取得した属性値

次に、getRefIdにtrueを指定した場合のフォーマットを示します。

getObjectId値がfalse（デフォルト）の場合

```
lineNumber, serviceId, cabinetId, drepId, refServiceId, refCabinetId, refEditionKey, refEditionNumber, refDrepId, refRevisionNumber, {AtomId}, ....
{行番号値}, {serviceId 値}, {cabinetId 値}, {drepId 値}, {参照先オブジェクトの serviceId 値}, {参照先オブジェクトの cabinetId 値}, {参照先オブジェクトの refEditionKey 値}, {参照先オブジェクトの refEditionNumber 値}, {参照先オブジェクトの drepId 値}, {参照先オブジェクトの refRevisionNumber 値}, {AtomId の値}, ...
```

getObjectId値がtrueの場合

```
lineNumber, objectId, refServiceId, refCabinetId, refEditionKey, refEditionNumber, refDrepId, refRevisionNumber, {AtomID1}, {AtomID2}
{行番号値}, {オブジェクト ID の文字列表記値}, {refServiceId}, {refCabinetId}, {refEditionKey}, {refEditionNumber}, {refDrepId}, {refRevisionNumber}, {AtomID1 の値}, {AtomID2 の値}, ...
```

表：正常結果情報メッセージの項目の詳細

項目	説明
lineNumber	処理を行った行の値
serviceId	操作対象オブジェクトのserviceIdの値
cabinetId	操作対象オブジェクトのcabinetIdの値
drepId	操作対象オブジェクトのdrepIdの値
objectId	操作対象オブジェクトのobjectIdの値
refServiceId	参照先オブジェクトのserviceIdの値
refCabinetId	参照先オブジェクトのcabinetIdの値
refEditionKey	参照先オブジェクトのエディションキー属性の値
refEditionNumber	参照先オブジェクトの版番号の値
refDrepId	参照先オブジェクトのdrepIdの値
refRevisionNumber	参照先オブジェクトのリビジョン番号の値
AtomID	取得した属性値

**参照** 取得できる属性の型および出力フォーマットについては、[\[9.1 使用できる属性の型\] \(P.155\)](#) を参照してください。

先述のフォーマットに加え、実行時のパラメーター類の指定によりフォーマットに出力される情報が次のように変わります。

そのため、出力される項目は増減しますが、項目の順序は変わりません。

- ・ 常に出力される  
getObjectId 値が false の場合、serviceld、cabinetld、および drepld が出力されます。  
getObjectId 値が true の場合、objectId が出力されます。

項目	説明
lineNumber	処理を行った行の値
serviceld	対象オブジェクトのserviceldの値
cabinetld	操作対象オブジェクトのcabinetldの値
drepld	操作対象オブジェクトのdrepldの値
objectId	操作対象オブジェクトのobjectIdの値

- ・ 実行パラメーターファイルの getRefld 要素に属性が記述されている場合に追加出力される

項目	説明
refServiceld	参照先オブジェクトのserviceldの値
refCabinetld	参照先オブジェクトのcabinetldの値
refEditionKey	参照先オブジェクトのエディションキー属性の値
refEditionNumber	参照先オブジェクトの版番号の値
refDrepld	参照先オブジェクトのdrepldの値
refRevisionNumber	参照先オブジェクトのリビジョン番号の値

- ・ aclFileStoreDir を指定した場合に追加出力される

項目	説明
acl	操作対象オブジェクトのACLを記述したACLファイルのパス

- ・ defAclFileStoreDir を指定した場合に追加出力される

項目	説明
defAcl	操作対象オブジェクトのデフォルトACLを記述したACLファイルのパス

- ・ 実行パラメーターファイルの getAtomId 要素に属性が記述されている場合に追加出力される

項目	説明
AtomID	取得した属性値

## 8.2.2 「オブジェクトのコンテンツ取り出しコマンド」の場合

次の形式で出力されます。

getObjectId値がfalse（デフォルト）の場合

```
lineNumber, serviceId, cabinetId, drepId, {AtomID1} , ..., {コンテンツラベル名
.storePath} , ...
{行番号値} , {serviceId 値} , {cabinetId 値} , {drepId 値} , {AtomID の値} , ..., {取り出
し先パス} , ...
```

getObjectId値がtrueの場合

```
lineNumber, objectId, {AtomID1} , {AtomID2} , ..., {コンテンツラベル名.storePath} , ...
{行番号値} , {オブジェクト ID の文字列表記値} , {AtomID の値} , {AtomID の値} , ..., {取り出
し先パス} , ...
```

表：正常結果情報メッセージの項目の詳細

項目	説明
lineNumber	処理を行った行の値
serviceId	取り出したオブジェクトのserviceIdの値
cabinetId	取り出したオブジェクトのcabinetIdの値
drepId	取り出したオブジェクトのdrepIdの値
objectId	取り出したオブジェクトのobjectIdの文字列表記値
AtomID	取得した属性値
コンテンツラベル名 .AtomID	取得したコンテンツの属性
コンテンツラベル名 .storePath	コンテンツの取り出し先パス

### 8.2.3 「フォルダー取り出しコマンド」の場合

次の形式で出力されます。

getObjectId値がfalse（デフォルト）の場合

```
lineNumber, serviceId, cabinetId, drepId, storePath
{行番号値} , {serviceId 値} , {cabinetId 値} , {drepId 値} , {取り出し先パス}
```

getObjectId値がtrueの場合

```
lineNumber, objectId, storePath
{行番号値} , {オブジェクト ID の文字列表記値} , {取り出し先パス}
```

表：正常結果情報メッセージの項目の詳細

項目	説明
lineNumber	処理を行った行の値
serviceId	取り出したフォルダーのserviceIdの値
cabinetId	取り出したフォルダーのcabinetIdの値
drepId	取り出したフォルダーのdrepIdの値
objectId	取り出したフォルダーのobjectIdの文字列表記値
storePath	取り出し先パス

取り出し対象となったフォルダーの情報が出力されます。

フォルダー以下のオブジェクトについては、ローカルに取り出されますが、正常結果情報ファイルには、出力されません。1つのフォルダーに対して1行が出力されます。

## 8.2.4 「オブジェクトのリビジョンリスト取得コマンド」の場合

次の形式で出力されます。

getObjectId値がfalse（デフォルト）の場合

```
lineNumber, serviceId, cabinetId, drepId, revisionNumber
{行番号値} , {serviceId 値} , {cabinetId 値} , {drepId 値} , {revisionNumber}
```

getObjectId値がtrueの場合

```
lineNumber, objectId
{行番号値} , {オブジェクト ID の文字列表記値}
```

表：正常結果情報メッセージの項目の詳細

項目	説明
lineNumber	処理を行った行の値
serviceId	操作対象オブジェクトのserviceIdの値
cabinetId	操作対象オブジェクトのcabinetIdの値
drepId	操作対象オブジェクトのdrepIdの値
revisionNumber	操作対象オブジェクトのrevisionNumber
objectId	操作対象オブジェクトのobjectIdの文字列表記値

リスト取得対象となったオブジェクトの情報が出力されます。

オブジェクトのリビジョンリストは、revisionNumberの値だけが異なる値となり、serviceId、cabinetId、drepIdの値は同一になります。対象オブジェクトを検索条件で指定し複数該当した場合、serviceId、cabinetId、drepIdの値が同一の間が、オブジェクトのリビジョンリストになります。

オブジェクトのリビジョンリストは、revisionNumberの降順で出力されます。

## 8.2.5 「オブジェクトパスの取得コマンド」の場合

次の形式で出力されます。

getObjectIdパラメーター値がfalse（デフォルト）の場合

```
lineNumber, serviceId, cabinetId, drepId, {AtomID1} , {AtomID2} , ...
{行番号順} , {serviceId 値} , {cabinetId 値} , {drepId 値} , {AtomID1 の値} , {AtomID2 の
値} , ...
```

getObjectIdパラメーター値がtrueの場合

```
lineNumber, objectId, {AtomID1} , {AtomID2} , ...
{行番号順} , {オブジェクト ID の文字列表記値} , {AtomID1 の値} , {AtomID2 の値} , ...
```

表：正常結果情報メッセージの項目の詳細

項目	説明
lineNumber	処理を行った行の値
serviceId	操作対象オブジェクトの serviceId の値
cabinetId	操作対象オブジェクトの cabinetId の値
drepId	操作対象オブジェクトの drepId の値
objectId	操作対象オブジェクトのオブジェクト Id の文字列表現値
AtomID	取得した属性

パス情報の取得対象となったオブジェクトを起点として、パス情報取得パラメーターの設定によって、キャビネットまたはアクセス可能な範囲までのオブジェクトの情報が出力されます。

つまり、対象オブジェクトのパス情報は、1つのオブジェクトに対して複数行出力され、lineNumberが同じオブジェクトで、1つのオブジェクトのパス情報となります。

## 8.2.6 「オブジェクト削除コマンド」の場合

次の形式で出力されます。

getObjectIdパラメーター値がfalse（デフォルト）の場合

```
lineNumber, serviceId, cabinetId, drepId, delObjExecMode  
{lineNumber} , {serviceId} , {cabinetId} , {drepId} , {実行結果}
```

getObjectIdパラメーター値がtrueの場合

```
lineNumber, objectId, delObjExecMode  
{lineNumber} , {オブジェクト ID の文字列表記値} , {実行結果}
```

表：正常結果情報メッセージの項目の詳細

項目	説明
lineNumber	処理を行った行の値
serviceId	操作対象オブジェクトのserviceIdの値
cabinetId	操作対象オブジェクトのcabinetIdの値
drepId	操作対象オブジェクトのdrepIdの値
objectId	操作対象オブジェクトの文字列表現値
delObjExecMode	処理の実行結果を示す値 オブジェクトを削除した場合は「delete」 ごみ箱へ移動した場合は「disuse」

## 8.2.7 それ以外のコマンドの場合

次の形式で出力されます。

getObjectId値がfalse（デフォルト）の場合

```
lineNumber, serviceId, cabinetId, drepId
{行番号値} , {serviceId 値} , {cabinetId 値} , {drepId 値}
```

getObjectId値がtrueの場合

```
lineNumber, objectId
{行番号値} , {オブジェクト ID の文字列表記値}
```

表：正常結果情報メッセージの項目の詳細

項目	説明
lineNumber	処理を行った行の値
serviceId	操作対象オブジェクトのserviceIdの値
cabinetId	操作対象オブジェクトのcabinetIdの値
drepId	操作対象オブジェクトのdrepIdの値
objectId	操作対象オブジェクトのオブジェクトIdの文字列表現値

各コマンドによって、オブジェクト識別子は、次のようになります。

- ・ドキュメント管理サービス内のオブジェクト転記コマンドは、転記後のオブジェクト識別子
- ・ドキュメント管理サービス内のオブジェクト移動コマンドは、移動後のオブジェクト識別子
- ・オブジェクトのロックコマンドは、ロックしたオブジェクトのオブジェクト識別子
- ・オブジェクトのアンロックコマンドは、アンロックしたオブジェクトのオブジェクト識別子
- ・オブジェクトの版管理下追加コマンドは、版管理下に追加したオブジェクトの識別子
- ・オブジェクトの版管理除外コマンドは、版管理下から外したオブジェクトの識別子
- ・オブジェクトの状態変更コマンドは、状態変更をしたオブジェクトのオブジェクト識別子
- ・リファレンスオブジェクトの実体化コマンドは、実体化後のオブジェクト識別子
- ・オブジェクトの内容依存情報の更新コマンドは、内容依存属性を行ったオブジェクトのオブジェクト識別子
- ・オブジェクトのリビジョンの削除コマンドは、リビジョンの削除を行ったオブジェクトのオブジェクト識別子
- ・ごみ箱内オブジェクトのオブジェクト復元コマンドは、復元したオブジェクトのオブジェクト識別子

# 9 属性値のフォーマット

オブジェクト操作コマンドの実行時に出力される属性値のフォーマットについて説明します。

## 9.1 使用できる属性の型

---

ドキュメント管理サービスSDKでは、ドキュメント管理サービスで提供されている属性の型のうち一部の属性の型については、サポートしていません。

サポートしている属性の型は、次のとおりです。

- ・ 数値型属性 (integer,long,double)
- ・ 日時型属性
- ・ 文字列型属性 (string)
- ・ ブール型属性
- ・ アトム型属性
- ・ URI 型属性
- ・ プリンシパル型
- ・ ユーザーロール型

サポートしていない属性の型を使用した場合は、次のようになります。

- ・ サポートしていない属性の型の属性を取り出した場合は、エラーになります。
- ・ サポートしていない属性の型を検索条件に使用した場合は、エラーになります。
- ・ サポートしていない属性の型をエディションキーパラメーターに使用した場合は、エラーになります。

## 9.2 取得した属性の値のフォーマット

ドキュメント管理サービスSDKでは、取得した属性値をCSV形式のファイルに出力します。

セルは、基本的に「"」で囲まないで出力されます。

属性値に含まれる文字、属性の型によって、次のルールに従って文字が変更されます。

- (1) ドキュメント管理サービス SDK で特殊な使い方をしている文字が含まれている場合は、セパレーター文字が特殊文字の前に挿入されます（文字列型、URI 型）。
- (2) 取り出した属性が URI 型属性の場合は、セパレーターとして「^」が挿入されます。
- (3) 取り出した属性が多値属性の場合は、セパレーターとして「|」が挿入されます。
- (4) CSV のフォーマットと合わせるために、出力したカラムに「,」、「"」、および改行文字が含まれていた場合は、カラム全体を「"」で囲みます。「"」が含まれていた場合は「"""」に置き換えます。

### 9.2.1 特殊な使い方をする文字

ドキュメント管理サービスSDKで特殊な使い方をしている文字は、次のとおりです。

文字	説明
	多値のセパレーター
^	URI型属性値のセパレーター
¥	エスケープ文字

属性値の中に上記の文字が含まれていた場合は、エスケープ文字でエスケープして出力されます。

以降、特殊な使い方をしている文字を「予約文字」と呼びます。

### 9.2.2 数値型属性

数値型属性値には、「予約文字」が含まれないため、エスケープ文字が挿入されることはありません。

たとえば、nameSpaceが「user」で、userIntegerという数値型の属性があり、属性値に「1」という値を保持していた場合、次のよう出力されます。

```
,user:userInteger,
,1,
```

### 9.2.3 日時型属性

日時型属性値は、「YYYY-MM-DDThh:mm:ssTZD」のフォーマットで出力されます。

日時型属性値には、「予約文字」が含まれないため、エスケープ文字が挿入されることはありません。

たとえば、nameSpaceが「user」で、userDateという日時型の属性があり、属性値に日本時間の「2021年03月24日10時10分10秒」という値を保持していた場合、次のよう出力されます。

```
,user:userDate,
,2021-03-24T10:10:10JST,
```

## 9.2.4 文字列型属性

文字列型属性値には、「予約文字」が含まれる可能性があるため、エスケープ文字が挿入される可能性があります。

たとえば、nameSpaceが「user」で、userStringという文字列型の属性があり、属性値に「a|b^¥d」という値を保持していた場合、次のように出力されます。

```
,user:userString,  
,a¥|b¥^¥¥d,
```

[,] および ["] が含まれていた場合は、セル全体を [""] で囲みます。[""] が含まれていた場合は [""] に置き換えます。

たとえば、次のように出力された場合、各行のuserStringは、それぞれ「abc」「a,b」「a"b"」を表します。

```
,user:userString.  
,abc,  
, "a,b",  
, "a""b",
```

## 9.2.5 ブール型属性

ブール型属性値には、「予約文字」が含まれないため、エスケープ文字が挿入されることはありません。値が真の場合は「true」、偽の場合は「false」と出力されます。

たとえば、nameSpaceが「user」で、userBooleanというブール型の属性があり、属性値に真の値を保持していた場合、次のように出力されます。

```
,user:userBoolean,  
,true,
```

## 9.2.6 アトム型属性

アトム型属性値は、「nameSpace:name」のフォーマットで出力されます。

アトム型属性値には、「予約文字」が含まれないため、エスケープ文字が挿入されることはありません。

たとえば、システム属性のobjectCategory属性が、属性値に「system:folder」という値を保持していた場合、次のように出力されます。

```
,system:objectcategory,  
,system:folder,
```

## 9.2.7 URI 型属性

URI型の属性値は、URI文字列とそのラベルを示す文字列で構成されます。

URI文字列とラベル文字列のセパレーターを「^」とし、「URI文字列^ラベル文字列」のフォーマットで出力されます。

URI型属性値には「予約文字」が含まれる可能性があるため、エスケープ文字が挿入される可能性があります。

たとえば、nameSpaceが「user」で、userURIという属性があり、属性値のURI文字列が「http://www.aaa.bbb.ccc/ddd.html」で、ラベル文字列が「dddのページ」という値を保持していた場合、次のように出力されます。

```
,user:userURI,  
,http://www.aaa.bbb.ccc/ddd.html^ddd のページ ,
```

たとえば、userURIという属性の、属性値のURI文字列が「http://www.aaa.bbb.ccc/ddd\_eee.html」で、ラベル文字列が「ddd|eeeのページ」という値を保持していた場合、次のように出力されます。

```
,user:userURI,  
,http://www.aaa.bbb.ccc/ddd_eee.html^ddd¥|eee のページ
```

[,] および ["] が含まれていた場合は、セル全体を [""] で囲みます。[""] が含まれていた場合は [""] に置き換えます。

たとえば、userURIという属性の、属性値のURI文字列が「http://www.aaa.bbb.ccc/ddd\_eee.html」で、ラベル文字列が「ddd,eeeのページ」という値を保持していた場合、次のように出力されます。

```
,user:userURI,  
, "http://www.aaa.bbb.ccc/ddd_eee.html^ddd,eee のページ ",
```

## 9.2.8 プリンシパル型

プリンシパル型の属性値は、RMSのDN形式のフォーマットで出力され、カラム全体が " で囲まれます。

プリンシパル型属性値には「予約文字」が含まれる可能性があるため、エスケープ文字が挿入される可能性があります。

たとえば、システム属性の登録者（createdBy）の属性が、

「uid=yamada,ou=users,dc=FUJIFILM,dc=co,dc=jp」という値を保持していた場合、次のように出力されます。

```
,system:createdBy,  
, "uid=yamada,ou=users,dc=FUJIFILM,dc=co,dc=jp",
```

## 9.2.9 ユーザーロール型

ユーザーロール型の属性値は、RMSのDN形式のフォーマットで出力され、カラム全体が"で囲まれます。ユーザーロール型属性値には、「予約文字」が含まれる可能性があるため、エスケープ文字が挿入される可能性があります。

たとえば、nameSpaceがuserで、userUserRoleというユーザーロール型の属性があり、この属性が、「cn=designer,ou=userRoleNames,dc=FUJIFILM,dc=co,dc=jp」という値を保持していた場合、次のように出力されます。

```
,user:userUserRole,  
,"cn=designer,ou=userRoleNames,dc=FUJIFILM,dc=co,dc=jp",
```

## 9.2.10 多値属性

多値属性は、複数の属性値を持てます。

各値のセパレーターを「|」として、「値1|値2|…」のフォーマットで出力されます。

ただし、値が1つの場合は、「|」でセパレートしません。

各値のフォーマットは、各属性値のフォーマットに従います。

たとえば、nameSpaceが「user」で、signalという多値の文字列型の属性があり、属性値に「RED」、「YELLOW」、「GREEN」という値を保持していた場合、次のように出力されます。

```
,user:signal,  
,RED|YELLOW|GREEN,
```

たとえば、signalという多値の文字列型の属性があり、属性値に「RED」という値を保持していた場合、次のように出力されます。

```
,user:signal,  
,RED,
```



# 10 オブジェクト操作コマンドの使用例

オブジェクト操作コマンドの使用例をサンプルと共に説明します。

## 10.1 サンプル環境

---

本章では次の環境を想定しています。

項目	値
実行ユーザー名	fuji3
実行ユーザーパスワード	fuji3
サービス ID	drep_ServiceID
キャビネット ID	cabinet01
DrepId	それぞれ適当な値

## 10.2 オブジェクト属性取り出しコマンド (drgetattr) 使用例 1

あるキャビネット内に登録されているオブジェクトの「設計者」(user:designer) を検索条件に、「名前」(system:name)、「図面番号」(user:drawingnumber) を取得します。

### コマンド実行例

```
C:¥Temp¥iftktest> drgetattr -param C:¥Temp¥iftktest¥drgetattr_1¥sample.xml -csv  
C:¥Temp¥iftktest¥drgetattr_1¥sample.csv -user fuji3 -passwd fuji3
```

### 実行パラメーターファイル

#### (C:¥Temp¥iftktest¥drgetattr\_1¥sample.xml)

この例ではシステム属性の「名前」(system:name) とユーザー属性の「図面番号」(user:drawingnumber) の属性値を取得しようとしています。

```
<?xml version="1.0" encoding="Windows-31J" ?>  
<parameter>  
  <!-- ログ情報の出力先パス名 -->  
  <logfile>C:¥temp¥iftktest¥drgetattr_1¥drgetattr.log</logfile>  
  <!-- 正常結果情報の出力先ファイル名 -->  
  <resultfile>C:¥temp¥iftktest¥drgetattr_1¥result.csv</resultfile>  
  <!-- 取得する AtomID をセパレータ | を区切りとして記述 -->  
  <getAtomId>system:name|user:drawingnumber</getAtomId>  
</parameter>
```

### 操作対象オブジェクト指定ファイル

#### (C:¥Temp¥iftktest¥drgetattr\_1¥sample.csv)

```
targetServiceId,targetCabinetId,targetCondition  
drep_ServiceID,cabinet01,user:designer "A さん "
```

### 実行結果 (上記の例を実行した場合 result.csv)

```
lineNumber,serviceId,cabinetId,drepId,system:name,user:drawingnumber  
2,drep_ServiceID,cabinet01,111439215033354,100k,001
```

### ログファイル (上記の例を実行した場合 drgetattr.log)

```
2021/03/16 11:12:04,2,0,SUCCESS,drep_ServiceID,cabinet01,111439215033354
```

## 10.3 オブジェクト属性取り出しコマンド (drgetattr) 使用例 2

指定したキャビネットを対象とした全文検索を実行します。

対象となるキャビネットやドキュメントに全文検索サービスの設定が行われていることを確認してください。

### コマンド実行例

```
C:¥Temp¥iftktest> drgetattr -param C:¥Temp¥iftktest¥drgetattr_2¥sample.xml -csv
C:¥Temp¥iftktest¥drgetattr_2¥sample.csv -user fuji3 -passwd fuji3
```

### 実行パラメーターファイル (C:¥Temp¥iftktest¥drgetattr\_2¥sample.xml)

この例では「画像変換」という言葉を含む文書を全文検索しています。

**参照** 検索条件の XML 表現については、[\[3.1.10 textSearch 要素\] \(P.39\)](#) を参照してください。

検索条件の XML 表現を作成する場合は、次の操作で出力される全文検索条件式が参考になります。

1. ドキュメントスペースの [詳細検索] 画面を表示
2. 全文条件を指定
3. 全文条件の「直接入力」をクリック
4. 「GUI 条件読み込み」をクリック
5. 「全文検索条件式」の欄に表示された XML を確認

ただし、名前空間などが異なりますので、そのままでは使用できません。

```
<?xml version="1.0" encoding="Windows-31J" ?>
<parameter>
  <logfile>C:¥temp¥iftktest¥drgetattr_2¥drgetattr.log</logfile>
  <resultFile>C:¥temp¥iftktest¥drgetattr_2¥result.csv</resultFile>
  <getAtomId>system:name|user:drawingnumber|user:drawingname</getAtomId>

  <!-- 全文検索 -->
  <textSearch>
    <text>
      <wordList op="AND">
        <word style="equal">画像変換</word>
      </wordList>
    </text>
  </textSearch>
</parameter>
```

### 操作対象オブジェクト指定ファイル (C:¥Temp¥iftktest¥drgetattr\_2¥sample.csv)

全文検索を行う場合は、操作対象オブジェクト指定ファイルの2行目だけが処理されます。

```
targetServiceId,targetCabinetId
drep_ServiceID,cabinet01
```

## 実行結果（上記の例を実行した場合 result.csv）

```
lineNumber,serviceId,cabinetId,drepId,system:name,user:drawingnumber,  
user:drawingname  
2,drep_ServiceID,cabinet01,111441836433504, サンプルドキュメント ,001, サンプル図面
```

## ログファイル（上記の例を実行した場合 drgetattr.log）

```
2021/03/25 17:43:05,2,0,SUCCESS,drep_ServiceID,cabinet01,111441836433504
```

## 10.4 オブジェクトのコンテンツ取り出しコマンド (drgetcont) 使用例

あるキャビネットに登録されている図面番号 (user:drawingnumber) が"FF-001"と"FF-003"のオブジェクト (実体+属性) をローカルディスク (C:¥Temp¥iftktest¥drgetcont) に取り出します。

版管理番号を取得する場合は、対象となるキャビネットにエディションキー属性の設定が行われていることを確認してください。

### コマンド実行例

```
C:¥Temp¥iftktest> drgetcont -param C:¥Temp¥iftktest¥drgetcont¥sample.xml -csv
C:¥Temp¥iftktest¥drgetcont¥sample.csv -user fuji3 -passwd fuji3
```

### 実行パラメーターファイル

#### (C:¥Temp¥iftktest¥drgetcont¥sample.xml)

この例では名前 (system:name) ,図面名 (user:drawingname) ,版番号 (system:editionNumber) の属性を取得しようとしています。

```
<?xml version="1.0" encoding="Windows-31J" ?>
<parameter>
  <logfile>C:¥Temp¥iftktest¥drgetcont¥drgetcont.log</logfile>
  <resultFile>C:¥Temp¥iftktest¥drgetcont¥result.csv</resultFile>
  <getAtomId>system:name|user:drawingname|system:editionNumber</getAtomId>
</parameter>
```

### 操作対象オブジェクト指定ファイル

#### (C:¥Temp¥iftktest¥drgetcont¥sample.csv)

```
targetServiceId,targetCabinetId,targetCondition,system:primary.storeDir
drep_ServiceID,cabinet01,user:drawingnumber "FF-001",
"C:¥Temp¥iftktest¥drgetcont"
drep_ServiceID,cabinet01,user:drawingnumber "FF-003",
"C:¥Temp¥iftktest¥drgetcont"
```

## 実行結果（上記の例を実行した場合 result.csv）

図面名（user:drawingname）がFF100の最新版番号は1、FF130の最新版番号は3になります。

```
lineNumber,serviceId,cabinetId,drepId,system:name,user:drawingname,
system:editionnumber,system:primary.storePath
2,drep_ServiceID,cabinet01,111448282934185,FF100, サンプル図面 ,
1,C:¥Temp¥iftktest¥drgetcont¥FF100.tif
3,drep_ServiceID,cabinet01,111448294034242,FF130, サンプル図面 ,
3,C:¥Temp¥iftktest¥drgetcont¥FF130.tif
3,drep_ServiceID,cabinet01,111448289134215,FF130, サンプル図面 ,
2,C:¥Temp¥iftktest¥drgetcont¥FF130~1.tif
3,drep_ServiceID,cabinet01,111448286134201,FF130, サンプル図面 ,
1,C:¥Temp¥iftktest¥drgetcont¥FF130~2.tif
```

## ログファイル（上記の例を実行した場合 drgetcont.log）

```
2021/03/26 11:36:53,2,0,SUCCESS,drep_ServiceID,cabinet01,111448282934185
2021/03/26 11:36:53,3,0,SUCCESS,drep_ServiceID,cabinet01,111448294034242
2021/03/26 11:36:53,3,0,SUCCESS,drep_ServiceID,cabinet01,111448289134215
2021/03/26 11:36:54,3,0,SUCCESS,drep_ServiceID,cabinet01,111448286134201
```

## 10.5 オブジェクトパスの取得コマンド (drgetpath) 使用例

指定したオブジェクトのパスを取得します。

### コマンド実行例

```
C:¥Temp¥iftktest> drgetpath -param C:¥Temp¥iftktest¥drgetpath¥sample.xml -csv
C:¥Temp¥iftktest¥drgetpath¥sample.csv -user fuji3 -passwd fuji3
```

### 実行パラメーターファイル

(C:¥Temp¥iftktest¥drgetpath¥sample.xml)

```
<?xml version="1.0" encoding="Windows-31J" ?>
<parameter>
  <logfile>C:¥Temp¥iftktest¥drgetpath¥drgetpath.log</logfile>
  <resultFile>C:¥Temp¥iftktest¥drgetpath¥result.csv</resultFile>
  <getAtomId>system:objecttype|system:name</getAtomId>
</parameter>
```

### 操作対象オブジェクト指定ファイル

(C:¥Temp¥iftktest¥drgetpath¥sample.csv)

パスを取得するオブジェクトが一意になるように指定します。ここでは、サービスID、キャビネットID、オブジェクトIDでオブジェクトを一意に特定しています。

```
targetServiceId,targetCabinetId,targetDrepId
drep_ServiceID,cabinet01,111442221233574
```

### 実行結果 (上記の例を実行した場合 result.csv)

指定したオブジェクトまでのパスが一行ずつ表示されます。

```
lineNumber,serviceId,cabinetId,drepId,system:objecttype,system:name
2,drep_ServiceID,pubcab01,111442221233574,system:document,FF100
2,drep_ServiceID,pubcab01,111439669533381,system:folder,FF-01
2,drep_ServiceID,pubcab01,111354612831947,system:drawer,Drawer02
2,drep_ServiceID,pubcab01,,system:cabinet,PublicCabinet01
```

### ログファイル (上記の例を実行した場合 drgetcont.log)

```
2021/03/26 12:56:24,2,0,SUCCESS,drep_ServiceID,cabinet01,111442230833612
```

## 10.6 オブジェクトのリビジョンリスト取得コマンド (drlistrev) 使用例

図面番号 (user:drawingnumber) が"FF-003"のオブジェクトのリビジョンリスト (履歴) を取得します。

### コマンド実行例

```
C:¥Temp¥iftktest> drlistrev -param C:¥Temp¥iftktest¥drlistrev¥sample.xml -csv  
C:¥Temp¥iftktest¥drlistrev¥sample.csv -user fuji3 -passwd fuji3
```

### 実行パラメーターファイル (C:¥Temp¥iftktest¥drlistrev¥sample.xml)

<getAtomId>は記述しても無視されます。

```
<?xml version="1.0" encoding="Windows-31J" ?>  
<parameter>  
  <logfile>C:¥Temp¥iftktest¥drlistrev¥drlistrev.log</logfile>  
  <resultFile>C:¥Temp¥iftktest¥drlistrev¥result.csv</resultFile>  
  <getAtomId>system:name|user:drawingname|system:editionNumber</getAtomId>  
</parameter>
```

### 操作対象オブジェクト指定ファイル (C:¥Temp¥iftktest¥drlistrev¥sample.csv)

```
targetServiceId,targetCabinetId,targetCondition  
drep_ServiceID,cabinet01,user:drawingnumber "FF-003"
```

### 実行結果 (上記の例を実行した場合 result.csv)

図面番号 (user:drawingnumber) が"FF-300"の最新リビジョンは3です。

```
lineNumber,serviceId,cabinetId,drepId,revisionNumber  
2,drep_ServiceID,pubcab01,111442230833612,3  
2,drep_ServiceID,pubcab01,111442230833612,2  
2,drep_ServiceID,pubcab01,111442230833612,1
```

### ログファイル (上記の例を実行した場合 drlistrev.log)

```
2021/03/26 12:56:24,2,0,SUCCESS,drep_ServiceID,cabinet01,111442230833612
```

## 10.7 オブジェクトのロックコマンド (drlokobj) 使用例

指定したオブジェクトをロックします。

### コマンド実行例

```
C:¥Temp¥iftktest> drlokobj -param C:¥Temp¥iftktest¥drlokobj¥sample.xml -csv
C:¥Temp¥iftktest¥drlokobj¥sample.csv -user fuji3 -passwd fuji3
```

### 実行パラメーターファイル (C:¥Temp¥iftktest¥drlokobj¥sample.xml)

<getAtomId>は記述しても無視されます。

```
<?xml version="1.0" encoding="Windows-31J" ?>
<parameter>
  <logfile>C:¥Temp¥iftktest¥drlokobj¥drlokobj.log</logfile>
  <resultFile>C:¥Temp¥iftktest¥drlokobj¥result.csv</resultFile>
</parameter>
```

### 操作対象オブジェクト指定ファイル (C:¥Temp¥iftktest¥drlokobj¥sample.csv)

operationRangeの値

- ・ shallow: 指定オブジェクトのみ
- ・ deep: 下位のオブジェクト全てに影響 (デフォルト)

```
targetServiceId,targetCabinetId,targetCondition,operationRange
drep_ServiceID,cabinet01,user:drawingnumber "FF-001",shallow
```

### 実行結果 (上記の例を実行した場合 result.csv)

```
lineNumber,serviceId,cabinetId,drepId
2,drep_ServiceID,cabinet01,111442221233574
```

### ログファイル (上記の例を実行した場合 drlokobj.log)

```
2021/03/26 13:14:51,2,0,SUCCESS,drep_ServiceID,cabinet01,111442221233574
```

## 10.8 オブジェクトのアンロックコマンド (drunkobj) 使用例

指定したドキュメント (ロックされているもの) をアンロックします。

### コマンド実行例

```
C:¥Temp¥iftktest> drunkobj -param C:¥Temp¥iftktest¥drunkobj¥sample.xml -csv  
C:¥Temp¥iftktest¥drunkobj¥sample.csv -user fuji3 -passwd fuji3
```

### 実行パラメーターファイル (C:¥Temp¥iftktest¥drunkobj¥sample.xml)

<getAtomId>は記述しても無視されます。

```
<?xml version="1.0" encoding="Windows-31J" ?>  
<parameter>  
  <logfile>C:¥Temp¥iftktest¥drunkobj¥drunkobj.log</logfile>  
  <resultFile>C:¥Temp¥iftktest¥drunkobj¥result.csv</resultFile>  
</parameter>
```

### 操作対象オブジェクト指定ファイル

#### (C:¥Temp¥iftktest¥drunkobj¥sample.csv)

operationRangeの値

- ・ shallow: 指定オブジェクトのみ
- ・ deep: 下位のオブジェクト全てに影響 (デフォルト)

```
targetServiceId,targetCabinetId,targetDrepId,operationRange  
drep_ServiceID,cabinet01,111442221233574,shallow
```

### 実行結果 (上記の例を実行した場合 result.csv)

```
lineNumber,serviceId,cabinetId,drepId  
2,drep_ServiceID,cabinet01,111442221233574
```

### ログファイル (上記の例を実行した場合 drunkobj.log)

```
2021/03/26 13:28:35,2,0,SUCCESS,drep_ServiceID,cabinet01,111442221233574
```

## 第2部 ドキュメント管理サービス 一括登録コマンド編

### 1 一括登録機能の概要

一括登録とは、ドキュメント管理サービスへのドキュメント、フォルダーの登録、およびリファレンスの生成を、コマンド操作によって一括処理する機能です。

## 1.1 一括登録でできること

一括登録コマンドによって行える処理を次に示します。

- 補足**
- ・一括登録コマンドの登録対象は、ドキュメント管理サービスの標準キャビネットのみです。コラボスペース用キャビネットやワークスペース用キャビネットに対しては一括登録できません。
  - ・ドキュメントやフォルダーの登録、リファレンスの生成のために通常使用する「ドキュメントスペース」は、GUI形式のアプリケーションです。キャビネットやドロワーの作成のために使用する「ドキュメント管理サービスの管理ツール」は、コマンド形式やGUI形式のツールです。これら2つと、一括登録コマンドは別のものでご注意ください。
  - ・ワークフロードキュメントアクセスツールでは、一括登録コマンドの機能のうち、ドキュメント登録、フォルダー登録、およびマージの操作を行う機能を提供します。

### ドキュメント登録

指定したファイルをドキュメントとして登録する処理です。登録時に、プライマリコンテンツに対する変換処理もできます。エディションキー（版管理属性値）を指定して、版管理対象のキャビネットにドキュメントを登録すれば、そのドキュメントは版管理の対象となります。

### リファレンス生成

指定したオブジェクトを参照するリファレンスを生成する処理です。エディションキーを指定して、版管理対象のキャビネットにリファレンスを生成すれば、そのリファレンスは版管理の対象となります。

一括登録コマンドによって、次に示すリファレンスを生成できます。

- ・ダイレクト形式で指定したオブジェクトを参照するリファレンス（通常リファレンス、ハードリファレンス）
- ・ダイレクト形式（キャビネット）で指定したオブジェクトを参照するリファレンス（通常リファレンス）
- ・検索条件に一致するオブジェクトを参照するリファレンス（通常リファレンス、ハードリファレンス）
- ・常に最新エディションのオブジェクトを参照するリファレンス（通常リファレンス）
- ・現時点における最新エディションのオブジェクトを参照するリファレンス（通常リファレンス、ハードリファレンス）
- ・現時点における特定のエディションのオブジェクトを参照するリファレンス（通常リファレンス、ハードリファレンス）
- ・現時点における最新エディションであり、最新リビジョンであるオブジェクトを参照するリファレンス（通常リファレンス）
- ・現時点における特定のエディションであり、最新リビジョンであるオブジェクトを参照するリファレンス（通常リファレンス）
- ・現時点における特定のエディションであり、特定のリビジョンであるオブジェクトを参照するリファレンス（通常リファレンス）

**補足** getAttribute 権のないオブジェクトを参照するリファレンスを生成するとエラーになります。

**参照** ダイレクト形式については、[\[2.3.4 リファレンス参照先オブジェクトの指定方法\] \(P.197\)](#) を参照してください。

## リファレンス同時生成

ドキュメントの登録と同時に、そのドキュメントを参照するリファレンスを生成する処理です。

**補足** `getAttribute` 権のないオブジェクトを参照するリファレンスを生成するとエラーになります。

## フォルダー登録

指定したドロー内、またはフォルダー内に、空のフォルダーを登録する処理です。フォルダーの属性値も指定できます。エディションキー（版管理属性値）を指定して、版管理対象のキャビネットにフォルダーを登録すれば、そのフォルダーは版管理の対象となります。

## 改版

指定したエディションキー（版管理属性値）のエディシヨングループ中の、最新エディションのオブジェクト（ドキュメント、フォルダー、リファレンス）のコピーを作成し、そのコピーを最新エディションとする処理です。版管理されているオブジェクトが対象となります。改版前に最新エディションだったオブジェクトを、指定した「状態」に変更できます。

## 改訂（リビジョンアップ）

指定したファイルを、最新リビジョンのドキュメントとして新たに登録する処理です。

なお、リビジョンアップ対象として指定したドキュメントが存在しない場合は、新たに登録されます。

## 上書き

指定したファイルで、登録済みのドキュメントを上書きして置き換える処理です。

なお、上書き処理対象として指定したドキュメントが存在しない場合は、新たに登録されます。

## マージ

登録済みのオブジェクト（ドキュメント、フォルダー、リファレンス）が持つ属性値を変更する処理です。ただし、属性のうち、オブジェクトカテゴリー属性については、値を変更できません。

なお、マージ対象として指定したオブジェクトが存在しない場合は、新たに登録、または生成されます。

## 1.2 コマンドの実行方法

ドキュメント管理サービス一括登録コマンドで使用する、コマンド操作の実行方法について説明します。

### コマンドの実行方法

各コマンド（バッチファイル）を実行する手順は、次のとおりです。

1. ドキュメント管理サービス一括登録コマンドを使用する PC に、コマンドを実行するユーザーでサインインします。

**注記** コマンドを実行するユーザー名には、全角スペースまたは次の文字を含めないでください。全角スペースまたは次の文字が含まれているとコマンドを実行したときにエラーになります。  
∨（全称記号）、—（ダッシュ）、一（漢数字の1）、稀、紀、儀、言、最、部、需、退、刀、謀、堀、耀、椀、囿、愀、戀、攀、箕、蜀、B（ギリシャ字のベータ）、T（ギリシャ字のタウ）、逢、栢、漢、索、嬢、琢、夢、尢、崢、榧、鳩、癩、滕、菴、龍、蠹、錢、鬢

**補足** コマンドは、Windows の標準アカウント以上の権限のあるユーザーで実行できます。

2. [管理者：コマンド プロンプト] 画面を表示します。

#### ◆ Windows Server 2016、Windows Server 2019、Windows 10 の場合

- (1) Windows の [スタート] メニューから、[Windows システムツール] > [コマンドプロンプト] を右クリックし、[その他] > [管理者として実行] を選択します。

#### ◆ Windows 8.1 の場合

- (1) Windows のスタート画面で、左下に表示された [↓] をクリックします。
- (2) [Windows システムツール] カテゴリの [コマンドプロンプト] を右クリックし、[管理者として実行] を選択します。

**補足** [ユーザーアカウント制御] 画面が表示された場合は、[はい] をクリックします。

3. コマンドの格納先ディレクトリーへ移動します。

コマンドの格納先は次のとおりです。

[{プログラムホーム} %Tool%dRepTools%Bin]

**補足** {プログラムホーム} は、デフォルトでは、[C:%Program Files%FUJIFILM%ArcSuite] になります。

4. 実行したいコマンドを、必要な引数やパラメータと共に入力し、最後に <Enter> キーを押します。

## 1.3 一括登録コマンドの形式

一括登録を行うためのコマンドは、「drregist」または「wfregist」です。「どの処理を行うか」、「どのファイルを登録するか」、「属性値をどう設定するか」などについては、コマンド引数として指定する各種ファイルの中に記述します。

一括登録コマンド（drregist）の実行例を示します。

```
C:¥usr> drregist -param basicpara.xml -refcopyattr refattr.xml -csv doc-regist.csv  
-user dRmgr
```

この例で使用されているファイルは次のとおりです。

- ・ basicpara.xml：基本パラメーターファイル
- ・ refattr.xml：参照先属性転記ファイル
- ・ doc-regist.csv：オブジェクト登録ファイル

一括登録コマンドの実行にあたっては、コマンド実行前に、テキストエディターなどを使って、各種ファイルを用意する必要があります。特に、オブジェクト登録ファイルは、処理内容や登録対象を指定する重要なファイルですので、必須です。

**注記** ドキュメント管理サービス SDK のインストールでは、環境変数「PATH」を設定しません。そのため、オブジェクト操作コマンドを実行するには、各コマンドへのフルパスを指定するか、環境変数「PATH」に「bin」および「workflow¥bin」へのパスを設定してください。

- 参照**
- ・ ドキュメント管理サービス SDK のインストール方法については、[\[付録 A.2 インストール\] \(P.269\)](#) を参照してください。
  - ・ 一括登録コマンド実行のために必要なファイルの概要については、[\[1.4 一括登録コマンドのためのファイル\] \(P.176\)](#) を参照してください。
  - ・ 一括登録コマンドの実行方法については、[\[5 一括登録を実行する\] \(P.249\)](#) を参照してください。

## 1.4 一括登録コマンドのためのファイル

一括登録コマンド実行のために使う各種ファイルの概要を次に示します。

### 1.4.1 オブジェクト登録ファイルとは

「オブジェクト登録ファイル」は、次のような情報を表すパラメーターを含む、CSV形式のファイルです。

- ・一括登録の処理内容
- ・登録先、生成先
- ・リファレンスが参照するオブジェクト
- ・オブジェクトに設定するユーザー属性
- ・ドキュメントのコンテンツとなるデータファイルの所在

オブジェクト登録ファイルは必須ファイルです。一括登録コマンドを実行するときには、オブジェクト登録ファイル名をコマンド引数に指定しなければなりません。一括登録を実行する前に、オブジェクト登録ファイルを必ず用意してください。

**参照** オブジェクト登録ファイルの記述内容の詳細については、[\[2 オブジェクト登録ファイルを用意する\] \(P.178\)](#) を参照してください。

### 1.4.2 基本パラメーターファイルとは

「基本パラメーターファイル」は、次の目的のためのXML形式のファイルです。

- ・一括登録を実行したときのログ出力、エラー処理など、実行に関する指定を行う
- ・ドキュメントの登録やリファレンスの生成に関するデフォルトパラメーターの指定を行う。オブジェクト登録ファイル中で指定を省略した場合に使われる

オブジェクト登録ファイル中に記述するパラメーターの大部分について、基本パラメーターファイル中のタグとして、デフォルトの指定ができます。オブジェクト登録ファイルと基本パラメーターファイルの両方に、同じパラメーターを指定した場合は、オブジェクト登録ファイルの指定内容が優先されます。例を次に示します。

- ・オブジェクト登録ファイル中の、リファレンス A のための refMode パラメーターに、「hard」を指定（生成するリファレンスは「ハードリファレンス」）
- ・オブジェクト登録ファイル中の、リファレンス B のための refMode パラメーターを省略
- ・基本パラメーターファイル中の refMode タグに、「normal」を指定（生成するリファレンスは「通常リファレンス」）

```
オブジェクト登録ファイル
entryMode,refMode,refLocationCondition,refName,refDrepId
reference,hard,system:name "Folder1",A,102731068523271
reference,,system:name "Folder1",B,102731068523272
```

```
基本パラメーターファイル
<defaultParameter>
<refMode>normal</refMode>
</defaultParameter>
```

上記の場合、一括登録を実行したときに、リファレンスAは、オブジェクト登録ファイル中のrefModeパラメーターによって指定した「ハードリファレンス」として生成されます。リファレンスBについては、オブジェクト登録ファイル中にrefModeパラメーターの指定がありませんので、基本パラメーターファイル中の指定に基づいて、「通常リファレンス」として生成されます。

基本パラメーターファイル中で適切に指定すれば、オブジェクト登録ファイル中の記述を減らし、読みやすくなります。基本パラメーターファイルは必須ファイルではありませんが、一括登録の準備を行うときに、オブジェクト登録ファイル中で共通化できるパラメーターを検討し、基本パラメーターファイル中に、デフォルトの指定として記述することをお勧めします。

**参照** 基本パラメーターファイルの記述内容の詳細については、[\[3 基本パラメーターファイルを用意する\]](#) (P.233) を参照してください。

### 1.4.3 参照先属性転記ファイルとは

「参照先属性転記ファイル」は、一括登録でリファレンスを生成するときに、参照先のオブジェクトからコピーするユーザー属性を指定するための、XML形式のファイルです。

参照先属性転記ファイルに、たとえば「drawingNumber属性（ユーザー属性）」を指定した場合、次のような処理が行われます。

- ・参照先をドキュメント PartsdrawingA（drawingNumber 属性値を「A1」）とする
- ・ドキュメント PartsdrawingA を参照するリファレンス refA を生成する
- ・リファレンス refA には、drawingNumber 属性がコピーされる。リファレンス refA の drawingNumber 属性値は「A1」になる

**参照** 参照先属性転記ファイルの記述内容の詳細については、[\[4 参照先属性転記ファイルを用意する\]](#) (P.246) を参照してください。



## 2 オブジェクト登録ファイルを用意する

一括登録実行のために用意する、オブジェクト登録ファイルの記述内容について説明します。オブジェクト登録ファイルは必須ファイルです。

## 2.1 オブジェクト登録ファイルの書式

オブジェクト登録ファイルの構成要素、およびパラメーター記述ルールを次に示します。

### 2.1.1 オブジェクト登録ファイルの構成要素

オブジェクト登録ファイルはCSV形式のファイルです。1行目がヘッダー行で、2行目以降がデータ行になります。1つのデータ行が、一括登録の処理対象の1つのオブジェクトに対応します。ヘッダー行およびデータ行の中では、それぞれの指定項目を半角のカンマ (,) で区切ります。

オブジェクト登録ファイルの例を次に示します。2つのドキュメントを一括登録するものです。

```
entryMode,locationCondition,name,system:primary.storePath,user:zuban,user:bumon  
entity,system:name "Folder1",Test1,c:¥temp¥data1.tif,ABC1234,100  
entity,system:name "Folder1",Test2,c:¥temp¥data1.tif,ABC5678,100
```

上記の例と関連させながら、オブジェクト登録ファイルの構成要素を次に示します。

### システム属性値

一括登録を実行するときにオブジェクトに設定できるシステム属性値は、name属性値とstatus属性値のみです。

たとえば、オブジェクト登録ファイル中のヘッダー行に「name」パラメーターを指定し、データ行で、nameパラメーター値を「Test1」としてドキュメント登録を行うと、登録したオブジェクトのname属性値が「Test1」となります。

**参照** オブジェクト登録ファイル中に指定できるシステム属性の詳細については、[\[2.2 オブジェクト登録ファイル中の指定項目となるシステム属性\] \(P.183\)](#) を参照してください。

### ユーザー属性

一括登録を実行するときにオブジェクトに設定するユーザー属性とその値を、オブジェクト登録ファイル中に指定するものです。

たとえば、オブジェクト登録ファイル中のヘッダー行に「user:bumon」としてbumon属性を指定し、データ行で、bumon属性値を「100」としてドキュメント登録を行うと、登録したオブジェクトにbumon属性が設定され、属性値が「100」となります。

**補足** オブジェクト登録ファイル中に指定できるユーザー属性は、ユーザー属性としてキャビネットに追加済みのものに限られます。一括登録コマンドでは、ユーザー属性のキャビネットへの追加などの管理操作はできません。一括登録を実行する前に、ドキュメント管理サービスのサービス管理者またはキャビネット管理者は、ドキュメント管理サービスの管理ツールを使って、あらかじめ必要な設定を行ってください。  
エディションキー（版管理属性）もユーザー属性の一種です。このため、オブジェクト登録ファイル中に指定できるエディションキーも、エディションキーのユーザー属性としてキャビネットに追加済みのものに限られます。

## パラメーター

「どの処理を行うか」、「登録先はどこか」、「登録するデータファイルはどこにあるか」など、一括登録の処理内容を、オブジェクト登録ファイル中に指定するものです。

たとえば、オブジェクト登録ファイル中のデータ行で、entryModeパラメーターに「entity」を指定すると、そのデータ行で指定したオブジェクトについて、「ドキュメント登録」が実行されます。

オブジェクト登録ファイルのパラメーターには、さまざまな種類があります。また、処理内容に応じて、指定するパラメーターが変わります。たとえば、ドキュメント登録の場合とリファレンス生成の場合では、指定するパラメーターが一部異なります。

**参照** オブジェクト登録ファイル中に指定するパラメーターの詳細については、[\[2.3 オブジェクト登録ファイルのパラメーター\] \(P.184\)](#) を参照してください。

### 2.1.2 オブジェクト登録ファイルの記述ルール

オブジェクト登録ファイルの記述ルールを次に示します。

#### ヘッダー行の記述

ヘッダー行の役割は、オブジェクト登録ファイルによって指定する項目名を列挙することです。オブジェクト登録ファイルの先頭から、最初の改行までがヘッダー行になります。項目名を、半角のカンマ (,) で区切って指定します。

ヘッダー行の記述例を次に示します。

```
entryMode,locationCondition,name,system:primary.storePath,user:zuban,user:bumon
```

項目名としてユーザー属性を指定する場合は、「{名前空間} : {属性名}」とします。たとえば、名前空間が「user」であれば、「user:bumon」と指定します。このマニュアルでは、名前空間が「user」であるものとして説明しています。

#### データ行の記述

オブジェクト登録ファイルのデータ行は、それぞれの行が、一括登録の処理対象の1つのオブジェクトに対応します。ヘッダー行のあとにデータ行を置きます。1つのオブジェクト登録ファイル中に、複数のデータ行を置けます。データ行とデータ行の間を区切るのは、改行です。

データ行には、ヘッダー行中の項目名に対応させて指定内容を記述します。項目ごとに、半角のカンマ (,) で区切って指定します。

データ行の記述例を次に示します。

```
entity,system:name "Folder1",Test2,data2.tif,ABC5678,100
```

#### 文字列型属性値の記述

オブジェクト登録ファイルのデータ行で、文字列型属性値を設定する場合は、「green」のように、文字列をそのまま指定します。ただし、文字列がカンマを含む場合などは、「" (ダブルクォーテーション)」で囲みません。

また、検索条件およびエディションキー (版管理属性) 値として文字列を指定する場合は、文字列を必ず「"」で囲みます。

## 多値属性値の記述

オブジェクト登録ファイルのデータ行で、多値属性に対して複数の属性値を指定する場合は、「|」（半角縦棒）で区切ります。たとえば、signalという多値のユーザー属性に、「red」、「yellow」、「blue」という3つの文字列型属性値を設定する場合は、次のように指定します。

```
(略) ...,user:signal,... (略)
(略) ...,red|yellow|blue,... (略)
```

**補足** 「|」を使って null 値を指定することはできません。たとえば、次のように「|」を続けて記述した場合や、「|」だけを記述した場合は、エラーになります。

```
(略) ...,user:signal,... (略)
(略) ...,|,... (略)
(略) ...,||,... (略)
```

## 日時型属性値の記述

オブジェクト登録ファイルのデータ行で、日時型属性に対して属性値を指定する場合は、「YYYY-MM-DDThh:mm:ssTZD」の形式で指定します。たとえば、duedateという日時型のユーザー属性に、「2021年3月10日5時30分10秒」という属性値を設定する場合は、次のように指定します。

```
(略) ...,user:duedate,... (略)
(略) ...,2021-03-10T05:30:10JST,... (略)
```

## URI 型属性値の記述

オブジェクト登録ファイルのデータ行で、URI型属性に対して属性値を指定する場合は、URI文字列とラベル文字列の間を「^」で区切ります。たとえば、userURLというユーザー属性に、URI文字列が「http://www.aaa.bbb.ccc/ddd.html」、ラベル文字列が「dddのページ」という属性値を設定する場合は、次のように指定します。

```
(略) ...,user:userURL,... (略)
(略) ...,http://www.aaa.bbb.ccc/ddd.html^dddのページ,... (略)
```

## アトム型属性値の記述

オブジェクト登録ファイルのデータ行で、アトム型のシステム属性またはユーザー属性に対して属性値を指定する場合は、「system:」または「{名前空間}:」を付けて指定します。たとえば、システム属性statusに、アトム型属性値「fixed」を設定する場合は、次のように指定します。

```
(略) ...,status,... (略)
(略) ...,system:fixed,... (略)
```

## 記号の記述

オブジェクト登録ファイル中では、一部の記号が特定の目的のために使用されます。このため、次に示す記号を、記号そのものとしてデータ行に記述する場合は、注意が必要です。

### ■ 「"（ダブルクォーテーション）」を記述するには

文字列を「"」で囲んで記述し、その文字列の中で、「"」を指定するには、「"」を2つ続けて記述します。たとえば、「"Mark as ""Caution""」というように、「""」によってダブルクォーテーションを表します。

### ■ 「, (カンマ)」を記述するには

文字列を「"」で囲んで記述します。たとえば、「"Put data1, data2, and data3"」というように記述します。

### ■ 「| (半角縦棒)」、「^」を記述するには

属性値として「|」または「^」を記述する場合は、「|」または「^」の前に「¥」を記述します。たとえば、「Y¥|N」のように、「¥|」によって「|」を表します。

パラメーター値として「|」または「^」を記述する場合は、「¥」を付ける必要はありません。

### ■ 「¥ (半角円記号、バックスラッシュ)」を記述するには

属性値として「¥」を記述する場合は、「¥」を2つ続けて記述します。たとえば、「¥¥data¥¥projectX」のように、「¥¥」によって「¥」を表します。

パラメーター値として「¥」を記述する場合は、「¥¥」とする必要はありません。

## 2.2 オブジェクト登録ファイル中の指定項目となるシステム属性

オブジェクト登録ファイル中の指定項目にできるシステム属性を、次に示します。

属性名	型	説明
system:templateName	文字列	検索、表示用に設定されている属性テンプレートのテンプレート名
system:dmsName	文字列	DMS移行用キャビネットで設定されるDMSの名前属性

上記以外のシステム属性については、一括登録では属性値を設定できません。

オブジェクトの名前属性値は、nameパラメーターとrefNameパラメーターで指定でき、状態属性値は、statusパラメーターとoldStatusパラメーターで指定できます。また、クラス属性値は、classパラメーターとrefClassパラメーターで指定できます。

## 2.3 オブジェクト登録ファイルのパラメーター

オブジェクト登録ファイル中に指定する、一括登録関連のパラメーターについて次に示します。

一括登録関連パラメーターには、さまざまなものがあります。指定する情報によっては、複数のパラメーターを組み合わせる必要があります。このため、ここでは、まず、パラメーターの一覧を示したあと、複数のパラメーターを組み合わせる指定方法について説明します。

### 2.3.1 パラメーター一覧

オブジェクト登録ファイル中に指定するパラメーターの一覧を、次に示します。パラメーター名は大文字小文字が区別されますので、表に示すとおり指定する必要があります。

「デフォルト指定」欄に「可能」とあるパラメーターについては、基本パラメーターファイル中に、同じパラメーターをXMLのタグとして指定できます。基本パラメーターファイル中にタグを指定しておくと、オブジェクト登録ファイル中でパラメーターを省略したときに、基本パラメーターファイル中の指定がデフォルトとして使用されます。

また、「説明」欄に、serviceID、cabinetID、drepldとあるのは、キャビネット中でユニークなオブジェクト識別子です。serviceID、cabinetID、drepldを調べるには、オブジェクト操作コマンド群を使用します。

**参照** オブジェクト操作コマンド群については、[\[2 オブジェクト操作コマンド群の使い方\] \(P.25\)](#)以降を参照してください。

表：オブジェクト登録ファイル中のパラメーター

パラメーター名	型	デフォルト指定	説明
entryMode	文字列	不可	一括登録の処理内容を指定。必須パラメーターであり、データ行中にentryModeパラメーターの値を指定しないと、エラーになる。 次のいずれか1つを指定する entity：ドキュメント登録 reference：リファレンス生成 entityAndReference：リファレンス同時生成 createFolder：フォルダー登録 revise：改版 revisionUp：改訂（リビジョンアップ） overWrite：上書き merge：マージ
name	文字列	不可	ドキュメント、フォルダーに設定するname属性値を指定する。
refName	文字列	不可	リファレンスに設定するname属性値を指定する。 参照先属性転記ファイルに指定がない場合は、refNameパラメーターの値を指定しないと、参照先のオブジェクトと同じ名前となる。
status	アトム	可能	オブジェクトに設定するstatus属性値を指定する。
class	アトム	可能	オブジェクトに設定するclass属性値を指定する。 特殊文字列「¥0」を指定した場合は、「クラスなし」となる。 指定がない場合は、「デフォルトクラス」となる。

表：オブジェクト登録ファイル中のパラメーター（続き）

パラメーター名	型	デフォルト指定	説明
refClass	アトム	可能	リファレンスオブジェクトに設定するclass属性値を指定する。 特殊文字列「¥0」を指定した場合は、「クラスなし」となる。 指定がない場合は、「デフォルトクラス」となる。 参照先のオブジェクトのクラスが、リファレンス作成先のキャビネットに存在する場合は、参照先のオブジェクトと同一のクラスになり、存在しない場合は、「デフォルトクラス」となる。
targetLatestEdition	エディションキー文字列	不可	処理対象オブジェクトを特定するためのエディションキー（版管理属性）値を指定。指定したエディションキーで管理されるエディショングループの、最新エディションのオブジェクトが処理対象となる。 「{名前空間名} : {属性名} (半角スペース) {属性値}」の形式で指定する 例：user:zuban "ABC123" 属性値がnullのエディションキーを指定する場合は、属性を記述しない。targetCondition、targetDrepldとの併用はエラーになる。
targetCondition	検索文字列	不可	処理対象オブジェクトを特定するための検索条件を指定する。targetLatestEdition、targetDrepldとの併用はエラーになる。 <b>参照</b> 検索条件の記述方法については、 <a href="#">[2.3.12 検索条件の記述形式] (P.215)</a> を参照してください。
targetDrepld	数値	不可	「リビジョンアップ」、「上書き」、「マージ」で検索条件による対象オブジェクトの指定をする場合に使用する。 locationServiceId,locationCabinetId,targetDrepldの組み合わせ、またはlocationObjectId、targetDrepldの組み合わせで対象オブジェクトをダイレクトに指定する。 targetLatestEdition,targetConditionとの併用はエラーになる。
folderLabel	文字列	不可	フォルダー登録でのみ使用できる。 登録先のラベルとして使用できるフォルダーラベルを指定する。 "folder"と"location"以外の文字列を指定する。 "folder"や"location"を指定するとエラーになる。 オブジェクト登録ファイルの中でfolderLabelパラメーターに指定したフォルダーラベルに重複した値のものがあるとエラーになる。
specifyLocation	文字列	可能	ドキュメントまたはフォルダーの登録先を指定。次のいずれか1つを指定する。 location : 「location」で始まるパラメーターで指定する登録先 folder : 直前に登録したフォルダー（該当するフォルダーがない場合はエラーとなる） ラベル: 指定したフォルダーラベルで登録したフォルダー

表：オブジェクト登録ファイル中のパラメーター（続き）

パラメーター名	型	デフォルト指定	説明
refSpecifyLocation	文字列	可能	リファレンスの生成先を指定。次のどちらかを指定する。 location：[refLocation] で始まるパラメーターで指定する登録先 folder：直前に登録したフォルダー（該当するフォルダーがない場合はエラーとなる） ラベル：指定したフォルダーラベルで登録したフォルダー
storePath	文字列	不可	コンテンツファイルが置かれているパスを指定する。
storeDirPath	文字列	可能	storePathパラメーターに相対パスを指定した場合、基底ディレクトリーを指定する。
storedConformation	文字列	不可	コンテンツファイルを変換するフォーマットを指定
updateSecondaryContent	文字列	可能	内容依存情報の更新を行うときに、生成するセカンダリコンテンツのラベルを指定する。複数指定する場合は、「 」で区切る。
updateContentInformation	ブール値	可能	内容依存情報の更新を行うときに、プライマリコンテンツに依存する属性を更新するかどうかを指定する。次のどちらかを指定する。 true：更新する false：更新しない
refCopyAttr	ブール値	可能	リファレンス生成時に、参照先オブジェクトの属性値をコピーするかどうかを指定する。次のどちらかを指定する。 true：コピーする false：コピーしない
skipMode	アトム	可能	データ行の処理を始める前に、処理対象のオブジェクトの状態を確認し、特定の状態だった場合に、そのオブジェクトを処理対象から外し、次のデータ行に処理を進められる。改版、改訂（リビジョンアップ）、上書き、マージの場合のみ有効。 処理対象から外す状態を、skipModeパラメーターによって指定する。複数指定する場合は、「 」で区切る。
locationServiceId	文字列	可能	ドキュメント登録先とするサービスのserviceIDを指定する。
locationCabinetId	文字列	可能	ドキュメント登録先とするキャビネットのcabinetIDを指定する。
locationDrawerName	文字列	可能	ドキュメント登録先とするドロワーの名前を指定する。
locationDreplId	数値	可能	ドキュメント登録先とするドロワーまたはフォルダーのdreplIdを指定する。
locationObjectId	文字列		データ登録先のObjectIdの文字列表記を指定する。 (ダイレクト形式で指定する場合や検索条件式での検索起点を指定する場合に指定)
locationCondition	検索文字列	可能	ドキュメント登録先を特定するための検索条件を指定する。 <b>参照</b> 検索条件の記述方法については、 <a href="#">[2.3.12 検索条件の記述形式] (P.215)</a> を参照してください。
locationDepthFromSearchRoot	数値		データ登録先の検索範囲となる階層数を指定する。 (locationConditionパラメーターを指定した場合のみ有効)

表：オブジェクト登録ファイル中のパラメーター（続き）

パラメーター名	型	デフォルト指定	説明
nextDrepld	数値	可能	ドキュメントまたはフォルダー登録位置を示すdrepldを指定する。
nextObjectId	文字列		データ登録位置のObjectIdの文字列表記を指定する。 (ダイレクト形式で指定する場合や検索条件式での検索起点を指定する場合に指定)
nextCondition	検索文字列	可能	ドキュメントまたはフォルダー登録位置を特定するための検索条件を指定する。(データ登録先オブジェクトを検索起点とする検索条件形式の場合に指定)  <b>参照</b> 検索条件の記述方法については、 <a href="#">[2.3.12 検索条件の記述形式]</a> (P.215) を参照してください。
refMode	文字列	可能	生成するリファレンスの種類を指定。次のどちらかを指定する。 normal：通常リファレンス hard：ハードリファレンス
refServiceId	文字列	可能	生成するリファレンスが参照するオブジェクトを特定するために、そのオブジェクトがあるサービスのserviceIdを指定する。
refCabinetId	文字列	可能	生成するリファレンスが参照するオブジェクトを特定するために、そのオブジェクトがあるキャビネットのcabinetIdを指定する。
refDrawerName	文字列	可能	生成するリファレンスが参照するオブジェクトを特定するために、そのオブジェクトがあるドロワーの名前を指定する。
refDrepld	数値	可能	生成するリファレンスが参照するオブジェクトを特定するために、drepldを指定する。
refObjectId	文字列		リファレンス参照先のObjectIdの文字列表記を指定する。 (ダイレクト形式で指定する場合や検索条件式での検索起点を指定する場合に指定)
refCondition	文字列	可能	生成するリファレンスが参照するオブジェクトを特定するための、検索条件を指定。  <b>参照</b> 検索条件の記述方法については、 <a href="#">[2.3.12 検索条件の記述形式]</a> (P.215) を参照してください。
refDepthFromSearchRoot	数値		リファレンス参照先の検索範囲となる階層数を指定する。 (refConditionパラメーターを指定した場合のみ有効)
refEditionKey	エディションキー文字列	不可	生成するリファレンスが参照するオブジェクトを特定するための、エディションキー（版管理属性）値を指定する。 「{名前空間名}：{属性名}（半角スペース）{属性値}」の形式で指定する。 例：user:zuban "ABC123" 属性値がnullのエディションキーを指定する場合は、属性を記述しない。

表：オブジェクト登録ファイル中のパラメーター（続き）

パラメーター名	型	デフォルト指定	説明
refEditionNumber	数値	不可	生成するリファレンスによる参照方法（エディション）を指定する。次のどれか1つを指定する。 -1：常に最新エディションのオブジェクトを参照 0：現時点における最新エディションのオブジェクトを参照 1以上：特定の版番号を持つオブジェクトを参照 ただし、refObjectIdパラメーターを指定すると、このパラメーターは、無視される。
refRevisionNumber	数値	不可	生成するリファレンスによる参照方法（リビジョン）を指定する。次のどちらかを指定する。 0：現時点における最新リビジョンのオブジェクトを参照 1以上：特定のリビジョン番号を持つオブジェクトを参照 ただし、refObjectIdパラメーターを指定すると、このパラメーターは、無視される。
refLocationServiceId	文字列	可能	リファレンス生成先とするサービスのserviceIDを指定する。
refLocationCabinetId	文字列	可能	リファレンス生成先とするキャビネットのcabinetIDを指定する。
refLocationDrawerName	文字列	可能	リファレンス生成先とするドロワーの名前を指定する。
refLocationDrepld	数値	可能	リファレンス生成先とするドロワーまたはフォルダーのdrepldを指定する。
refLocationObjectId	文字列		リファレンス登録先のObjectIdの文字列表記を指定する。 （ダイレクト形式で指定する場合や検索条件式での検索起点を指定する場合に指定）
refLocationCondition	検索文字列	可能	リファレンス生成先を特定するための検索条件を指定する。 <b>参照</b> 検索条件の記述方法については、 <a href="#">[2.3.12 検索条件の記述形式] (P.215)</a> を参照してください。
refLocationDepthFromSearchRoot	数値		リファレンス登録先の検索範囲となる階層数を指定する。 （refLocationConditionパラメーターを指定した場合のみ有効）
refNextDrepld	数値	不可	リファレンス生成位置を示すdrepldを指定する。
refNextObjectId	文字列		リファレンス登録位置のObjectIdの文字列表記を指定する。 （ダイレクト形式で指定する場合や検索条件式での検索起点を指定する場合に指定）
refNextCondition	検索文字列	不可	リファレンス生成位置を特定するための検索条件を指定する。 （リファレンス登録先オブジェクトを検索起点とする検索条件形式の場合に指定） <b>参照</b> 検索条件の記述方法については、 <a href="#">[2.3.12 検索条件の記述形式] (P.215)</a> を参照してください。
storeDirPath	文字列		storePathパラメーターが相対パス指定の場合の基底ディレクトリーを指定する。

表：オブジェクト登録ファイル中のパラメーター（続き）

パラメーター名	型	デフォルト指定	説明
existenceCheck	文字列	可能	データ行の処理を始める前に、特定のオブジェクトの存在チェックを行い、その結果に応じて、処理を変更できる。存在チェックの実行方法を、existenceCheckパラメーターによって指定する。次のどれか1つを指定する。 ignore：存在チェックを行わない do：オブジェクトが存在する場合は、このデータ行を処理する。オブジェクトが存在しない場合は、このデータ行の処理をスキップして、次のデータ行に処理を進める skip：オブジェクトが存在する場合は、このデータ行の処理をスキップして、次のデータ行に処理を進める。オブジェクトが存在しない場合は、このデータ行を処理する
existenceCheckServiceId	文字列	可能	存在チェックの対象オブジェクトを特定するために、そのオブジェクトがあるサービスのserviceIdを指定する。
existenceCheckCabinetId	文字列	可能	存在チェックの対象オブジェクトを特定するために、そのオブジェクトがあるキャビネットのcabinetIdを指定する。
existenceCheckDrawerName	文字列	可能	存在チェックの対象オブジェクトを特定するために、そのオブジェクトがあるドロワーの名前を指定する。
existenceCheckObjectId	文字列		存在チェック先のObjectIdの文字列表記を指定する。 (ダイレクト形式で指定する場合や検索条件式での検索起点を指定する場合に指定)
existenceCheckDreplId	数値	可能	存在チェックの対象オブジェクトを特定するために、dreplIdを指定する。
existenceCheckDepthFromSearchRoot	数値		存在チェック先の検索範囲となる階層数を指定する。 (existenceCheckConditionパラメーターを指定した場合のみ有効)
existenceCheckCondition	検索文字列	可能	存在チェックの対象オブジェクトを特定するための、検索条件を指定する。  <b>参照</b> 検索条件の記述方法については、 <a href="#">「2.3.12 検索条件の記述形式」(P.215)</a> を参照してください。
editionKey	エディションキー文字列	不可	登録するオブジェクトを版管理の対象とする場合に、エディションキー（版管理属性）と属性値を指定する。
designatedEditionNumber	数値	可能	登録するオブジェクトを版管理の対象とする場合に、版番号を指定する。
designatedEditionLabel	文字列	可能	登録するオブジェクトを版管理の対象とする場合に、版ラベルを指定する。
oldStatus	アトム	可能	登録するオブジェクトを版管理の対象とする場合、または改版を行う場合に、登録または改版前に最新エディションだったオブジェクトに設定する状態を指定する。
revisionComment	文字列	可能	リビジョンコメントを指定する。 デフォルト値は、リビジョンアップの場合は「dRepositoryRegist」となり、新規登録の場合は、null値となる。 特殊文字列「¥0」を指定した場合は、null値となる。

## 2.3.2 登録先、生成先の指定方法

オブジェクト登録ファイル中には、登録先、生成先を指定するためのパラメーターを必ず指定します。

指定する登録先、生成先は次のとおりです。一括登録の処理内容に応じて、どれを指定するかが変わります。

- ・ドキュメントの登録先
- ・フォルダーの登録先
- ・リファレンスの生成先

**注記** ・一括登録コマンド (wfregist) では、リファレンスを登録できません。  
 ・指定する登録先および生成先には、ごみ箱またはごみ箱内のオブジェクトを指定できません。

**参照** ここでは、登録先、生成先の指定方法の概要のみを説明します。処理内容ごとの指定方法の違いについては、[\[2.4 処理内容に応じたオブジェクト登録ファイル\] \(P.216\)](#) を参照してください。

登録先、生成先の指定方法には、次の6種類があります。

- ・直前に登録したフォルダーを指定する方法
- ・フォルダーラベルを指定する方法
- ・ダイレクト形式で指定する方法
- ・キャビネット起点の検索条件で指定する方法
- ・ドロワー起点の検索条件で指定する方法
- ・ドロワー、フォルダー起点の検索条件で指定する方法

**注記** 一括登録コマンド (wfregist) では、locationObjectId による「ダイレクト形式で指定する方法」での登録だけが可能です。

登録先、生成先、および指定方法に応じて、指定しなければならないパラメーターが次のように異なります。

表：登録先、生成先を指定するためのパラメーター

指定方法	ドキュメント登録先 フォルダー登録先	リファレンス生成先
直前に登録したフォルダーを指定	specifyLocation	refSpecifyLocation
フォルダーラベルを指定	specifyLocation	refSpecifyLocation
ダイレクト形式で指定	locationServiceId、 locationCabinetId、 locationDrawerNameまたは locationDrepld、 locationObjectId	refLocationServiceId、 refLocationCabinetId、 refLocationDrawerNameまたは refLocationDrepld、 refLocationObjectId
キャビネット起点の検索条件で指定	locationServiceId、 locationCabinetId、 locationCondition、 locationObjectId、 locationDepthFromSearchRoot	refLocationServiceId、 refLocationCabinetId、 refLocationCondition、 refLocationObjectId、 refLocationDepthFromSearchRoot
ドロワー起点の検索条件で指定	locationServiceId、 locationCabinetId、 locationDrawerName、 locationCondition、 locationDepthFromSearchRoot	refLocationServiceId、 refLocationCabinetId、 refLocationDrawerName、 refLocationCondition、 refLocationDepthFromSearchRoot

表：登録先、生成先を指定するためのパラメーター

指定方法	ドキュメント登録先 フォルダー登録先	リファレンス生成先
ドロワー、フォルダー起点の検索 条件で指定	locationServiceId、 locationCabinetId、 locationDrepld、 locationCondition、 locationObjectId、 locationDepthFromSearchR oot	refLocationServiceId、 refLocationCabinetId、 refLocationDrepld、 refLocationCondition、 refLocationObjectId、 refLocationDepthFromSearchR oot

上記の表からわかるように、ドキュメントまたはフォルダー登録先を指定するパラメーターと、リファレンス生成先を指定するパラメーターはよく似ています。ドキュメント登録先を指定する場合の例を挙げて、具体的な指定方法を次に示します。リファレンス生成先を指定する場合も、パラメーターは異なりますが、指定方法は共通です。

記述方法と使用されるパラメーターの関係を次の表に示します。表では、データ登録先オブジェクト（起点オブジェクト）をlocationObjectIdパラメーターでの指定とlocationServiceIdパラメーター、locationCabinetIdパラメーターなど複数のパラメーターによる指定の2つの方法に分けて示します。

- 補足** 表中の記号の意味は次のとおりです。
- ◎：必須のパラメーターです。
  - ：有効なパラメーターです。
  - △：条件によって有効なパラメーターです。
  - ：指定しても無視されます。
  - ×：指定するとエラーになります。
  - ◆：指定すると、意図と異なる記述と判断します。

#### ◇ locationObjectId パラメーターでの指定

パラメーター／記述方法	直前登録 フォルダー	ラベル指定	ダイレクト 形式	検索条件形式 (キャビ ネット)	検索条件形式 (ドロワー、 フォルダー)
specifyLocation	◎ folder	◎ ラベル名	◎ location	◎ location	◎ location
locationObjectId	—	—	◎ (*5)	◎ (*6)	◎ (*5)
locationCondition	—	—	◆ (*1)	◎	◎
locationDepthFromSearchRoot	—	—	—	○	○

◇ locationServiceId パラメーター、locationCabinetId パラメーターなど複数のパラメーターによる指定

パラメーター／記述方法	直前登録 フォルダー	ラベル指 定	ダイレク ト形 式	検索条件 形式 (キャビ ネット)	検索条件 形式 (ドロ ワー)	検索条件 形式 (ドロ ワー、 フォル ダー)
specifyLocation	◎ folder	◎ ラベル名	◎ location	◎ location	◎ location	◎ location
locationServiceId	—	—	◎	◎	◎	◎
locationCabinetId	—	—	◎	◎	◎	◎
locationDrawerName	—	—	◎ (*2)	◆ (*3)	◎	◆ (*3)
locationDrepld	—	—	◎ (*2)	◆ (*4)	—	◎
locationCondition	—	—	◆ (*1)	◎	◎	◎
locationDepthFromSe archRoot	—	—	—	○	○	○

- \* 1：指定された場合は、検索条件形式での指定（検索起点がドロワー）、あるいは、検索条件形式での指定（検索起点がドロワー、フォルダー）で記述されたこととみなします。
- \* 2：locationDrawerName パラメーター、locationDrepld パラメーターのどちらか一方の指定が必要となります。両方指定された場合は、locationDrawerName パラメーターの指定を優先します。
- \* 3：locationDrawerName パラメーターが指定された場合は、検索条件形式での指定（検索起点がドロワー）で記述されたこととみなします。
- \* 4：locationDrawerName パラメーターが指定されておらず、locationDrepld パラメーターが指定された場合は、検索条件形式での指定（検索起点がドロワー、フォルダー）で記述されたこととみなします。
- \* 5：locationObjectId パラメーターの値が「オブジェクト ID の文字列表記」の「キャビネット以外のオブジェクト用」の形式でなければなりません。
- \* 6：locationObjectId パラメーターの値が「オブジェクト ID の文字列表記」の「キャビネット用」の形式でなければなりません。

## 直前に登録したフォルダーを指定する方法

オブジェクト登録ファイル中で、直前に登録したフォルダーを登録先とする方法です。  
次に示すように、specifyLocationパラメーターに「folder」を指定します。

```
(略) ..., specifyLocation, ... (略)
(略) ..., folder, ... (略)
```

なお、直前のフォルダー登録がエラーとなった場合は、specifyLocationパラメーターに「folder」を指定したデータ行の登録もエラーとなります。

## フォルダーラベルを指定する方法

オブジェクト登録ファイル中で、登録先とするフォルダーのラベルを指定する方法です。  
次に示すように、specifyLocationパラメーターに登録済みフォルダーのラベルを指定します。

```
(略) ..., specifyLocation, ... (略)
(略) ..., DocFolder1, ... (略)
```

なお、指定したラベルのフォルダーが存在しない場合は、エラーとなります。

## ダイレクト形式で指定する方法

サービス、キャビネット、ドロワー（フォルダー）をすべて直接指定することによって、登録先を指定する方法です。

ダイレクト形式で指定する場合は、次のパラメーターを組み合わせで指定します。

- ・ locationServiceId パラメーターに、登録先とするサービスの serviceId を指定
- ・ locationCabinetId パラメーターに、登録先とするキャビネットの cabinetId を指定
- ・ locationDrawerName パラメーターに、登録先とするドロワーの名前を指定。  
または、locationDrepld パラメーターに、登録先とするドロワーかフォルダーの drepld を指定
- ・ locationObjectId パラメーターに、登録先とするオブジェクトの objectId を指定

locationObjectIdパラメーターで指定した場合は、パラメーター値が「オブジェクトIDの文字列表記」の「キャビネット以外のオブジェクト用」の形式でなければなりません。

なお、locationDrawerNameパラメーターとlocationDrepldパラメーターの両方を指定した場合は、locationDrawerNameパラメーターの指定が優先されます。ただし、登録先がドロワーであり、ドロワーのdrepldがわかっている場合には、locationDrawerNameパラメーターではなく、locationDrepldパラメーターを指定したほうが処理が速くなります。

指定例を示します。

```
(略) ..., specifyLocation, locationServiceId, locationCabinetId, locationDrawerName, ...
(略)
(略) ..., location, main-doclib, CAB01, drawer1, ... (略)
```

上記のデータ行では、サービス「main-doclib」のキャビネット（CAB01）のドロワー「drawer1」を、登録先として指定しています。

## キャビネット起点の検索条件で指定する方法

キャビネットを起点とした検索条件を指定して、検索によって特定されたオブジェクトを登録先とする方法です。検索処理に時間がかかるので、ダイレクト形式による指定方法よりも処理が遅くなります。

キャビネット起点の検索条件を指定する場合は、次のパラメーターを組み合わせで指定します。

- ・ locationServiceId パラメーターに、登録先とするサービスの serviceId を指定
- ・ locationCabinetId パラメーターに、登録先とするキャビネットの cabinetId を指定
- ・ locationCondition パラメーターに、検索条件を指定
- ・ locationObjectId パラメーターに、登録先のキャビネットオブジェクトの objectId を指定
- ・ locationDepthFromSearchRoot パラメーターに、検索範囲の階層数を指定

locationObjectIdパラメーターで指定した場合は、パラメーター値が「オブジェクトIDの文字列表記」の「キャビネット用」の形式でなければなりません。

locationServiceIdパラメーターで指定した場合に、locationDrawerNameパラメーターを指定すると検索起点がドロワーになり、「検索条件形式での指定（検索起点がドロワー）」と解釈されます。

locationDepthFromSearchRootパラメーターを指定した場合の検索対象は、キャビネット起点から指定された階層にあるオブジェクトだけです。このパラメーターに指定できる値の範囲は、2以上で、キャビネット作成時に指定したフォルダー階層限界値以下の値でなければなりません。

**参照** 検索条件の記述方法については、[\[2.3.12 検索条件の記述形式\] \(P.215\)](#) を参照してください。

指定例を示します。

```
(略) ..., specifyLocation, locationServiceId, locationCabinetId, locationCondition, ...
(略)
(略) ..., location, main-doclib, CAB01, system:name "cad" user:dataNum 1, ... (略)
```

上記のデータ行では、サービス「main-doclib」のキャビネット（CAB01）を起点とした検索条件に基づいて、登録先を指定しています。検索条件は、name属性値が「cad」であり、dataNum属性値が「1」というものです。

## ドロワー起点の検索条件で指定する方法

ドロワーを起点とした検索条件を指定して、検索によって特定されたオブジェクトを登録先とする方法です。検索処理に時間がかかるので、ダイレクト形式による指定方法よりも処理が遅くなります。

ドロワー起点の検索条件を指定する場合は、次のパラメーターを組み合わせで指定します。

- ・ locationServiceId パラメーターに、登録先とするサービスの serviceId を指定
- ・ locationCabinetId パラメーターに、登録先とするキャビネットの cabinetId を指定
- ・ locationDrawerName パラメーターに、登録先とするドロワーの名前を指定
- ・ locationCondition パラメーターに、検索条件を指定
- ・ locationDepthFromSearchRoot パラメーターに、検索範囲の階層数を指定

locationDrawerNameパラメーターが無視されるため、locationObjectIdパラメーターで指定することはできません。

locationDepthFromSearchRootパラメーターを指定した場合の検索対象は、ドロワー起点から指定された階層にあるオブジェクトだけです。このパラメーターに指定できる値の範囲は、1以上で、キャビネット作成時に指定したフォルダー階層限界値以下の値でなければなりません。

**参照** 検索条件の記述方法については、[\[2.3.12 検索条件の記述形式\] \(P.215\)](#) を参照してください。

指定例を示します。

```
(略) ..., specifyLocation, locationServiceId, locationCabinetId, locationDrawerName,
locationCondition, ... (略)
(略) ..., location, main-doclib, CAB01, drawer1, system:name "cadfol", ... (略)
```

上記のデータ行では、サービス「main-doclib」のキャビネット（CAB01）のドロワー「drawer1」を起点とした検索条件に基づいて、登録先を指定しています。検索条件は、name属性値が「cadfol」というものです。

## ドロワー、フォルダー起点の検索条件で指定する方法

ドロワー、フォルダーを起点とした検索条件を指定して、検索によって特定されたオブジェクトを登録先とする方法です。検索処理に時間がかかるので、ダイレクト形式による指定方法よりも処理が遅くなります。

ドロワー、フォルダー起点の検索条件を指定する場合は、次のパラメーターを組み合わせで指定します。

- ・ locationServiceId パラメーターに、登録先とするサービスの serviceId を指定
- ・ locationCabinetId パラメーターに、登録先とするキャビネットの cabinetId を指定
- ・ locationDrepld パラメーターに、登録先とするドロワーまたはフォルダーの drepld を指定
- ・ locationCondition パラメーターに、検索条件を指定
- ・ locationObjectId パラメーターに、検索起点のオブジェクトの objectId を指定
- ・ locationDepthFromSearchRoot パラメーターに、検索範囲の階層数を指定

locationObjectIdパラメーターで指定した場合は、パラメーター値が「オブジェクトIDの文字列表記」の「キャビネット以外のオブジェクト用」の形式でなければなりません。

locationDepthFromSearchRootパラメーターを指定した場合の検索対象は、ドロワーまたはフォルダー起点から指定された階層にあるオブジェクトだけです。このパラメーターに指定できる値の範囲は、1以上で、キャビネット作成時に指定したフォルダー階層限界値以下の値でなければなりません。

**参照** 検索条件の記述方法については、[\[2.3.12 検索条件の記述形式\] \(P.215\)](#)を参照してください。

指定例を示します。

```
(略) ..., specifyLocation, locationServiceId, locationCabinetId, locationDrepId,
locationCondition, ... (略)
(略) ..., location, main-doclhb, CAB01, 102731068523271, system:name "cadfol", ... (略)
```

上記のデータ行では、サービス「main-doclhb」のキャビネット（CAB01）の、drepldが「102731068523271」であるオブジェクト（ドロワー、フォルダー）を起点とした検索条件に基づいて、登録先を指定しています。検索条件は、name属性値が「cadfol」というものです。

### 2.3.3 登録位置、生成位置の指定方法

オブジェクト登録ファイル中に、位置を指定するためのパラメーターを指定できます。これは、たとえば、「登録済みのドキュメントAAの前の位置に、新しいドキュメントを登録する」というように、登録先の場所の中の特定の位置を指定するものです。位置の指定を省略すると、登録済みのオブジェクトの最後尾に、ドキュメントが登録、またはリファレンスが生成されます。

指定する位置は次のとおりです。一括登録の処理内容に応じて、どれを指定するかが変わります。

- ・ドキュメントの登録先
- ・フォルダーの登録先
- ・リファレンスの生成先

**参照** ここでは、位置の指定方法の概要のみを説明します。処理内容ごとの指定方法の違いについては、[\[2.4 処理内容に応じたオブジェクト登録ファイル\] \(P.216\)](#)を参照してください。

位置を指定する場合は、登録先または生成先として指定した場所に登録済みのオブジェクトを1つ指定します。指定したオブジェクトの「前」に、ドキュメントが登録、またはリファレンスが生成されます。

位置の指定方法には、次の3種類があります。

- ・登録位置をダイレクト形式（nextObjectId パラメーター）で指定する方法
- ・登録位置をダイレクト形式（nextDrepld パラメーター）で指定する方法
- ・登録位置を、データ登録先オブジェクト起点の検索条件で指定する方法

指定する位置と指定方法に応じて、指定しなければならないパラメーターが次のように異なります。

表：位置を指定するためのパラメーター

指定方法	ドキュメント、フォルダー登録位置	リファレンス生成位置
ダイレクト形式 (nextObjectId パラメーターで指定)	nextObjectId	refNextObjectId
ダイレクト形式 (nextDrepld パラメーターで指定)	データ登録先、 nextDrepld	refNextDrepld
検索条件形式 (データ登録先が検索起点)	データ登録先、 nextCondition	refNextCondition

上記の表からわかるように、ドキュメントまたはフォルダー登録位置を指定するパラメーターと、リファレンス生成位置を指定するパラメーターはよく似ています。ドキュメント登録位置を指定する場合の例を挙げて、具体的な指定方法を次に示します。リファレンス生成位置を指定する場合も、パラメーターは異なりますが、指定方法は共通です。

これらの記述方法と使用されるパラメーターの関係を次の表に示します。

- 補足** 表中の記号の意味は次のとおりです。
- ◎：必須のパラメーターです。
  - ：有効なパラメーターです。
  - △：条件によって有効なパラメーターです。
  - ：指定しても無視されます。
  - ×：指定するとエラーになります。
  - ◆：指定すると、意図と異なる記述と判断します。

パラメーター／記述方法	ダイレクト形式 (nextObjectIdパラメーターで指定)	ダイレクト形式 (nextDrepldパラメーターで指定)	検索条件形式 (データ登録先が検索起点)
データ登録先	—	○ (*1)	○ (*3)
nextObjectId	◎	◆ (*2)	◆ (*2)
nextDrepld	—	◎	◆ (*4)
nextCondition	—	—	◎

- \* 1：データ登録先オブジェクトの serviceld および cabinetld と組み合わせて登録位置オブジェクトをダイレクト形式で指定します。
- \* 2：指定した場合は、ダイレクト形式 (nextObjectId パラメーター指定) で記述されたとみなします。
- \* 3：データ登録先オブジェクトを検索起点として検索を行います。
- \* 4：指定された場合は、ダイレクト形式 (nextDrepld パラメーター指定) で記述されたとみなします。

## ダイレクト形式 (nextObjectId パラメーター) で指定する方法

登録済みのオブジェクトを直接指定することによって、登録位置を指定する方法です。

nextObjectIdパラメーターに、登録済みのオブジェクトのobjectIdを指定します。指定例を示します。

```
(略) ...,nextObjectId,... (略)
(略) ...,main-doclib:CAB01:102731068523271,... (略)
```

前記のデータ行では、ほかのパラメーターによって指定した登録場所にあるオブジェクトのうち、objectIdが「main-doclib:CAB01:102731068523271」であるオブジェクトを登録位置として指定しています。このデータ行によって処理されるドキュメントは、objectIdが「main-doclib:CAB01:102731068523271」であるオブジェクトの前に登録されます。

なお、nextDrepldパラメーターとnextConditionパラメーターは、記述しても無視されます。

パラメーター値が「オブジェクトIDの文字列表記」の「キャビネット以外のオブジェクト用」の形式でなければなりません。

## ダイレクト形式（nextDrepId パラメーター）で指定する方法

登録済みのオブジェクトを直接指定することによって、登録位置を指定する方法です。

nextDrepIdパラメーターに、登録済みのオブジェクトのdrepIdを指定します。指定例を示します。

```
(略) ..., nextDrepId, ... (略)
(略) ..., 102731068523271, ... (略)
```

上記のデータ行では、ほかのパラメーターによって指定した登録場所にあるオブジェクトのうち、drepIdが「102731068523271」であるオブジェクトを登録位置として指定しています。このデータ行によって処理されるドキュメントは、drepIdが「102731068523271」であるオブジェクトの前に登録されます。

なお、nextObjectIdパラメーターが指定されていると、「ダイレクト形式（nextObjectIdパラメーターで指定）」とみなされます。

nextConditionパラメーター値は、記述しても無視されます。

データ登録先オブジェクトからサービスとキャビネットを指定する情報を取り出し、本パラメーター値と組み合わせて、登録位置オブジェクトをダイレクト形式で指定します。

## データ検索先起点の検索条件で指定する方法

データ検索先を起点とした検索条件を指定して、検索によって特定されたオブジェクトを登録位置とする方法です。検索処理に時間がかかるので、ダイレクト形式による指定方法よりも処理が遅くなります。

nextObjectIdパラメーターが指定されていると、「ダイレクト形式（nextObjectIdパラメーターで指定）」とみなされます。

nextDrepIdパラメーターが指定されていると、「ダイレクト形式（nextDrepIdパラメーターで指定）」とみなされます。

データ登録先オブジェクトを検索起点とし、パラメーター値の条件に該当するオブジェクトが登録位置となります。

### 2.3.4 リファレンス参照先オブジェクトの指定方法

一括登録処理でリファレンスを生成する場合は、オブジェクト登録ファイル中に、リファレンスの参照先オブジェクトを指定するためのパラメーターを必ず指定します。

リファレンス参照先オブジェクトの指定方法には、次の9種類があります。

- ・ダイレクト形式で指定したオブジェクトを参照するリファレンス  
(通常リファレンス、ハードリファレンス)
- ・ダイレクト形式（キャビネット）で指定したオブジェクトを参照するリファレンス  
(通常リファレンス)
- ・検索条件に一致するオブジェクトを参照するリファレンス  
(通常リファレンス、ハードリファレンス)
- ・常に最新エディションのオブジェクトを参照するリファレンス  
(通常リファレンス)
- ・現時点における最新エディションのオブジェクトを参照するリファレンス  
(通常リファレンス、ハードリファレンス)
- ・現時点における特定のエディションのオブジェクトを参照するリファレンス  
(通常リファレンス、ハードリファレンス)
- ・現時点における最新エディションであり、最新リビジョンであるオブジェクトを参照するリファレンス  
(通常リファレンス)

- ・現時点における特定のエディションであり、最新リビジョンであるオブジェクトを参照するリファレンス（通常リファレンス）
- ・現時点における特定のエディションであり、特定のリビジョンであるオブジェクトを参照するリファレンス（通常リファレンス）

指定方法に応じて、指定しなければならないパラメーターが次のように異なります。

表：リファレンス参照先オブジェクトを指定するためのパラメーター

指定方法	パラメーター
ダイレクト形式で指定	refServiceId、 refCabinetId、 refDrawerNameまたはrefDrepld、 refObjectId
ダイレクト形式（キャビネット）で指定	refServiceId、 refCabinetId、 refObjectId
キャビネット起点の検索条件で指定	refServiceId、 refCabinetId、 refDepthFromSearchRoot、 refCondition、 refObjectId
ドロワー起点の検索条件で指定	refServiceId、 refCabinetId、 refDepthFromSearchRoot、 refDrawerName、 refCondition
ドロワー、フォルダー起点の検索条件で指定	refServiceId、 refCabinetId、 refDepthFromSearchRoot、 refDrawerNameまたはrefDrepld、 refCondition
版番号およびリビジョン番号で指定	refServiceId、 refCabinetId、 refEditionKey、 refEditionNumber、 refEditionNumber

これらの記述方法と使用されるパラメーターの関係を次の表に示します。表では、リファレンス参照先オブジェクト（起点オブジェクト）をrefObjectIdパラメーターでの指定とrefServiceIdパラメーターによる指定の2つの方法に分けて示します。

- 補足** 表中の記号の意味は次のとおりです。
- ◎：必須のパラメーターです。
  - ：有効なパラメーターです。
  - △：条件によって有効なパラメーターです。
  - －：指定しても無視されます。
  - ×：指定するとエラーになります。
  - ◆：指定すると、意図と異なる記述と判断します。

## ◇ refObjectId パラメーターでの指定

パラメーター／記述方法	ダイレクト指定 (キャビネット)	ダイレクト指定	ダイレクト指定 (リビジョン番号)	検索条件指定
refMode	normal	normal/hard	normal	normal/hard
refObjectId	◎ (*7)	◎ (*8)	◎ (*9)	◎
refCondition	◆ (*3)	◆ (*3)	◆ (*3)	◎
refDepthFromSearchRoot	—	—	—	○

## ◇ refServiceId パラメーターによる指定

パラメーター／記述方法	ダイレクト指定 (キャビネット)	ダイレクト指定	ダイレクト指定 (リビジョン番号)	検索条件指定	エディション 番号 (リビジョン 番号) で指定
refMode	normal	normal/hard	normal	normal/hard	normal/ hard
refServiceId	◎	◎	◎	◎	◎
refCabinetId	◎	◎ (*1)	◎ (*1)	◎ (*1)	◎ (*1)
refDrawerName	◆ (*5)	◎ (*2)	—	○	—
refDrepld	◆ (*5)	◎ (*2)	◎	○	◆ (*6)
refCondition	◆ (*3)	◆ (*3)	◆ (*3)	◎	—
refDepthFromSearchRoot	—	—	—	○	—
refEditionKey	◆ (*4)	◆ (*4)	◆ (*4)	◆ (*4)	◎
refEditionNumber	—	—	—	—	◎
refRevisionNumber	◆ (*6)	◆ (*6)	◎	—	○

- \* 1 : refMode パラメーターに "hard" を指定した場合、refLocationCabinetId パラメーターと違う値を記述された場合は、エラーとなります。
- \* 2 : refDrawerName パラメーター、refDrepld パラメーター、どちらか一方の指定が必須となります。両方指定された場合は、refDrawerName パラメーターの指定を優先します。
- \* 3 : 指定された場合は、「検索条件指定」で記述されたこととみなします。
- \* 4 : 指定された場合は、「エディション番号 (リビジョン番号) で指定」で記述されたこととみなします。
- \* 5 : 指定された場合は、「ダイレクト指定」で記述されたこととみなします。
- \* 6 : 指定された場合は、「ダイレクト指定 (リビジョン番号) で記述されたこととみなします。
- \* 7 : nextObjectId パラメーターの値が「オブジェクト ID の文字列表記」の「キャビネット用」の形式でなければなりません。
- \* 8 : refObjectId パラメーターの値が「オブジェクト ID の文字列表記」の「キャビネット以外のオブジェクト用」の形式でなければなりません。
- \* 9 : refObjectId パラメーターの値が「オブジェクト ID の文字列表記」の「特定リビジョンのドキュメント用」の形式でなければなりません。

## ダイレクト形式で指定する方法

オブジェクトを直接指定することによって、通常リファレンスまたはハードリファレンスの参照先を指定する方法です。

ダイレクト形式で指定する場合は、次のパラメーターを組み合わせで指定します。

- ・ refServiceId パラメーターに、参照先オブジェクトがあるサービスの serviceId を指定
- ・ refCabinetId パラメーターに、参照先オブジェクトがあるキャビネットの cabinetId を指定
- ・ refDrawerName パラメーターに、参照先オブジェクトがあるドロワーの名前を指定。  
または、refDrepld パラメーターに、参照先オブジェクトの drepld を指定
- ・ refObjectId パラメーターに、参照先オブジェクトの objectId を指定

なお、refDrawerNameパラメーターとrefDrepldパラメーターの両方を指定した場合は、refDrawerNameパラメーターの指定が優先されます。ただし、ドロワーのdrepldがわかっている場合には、refDrawerNameパラメーターではなく、refDrepldパラメーターを指定すると処理が速くなります。指定例を示します。

```
(略) ..., refServiceId, refCabinetId, refDrepld, ... (略)
(略) ..., main-doclib, CAB01, 102731068523271, ... (略)
```

上記のデータ行では、サービス「main-doclib」のキャビネット（CAB01）にある、drepldが「102731068523271」であるオブジェクトを、参照先として指定しています。

## ダイレクト形式（キャビネット）で指定する方法

オブジェクト（キャビネット）を直接指定することによって、通常リファレンスの参照先を指定する方法です。

ダイレクト形式（キャビネット）で指定する場合は、次のパラメーターを組み合わせで指定します。

- ・ refServiceId パラメーターに、参照先のキャビネットがあるサービスの serviceId を指定
- ・ refCabinetId パラメーターに、参照先のキャビネットの cabinetId を指定
- ・ refObjectId パラメーターに、参照先のキャビネットオブジェクトの objectId を指定

指定例を示します。

```
(略) ..., refServiceId, refCabinetId, ... (略)
(略) ..., main-doclib, CAB01, ... (略)
```

上記のデータ行では、サービス「main-doclib」のキャビネット（CAB01）を、参照先として指定しています。

## キャビネット起点の検索条件で指定する方法

キャビネットを起点とした検索条件を指定して、検索によって特定されたオブジェクトを、通常リファレンスまたはハードリファレンスの参照先とする方法です。検索処理に時間がかかるので、ダイレクト形式による指定方法よりも処理が遅くなります。

キャビネット起点の検索条件を指定する場合は、次のパラメーターを組み合わせで指定します。

- ・ refServiceId パラメーターに、参照先オブジェクトがあるサービスの serviceId を指定
- ・ refCabinetId パラメーターに、参照先オブジェクトがあるキャビネットの cabinetId を指定
- ・ refCondition パラメーターに、検索条件を指定
- ・ refObjectId パラメーターに、参照先オブジェクトがあるキャビネットオブジェクトの objectId を指定
- ・ refDepthFromSearchRoot パラメーターに、検索範囲の階層数を指定

refDepthFromSearchRootパラメーターを指定した場合の検索対象は、キャビネット起点から指定された階層にあるオブジェクトだけです。このパラメーターに指定できる値の範囲は、2以上で、キャビネット作成時に指定したフォルダー階層限界値以下の値でなければなりません。

**参照** 検索条件の記述方法については、[\[2.3.12 検索条件の記述形式\] \(P.215\)](#) を参照してください。

指定例を示します。

```
(略) ...,refServiceId,refCabinetId,refCondition,... (略)
(略) ...,main-doclib,CAB01,system:name "cad" user:dataNum 1,... (略)
```

上記のデータ行では、サービス「main-doclib」のキャビネット（CAB01）を起点とした検索条件に基づいて、参照先オブジェクトを指定しています。検索条件は、name属性値が「cad」であり、dataNum属性値が「1」というものです。

## ドロワー起点の検索条件で指定する方法

ドロワーを起点とした検索条件を指定して、検索によって特定されたオブジェクトを、通常リファレンスまたはハードリファレンスの参照先とする方法です。検索処理に時間がかかるので、ダイレクト形式による指定方法よりも処理が遅くなります。

ドロワー起点の検索条件を指定する場合は、次のパラメーターを組み合わせで指定します。

- ・ refServiceId パラメーターに、参照先オブジェクトがあるサービスの serviceID を指定
- ・ refCabinetId パラメーターに、参照先オブジェクトがあるキャビネットの cabinetID を指定
- ・ refDrawerName パラメーターに、参照先オブジェクトがあるドロワーの名前を指定
- ・ refCondition パラメーターに、検索条件を指定
- ・ refDepthFromSearchRoot パラメーターに、検索範囲の階層数を指定

refDepthFromSearchRootパラメーターを指定した場合の検索対象は、ドロワー起点から指定された階層にあるオブジェクトだけです。このパラメーターに指定できる値の範囲は、1以上で、キャビネット作成時に指定したフォルダー階層限界値以下の値でなければなりません。

**参照** 検索条件の記述方法については、[\[2.3.12 検索条件の記述形式\] \(P.215\)](#) を参照してください。

指定例を示します。

```
(略) ...,refServiceId,refCabinetId,refDrawerName,refCondition,... (略)
(略) ...,main-doclib,CAB01,drawer1,system:name "cadfol",... (略)
```

上記のデータ行では、サービス「main-doclib」のキャビネット（CAB01）のドロワー「drawer1」を起点とした検索条件に基づいて、参照先オブジェクトを指定しています。検索条件は、name属性値が「cadfol」というものです。

## ドロワー、フォルダー起点の検索条件で指定する方法

ドロワー、フォルダーを起点とした検索条件を指定して、検索によって特定されたオブジェクトを、通常リファレンスまたはハードリファレンスの参照先とする方法です。検索処理に時間がかかるので、ダイレクト形式による指定方法よりも処理が遅くなります。

ドロワー、フォルダー起点の検索条件を指定する場合は、次のパラメーターを組み合わせで指定します。

- ・ refServiceId パラメーターに、参照先オブジェクトがあるサービスの serviceID を指定
- ・ refCabinetId パラメーターに、参照先オブジェクトがあるキャビネットの cabinetID を指定
- ・ refDrepld パラメーターに、参照先オブジェクトがあるドロワー、フォルダーの drepld を指定

- ・ refCondition パラメーターに、検索条件を指定
- ・ refObjectId パラメーターに、参照先オブジェクトがあるドローオブジェクト、フォルダーオブジェクトの objectId を指定
- ・ refDepthFromSearchRoot パラメーターに、検索範囲の階層数を指定

refDepthFromSearchRootパラメーターを指定した場合の検索対象は、ドローやフォルダー起点から指定された階層にあるオブジェクトだけです。このパラメーターに指定できる値の範囲は、1以上で、キャビネット作成時に指定したフォルダー階層限界値以下の値でなければなりません。

**参照** 検索条件の記述方法については、[\[2.3.12 検索条件の記述形式\] \(P.215\)](#) を参照してください。

指定例を示します。

```
(略) ...,refServiceId,refCabinetId,refDrepId,refCondition,... (略)
(略) ...,main-doclib,CAB01,102731068523271,system:name "cadfol",... (略)
```

上記のデータ行では、サービス「main-doclib」のキャビネット（CAB01）の、drepIdが「102731068523271」であるオブジェクト（ドロー、フォルダー）を起点とした検索条件に基づいて、参照先オブジェクトを指定しています。検索条件は、name属性値が「cadfol」というものです。

## 版番号およびリビジョン番号で指定する方法

版番号およびリビジョン番号で特定されるオブジェクトを、通常リファレンスまたはハードリファレンスの参照先とする方法です。この指定方法は、参照先のオブジェクトが版管理されている場合のみ有効です。指定方法には、次の種類があります。

### ■ 常に最新エディションのオブジェクトを参照させる方法

通常リファレンスに、常に最新エディションのオブジェクトを参照させる場合は、次のようにパラメーターを指定します。

- ・ refServiceId パラメーターに、参照先オブジェクトがあるサービスの serviceID を指定
- ・ refCabinetId パラメーターに、参照先オブジェクトがあるキャビネットの cabinetID を指定
- ・ refEditionKey パラメーターに、エディションキー（版管理属性）値を指定
- ・ refEditionNumber パラメーターに、「-1」を指定
- ・ refRevisionNumber パラメーターを指定しない

### ■ 現時点における最新エディションのオブジェクトを参照させる方法

通常リファレンスまたはハードリファレンスに、現時点における最新エディションのオブジェクトを参照させる場合は、次のようにパラメーターを指定します。

- ・ refServiceId パラメーターに、参照先オブジェクトがあるサービスの serviceID を指定
- ・ refCabinetId パラメーターに、参照先オブジェクトがあるキャビネットの cabinetID を指定
- ・ refEditionKey パラメーターに、エディションキー（版管理属性）値を指定
- ・ refEditionNumber パラメーターに、「0」を指定
- ・ refRevisionNumber パラメーターを指定しない

### ■ 現時点における特定のエディションのオブジェクトを参照させる方法

通常リファレンスまたはハードリファレンスに、現時点における特定のエディションのオブジェクトを参照させる場合は、次のようにパラメーターを指定します。

- ・ refServiceId パラメーターに、参照先オブジェクトがあるサービスの serviceID を指定
- ・ refCabinetId パラメーターに、参照先オブジェクトがあるキャビネットの cabinetID を指定
- ・ refEditionKey パラメーターに、エディションキー（版管理属性）値を指定
- ・ refEditionNumber パラメーターに、版番号（1以上の整数）を指定

- ・ refRevisionNumber パラメーターを指定しない

**補足** 指定した版番号が存在しない場合は、そのデータ行に指定したリファレンス生成がエラーとなります。

## ■ 現時点における最新エディション、最新リビジョンのオブジェクトを参照させる方法

通常リファレンスに、現時点における最新エディションであり、最新リビジョンであるオブジェクトを参照させる場合は、次のようにパラメーターを指定します。

- ・ refServiceId パラメーターに、参照先オブジェクトがあるサービスの serviceId を指定
- ・ refCabinetId パラメーターに、参照先オブジェクトがあるキャビネットの cabinetId を指定
- ・ refEditionKey パラメーターに、エディションキー（版管理属性）値を指定
- ・ refEditionNumber パラメーターに、「0」を指定
- ・ refRevisionNumber パラメーターに、「0」を指定

## ■ 現時点における特定のエディション、最新リビジョンのオブジェクトを参照させる方法

通常リファレンスに、現時点における特定のエディションであり、最新リビジョンであるオブジェクトを参照させる場合は、次のようにパラメーターを指定します。

- ・ refServiceId パラメーターに、参照先オブジェクトがあるサービスの serviceId を指定
- ・ refCabinetId パラメーターに、参照先オブジェクトがあるキャビネットの cabinetId を指定
- ・ refEditionKey パラメーターに、エディションキー（版管理属性）値を指定
- ・ refEditionNumber パラメーターに、版番号（1以上の整数）を指定
- ・ refRevisionNumber パラメーターに、「0」を指定

**補足** 指定した版番号が存在しない場合は、そのデータ行に指定したリファレンス生成がエラーとなります。

## ■ 現時点における特定のエディション、特定のリビジョンのオブジェクトを参照させる方法

通常リファレンスに、現時点における特定のエディションであり、特定のリビジョンであるオブジェクトを参照させる場合は、次のようにパラメーターを指定します。

- ・ refServiceId パラメーターに、参照先オブジェクトがあるサービスの serviceId を指定
- ・ refCabinetId パラメーターに、参照先オブジェクトがあるキャビネットの cabinetId を指定
- ・ refEditionKey パラメーターに、エディションキー（版管理属性）値を指定
- ・ refEditionNumber パラメーターに、版番号（1以上の整数）を指定
- ・ refRevisionNumber パラメーターに、リビジョン番号（1以上の整数）を指定

**補足** 指定した版番号またはリビジョン番号が存在しない場合は、そのデータ行に指定したリファレンス生成がエラーとなります。

### 2.3.5 存在チェックの対象オブジェクトの指定方法

一括登録処理を実行する前に、特定のオブジェクトの存在チェックができます。存在チェックの結果に応じて、一括登録を実行したり、実行をスキップしたりできます。存在チェックを行うかどうか、また行う場合は、結果に応じて一括登録をどのように実行するかを指定するパラメーターは、existenceCheckです。

存在チェックを行う場合は、オブジェクト登録ファイル中に、存在チェックの対象オブジェクトを指定する必要があります。

存在チェックの対象オブジェクトの指定方法には、次の4種類があります。

- ・ ダイレクト形式で対象オブジェクトを指定する方法
- ・ キャビネット起点の検索条件で対象オブジェクトを指定する方法

- ・ ドロワー起点の検索条件で対象オブジェクトを指定する方法
- ・ ドロワー、フォルダー起点の検索条件で対象オブジェクトを指定する方法

指定方法に応じて、指定しなければならないパラメーターが次のように異なります。

表：存在チェックの対象オブジェクトを指定するためのパラメーター

指定方法	パラメーター
ダイレクト形式で指定	existenceCheckServiceId、 existenceCheckCabinetId、 existenceCheckDrawerNameまたは existenceCheckDrepld、 existenceCheckObjectId
キャビネット起点の検索条件で指定	existenceCheckServiceId、 existenceCheckCabinetId、 existenceCheckCondition、 existenceCheckObjectId、 existenceCheckDepthFromSearchRoot
ドロワー起点の検索条件で指定	existenceCheckServiceId、 existenceCheckCabinetId、 existenceCheckDrawerName、 existenceCheckCondition、 existenceCheckDepthFromSearchRoot
ドロワー、フォルダー起点の検索条件で指定	existenceCheckServiceId、 existenceCheckCabinetId、 existenceCheckDrawerNameまたは existenceCheckDrepld、 existenceCheckCondition、 existenceCheckObjectId、 existenceCheckDepthFromSearchRoot

これらの記述方法と使用されるパラメーターの関係を次の表に示します。表では、存在チェック先オブジェクト（起点オブジェクト）をexistenceCheckObjectIdパラメーターでの指定と複数のパラメーターによる指定の2つの方法に分けて示します。

- 補足** 表中の記号の意味は次のとおりです。
- ◎：必須のパラメーターです。
  - ：有効なパラメーターです。
  - △：条件によって有効なパラメーターです。
  - －：指定しても無視されます。
  - ×：指定するとエラーになります。
  - ◆：指定すると、意図と異なる記述と判断します。

## ◇ existenceCheckObjectId パラメーターでの指定

パラメーター／記述方法	ダイレクト形式 (dRepository)	検索条件形式 (キャビネット)	検索条件形式 (ド ロワー、フォル ダー)
existenceCheckObjectId	◎ (*5)	◎ (*6)	◎ (*5)
existenceCheckCondition	◆ (*1)	◎	◎
existenceCheckDepthFromSearchRoot	—	—	○

## ◇ 複数パラメーターでの指定

パラメーター／記述方法	ダイレクト形 式 (dRepositor y)	検索条件形式 (キャビネッ ト)	検索条件形式 (ドローワー)	検索条件形式 (ドローワー、 フォルダー)
existenceCheckServiceId	◎	◎	◎	◎
existenceCheckCabinetId	◎	◎	◎	◎
existenceCheckDrawerName	◎ (*2)	◆ (*3)	◎	◆ (*3)
existenceCheckDrepld	◎ (*2)	◆ (*4)	—	◎
existenceCheckCondition	◆ (*1)	◎	◎	◎
existenceCheckDepthFromSearch Root	—	○	○	○

- \* 1：指定された場合は、検索条件形式での指定（検索起点がドローワー）、あるいは、検索条件形式での指定（検索起点がドローワー、フォルダー）で記述されたこととみなします。
- \* 2：existenceCheckDrawerName パラメーター、existenceCheckDrepld パラメーターどちらか一方の指定が必須。両方指定された場合は、existenceCheckDrawerName パラメーターの指定を優先となります。
- \* 3：existenceCheckDrawerName パラメーターが指定された場合は、検索条件形式での指定（検索起点がドローワー）で記述されたこととみなします。
- \* 4：existenceCheckDrawerName パラメーターが指定されておらず、existenceCheckDrepld パラメーターが指定された場合は、検索条件形式での指定（検索起点がドローワー、フォルダー）で記述されたこととみなします。
- \* 5：existenceCheckObjectId パラメーターの値が「オブジェクト ID の文字列表記」の「キャビネット以外のオブジェクト用」の形式でなければなりません。
- \* 6：existenceCheckObjectId パラメーターの値が「オブジェクト ID の文字列表記」の「キャビネット用」の形式でなければなりません。

## ダイレクト形式で指定する方法

サービス、キャビネット、ドローワーをすべて直接指定することによって、存在チェックの対象オブジェクトを指定する方法です。

ダイレクト形式で指定する場合は、次のパラメーターを組み合わせで指定します。

- ・ existenceCheckServiceId パラメーターに、対象オブジェクトがあるサービスの serviceID を指定
- ・ existenceCheckCabinetId パラメーターに、対象オブジェクトがあるキャビネットの cabinetID を指定
- ・ existenceCheckDrawerName パラメーターに、対象オブジェクトがあるドローワーの名前を指定。または、existenceCheckDrepld パラメーターに、対象オブジェクトの drepld を指定
- ・ existenceCheckObjectId パラメーターに、対象オブジェクトの objectId を指定
- ・ existenceCheckDepthFromSearchRoot 検索範囲の階層数を指定

なお、existenceCheckDrawerNameパラメーターとexistenceCheckDrepldパラメーターの両方を指定した場合は、existenceCheckDrawerNameパラメーターの指定が優先されます。ただし、ドローワーのdrepld

がわかっている場合には、`existenceCheckDrawerName`パラメーターではなく、`existenceCheckDrepld`パラメーターを指定すると処理が速くなります。

指定例を示します。

```
(略) ..., existenceCheckServiceId, existenceCheckCabinetId, refCabinetId,
existenceCheckDrawerName, ... (略)
(略) ..., main-doclib, CAB01, drawer1, ... (略)
```

上記のデータ行では、サービス「main-doclib」のキャビネット（CAB01）のドロワー「drawer1」を、存在チェックの対象オブジェクトとして指定しています。

## キャビネット起点の検索条件で指定する方法

キャビネットを起点とした検索条件を指定して、検索によって特定されたオブジェクトを存在チェックの対象とする方法です。検索処理に時間がかかるので、ダイレクト形式による指定方法よりも処理が遅くなります。

キャビネット起点の検索条件を指定する場合は、次のパラメーターを組み合わせで指定します。

- ・ `existenceCheckServiceId` パラメーターに、対象オブジェクトがあるサービスの `serviceId` を指定
- ・ `existenceCheckCabinetId` パラメーターに、対象オブジェクトがあるキャビネットの `cabinetId` を指定
- ・ `existenceCheckCondition` パラメーターに、検索条件を指定
- ・ `existenceCheckObjectId` パラメーターに、対象オブジェクトがあるキャビネットの `objectId` を指定
- ・ `existenceDepthFromSearchRoot` パラメーターに、検索範囲の階層数を指定

`existenceCheckDepthFromSearchRoot`パラメーターを指定した場合の検索対象は、キャビネット起点から指定された階層にあるオブジェクトだけです。このパラメーターに指定できる値の範囲は、2以上で、キャビネット作成時に指定したフォルダー階層限界値以下の値でなければなりません。

**参照** 検索条件の記述方法については、[\[2.3.12 検索条件の記述形式\] \(P.215\)](#) を参照してください。

指定例を示します。

```
(略) ..., existenceCheckServiceId, existenceCheckCabinetId,
existenceCheckCondition, ... (略)
(略) ..., main-doclib, CAB01, system:name "cad" dataNum 1, ... (略)
```

上記のデータ行では、サービス「main-doclib」のキャビネット（CAB01）を起点とした検索条件に基づいて、存在チェックの対象オブジェクトを指定しています。検索条件は、`name`属性値が「cad」であり、`dataNum`属性値が「1」というものです。

## ドロワー起点の検索条件で指定する方法

ドロワーを起点とした検索条件を指定して、検索によって特定されたオブジェクトを存在チェックの対象とする方法です。検索処理に時間がかかるので、ダイレクト形式による指定方法よりも処理が遅くなります。

ドロワー起点の検索条件を指定する場合は、次のパラメーターを組み合わせで指定します。

- ・ `existenceCheckServiceId` パラメーターに、対象オブジェクトがあるサービスの `serviceId` を指定
- ・ `existenceCheckCabinetId` パラメーターに、対象オブジェクトがあるキャビネットの `cabinetId` を指定
- ・ `existenceCheckDrawerName` パラメーターに、対象オブジェクトがあるドロワーの名前を指定
- ・ `existenceCheckCondition` パラメーターに、検索条件を指定
- ・ `existenceCheckDepthFromSearchRoot` パラメーターに、検索範囲の階層数を指定

`existenceCheckDepthFromSearchRoot`パラメーターを指定した場合の検索対象は、ドロワー起点から指定された階層にあるオブジェクトだけです。このパラメーターに指定できる値の範囲は、1以上で、キャビネット作成時に指定したフォルダー階層限界値以下の値でなければなりません。

**参照** 検索条件の記述方法については、[\[2.3.12 検索条件の記述形式\] \(P.215\)](#) を参照してください。

指定例を示します。

```
(略) ...,existenceCheckServiceId,existenceCheckCabinetId,
existenceCheckDrawerName,existenceCheckCondition,... (略)
(略) ...,main-doclib,CAB01,drawer1,system:name "cadfol",... (略)
```

上記のデータ行では、サービス「main-doclib」のキャビネット (CAB01) のドロワー「drawer1」を起点とした検索条件に基づいて、存在チェックの対象オブジェクトを指定しています。検索条件は、name属性値が「cadfol」というものです。

## ドロワー、フォルダー起点の検索条件で指定する方法

ドロワー、フォルダーを起点とした検索条件を指定して、検索によって特定されたオブジェクトを存在チェックの対象とする方法です。検索処理に時間がかかるので、ダイレクト形式による指定方法よりも処理が遅くなります。

ドロワー、フォルダー起点の検索条件を指定する場合は、次のパラメーターを組み合わせで指定します。

- ・ existenceCheckServiceId パラメーターに、対象オブジェクトがあるサービスの serviceID を指定
- ・ existenceCheckCabinetId パラメーターに、対象オブジェクトがあるキャビネットの cabinetID を指定
- ・ existenceCheckDrepId パラメーターに対象オブジェクトがあるドロワー、フォルダーの drepId を指定
- ・ existenceCheckCondition パラメーターに、検索条件を指定
- ・ existenceCheckObjectId パラメーターに、対象オブジェクトがあるドロワー、フォルダーの objectId を指定
- ・ existenceCheckDepthFromSearchRoot パラメーターに、検索範囲の階層数を指定

existenceCheckDepthFromSearchRoot/パラメーターを指定した場合の検索対象は、ドロワーやフォルダー起点から指定された階層にあるオブジェクトだけです。このパラメーターに指定できる値の範囲は、1以上で、キャビネット作成時に指定したフォルダー階層限界値以下の値でなければなりません。

**参照** 検索条件の記述方法については、[\[2.3.12 検索条件の記述形式\] \(P.215\)](#) を参照してください。

指定例を示します。

```
(略) ...,existenceCheckServiceId,existenceCheckCabinetId,
existenceCheckDrepId,existenceCheckCondition,... (略)
(略) ...,main-doclib,CAB01,102731068523271,system:name "cadfol",... (略)
```

上記のデータ行では、サービス「main-doclib」のキャビネット (CAB01) の、drepIdが「102731068523271」であるオブジェクト (ドロワー、フォルダー) を起点とした検索条件に基づいて、存在チェックの対象オブジェクトを指定しています。検索条件は、name属性値が「cadfol」というものです。

## 2.3.6 版管理の指定方法

一括登録によって登録するドキュメントやフォルダー、または生成するリファレンスを、版管理の対象とできます。

**補足** 登録先、生成先のキャビネットが、版管理の対象となっている場合のみ、登録、生成するオブジェクトを版管理の対象にできます。使用するエディションキー（版管理属性）値および版ラベルは、ドキュメント管理サービスの管理ツールによってキャビネットに設定済みのものに限られます。

登録、生成するオブジェクトを版管理の対象とする方法には、次の3種類があります。

- ・ [版番号を指定する方法](#)
- ・ [版ラベルを指定する方法](#)
- ・ [最新版番号を割り当てる方法](#)

指定方法に応じて、指定しなければならないパラメーターが次のように異なります。

表：版管理を指定するためのパラメーター

指定方法	パラメーター
版番号を指定	editionKey、designatedEditionNumber
版ラベルを指定	editionKey、designatedEditionLabel
最新版番号とする	editionKey

**注記** editionKey パラメーターに値を指定せずに登録する場合、登録先のキャビネットについて次の条件がすべて成り立つとエラーになります。

- ・ 版管理されている
- ・ ユニークキーが設定されている
- ・ エディションキーとユニークキーとで同じ属性をキー（の一部）にしている

したがって、一括登録の対象となる可能性のあるキャビネットは、上記の条件が成り立たないようにして作成しておくか、上記の条件が成り立つキャビネットへの一括登録時には必ず editionKey パラメーターに何らかの値を指定するようにして、回避する必要があります。

### 版番号を指定する方法

版番号を指定して、登録、生成するオブジェクトを版管理の対象とする場合は、次のようにパラメーターを指定します。

- ・ editionKey パラメーターに、エディションキー（版管理属性）値を指定
- ・ designatedEditionNumber パラメーターに、版番号（1以上の整数）を指定

designatedEditionNumberパラメーターのほかに、designatedEditionLabelパラメーターも指定した場合は、designatedEditionNumberパラメーターの指定が優先されます。

また、この登録、生成によって、最新エディションでなくなるオブジェクトがある場合、そのオブジェクトの状態をoldStatusパラメーターによって変更できます。

指定例を示します。

```
(略) ..., editionKey, designatedEditionNumber, oldStatus, ... (略)
(略) ..., user:projextX 1,3, system:fixed, ... (略)
```

上記のデータ行では、エディションキーが「projextX属性値が1」であるエディショングループの、版番号「3」として、登録するオブジェクトを版管理の対象としています。この登録の前に最新エディションだったオブジェクトの状態は、「fixed（固定）」に変わります。

## 版ラベルを指定する方法

版ラベルを指定して、登録、生成するオブジェクトを版管理の対象とする場合は、次のようにパラメーターを指定します。

- ・ editionKey パラメーターに、エディションキー（版管理属性）値を指定
- ・ designatedEditionLabel パラメーターに、版ラベルを指定

designatedEditionLabelパラメーターのほかに、designatedEditionNumberパラメーターも指定した場合は、designatedEditionNumberパラメーターの指定が優先されます。

また、この登録、生成によって、最新エディションでなくなるオブジェクトがある場合、そのオブジェクトの状態をoldStatusパラメーターによって変更できます。

指定例を示します。

```
(略) ..., editionKey, designatedEditionLabel, oldStatus, ... (略)
(略) ..., user:projectX 1, C, system:fixed, ... (略)
```

上記のデータ行では、エディションキーが「projectX属性値が1」であるエディショングループの、版ラベル「C」として、登録するオブジェクトを版管理の対象としています。この登録の前に最新エディションだったオブジェクトの状態は、「fixed（固定）」に変わります。

## 最新版番号を割り当てる方法

最新版番号を割り当てて、登録、生成するオブジェクトを版管理の対象とする場合は、次のようにパラメーターを指定します。

- ・ editionKey パラメーターに、エディションキー（版管理属性）値を指定

また、この登録、生成によって、最新エディションでなくなるオブジェクトがある場合、そのオブジェクトの状態をoldStatusパラメーターによって変更できます。

指定例を示します。

```
(略) ..., editionKey, oldStatus, ... (略)
(略) ..., user:projectX 1, system:fixed, ... (略)
```

上記のデータ行では、エディションキーが「projectX属性値が1」であるエディショングループの最新版番号として、登録するオブジェクトを版管理の対象としています。たとえば、版番号「3」のオブジェクトが登録済みの状態で、この登録を行うと、版番号「4」として登録されます。この登録の前に最新エディションだったオブジェクト（版番号「3」のオブジェクト）の状態は、「fixed（固定）」に変わります。

### 2.3.7 処理対象オブジェクトの指定方法

一括登録によって、改版、改訂（リビジョンアップ）、上書き、またはマージを行う場合は、「登録済みのどのオブジェクトを処理対象とするか」を指定する必要があります。また、処理対象のオブジェクトの状態に応じて、処理を実行したり、実行をスキップしたりできます。実行をスキップする状態を指定するためのパラメーターは、skipModeです。

処理対象オブジェクトを指定する方法には、次の3種類があります。

- ・ 最新エディションのオブジェクトを指定する方法（改版、改訂、上書き、マージ）
- ・ 検索条件を指定する方法（改訂、上書き、マージ）
- ・ ダイレクトにオブジェクトを指定する方法（改訂、上書き、マージ）

指定方法に応じて、指定しなければならないパラメーターが次のように異なります。

表：処理対象オブジェクトを指定するためのパラメーター

指定方法	パラメーター
最新エディションのオブジェクトを指定	locationServiceId、locationCabinetId、targetLatestEdition
検索条件で指定	locationServiceId、locationCabinetId、targetCondition
ダイレクトにオブジェクトを指定	locationServiceId、locationCabinetId、locationObjectId、targetDrepld

## 最新エディションのオブジェクトを指定する方法

サービス、キャビネットを直接指定し、さらに、エディションキー（版管理属性）値を指定することによって、エディショングループ中の最新エディションのオブジェクトを処理対象とする方法です。

最新エディションのオブジェクトを指定する場合は、次のパラメーターをすべて指定します。

- ・ locationServiceId パラメーターに、処理対象オブジェクトがあるサービスの serviceID を指定
- ・ locationCabinetId パラメーターに、処理対象オブジェクトがあるキャビネットの cabinetID を指定
- ・ targetLatestEdition パラメーターに、エディションキー（版管理属性）値を指定

指定例を示します。

```
(略) ..., locationServiceId, locationCabinetId, targetLatestEdition, ... (略)
(略) ..., main-doclib, CAB01, user:projextX 1, ... (略)
```

上記のデータ行では、サービス「main-doclib」のキャビネット（CAB01）中で、エディションキーが「projextX属性値が1」であるエディショングループの、最新エディションのオブジェクトを処理対象として指定しています。

## 検索条件で指定する方法

サービス、キャビネットを直接指定し、さらに検索条件を指定して、検索によって特定されたオブジェクトを処理対象とする方法です。

検索条件を指定する場合は、次のパラメーターをすべて指定します。

- ・ locationServiceId パラメーターに、処理対象オブジェクトがあるサービスの serviceID を指定
- ・ locationCabinetId パラメーターに、処理対象オブジェクトがあるキャビネットの cabinetID を指定
- ・ targetCondition パラメーターに、検索条件を指定

**参照** 検索条件の記述方法については、[\[2.3.12 検索条件の記述形式\] \(P.215\)](#) を参照してください。

指定例を示します。

```
(略) ..., locationServiceId, locationCabinetId, targetCondition, ... (略)
(略) ..., main-doclib, CAB01, user:partsname "board" user:projextX 1, ... (略)
```

上記のデータ行では、サービス「main-doclib」のキャビネット（CAB01）中の検索条件に基づいて、処理対象オブジェクトを指定しています。検索条件は、「partsname属性値がboard」であり、「projextX属性値が1」であるというものです。

## ダイレクトにオブジェクトを指定する方法

サービス、キャビネットを直接指定し、さらに、ドキュメント管理サービスIDを指定することによって、ダイレクトにオブジェクトを処理対象とする方法です。

ダイレクトにオブジェクトを指定する場合は、次のパラメーターを指定します。

- ・ locationServiceId パラメーターに、処理対象オブジェクトがあるサービスの serviceId を指定
- ・ locationCabinetId パラメーターに、処理対象オブジェクトがあるキャビネットの cabinetId を指定
- ・ locationObjectId パラメーターに、登録先とするオブジェクトのオブジェクト ID を指定
- ・ targetDrepId パラメーターに、処理対象オブジェクトのドキュメント管理サービス ID を指定

これらの記述方法と使用されるパラメーターの関係を次の表に示します。

**補足** 表中の記号の意味は次のとおりです。

- ◎：必須のパラメーターです。
- ：有効なパラメーターです。
- ◆：指定すると、意図と異なる記述と判断します。

パラメーター／記述方法	ダイレクト形式1	ダイレクト形式2
locationServiceId	◎	◆ (*2)
locationCabinetId	◎	◆ (*2)
locationObjectId	◆ (*1)	◎
targetDrepId	◎	◎

\* 1：指定すると、ダイレクト形式 2 として指定されたものとみなされます。

\* 2：指定しても無視されます。

locationObjectIdパラメーターで指定した場合は、パラメーター値が「オブジェクトIDの文字列表記」の「キャビネット以外のオブジェクト用」の形式でなければなりません。

locationServiceIdとlocationCabinetIdは、locationObjectIdと同時に使用されると、無視されます。指定例を示します。

```
(略) ..., locationServiceId, locationCabinetId, targetDrepId, ... (略)
(略) ..., main-doclib, CAB01, 102731626053681, ... (略)
```

上記のデータ行では、サービス「main-doclib」のキャビネット（CAB01）中で、ドキュメント管理サービスID「102731626053681」のオブジェクトを処理対象として指定しています。

## 2.3.8 改版前のオブジェクトの状態の指定方法

一括登録によって改版すると、最新エディションのオブジェクト（ドキュメント、フォルダー、リファレンス）のコピーが作成されて、そのコピーが最新エディションとなります。そのときに、改版前に最新エディションだったオブジェクトを、指定した「状態」に変更できます。

改版前に最新エディションだったオブジェクトの状態を変更するには、oldStatusパラメーターを使用します。

指定例を示します。

```
(略) ...,oldStatus,... (略)
(略) ...,system:fixed,... (略)
```

上記のデータ行では、改版前に最新エディションだったオブジェクトの状態を「fixed（固定）」に変更するように指定しています。たとえば、版番号「3」のオブジェクトを改版すると、コピーによって版番号「4」のオブジェクトが作成されます。改版前に最新エディションだったオブジェクト（版番号「3」のオブジェクト）の状態は、「fixed（固定）」に変わります。

**注記** 改版操作で oldStatus パラメーターを使用すると、最初に、現時点で最新エディションのオブジェクトの状態を oldStatus パラメーターで指定した状態に変更し、次にそのオブジェクトのコピーを新たに最新エディションとなるように登録します。

このため、たとえば、状態定義をカスタマイズしていない環境で、あるオブジェクトの状態を「obsolete（廃棄）」にすると一般ユーザーには存在しないオブジェクトになります。oldStatus パラメーターに "system:obsolete" を指定して改版操作を行うと、最新エディションのオブジェクトが「obsolete（廃棄）」になり、最新エディションのオブジェクトが存在しなくなるため、新たに最新エディションのオブジェクトを登録する処理がエラーとなります。

oldStatus パラメーターで指定する状態には注意が必要です。

## 2.3.9 コンテントファイルの指定方法

一括登録によって、ドキュメント登録、リファレンス同時生成、改訂（リビジョンアップ）、上書き、またはマージを行う場合、プライマリコンテンツおよびセカンダリコンテンツをオブジェクトに設定できます。

コンテンツファイルを指定する方法には、次の3種類があります。

- ・絶対パスを指定する方法
- ・ルートディレクトリーからのパスを指定する方法
- ・相対パスを指定する方法

指定方法に応じて、指定しなければならないパラメーターが次のように異なります。

表：コンテンツファイルを指定するためのパラメーター

指定方法	パラメーター
絶対パスを指定	{コンテンツラベル} .storePath
ルートディレクトリーからのパスを指定	{コンテンツラベル} .storePath
相対パスを指定	{コンテンツラベル} .storePath、 {コンテンツラベル} .storeDirPath

### 絶対パスを指定する方法

コンテンツファイルを絶対パスによって指定する方法です。

コンテンツファイルを絶対パスによって指定する場合は、次のようにパラメーターを指定します。

- ・ {コンテンツラベル} .storePath パラメーターに、「{ドライブ名} :\」または「{ドライブ名} :/」で始まる絶対パスを指定

指定例を示します。

```
(略) ..., system:primary.storeDirPath, system:primary.storePath, ... (略)
(略) ..., c:¥data, d:¥document¥data1.tif, ... (略)
```

上記のデータ行では、storePathパラメーターが絶対パスで指定されているので、プライマリコンテンツファイルとして、「d:¥document¥data1.tif」が登録されます。storeDirPathパラメーターは指定しても使われません。

## ルートディレクトリーからのパスを指定する方法

コンテンツファイルをルートディレクトリーからのパスによって指定する方法です。

ルートディレクトリーからのパスによって指定する場合は、次のようにパラメーターを指定します。

- ・ {コンテンツラベル} .storePath パラメーターに、「¥」または「/」で始まるパスを指定

指定例を示します。

```
(略) ..., system:primary.storeDirPath, system:primary.storePath, ... (略)
(略) ..., c:¥data, ¥document¥data1.tif, ... (略)
```

上記のデータ行では、storePathパラメーターがルートディレクトリーからのパスで指定されているので、プライマリコンテンツファイルとして、「{カレントドライブ} :¥document¥data1.tif」が登録されます。たとえば、eドライブで一括登録コマンドを実行した場合は、「e:¥document¥data1.tif」が登録されます。storeDirPathパラメーターは指定しても使われません。

## 相対パスを指定する方法

コンテンツファイルを相対パスによって指定する方法です。

相対パスによって指定する場合は、次のようにパラメーターを指定します。

- ・ {コンテンツラベル} .storePath パラメーターに相対パスを指定
- ・ {コンテンツラベル} .storeDirPath パラメーターに、基底ディレクトリーを指定

指定例を示します。

```
(略) ..., system:primary.storeDirPath, system:primary.storePath, ... (略)
(略) ..., c:¥data, data1.tif, ... (略)
```

上記のデータ行では、storePathパラメーターが相対パスで指定されているので、storeDirPathパラメーターとの組み合わせによって、プライマリコンテンツファイルとして、「c:¥data¥data1.tif」が登録されます。

## セカンダリコンテンツを指定する方法

プライマリコンテンツファイルを指定する場合に、「system:primary.storePath」のようにパラメーターを指定する例を説明しましたが、セカンダリコンテンツの指定も同様に行います。

指定例を示します。

```
(略) ..., system:view.storePath, system:print.storePath, ... (略)
(略) ..., c:¥data¥data2.tif, c:¥data¥data2.pdf, ... (略)
```

上記のデータ行では、インデックス表示用のセカンダリコンテンツファイルとして「c:¥data¥data2.tif」を、印刷用のセカンダリコンテンツファイルとして「c:¥data¥data2.pdf」が登録されます。

## 2.3.10 コンテントファイルの変換を指定する方法

一括登録によって、ドキュメント登録、リファレンス同時生成、改訂（リビジョンアップ）、上書き、またはマージの場合、コンテントファイルの変換ができます。

コンテントファイルの変換を指定する場合は、次のようにパラメーターを指定します。

- ・ storedConformation パラメーターに、変換後の MIME タイプを指定

- 補足**
- ・ オブジェクト登録ファイルに storedConformation パラメーターを指定する場合は、基本パラメーターファイルに transformer タグを指定する必要があります。
  - ・ 登録時にコンテントファイルの変換が行われた場合、ファイル名の拡張子を変換後の MIME タイプに適した拡張子に変換して、ファイル名属性に設定します。

## 2.3.11 内容依存情報の更新を指定する方法

一括登録によって、ドキュメント登録、リファレンス同時生成、改版、改訂（リビジョンアップ）、上書き、またはマージを行う場合、内容依存情報の更新によって、セカンダリコンテンツを生成できます。

内容依存情報の更新を指定する場合は、次のようにパラメーターを指定します。

- ・ updateSecondaryContent パラメーターに、更新対象のコンテンツラベルを指定
- ・ updateContentInformation パラメーターに、プライマリコンテンツの内容に依存する属性を更新するかどうかを指定

指定例を示します。

```
(略) ..., updateSecondaryContent, updateContentInformation, ... (略)
(略) ..., system:view|system:print, true, ... (略)
```

上記のデータ行では、インデックス表示用コンテンツ (view)、および印刷用コンテンツ (print) について、内容依存情報の更新を指定しています。プライマリコンテンツの内容に依存する属性も更新します。

次の例のように、updateSecondaryContentパラメーターに同じコンテンツラベルを重複して記述してもエラーにはなりません。重複指定分を無視して処理します。

```
(略) ..., updateSecondaryContent, updateContentInformation, ... (略)
(略) ..., system:view|system:print|system:view, true, ... (略)
```

## 2.3.12 検索条件の記述形式

オブジェクト登録ファイル中のパラメーターに検索条件を指定し、検索によってオブジェクトを特定できます。この検索では、属性値に関する判定が行われます。

検索条件を指定するパラメーターは、次のとおりです。

- ・ locationCondition
- ・ refLocationCondition
- ・ nextCondition
- ・ refNextCondition
- ・ refCondition
- ・ existenceCheckCondition
- ・ targetCondition

検索条件として指定できる属性は、次のとおりです。

- ・ 数値型
- ・ 文字列型
- ・ ブール型
- ・ 日時型
- ・ アトム型
- ・ プリンシパル型
- ・ ユーザーロール型

この検索条件の記述形式は、基本パラメーターファイルでも使用されます。

**参照** 詳細については、[\[付録 B 検索条件の記述形式\] \(P.272\)](#) を参照してください。

## 2.4 処理内容に応じたオブジェクト登録ファイル

オブジェクト登録ファイルに指定するパラメーターは、一括登録の処理内容に応じて変わります。一括登録の処理内容ごとのオブジェクト登録ファイルの記述について、次に示します。

### 2.4.1 ドキュメント登録の場合

一括登録でドキュメント登録を行う場合は、オブジェクト登録ファイルに次の指定を記述します。

#### システム属性値の指定

name属性値、status属性値をパラメーターに指定できます。なお、name属性値は、登録するドキュメント名となります。

#### ユーザー属性の指定

登録するドキュメントに対してユーザー属性値を設定する場合に、ユーザー属性とその値を指定します。ユーザー属性の指定は任意です。

#### パラメーターの指定

オブジェクト登録ファイルのさまざまなパラメーターを使用して、ドキュメント登録に必要な情報を指定します。

##### ■ 処理内容の指定

ドキュメント登録を行う場合は、entryModeパラメーターに「entity」を指定します。entryModeは必須パラメーターです。

##### ■ 登録先の指定

ドキュメントの登録先を指定するには、specifyLocation、locationServiceIdなどの複数のパラメーターを使用します。また、指定方法も複数あり、使用するパラメーターがそれぞれ異なります。

**参照** 登録先を指定するためのパラメーターについては、[\[2.3.2 登録先、生成先の指定方法\] \(P.190\)](#) を参照してください。

##### ■ 登録位置の指定

ドキュメントの登録位置を指定するには、nextObjectId、nextDreplId、またはnextConditionパラメーターを使用します。

**参照** 登録位置を指定するためのパラメーターについては、[\[2.3.3 登録位置、生成位置の指定方法\] \(P.195\)](#) を参照してください。

##### ■ 存在チェックに関する指定

特定のオブジェクトの存在をチェックして、その結果に応じて、ドキュメント登録を実行するかどうかを指定できます。

ドキュメント登録の実行を指示するためのパラメーターはexistenceCheckです。次のいずれかを指定します。

- ・ 存在チェックを行わない場合：ignore
- ・ オブジェクトが存在する場合に、ドキュメント登録を実行する場合：do
- ・ オブジェクトが存在する場合に、ドキュメント登録を実行しない場合：skip

存在チェックの対象オブジェクトを指定するには、existenceCheckServiceId、existenceCheckCabinetIdなどの複数のパラメーターを使用します。また、指定方法も複数あり、使用するパラメーターがそれぞれ異なります。

**参照** 存在チェックの対象オブジェクトを指定するためのパラメーターについては、[\[2.3.5 存在チェックの対象オブジェクトの指定方法\] \(P.203\)](#) を参照してください。

## ■ 版管理の指定

登録先のキャビネットにエディションキー（版管理属性）が設定されている場合は、登録するドキュメントを、版管理の対象とできます。また、ドキュメント登録によって、最新エディションでなくなるオブジェクトの状態を変更する場合は、変更後の状態をoldStatusパラメーターに指定します。

ドキュメントを版管理の対象とするには、editionKey、designatedEditionNumberなどの複数のパラメーターを使用します。また、指定方法も複数あり、使用するパラメーターがそれぞれ異なります。

**参照** 版管理を指定するためのパラメーターについては、[\[2.3.6 版管理の指定方法\] \(P.208\)](#) を参照してください。

## ■ コンテンツファイルの指定

ドキュメントとして登録するコンテンツファイルのパスを、{コンテンツラベル} .storePathパラメーターに指定します。

{コンテンツラベル} .storePathパラメーターを省略すると、コンテンツを持たない属性ドキュメントとして登録されます。

{コンテンツラベル} .storePathパラメーターに相対パスを指定した場合は、{コンテンツラベル} .storeDirPathパラメーターに基底ディレクトリーを指定します。

**参照** コンテンツファイルを指定するためのパラメーターについては、[\[2.3.9 コンテンツファイルの指定方法\] \(P.212\)](#) を参照してください。

## ■ コンテンツファイルの変換に関する指定

コンテンツファイルの変換を行う場合、storedConformationパラメーターに、変換後のMIMEタイプを指定します。

**参照** コンテンツファイルの変換を指定するためのパラメーターについては、[\[2.3.10 コンテンツファイルの変換を指定する方法\] \(P.214\)](#) を参照してください。

## ■ 内容依存情報の更新に関する指定

内容依存情報の更新によって、セカンダリコンテンツを生成する場合、updateSecondaryContentパラメーターに、生成するセカンダリコンテンツのコンテンツラベルを指定します。また、プライマリコンテンツの内容に依存する属性を更新するかどうかを、updateContentInformationパラメーターに指定します。

**参照** 内容依存情報の更新を指定するためのパラメーターについては、[\[2.3.11 内容依存情報の更新を指定する方法\] \(P.214\)](#) を参照してください。

## ■ クラスの指定

ドキュメント登録時にクラスを指定する場合は、classパラメーターにクラスを指定します。

## 指定例

ドキュメント登録を行う場合の、オブジェクト登録ファイルの指定例を示します。一部のパラメーターについては、基本パラメーターファイルによって指定済みであると仮定しています。

```
entryMode,locationCondition,name,system:primary.storePath,system:view.storePath,
user:zuban,user:bumon
entity,system:name "Folder1",TestData1,data1.tif,data2.tif,ABC1234,100
```

上記のデータ行では、次の指定を行っています。

- ・ 処理内容は、「ドキュメント登録」
- ・ 登録先は、name 属性値が「Folder1」であるフォルダー
- ・ 登録するドキュメント名は、「TestData1」

- ・プライマリコンテンツファイルは、「data1.tif」
- ・インデックス表示用セカンダリコンテンツファイルは、「data2.tif」
- ・登録するドキュメントの zuban 属性値は「ABC1234」
- ・登録するドキュメントの bumon 属性値は「100」

## 2.4.2 リファレンス生成の場合

---

一括登録でリファレンス生成を行う場合は、オブジェクト登録ファイルに次の指定を記述します。

### システム属性値の指定

refname属性値とstatus属性値をパラメーターに指定できます。なお、refname属性値は、生成するリファレンス名となります。

### ユーザー属性の指定

生成するリファレンスに対してユーザー属性値を設定する場合に、ユーザー属性とその値を指定します。ユーザー属性の指定は任意です。

### パラメーターの指定

オブジェクト登録ファイルのさまざまなパラメーターを使用して、リファレンス生成に必要な情報を指定します。

#### ■ 処理内容の指定

リファレンス生成を行う場合は、entryModeパラメーターに「reference」を指定します。entryModeは必須パラメーターです。

#### ■ リファレンスの種類の指定

生成するリファレンスの種類を指定するには、refModeパラメーターを使用します。次のどちらかを指定します。

- ・通常リファレンスを生成する場合：normal
- ・ハードリファレンスを生成する場合：hard

#### ■ 属性値コピーの指定

参照先オブジェクトの属性値のうち、参照先属性転記ファイルに指定した属性の値を、生成するリファレンスにコピーするかどうかを指定するには、refCopyAttrパラメーターを使用します。次のどちらかを指定します。

- ・コピーする場合：true
- ・コピーしない場合：false

#### ■ 生成先の指定

リファレンスの生成先を指定するには、refSpecifyLocation、refLocationServiceIdなどの複数のパラメーターを使用します。また、指定方法も複数あり、使用するパラメーターがそれぞれ異なります。

**参照** 生成先を指定するためのパラメーターについては、[\[2.3.2 登録先、生成先の指定方法\] \(P.190\)](#) を参照してください。

#### ■ 生成位置の指定

リファレンスの生成位置を指定するには、refNextObjectId、refNextDreplId、またはrefNextConditionパラメーターを使用します。

**参照** 生成位置を指定するためのパラメーターについては、[\[2.3.3 登録位置、生成位置の指定方法\] \(P.195\)](#) を参照してください。

## ■ 参照先オブジェクトの指定

生成するリファレンスが参照するオブジェクトを指定するには、refServiceId、refCabinetIdなどの複数のパラメーターを使用します。また、指定方法も複数あり、使用するパラメーターがそれぞれ異なります。参照先オブジェクトが版管理されている場合は、「常に最新エディションのオブジェクトを参照する」、「特定の版番号、リビジョン番号のオブジェクトを参照する」というようなリファレンスも生成できます。

**参照** 参照先オブジェクトを指定するためのパラメーターについては、[\[2.3.4 リファレンス参照先オブジェクトの指定方法\] \(P.197\)](#) を参照してください。

## ■ 存在チェックに関する指定

特定のオブジェクトの存在をチェックして、その結果に応じて、リファレンス生成を実行するかどうかを指定できます。

リファレンス生成の実行を指示するためのパラメーターはexistenceCheckです。次のいずれかを指定します。

- ・ 存在チェックを行わない場合：ignore
- ・ オブジェクトが存在する場合に、リファレンス生成を実行する場合：do
- ・ オブジェクトが存在する場合に、リファレンス生成を実行しない場合：skip

存在チェックの対象オブジェクトを指定するには、existenceCheckServiceId、existenceCheckCabinetIdなどの複数のパラメーターを使用します。また、指定方法も複数あり、使用するパラメーターがそれぞれ異なります。

**参照** 存在チェックの対象オブジェクトを指定するためのパラメーターについては、[\[2.3.5 存在チェックの対象オブジェクトの指定方法\] \(P.203\)](#) を参照してください。

## ■ 版管理の指定

登録先のキャビネットにエディションキー（版管理属性）が設定されている場合は、生成するリファレンスを、版管理の対象とできます。また、リファレンス生成によって、最新エディションでなくなるオブジェクトの状態を変更する場合は、変更後の状態をoldStatusパラメーターに指定します。

リファレンスを版管理の対象とするには、editionKey、designatedEditionNumberなどの複数のパラメーターを使用します。また、指定方法も複数あり、使用するパラメーターがそれぞれ異なります。

**参照** 版管理を指定するためのパラメーターについては、[\[2.3.6 版管理の指定方法\] \(P.208\)](#) を参照してください。

## ■ クラスの指定

リファレンス生成時にクラスを指定する場合は、refClassパラメーターにクラスを指定します。refClassパラメーターを指定しない場合、参照先のオブジェクトのクラスがリファレンス作成先キャビネットに存在すれば、参照先のオブジェクトと同一クラスになり、リファレンス作成先キャビネットに存在しなければ、「デフォルトクラス」となります。

## 指定例

リファレンス生成を行う場合の、オブジェクト登録ファイルの指定例を示します。一部のパラメーターについては、基本パラメーターファイルによって指定済みであると仮定しています。

```
entryMode, refMode, refLocationCondition, refname, refDrepId
reference, normal, system:name "Folder1", reference1, 102731068523271
```

上記のデータ行では、次の指定を行っています。

- ・ 処理内容は、「リファレンス生成」
- ・ 生成するリファレンスは「通常リファレンス」

- ・生成先は、name 属性値が「Folder1」であるフォルダー
- ・生成するリファレンス名は、「reference1」
- ・参照先オブジェクトの drepld は、「102731068523271」

### 2.4.3 リファレンス同時生成の場合

一括登録でリファレンス同時生成を行う場合は、オブジェクト登録ファイルに次の指定を記述します。リファレンス同時生成では、ドキュメントの登録と、そのドキュメントを参照するリファレンスの生成を同時に実行します。

#### システム属性値の指定

name属性値、refName属性値、status属性値をパラメーターに指定できます。なお、name属性値が登録するドキュメント名、refName属性値が生成するリファレンス名となります。

参照先のドキュメントとは異なる名前をリファレンスに付けたい場合は、refName属性値を必ず指定します。

#### ユーザー属性の指定

登録するドキュメントに対してユーザー属性値を設定する場合に、ユーザー属性とその値を指定します。生成するリファレンスには反映されません。ユーザー属性の指定は任意です。

#### パラメーターの指定

オブジェクト登録ファイルのさまざまなパラメーターを使用して、リファレンス同時生成に必要な情報を指定します。指定する情報は、ドキュメント登録に必要なものと、リファレンス生成に必要なものの両方となります。

- 参照**
- ・ドキュメント登録に関するパラメーターの指定については、[\[2.4.1 ドキュメント登録の場合\] \(P.216\)](#) の [\[パラメーターの指定\] \(P.216\)](#) を参照してください。
  - ・リファレンス生成に関するパラメーターの指定については、[\[2.4.2 リファレンス生成の場合\] \(P.218\)](#) の [\[パラメーターの指定\] \(P.218\)](#) を参照してください。

#### ■ 処理内容の指定

リファレンス同時生成を行う場合は、entryModeパラメーターに「entityAndReference」を指定します。entryModeは必須パラメーターです。

#### ■ クラスの指定

- ・登録するドキュメントに対してクラスを指定する場合は、class パラメーターにクラスを指定します。
- ・登録するドキュメントを参照するリファレンスに対してクラスを指定する場合は、refClass パラメーターにクラスを指定します。  
refClass パラメーターを指定しない場合、参照先のオブジェクトのクラスがリファレンス作成先キャビネットに存在するときには参照先のオブジェクトと同一クラスになり、リファレンス作成先キャビネットに存在しないときには「デフォルトクラス」となります。

#### 指定例

リファレンス同時生成を行う場合の、オブジェクト登録ファイルの指定例を示します。一部のパラメーターについては、基本パラメーターファイルによって指定済みであると仮定しています。

```
entryMode,locationCondition,refLocationCondition,name,system:primary.storePath
entityAndReference,system:name "Folder1",system:name
"Folder2",TestData1,data1.tif
```

上記のデータ行では、次の指定を行っています。

- ・処理内容は、「リファレンス同時生成」
- ・ドキュメント登録先は、name 属性値が「Folder1」であるフォルダー

- ・リファレンス生成先は、name 属性値が「Folder2」であるフォルダー
- ・登録するドキュメント名は、「TestData1」。このドキュメントを参照するリファレンスが生成される
- ・プライマリコンテンツファイルは、「data1.tif」

## 2.4.4 フォルダー登録の場合

一括登録でフォルダー登録を行う場合は、オブジェクト登録ファイルに次の指定を記述します。

### システム属性値の指定

name属性値とstatus属性値をパラメーターに指定できます。なお、name属性値は、登録するフォルダー名となります。

### ユーザー属性の指定

登録するフォルダーに対してユーザー属性値を設定する場合に、ユーザー属性とその値を指定します。ユーザー属性の指定は任意です。

### パラメーターの指定

オブジェクト登録ファイルのさまざまなパラメーターを使用して、フォルダー登録に必要な情報を指定します。

#### ■ 処理内容の指定

フォルダー登録を行う場合は、entryModeパラメーターに「createFolder」を指定します。entryModeは必須パラメーターです。

#### ■ フォルダーラベルの指定

フォルダー登録を行う場合は、folderLabelパラメーターでフォルダーラベルを指定できます。

フォルダーラベルは、specifyLocationパラメーター、refSpecifyLocationパラメーターで使うことができ、これらのパラメーターにフォルダーラベルを指定することで、フォルダーラベルに対応するフォルダーにオブジェクトを登録することが可能となります。

folderLabelパラメーターには、「folder」と「location」以外の文字列を指定してください。「folder」や「location」を指定するとエラーとなります。

オブジェクト登録ファイルの中で、folderLabelパラメーターに指定したフォルダーラベルに重複した値のものがあると、重複したフォルダーラベルを処理する際にエラーとなります。

フォルダーラベルは、一括登録コマンドでフォルダー登録が行われた後、オブジェクト登録ファイルの最後の行を処理するまで有効です。

つまり、フォルダーラベルは、一括登録コマンドの処理内でだけ登録先として指定できます。

#### ■ 登録先の指定

フォルダーの登録先を指定するには、specifyLocation、locationServiceIdなどの複数のパラメーターを使用します。また、指定方法も複数あり、使用するパラメーターがそれぞれ異なります。

**参照** 登録先を指定するためのパラメーターについては、[\[2.3.2 登録先、生成先の指定方法\] \(P.190\)](#) を参照してください。

## ■ 登録位置の指定

フォルダーの登録位置を指定するには、nextObjectId、nextDrepld、またはnextConditionパラメーターを使用します。

**参照** 登録位置を指定するためのパラメーターについては、[\[2.3.3 登録位置、生成位置の指定方法\] \(P.195\)](#) を参照してください。

## ■ 存在チェックに関する指定

特定のオブジェクトの存在をチェックして、その結果に応じて、フォルダー登録を実行するかどうかを指定できます。

フォルダー登録の実行を指示するためのパラメーターはexistenceCheckです。次のいずれかを指定します。

- ・ 存在チェックを行わない場合：ignore
- ・ オブジェクトが存在する場合に、フォルダー登録を実行する場合：do
- ・ オブジェクトが存在する場合に、フォルダー登録を実行しない場合：skip

存在チェックの対象オブジェクトを指定するには、existenceCheckServiceId、existenceCheckCabinetIdなどの複数のパラメーターを使用します。また、指定方法も複数あり、使用するパラメーターがそれぞれ異なります。

**参照** 存在チェックの対象オブジェクトを指定するためのパラメーターについては、[\[2.3.5 存在チェックの対象オブジェクトの指定方法\] \(P.203\)](#) を参照してください。

## ■ 版管理の指定

登録先のキャビネットにエディションキー（版管理属性）が設定されている場合は、登録するフォルダーを、版管理の対象とできます。また、フォルダー登録によって、最新エディションでなくなるオブジェクトの状態を変更する場合は、変更後の状態をoldStatusパラメーターに指定します。

フォルダーを版管理の対象とするには、editionKey、designatedEditionNumberなどの複数のパラメーターを使用します。また、指定方法も複数あり、使用するパラメーターがそれぞれ異なります。

**参照** 版管理を指定するためのパラメーターについては、[\[2.3.6 版管理の指定方法\] \(P.208\)](#) を参照してください。

## ■ クラスの指定

フォルダー登録時にクラスを指定する場合は、classパラメーターにクラスを指定します。

## 指定例

フォルダー登録を行う場合の、オブジェクト登録ファイルの指定例を示します。一部のパラメーターについては、基本パラメーターファイルによって指定済みであると仮定しています。

```
entryMode,locationCondition,name,user:zuban,user:bumon
createFolder,system:name "Folder1",Folder2,ABC,100
```

上記のデータ行では、次の指定を行っています。

- ・ 処理内容は、「フォルダー登録」
- ・ フォルダー登録先は、name 属性値が「Folder1」であるフォルダー
- ・ 登録するフォルダー名は、「Folder2」
- ・ 登録するフォルダーの zuban 属性値は「ABC」
- ・ 登録するフォルダーの bumon 属性値は「100」

フォルダーラベルを指定して登録を行う場合の、オブジェクト登録ファイルの指定例を示します。一部のパラメーターについては、基本パラメーターファイルによって指定済みであると仮定しています。

```
entryMode,specifyLocation,locationCondition,folderLabel
createFolder,location,system:name "Folder1",Folder3
createFolder,Folder3,,Folder4
```

上記のデータ行では、次の指定を行っています。

- ・ 処理内容は、「フォルダー登録」
- ・ 2行目で、「Folder1」というフォルダーの中に、「Folder3」というフォルダーを登録
- ・ 2行目で登録した「Folder3」というフォルダーの中に、3行目で「Folder4」というフォルダーを登録

## 2.4.5 改版の場合

一括登録で改版を行う場合は、オブジェクト登録ファイルに次の指定を記述します。

### システム属性値の指定

改版を行う場合は、name属性値は意味を持ちません。name属性値をパラメーターに指定しても無視されません。

status属性値の指定は任意です。

### ユーザー属性の指定

改版によって作成されるオブジェクトに対してユーザー属性値を設定する場合に、ユーザー属性とその値を指定します。ユーザー属性の指定は任意です。

### パラメーターの指定

オブジェクト登録ファイルのさまざまなパラメーターを使用して、改版に必要な情報を指定します。

#### ■ 処理内容の指定

改版を行う場合は、entryModeパラメーターに「revise」を指定します。entryModeは必須パラメーターです。

#### ■ 登録先の指定

改版の場合は、改版前のオブジェクトと同じ場所に新しいエディションのオブジェクトが作成されるので、登録先を指定しても無視されます。locationServiceIdおよびlocationCabinetIdは、ドキュメントやフォルダーの登録では、登録先の指定のために使われるパラメーターですが、改版では、対象オブジェクトの指定のために使われます。

#### ■ 存在チェックに関する指定

特定のオブジェクトの存在をチェックして、その結果に応じて、改版を実行するかどうかを指定できます。

改版の実行を指示するためのパラメーターはexistenceCheckです。次のいずれかを指定します。

- ・ 存在チェックを行わない場合：ignore
- ・ オブジェクトが存在する場合に、改版を実行する場合：do
- ・ オブジェクトが存在する場合に、改版を実行しない場合：skip

存在チェックの対象オブジェクトを指定するには、existenceCheckServiceId、existenceCheckCabinetIdなどの複数のパラメーターを使用します。また、指定方法も複数あり、使用するパラメーターがそれぞれ異なります。

**参照** 存在チェックの対象オブジェクトを指定するためのパラメーターについては、[\[2.3.5 存在チェックの対象オブジェクトの指定方法\] \(P.203\)](#) を参照してください。

#### ■ 処理対象オブジェクトの指定

改版の処理対象オブジェクトを指定するには、locationServiceId、locationCabinetId、およびtargetLatestEditionパラメーターを使用します。

**参照** 処理対象オブジェクトを指定するためのパラメーターについては、[\[2.3.7 処理対象オブジェクトの指定方法\] \(P.209\)](#) を参照してください。

また、処理対象オブジェクトが特定の状態の場合に、処理をスキップするよう指定できます。処理をスキップする状態を指定するためのパラメーターはskipModeです。

### ■ 改版前のオブジェクトの状態の指定

改版によって、最新エディションでなくなるオブジェクトの状態を変更する場合は、変更後の状態をoldStatusパラメーターに指定します。

### ■ 内容依存情報の更新に関する指定

ドキュメントの改版で、内容依存情報の更新によって、セカンダリコンテンツを生成する場合、updateSecondaryContentパラメーターに、生成するセカンダリコンテンツのコンテンツラベルを指定します。また、プライマリコンテンツの内容に依存する属性を更新するかどうかを、updateContentInformationパラメーターに指定します。

**参照** 内容依存情報の更新を指定するためのパラメーターについては、[\[2.3.11 内容依存情報の更新を指定する方法\]](#) (P.214) を参照してください。

## 指定例

改版を行う場合の、オブジェクト登録ファイルの指定例を示します。一部のパラメーターについては、基本パラメーターファイルによって指定済みであると仮定しています。

```
entryMode,targetLatestEdition,skipMode  
revise,user:zuban "ABC123",system:fixed
```

上記のデータ行では、次の指定を行っています。

- ・ 処理内容は、「改版」
- ・ 処理対象オブジェクトは、エディションキー（版管理属性値）が「zuban 属性値が ABC123」であるエディショングループ中の、最新エディションのオブジェクト
- ・ 処理対象オブジェクトの状態が「fixed」である場合は、処理をスキップする

## 2.4.6 改訂（リビジョンアップ）の場合

一括登録で改訂（リビジョンアップ）を行う場合は、オブジェクト登録ファイルに次の指定を記述します。

### システム属性値の指定

name属性値とstatus属性値をパラメーターに指定できます。なお、name属性値は、改訂（リビジョンアップ）によって登録するドキュメント名となります。

### ユーザー属性の指定

改訂（リビジョンアップ）によって登録するドキュメントに対してユーザー属性値を設定する場合に、ユーザー属性とその値を指定します。ユーザー属性の指定は任意です。

### パラメーターの指定

オブジェクト登録ファイルのさまざまなパラメーターを使用して、改訂（リビジョンアップ）に必要な情報を指定します。

### ■ 処理内容の指定

改訂（リビジョンアップ）を行う場合は、entryModeパラメーターに「revisionUp」を指定します。entryModeは必須パラメーターです。

## ■ 登録先の指定

改訂（リビジョンアップ）の場合は、改訂処理対象ドキュメントと同じ場所に新しいドキュメントが登録されるので、通常は登録先を指定しても無視されます。locationServiceIdおよびlocationCabinetIdは、ドキュメントやフォルダーの登録では、登録先の指定のために使われるパラメーターですが、改訂（リビジョンアップ）では、対象オブジェクトの指定のために通常は使われます。

## ■ 存在チェックに関する指定

特定のオブジェクトの存在をチェックして、その結果に応じて、改訂（リビジョンアップ）を実行するかどうかを指定できます。

改訂（リビジョンアップ）の実行を指示するためのパラメーターはexistenceCheckです。次のいずれかを指定します。

- ・ 存在チェックを行わない場合：ignore
- ・ オブジェクトが存在する場合に、改訂登録を実行する場合：do
- ・ オブジェクトが存在する場合に、改訂を実行しない場合：skip

存在チェックの対象オブジェクトを指定するには、existenceCheckServiceId、existenceCheckCabinetIdなどの複数のパラメーターを使用します。また、指定方法も複数あり、使用するパラメーターがそれぞれ異なります。

**参照** 存在チェックの対象オブジェクトを指定するためのパラメーターについては、[\[2.3.5 存在チェックの対象オブジェクトの指定方法\] \(P.203\)](#) を参照してください。

## ■ 処理対象オブジェクトの指定

改訂（リビジョンアップ）の処理対象オブジェクト（ドキュメント）を指定するには、locationServiceId、targetLatestEdition、targetConditionなどの複数のパラメーターを使用します。また、指定方法も複数あり、使用するパラメーターがそれぞれ異なります。

**参照** 処理対象オブジェクトを指定するためのパラメーターについては、[\[2.3.7 処理対象オブジェクトの指定方法\] \(P.209\)](#) を参照してください。

また、処理対象オブジェクトが特定の状態の場合に、処理をスキップするよう指定できます。処理をスキップする状態を指定するためのパラメーターはskipModeです。

**注記** targetLatestEdition パラメーターまたは targetCondition パラメーターで、対象オブジェクトを検索し、対象オブジェクトが見つからなかった場合は、「新規登録処理」として処理を行います。targetDreplId パラメーターで対象オブジェクトを指定した場合に、対象オブジェクトが存在しなかった場合は、エラーとなります。

## ■ 処理対象オブジェクトが存在しない場合のための指定

改訂（リビジョンアップ）の場合は、登録済みのドキュメントを処理対象オブジェクトとして指定しますが、指定したドキュメントが存在しない場合は、改訂ではなく、ドキュメントの登録が実行されます。

改訂ではなく、ドキュメントの登録が実行される場合のために、登録先、登録位置、版管理に関する指定を、オブジェクト登録ファイル中に次のように記述しておくこともできます。

### ◆ 登録先の指定

ドキュメントの登録先を指定するには、specifyLocation、locationServiceIdなどの複数のパラメーターを使用します。また、指定方法も複数あり、使用するパラメーターがそれぞれ異なります。

改訂（リビジョンアップ）では、処理対象オブジェクトの指定のために、オブジェクト登録ファイル中にlocationServiceIdおよびlocationCabinetIdパラメーターを記述します。処理対象オブジェクトが存在しない場合は、この2つのパラメーターが登録先の指定のために流用されます。

**参照** 登録先を指定するためのパラメーターについては、[\[2.3.2 登録先、生成先の指定方法\] \(P.190\)](#) を参照してください。

### ◆ 登録位置の指定

ドキュメントの登録位置を指定するには、nextObjectId、nextDrepld、またはnextConditionパラメーターを使用します。

**参照** 登録位置を指定するためのパラメーターについては、[\[2.3.3 登録位置、生成位置の指定方法\] \(P.195\)](#) を参照してください。

### ◆ 版管理の指定

登録先のキャビネットにエディションキー（版管理属性）が設定されている場合は、登録するドキュメントを、版管理の対象とできます。また、登録によって、最新エディションでなくなるオブジェクトの状態を変更する場合は、変更後の状態をoldStatusパラメーターに指定します。

ドキュメントを版管理の対象とするには、editionKey、designatedEditionNumberなどの複数のパラメーターを使用します。また、指定方法も複数あり、使用するパラメーターがそれぞれ異なります。

**参照** 版管理を指定するためのパラメーターについては、[\[2.3.6 版管理の指定方法\] \(P.208\)](#) を参照してください。

## ■ コンテントファイルの指定

改訂（リビジョンアップ）を行うときに、ドキュメントとして登録するコンテントファイルのパスを、{コンテントラベル} .storePathパラメーターに指定します。

{コンテントラベル} .storePathパラメーターを省略すると、コンテントを持たない属性ドキュメントとして登録されます。

{コンテントラベル} .storePathパラメーターに相対パスを指定した場合は、  
{コンテントラベル} .storeDirPathパラメーターに基底ディレクトリーを指定します。

**参照** コンテントファイルを指定するためのパラメーターについては、[\[2.3.9 コンテントファイルの指定方法\] \(P.212\)](#) を参照してください。

## ■ コンテントファイルの変換に関する指定

改訂（リビジョンアップ）のときに、コンテントファイルの変換を行う場合、storedConformationパラメーターに、変換後のMIMEタイプを指定します。

**参照** コンテントファイルの変換を指定するためのパラメーターについては、[\[2.3.10 コンテントファイルの変換を指定する方法\] \(P.214\)](#) を参照してください。

## ■ 内容依存情報の更新に関する指定

改訂（リビジョンアップ）のときに、内容依存情報の更新によって、セカンダリコンテントを生成する場合、updateSecondaryContentパラメーターに、生成するセカンダリコンテントのコンテントラベルを指定します。また、プライマリコンテントの内容に依存する属性を更新するかどうかを、updateContentInformationパラメーターに指定します。

**参照** 内容依存情報の更新を指定するためのパラメーターについては、[\[2.3.11 内容依存情報の更新を指定する方法\] \(P.214\)](#) を参照してください。

## 指定例

改訂（リビジョンアップ）を行う場合の、オブジェクト登録ファイルの指定例を示します。一部のパラメータについては、基本パラメーターファイルによって指定済みであると仮定しています。

```
entryMode,targetLatestEdition,primary.storePath
revisionUp,user:zuban "ABC123",test1.tif
```

上記のデータ行では、次の指定を行っています。

- ・ 処理内容は、「改訂（リビジョンアップ）」
- ・ 改訂処理対象オブジェクトは、エディションキーが「zuban 属性値が ABC123」であるエディショングループ中の、最新エディションのドキュメント
- ・ プライマリコンテンツファイルは、「test1.tif」

### 2.4.7 上書きの場合

一括登録で上書きを行う場合は、オブジェクト登録ファイルに次の指定を記述します。

#### システム属性値の指定

name属性値とstatus属性値をパラメーターに指定できます。なお、name属性値は、上書きによって置き換えられたあとのドキュメント名となります。

#### ユーザー属性の指定

上書きによって置き換えられたあとのドキュメントに対して、ユーザー属性値を設定する場合に、ユーザー属性とその値を指定します。ユーザー属性の指定は任意です。

#### パラメーターの指定

オブジェクト登録ファイルのさまざまなパラメーターを使用して、上書きに必要な情報を指定します。

##### ■ 処理内容の指定

上書きを行う場合は、entryModeパラメーターに「overWrite」を指定します。entryModeは必須パラメーターです。

##### ■ 登録先の指定

上書きの場合は、処理対象ドキュメントへの上書きが実行されるので、通常は登録先を指定しても無視されません。locationServiceIdおよびlocationCabinetIdは、ドキュメントやフォルダーの登録では、登録先の指定のために使われるパラメーターですが、上書きでは、対象オブジェクトの指定のために通常は使われません。

##### ■ 存在チェックに関する指定

特定のオブジェクトの存在をチェックして、その結果に応じて、上書きを実行するかどうかを指定できます。

上書きの実行を指示するためのパラメーターはexistenceCheckです。次のいずれかを指定します。

- ・ 存在チェックを行わない場合：ignore
- ・ オブジェクトが存在する場合に、上書きを実行する場合：do
- ・ オブジェクトが存在する場合に、上書きを実行しない場合：skip

存在チェックの対象オブジェクトを指定するには、existenceCheckServiceId、existenceCheckCabinetIdなどの複数のパラメーターを使用します。また、指定方法も複数あり、使用するパラメーターがそれぞれ異なります。

**参照** 存在チェックの対象オブジェクトを指定するためのパラメーターについては、[\[2.3.5 存在チェックの対象オブジェクトの指定方法\] \(P.203\)](#) を参照してください。

## ■ 処理対象オブジェクトの指定

上書きの処理対象オブジェクト（ドキュメント）を指定するには、locationServiceId、targetLatestEdition、targetConditionなどの複数のパラメーターを使用します。また、指定方法も複数あり、使用するパラメーターがそれぞれ異なります。

**参照** 処理対象オブジェクトを指定するためのパラメーターについては、[\[2.3.7 処理対象オブジェクトの指定方法\] \(P.209\)](#) を参照してください。

また、処理対象オブジェクトが特定の状態の場合に、処理をスキップするよう指定できます。処理をスキップする状態を指定するためのパラメーターはskipModeです。

**注記** targetLatestEdition パラメーターまたは targetCondition パラメーターで、対象オブジェクトを検索し、対象オブジェクトが見つからなかった場合は、「新規登録処理」として処理を行います。targetDrepld パラメーターで対象オブジェクトを指定した場合に、対象オブジェクトが存在しなかった場合は、エラーとなります。

## ■ 処理対象オブジェクトが存在しない場合のための指定

上書きの場合は、登録済みのドキュメントを処理対象オブジェクトとして指定しますが、指定したドキュメントが存在しない場合は、上書きではなく、ドキュメントの登録が実行されます。

上書きではなく、ドキュメントの登録が実行される場合のために、登録先、登録位置、版管理に関する指定を、オブジェクト登録ファイル中に次のように記述しておくこともできます。

### ◆ 登録先の指定

ドキュメントの登録先を指定するには、specifyLocation、locationServiceIdなどの複数のパラメーターを使用します。また、指定方法も複数あり、使用するパラメーターがそれぞれ異なります。

上書きでは、処理対象オブジェクトの指定のために、オブジェクト登録ファイル中にlocationServiceIdおよびlocationCabinetIdパラメーターを記述します。処理対象オブジェクトが存在しない場合は、この2つのパラメーターが登録先の指定のために流用されます。

**参照** 登録先を指定するためのパラメーターについては、[\[2.3.2 登録先、生成先の指定方法\] \(P.190\)](#) を参照してください。

### ◆ 登録位置の指定

ドキュメントの登録位置を指定するには、nextObjectId、nextDrepld、またはnextConditionパラメーターを使用します。

**参照** 登録位置を指定するためのパラメーターについては、[\[2.3.3 登録位置、生成位置の指定方法\] \(P.195\)](#) を参照してください。

### ◆ 版管理の指定

登録先のキャビネットにエディションキー（版管理属性）が設定されている場合は、登録するドキュメントを版管理の対象とできます。また、ドキュメント登録によって、最新エディションでなくなるオブジェクトの状態を変更する場合は、変更後の状態をoldStatusパラメーターに指定します。

ドキュメントを版管理の対象とするには、editionKey、designatedEditionNumberなどの複数のパラメーターを使用します。また、指定方法も複数あり、使用するパラメーターがそれぞれ異なります。

**参照** 版管理を指定するためのパラメーターについては、[\[2.3.6 版管理の指定方法\] \(P.208\)](#) を参照してください。

## ■ コンテントファイルの指定

上書きを行うときに、ドキュメントとして登録するコンテントファイルのパスを、{コンテントラベル}.storePathパラメーターに指定します。

{コンテントラベル}.storePathパラメーターを省略すると、コンテントを持たない属性ドキュメントとして登録されます。

{コンテントラベル}.storePathパラメーターに相対パスを指定した場合は、  
{コンテントラベル}.storeDirPathパラメーターに基底ディレクトリーを指定します。

**参照** コンテントファイルを指定するためのパラメーターについては、[\[2.3.9 コンテントファイルの指定方法\] \(P.212\)](#) を参照してください。

## ■ コンテントファイルの変換に関する指定

上書きのときに、コンテントファイルの変換を行う場合、storedConformationパラメーターに、変換後のMIMEタイプを指定します。

**参照** コンテントファイルの変換を指定するためのパラメーターについては、[\[2.3.10 コンテントファイルの変換を指定する方法\] \(P.214\)](#) を参照してください。

## ■ 内容依存情報の更新に関する指定

上書きのときに、内容依存情報の更新によって、セカンダリコンテントを生成する場合、updateSecondaryContentパラメーターに、生成するセカンダリコンテントのコンテントラベルを指定します。また、プライマリコンテントの内容に依存する属性を更新するかどうかを、updateContentInformationパラメーターに指定します。

**参照** 内容依存情報の更新を指定するためのパラメーターについては、[\[2.3.11 内容依存情報の更新を指定する方法\] \(P.214\)](#) を参照してください。

## 指定例

上書きを行う場合の、オブジェクト登録ファイルの指定例を示します。一部のパラメーターについては、基本パラメーターファイルによって指定済みであると仮定しています。

```
entryMode,targetLatestEdition,system:primary:storePath,user:bumon
overWrite,user:zuban "ABC123",data.tif,10
```

上記のデータ行では、次の指定を行っています。

- ・ 処理内容は、「上書き」
- ・ 処理対象オブジェクトは、エディションキーが「zuban 属性値が A123」であるエディショングループの、最新エディションのドキュメント
- ・ 置き換えるプライマリコンテントファイルは、「data.tif」
- ・ 置き換える bumon 属性値は、「10」

## 2.4.8 マージの場合

一括登録でマージを行う場合は、オブジェクト登録ファイルに次の指定を記述します。

### システム属性値の指定

name属性値とstatus属性値をパラメーターに指定できます。なお、name属性値は、マージするオブジェクト名となります。「リファレンスをドキュメントにマージする（オブジェクトカテゴリー属性値）」というように、name、status以外のシステム属性値を変更することはできません。

### ユーザー属性の指定

マージによって、ユーザー属性値を変更できます。

### パラメーターの指定

オブジェクト登録ファイルのさまざまなパラメーターを使用して、マージに必要な情報を指定します。

#### ■ 処理内容の指定

マージを行う場合は、entryModeパラメーターに「merge」を指定します。entryModeは必須パラメーターです。

#### ■ 登録先の指定

マージは処理対象ドキュメントに対する処理なので、通常は登録先を指定しても無視されます。locationServiceIdおよびlocationCabinetIdは、ドキュメントやフォルダーの登録では、登録先の指定のために使われるパラメーターですが、マージでは、対象オブジェクトの指定のために通常は使われます。

#### ■ 存在チェックに関する指定

特定のオブジェクトの存在をチェックして、その結果に応じて、マージを実行するかどうかを指定できます。

マージの実行を指示するためのパラメーターはexistenceCheckです。次のいずれかを指定します。

- ・ 存在チェックを行わない場合：ignore
- ・ オブジェクトが存在する場合に、マージを実行する場合：do
- ・ オブジェクトが存在する場合に、マージを実行しない場合：skip

存在チェックの対象オブジェクトを指定するには、existenceCheckServiceId、existenceCheckCabinetIdなどの複数のパラメーターを使用します。また、指定方法も複数あり、使用するパラメーターがそれぞれ異なります。

**参照** 存在チェックの対象オブジェクトを指定するためのパラメーターについては、[\[2.3.5 存在チェックの対象オブジェクトの指定方法\] \(P.203\)](#) を参照してください。

#### ■ 処理対象オブジェクトの指定

マージの処理対象オブジェクトを指定するには、locationServiceId、targetLatestEditionなどの複数のパラメーターを使用します。また、指定方法も複数あり、使用するパラメーターがそれぞれ異なります。

**参照** 処理対象オブジェクトを指定するためのパラメーターについては、[\[2.3.7 処理対象オブジェクトの指定方法\] \(P.209\)](#) を参照してください。

また、処理対象オブジェクトが特定の状態の場合に、処理をスキップするよう指定できます。処理をスキップする状態を指定するためのパラメーターはskipModeです。

**注記** targetLatestEdition パラメーターまたは targetCondition パラメーターで、対象オブジェクトを検索し、対象オブジェクトが見つからなかった場合は、「新規登録処理」として処理を行います。targetDrepld パラメーターで対象オブジェクトを指定した場合に、対象オブジェクトが存在しなかった場合は、エラーとなります。

## ■ 処理対象オブジェクトが存在しない場合のための指定

マージの場合は、登録済みのオブジェクトを処理対象オブジェクトとして指定しますが、指定したオブジェクトが存在しない場合は、マージではなく、オブジェクトの登録が実行されます。

マージではなく、オブジェクトの登録が実行される場合のために、登録先、登録位置、版管理に関する指定を、オブジェクト登録ファイル中に次のように記述しておくこともできます。

### ◆ 登録先の指定

オブジェクトの登録先を指定するには、specifyLocation、locationServiceIdなどの複数のパラメーターを使用します。また、指定方法も複数あり、使用するパラメーターがそれぞれ異なります。

マージでは、処理対象オブジェクトの指定のために、オブジェクト登録ファイル中にlocationServiceIdおよびlocationCabinetIdパラメーターを記述します。処理対象オブジェクトが存在しない場合は、この2つのパラメーターが登録先の指定のために流用されます。

**参照** 登録先を指定するためのパラメーターについては、[\[2.3.2 登録先、生成先の指定方法\] \(P.190\)](#)を参照してください。

### ◆ 登録位置の指定

オブジェクトの登録位置を指定するには、nextObjectId、nextDrepld、またはnextConditionパラメーターを使用します。

**参照** 登録位置を指定するためのパラメーターについては、[\[2.3.3 登録位置、生成位置の指定方法\] \(P.195\)](#)を参照してください。

### ◆ 版管理の指定

登録先のキャビネットにエディションキー（版管理属性）値が設定されている場合は、登録するオブジェクトを、版管理の対象とできます。また、オブジェクト登録によって、最新エディションでなくなるオブジェクトの状態を変更する場合は、変更後の状態をoldStatusパラメーターに指定します。

オブジェクトを版管理の対象とするには、editionKey、designatedEditionNumberなどの複数のパラメーターを使用します。また、指定方法も複数あり、使用するパラメーターがそれぞれ異なります。

**参照** 版管理を指定するためのパラメーターについては、[\[2.3.6 版管理の指定方法\] \(P.208\)](#)を参照してください。

## ■ コンテンツファイルの指定

ドキュメントのマージを行うときに、マージするコンテンツファイルのパスを、{コンテンツラベル}.storePathパラメーターに指定します。

{コンテンツラベル}.storePathパラメーターを省略すると、コンテンツを持たない属性ドキュメントとして登録されます。

{コンテンツラベル}.storePathパラメーターに相対パスを指定した場合は、

{コンテンツラベル}.storeDirPathパラメーターに基底ディレクトリーを指定します。

**参照** コンテンツファイルを指定するためのパラメーターについては、[\[2.3.9 コンテンツファイルの指定方法\] \(P.212\)](#)を参照してください。

## ■ コンテンツファイルの変換に関する指定

ドキュメントのマージのときに、コンテンツファイルの変換を行う場合、storedConformationパラメーターに、変換後のMIMEタイプを指定します。

**参照** コンテンツファイルの変換を指定するためのパラメーターについては、[\[2.3.10 コンテンツファイルの変換を指定する方法\]](#) (P.214) を参照してください。

## ■ 内容依存情報の更新に関する指定

ドキュメントのマージのときに、内容依存情報の更新によって、セカンダリコンテンツを生成する場合、updateSecondaryContentパラメーターに、生成するセカンダリコンテンツのコンテンツラベルを指定します。また、プライマリコンテンツの内容に依存する属性を更新するかどうかを、updateContentInformationパラメーターに指定します。

**参照** 内容依存情報の更新を指定するためのパラメーターについては、[\[2.3.11 内容依存情報の更新を指定する方法\]](#) (P.214) を参照してください。

## 指定例

マージを行う場合の、オブジェクト登録ファイルの指定例を示します。一部のパラメーターについては、基本パラメーターファイルによって指定済みであると仮定しています。

```
entryMode,targetCondition,system:view.storePath,bumon  
merge,system:name "TEST1" user:zuban "ABC123",data.tif,10
```

上記のデータ行では、次の指定を行っています。

- ・ 処理内容は、「マージ」
- ・ 処理対象オブジェクトは、name 属性値が「TEST1」で、zuban 属性値が「ABC123」であるオブジェクト
- ・ マージするプライマリコンテンツファイルは、「data.tif」
- ・ マージする bumon 属性値は、「10」

# 3 基本パラメーターファイルを用意する

一括登録実行のために用意する、基本パラメーターファイルの記述内容について説明します。

## 3.1 基本パラメーターファイルの構成要素

基本パラメーターファイルはXML形式のファイルです。基本パラメーターファイルは、次の要素から構成されま

す。

```

<?xml version="1.0" encoding="Windows-31J" ?>
<drregistParameter>
  <executionParameter>
    <logFile>c:%tmp%touroku.log</logFile>
    <logMode>all</logMode>
    <entryErrorIgnore>>false</entryErrorIgnore>
    <overflowString>cut</overflowString>
  </executionParameter>
  <defaultParameter>
    <updateSecondaryContent>system:view|system:print</
    updateSecondaryContent>
    <refCopyAttr>>true</refCopyAttr>
  </defaultParameter>
  <locationServiceId>service</locationServiceId>
  <locationCabinetId>CAB01</locationCabinetId>
  <locationCondition>user:UserDefAtom1 "ABC1234" user:UserDefAtom2 10
  </locationCondition>
  <refServiceId>service2</refServiceId>
  <refCabinetName>CAB02</refCabinetName>
  <refCondition>user:UserDefAtom1 "ABC*"</refCondition>
  <refLocationCabinetId>CAB01</refLocationCabinetId>
  <refLocationCondition>user:UserDefAtom1 "A*" user:UserDefAtom2 "Folder"
  </refLocationCondition>
  <storeDirPath>c:%data%content</storeDirPath>
</defaultParameter>
</drregistParameter>

```

XML宣言

ルートタグ

実行パラメータータグ

以下はデフォルトパラメータータグ

## 3.2 基本パラメーターファイルのタグ

基本パラメーターファイル中に指定するタグを次に示します。タグ名は大文字小文字が区別されますので、表に示すとおり指定する必要があります。

### 3.2.1 ルートタグ

基本パラメーターファイルのルートタグを次に示します。

表：基本パラメーターファイルのルートタグ

タグ名	説明
drregistParameter	基本パラメーターファイルのルートタグ 一括登録処理の実行方法を指定するためのexecutionParameterタグ、および オブジェクト登録ファイルのデフォルト設定を指定するための defaultParameterタグを含む

### 3.2.2 実行パラメータータグ

基本パラメーターファイルの実行パラメータータグは、たとえば、ログの出力先、出力するログのメッセージ  
カテゴリ、エラー処理など、一括登録処理の実行方法に関する指定を行うものです。

<executionParameter>と</executionParameter>の間に、必要なタグを指定します。

実行パラメータータグの一覧を次に示します。「デフォルト値」欄の値は、そのタグの指定を省略した場合に  
使用される値です。デフォルト値のないタグもあります。

表：基本パラメーターファイルの実行パラメータータグ

タグ名	型	デフォルト値	説明
executionParameter	—	なし	一括登録処理の実行方法を指定
logFile	文字列	なし	ログ情報の出力先パス名を指定 指定したパスにすでにログファイルが存在する場合は、既 存のログファイルにログ情報が追記される logFileタグを省略すると、ログは標準出力に出力される logFileタグに相対パスを指定すると、コマンド実行時のカ レントディレクトリーを基底とした相対パスに、ログ情報 が出力される
logMode	文字列	all	出力するログ情報のメッセージカテゴリを指定 次のメッセージカテゴリを指定できる。複数指定する場 合は、「 」で区切って指定する all：すべてのメッセージカテゴリのログ情報を出力 start：処理開始メッセージを出力 trace：処理のトレース情報を出力 error：エラーとなった処理についての情報を出力 end：処理終了メッセージを出力
logsObjectId	ブール 値	false	ログに出力されるオブジェクトIDのフォーマットを指定 true: オブジェクトIDの文字列表記のフォーマットで出力 false: serviceld、cabinetld、dreplldをそれぞれ別カラム で出力

表 :基本パラメーターファイルの実行パラメータータグ (続き)

タグ名	型	デフォルト値	説明
entryErrorIgnore	ブール値	false	エラー発生時に処理を続けるかどうかを指定。次のどちらかを指定する true : 処理を続ける false : 当該データ行で処理を中断し、一括登録コマンドを終了する
multipleTarget	文字列	first	改訂、上書き、またはマージの処理において、検索条件に該当するオブジェクトが複数あった場合の実行方法を指定。次のどちらかを指定する first : 該当した最初のオブジェクトに対して、上書きまたはマージを実行 error : エラーとする
multipleReference	文字列	first	リファレンス生成の処理において、検索条件に該当するリファレンス参照先オブジェクトが複数あった場合の実行方法を指定。次のどちらかを指定する first : 該当した最初のオブジェクトを参照先として、リファレンスを生成 error : エラーとする
multipleLocation	文字列	first	ドキュメント登録先、またはリファレンス生成先として、検索条件に該当するオブジェクトが複数あった場合の実行方法を指定。次のどちらかを指定する first : 該当した最初のオブジェクトを登録先または生成先として、処理を実行 error : エラーとする
overflowString	文字列	error	オブジェクト登録ファイル中に指定した文字列型属性の値が、ドキュメント管理サービスのスキーマ定義の範囲を超えている場合の処理を指定。次のいずれか1つを指定する error : ドキュメント管理サービス側のエラーとする (処理を続けるかどうかは、entryErrorIgnoreタグの指定に依存) check : どの属性についてエラーが発生したかをログに出力 (処理を続けるかどうかは、entryErrorIgnoreタグの指定に依存) cut : スキーマ定義に合うように、文字列を調整して登録する。調整位置が2バイト文字にかかる場合は、その文字をカットする
overWriteMode	文字列	overWrite	上書きの動作を指定。次のどちらかを指定する overWrite : 上書き対象オブジェクトを移動せずに、そのまま上書きを実行 moveAndOverWrite : 上書き対象オブジェクトをデータ登録先に移動したあとで、上書きを実行
transformer	文字列	なし	ファイルフォーマット変換サービスが起動しているホストとポート番号を次の形式で指定する <ホスト>:<ポート番号> ホストだけを指定した場合、ポート番号は1099を指定したものとする storedConformationパラメーターを使用する場合は、必ず指定する。指定がない場合はエラーとなる
encoding	文字列	なし	テキスト形式のファイルを登録する場合の文字セットを指定 encodingタグを省略すると、登録するファイルから文字セットを自動判定する。contentCharsetパラメーターとの同時指定はエラーとなる

表 :基本パラメーターファイルの実行パラメータータグ (続き)

タグ名	型	デフォルト値	説明
contentCharset	文字列	なし	テキスト形式のファイルを登録する場合の文字セットを指定 contentCharsetタグを省略すると、登録するファイルから文字セットを自動判定する。encodingパラメーターとの同時指定はエラーとなる
csvCharset	文字列	なし	オブジェクト登録ファイルの読み込み、ログ情報ファイルへの書き込みで使用される文字セットを指定する。 サポートする値は、次のとおり。 ・ UTF-8 ・ windows-31j (日本語) ・ windows-1252 (英語) ・ GBK、GB18030 (Unicode で基本面に入るもののみ) (簡体中国語) ・ x-windows-950 (繁体中国語) ・ x-windows-949 (韓国語) 指定が無い場合は、コマンドを実行したJavaVMのデフォルトエンコーディングで処理される

**注記** 一括登録コマンド (drregist) でテキストファイル、HTML ファイルなど Content-Type が text/\* として処理されるファイルを登録する場合は、基本パラメーターファイルの実行パラメーター contentCharset に適切な文字コードを指定するようにしてください。  
Windows の場合、JavaVM のデフォルトエンコーディングは「MS932」となるため、実行パラメーター contentCharset を指定しない場合、自動判定で「MS932」と判定されると、登録したファイルの charset に「MS932」を指定したことになり、検索エンジン連携での検索インデックスの対象となりません。

### 3.2.3 デフォルトパラメータータグ

基本パラメーターファイルのデフォルトパラメータータグは、オブジェクト登録ファイル中のパラメーターのデフォルト設定を指定するものです。<defaultParameter>と</defaultParameter>の間に、必要なタグを指定します。

デフォルトパラメータータグの内容は、オブジェクト登録ファイルのパラメーターと共通です。このため、デフォルトパラメータータグの具体的な指定方法についての説明を、ここでは省略します。

**参照** オブジェクト登録ファイルのパラメーターの指定方法については、[\[2.3 オブジェクト登録ファイルのパラメーター\] \(P.184\)](#) を参照してください。

デフォルトパラメータータグの一覧を次に示します。「デフォルト値」欄の値は、そのタグの指定を省略した場合に使用される値です。デフォルト値のないタグもあります。

表 :基本パラメーターファイルのデフォルトパラメータータグ

タグ名	型	デフォルト値	説明
defaultParameter	—	なし	オブジェクト登録ファイル中のパラメーターのデフォルト設定を指定
status	アトム	なし	オブジェクトに設定するstatus属性値を指定

表 :基本パラメーターファイルのデフォルトパラメータータグ (続き)

タグ名	型	デフォルト値	説明
class	アトム	null値 (デフォルトクラス)	オブジェクトに付加されるクラス このパラメーターを指定しない場合や、パラメーター値に空文字列を指定した場合は、「デフォルトクラス」が設定される。パラメーター値に、特殊文字列「¥0」を指定すると、「クラスなし」が設定される。また、クラスとして定義されていない不正な値を指定した場合は、エラーとなる。
refClass	アトム	null値 (デフォルトクラス)	リファレンスに設定するクラス属性の値を指定 特殊文字列「¥0」を指定すると、「クラスなし」となる。指定がない場合は、「デフォルトクラス」となる。
specifyLocation	文字列	location	ドキュメントまたはフォルダーの登録先を指定。次のどちらかを指定する location : 「location」で始まるパラメーターで指定する登録先 folder : 直前に登録したフォルダー (該当するフォルダーがない場合はエラーとなる)
refSpecifyLocation	文字列	location	リファレンスの生成先を指定。次のどちらかを指定する location : 「refLocation」で始まるパラメーターで指定する登録先 folder : 直前に登録したフォルダー (該当するフォルダーがない場合はエラーとなる)
storeDirPath	文字列	なし	オブジェクト登録ファイル中のstorePathパラメーターに相対パスを指定した場合の、基底ディレクトリーを指定
updateSecondaryContent	アトム	なし	内容依存情報の更新を行うときに、生成するセカンダリコンテンツのラベルを指定。複数指定する場合は「 」で区切る
updateContentInformation	ブール値	false	内容依存情報の更新を行うときに、プライマリコンテンツに依存する属性を更新するかどうかを指定。次のどちらかを指定する true : 更新する false : 更新しない
refCopyAttr	ブール値	false	リファレンス生成時に、参照先オブジェクトの属性値をコピーするかどうかを指定。次のどちらかを指定する true : コピーする false : コピーしない
skipMode	アトム	なし	データ行の処理を始める前に、処理対象のオブジェクトの状態を確認し、特定の状態だった場合に、そのオブジェクトを処理対象から外し、次のデータ行に処理を進められる 改版、改訂 (リビジョンアップ)、上書き、マージの場合のみ有効 処理対象から外す状態を、skipModeパラメーターによって指定。複数指定する場合は「 」で区切る
locationServiceId	文字列	なし	ドキュメント登録先とするサービスのserviceIDを指定
locationCabinetId	文字列	なし	ドキュメント登録先とするキャビネットのcabinetIDを指定
locationDrawerName	文字列	なし	ドキュメント登録先とするドロワーの名前を指定

表 :基本パラメーターファイルのデフォルトパラメータータグ (続き)

タグ名	型	デフォルト値	説明
locationDrepld	数値	なし	ドキュメント登録先とするドロワーまたはフォルダーのdrepldを指定
locationObjectId	文字列	なし	データ登録先のObjectIdの文字列表記を指定 (ダイレクト形式で指定する場合や検索条件式での検索起点を指定する場合に指定)
locationCondition	検索文字列	なし	ドキュメント登録先を特定するための検索条件を指定。検索条件の記述方法については、 <a href="#">[2.3.12 検索条件の記述形式] (P.215)</a> を参照
locationDepthFromSearchRoot	数値	なし	データ登録先の検索範囲となる階層数を指定 (locationConditionパラメーターを指定した場合のみ有効)
nextDrepld	数値	なし	ドキュメント登録位置を示すdrepldを指定
nextObjectId	文字列	なし	データ登録位置のObjectIdの文字列表記を指定 (ダイレクト形式で指定する場合や検索条件式での検索起点を指定する場合に指定)
nextCondition	検索文字列	なし	ドキュメント登録位置を特定するための検索条件を指定。検索条件の記述方法については、 <a href="#">[2.3.12 検索条件の記述形式] (P.215)</a> を参照
refMode	文字列	normal	生成するリファレンスの種類を指定。次のどちらかを指定する normal : 通常リファレンス hard : ハードリファレンス
refServiceId	文字列	なし	生成するリファレンスが参照するオブジェクトを特定するために、そのオブジェクトがあるサービスのserviceIDを指定
refCabinetId	文字列	なし	生成するリファレンスが参照するオブジェクトを特定するために、そのオブジェクトがあるキャビネットのcabinetIDを指定
refDrawerName	文字列	なし	生成するリファレンスが参照するオブジェクトを特定するために、そのオブジェクトがあるドロワーの名前を指定
refDrepld	数値	なし	生成するリファレンスが参照するオブジェクトを特定するために、drepldを指定
refObjectId	文字列	なし	リファレンス参照先のObjectIdの文字列表記を指定 (ダイレクト形式で指定する場合や検索条件式での検索起点を指定する場合に指定)
refCondition	検索文字列	なし	生成するリファレンスが参照するオブジェクトを特定するための検索条件を指定。検索条件の記述方法については、 <a href="#">[2.3.12 検索条件の記述形式] (P.215)</a> を参照
refDepthFromSearchRoot	数値	なし	リファレンス参照先の検索範囲となる階層数を指定 (refConditionパラメーターを指定した場合のみ有効)
refLocationServiceId	文字列	なし	リファレンス生成先とするサービスのserviceIDを指定
refLocationCabinetId	文字列	なし	リファレンス生成先とするキャビネットのcabinetIDを指定

表 :基本パラメーターファイルのデフォルトパラメータータグ (続き)

タグ名	型	デフォルト値	説明
refLocationDrawerName	文字列	なし	リファレンス生成先とするドロワーの名前を指定
refLocationDrepld	数値	なし	リファレンス生成先とするドロワーまたはフォルダーのdrepldを指定
refLocationObjectId	文字列	なし	リファレンス登録先のObjectIdの文字列表記を指定 (ダイレクト形式で指定する場合や検索条件式での検索起点を指定する場合に指定)
refLocationCondition	検索文字列	なし	リファレンス生成先を特定するための検索条件を指定。検索条件の記述方法については、 <a href="#">[2.3.12 検索条件の記述形式] (P.215)</a> を参照
refLocationDepthFromSearchRoot	数値	なし	リファレンス登録先の検索範囲となる階層数を指定 (refLocationConditionパラメーターを指定した場合のみ有効)
refNextDrepld	数値	なし	リファレンス生成位置を示すdrepldを指定
refNextObjectId	文字列	なし	リファレンス登録位置のObjectIdの文字列表記を指定 (ダイレクト形式で指定する場合や検索条件式での検索起点を指定する場合に指定)
refNextCondition	検索文字列	なし	リファレンス生成位置を特定するための検索条件を指定。検索条件の記述方法については、 <a href="#">[2.3.12 検索条件の記述形式] (P.215)</a> を参照
storeDirPath	文字列	文字列	storePathパラメーターが相対パス指定の場合の基底ディレクトリを指定
existenceCheck	文字列	ignore	データ行の処理を始める前に、処理対象のオブジェクトの存在チェックを行い、その結果に応じて処理を変更できる。存在チェックの実行方法を、existenceCheckパラメーターによって指定。次のいずれか1つを指定する ignore : 存在チェックを行わない do : オブジェクトが存在する場合は、このデータ行を処理する。オブジェクトが存在しない場合は、このデータ行の処理をスキップして、次のデータ行に処理を進める skip : オブジェクトが存在する場合は、このデータ行の処理をスキップして、次のデータ行に処理を進める。オブジェクトが存在しない場合は、このデータ行を処理する
existenceCheckServiceId	文字列	なし	存在チェックの対象オブジェクトを特定するために、そのオブジェクトがあるサービスのserviceIDを指定
existenceCheckCabinetId	文字列	なし	存在チェックの対象オブジェクトを特定するために、そのオブジェクトがあるキャビネットのcabinetIDを指定
existenceCheckDrawerName	文字列	なし	存在チェックの対象オブジェクトを特定するために、そのオブジェクトがあるドロワーの名前を指定
existenceCheckDrepld	数値	なし	存在チェックの対象オブジェクトを特定するために、drepldを指定
existenceCheckObjectId	文字列	なし	存在チェック先のObjectIdの文字列表記を指定 (ダイレクト形式で指定する場合や検索条件式での検索起点を指定する場合に指定)

表 :基本パラメーターファイルのデフォルトパラメータータグ (続き)

タグ名	型	デフォルト値	説明
existenceCheckCondition	検索文字列	なし	存在チェックの対象オブジェクトを特定するための検索条件を指定。検索条件の記述方法については、 <a href="#">[2.3.12 検索条件の記述形式] (P.215)</a> を参照
existenceCheckDepthFromSearchRoot	数値	なし	存在チェック先の検索範囲となる階層数を指定 (existenceCheckConditionパラメーターを指定した場合のみ有効)
editionKey	エディションキー文字列	なし	登録するオブジェクトを版管理の対象とする場合に、エディションキー (版管理属性) と属性値を指定
oldStatus	文字列	なし	登録するオブジェクトを版管理の対象とする場合、または改版を行う場合に、登録または改版前に最新エディションだったオブジェクトに設定する状態を指定
revisionComment	文字列	dRepository Regist、null 値	登録時、もしくはリビジョンアップ時に設定するリビジョンコメント文字列。このパラメーターを指定しない場合や、パラメーター値に空文字列を指定した場合、初期新規登録時は「null値」が設定され、リビジョンアップ時は「dRepository Regist」という文字列が設定される。パラメーター値に、特殊文字列「¥0」を指定すると、「null値」が設定される。

## 3.3 entryMode と使用されるパラメーターの関係

entryModeのそれぞれの処理で有効となるパラメーターを次の表に示します。

表：entryMode と使用されるパラメーターの関係

パラメーター名\ entryMode	entity	reference	entityAnd Reference	create Folder	revise	revision Up	overWrite	merge
logFile (実行パラメーター)	○	○	○	○	○	○	○	○
logMode (実行パラメーター)	○	○	○	○	○	○	○	○
logIsObjectId (実行パラメーター)	○	○	○	○	○	○	○	○
entryErrorIgnore (実行パラメーター)	○	○	○	○	○	○	○	○
multipleTarget (実行パラメーター)	—	—	—	—	—	—	○	○
multipleLocation (実行パラメーター)	○	○	○	○	—	○ (*1)	○ (*1)	○ (*1)
overflowString (実行パラメーター)	○	○	○	○	—	○	○	○
multipleReference (実行パラメーター)	—	○	—	—	—	—	—	—
overWriteMode (実行パラメーター)	—	—	—	—	—	—	△ (*8)	—
transformer (実行パラメーター)	○ (*12)	—	○ (*11)	—	—	○ (*12)	○ (*12)	○ (*12)
encoding (実行パラメーター)	○ (*20)	—	○ (*20)	—	—	○ (*20)	○ (*20)	○ (*20)
contentCharset (実行パラメーター)	○ (*20)	—	○ (*20)	—	—	○ (*20)	○ (*20)	○ (*20)
csvCharset (実行パラメーター)	○	○	○	○	○	○	○	○
name	◎	—	◎ (*11)	◎	—	◎	◎	○
refName	—	○	○	—	—	—	—	—
status	○ (*18)	○	○ (*11)	○ (*18)	○	○ (*7)	○	○ (*18)
class	○ (*18)	—	○ (*11, *18)	○ (*18)	— (*18)	○ (*7, *18)	○ (*7, *18)	○ (*7, * 18)
refClass	—	○ (*18)	○ (*18)	—	—	—	—	—
targetLatestEdition	×	×	×	×	◎	◎ (*2)	◎ (*2)	◎ (*2)
targetCondition	×	×	×	×	×	◎ (*2)	◎ (*2)	◎ (*2)
targetDreplId	×	×	×	×	×	◎ (*2)	◎ (*2)	◎ (*2)
folderLabel	×	×	×	○	×	×	×	×
specifyLocation	○	—	○	○	—	△ (*7)	△ (*7)	△ (*7)
refSpecifyLocation	—	○	○	—	—	—	—	—
storeDirPath	○	—	○	—	—	○	○	○
storePath	○ (*6)	×	○ (*6)	×	×	○ (*6)	○ (*6)	○ (*5, *6)
storedConformatio n	○	×	○	×	—	○	○	○
updateContentInfo rmatio n	○	—	○ (*11)	—	○	○	○	○
updateSecondaryC ontent	○	—	○ (*11)	—	○	○	○	○
refCopyAttr	—	○	○	—	—	—	—	—

表 :entryMode と使用されるパラメーターの関係

パラメーター名\ entryMode	entity	reference	entityAnd Reference	create Folder	revise	revision Up	overWrite	merge
skipMode	—	—	—	—	○	○	○	○
locationServiceId	◎ (*13、 *15、 *18)	—	◎ (*13、 *15)	◎ (*13、 *15、*18)	◎	◎ (*15)	◎ (*15)	◎ (*15、 *18)
locationCabinetId	◎ (*13、 *15、 *18)	—	◎ (*13、 *15)	◎ (*13、 *15、 *18)	◎ (*3)	◎ (*3、* 15)	◎ (*3、*15)	◎ (*3、 *15、*18)
locationDrawerName	○ (*15、 *18)	—	○ (*15)	○ (*15、 *18)	—	○ (*7、* 15)	○ (*7、*15)	○ (*7、 *15、*18)
locationDrepld	○ (*15、 *18)	—	○ (*15)	○ (*15、 *18)	—	○ (*7、* 15)	○ (*7、*15)	○ (*7、 *15、*18)
locationObjectId	◎ (*13、 *15)	—	◎ (*13、 *15)	◎ (*13、* 15)	—	◎ (*7、 *15)	◎ (*7、*15)	◎ (*7、 *15)
locationCondition	○ (*18)	—	○	○ (*18)	—	○ (*7)	○ (*7)	○ (*7、 *18)
locationDepthFrom SearchRoot	◎ (*17、 *18)	—	◎ (*17)	◎ (*17、 *18)	—	◎ (*7、* 17)	◎ (*7、*17)	◎ (*7、 *17、*18)
nextDrepld	○ (*15、 *18)	—	○ (*15)	○ (*15、 *18)	—	○ (*7)	○ (*7)	○ (*7、 *18)
nextObjectId	○ (*15)	—	○ (*15)	○ (*15)	—	○ (*7、 *15)	○ (*7、*15)	○ (*7、 *15、*19)
nextCondition	○ (*18)	—	○	○ (*18)	—	○ (*7、* 15)	○ (*7、*15)	○ (*7、* 15、 *18)
refMode	—	◎	◎	—	—	—	—	—
refServiceId	—	◎	—	—	—	—	—	—
refCabinetId	—	◎	—	—	—	—	—	—
refDrawerName	—	○	—	—	—	—	—	—
refDrepld	—	○	—	—	—	—	—	—
refObjectId	—	◎ (*16)	—	—	—	—	—	—
refCondition	—	○	—	—	—	—	—	—
refDepthFromSear chRoot	—	○ (*17)	—	—	—	—	—	—
refEditionKey	—	○	—	—	—	—	—	—
refEditionNumber	—	○	—	—	—	—	—	—
refRevisionNumber	—	○	—	—	—	—	—	—
refLocationServiceI d	—	◎ (*14)	◎ (*14)	—	—	—	—	—
refLocationCabinet Id	—	◎ (*14)	◎ (*14)	—	—	—	—	—
refLocationDrawer Name	—	○	○	—	—	—	—	—
refLocationDrepld	—	○	○	—	—	—	—	—
refLocationObjectI d	—	◎ (*14、 *15)	◎ (*14、 *15)	—	—	—	—	—
refLocationCondi on	—	○	○	—	—	—	—	—
refLocationDepthF romSearchRoot	—	○ (*17)	○ (*17)	—	—	—	—	—
refNextDrepld	—	○	○	—	—	—	—	—
refNextObjectId	—	○ (*15)	○ (*15)	—	—	—	—	—

表：entryMode と使用されるパラメーターの関係

パラメーター名\ entryMode	entity	reference	entityAnd Reference	create Folder	revise	revision Up	overWrite	merge
refNextCondition	—	○	○	—	—	—	—	—
existenceCheck	○	○	○	○	○	○	○	○
existenceCheckSer viceld	○ (*15、 *18)	○ (*15)	○ (*15)	○ (*15、 *18)	○ (*15)	○ (*15)	○ (*15)	○ (*15、 *18)
existenceCheckCa binetld	○ (*15、 *18)	○ (*15)	○ (*15)	○ (*15、 *18)	○ (*15)	○ (*15)	○ (*15)	○ (*15、 *18)
existenceCheckDra wernerName	○ (*15、 *18)	○ (*15)	○ (*15)	○ (*15、 *18)	○ (*15)	○ (*15)	○ (*15)	○ (*15、 *18)
existenceCheckDre pld	○ (*15、 *18)	○ (*15)	○ (*15)	○ (*15、 *18)	○ (*15)	○ (*15)	○ (*15)	○ (*15、 *18)
existenceCheckObj ectld	○ (*15)	○ (*15)	○ (*15)	○ (*15)	○ (*15)	○ (*15)	○ (*15)	○ (*15)
existenceCheckCo ndition	○ (*18)	○	○	○ (*18)	○	○	○	○ (*18)
existenceCheckDe pthFromSearchRo ot	○ (*17、 *18)	○ (*17)	○ (*17)	○ (*17、 *18)	○ (*17)	○ (*17)	○ (*17)	○ (*17、 *18)
editionKey	○ (*18)	○	○ (*9、*10、 *11)	○	—	○ (*7)	○ (*7)	○ (*7、*19)
designatedEdition Number	○ (*9、 *10、 *18)	○ (*9、*10)	○ (*9、*10、 *11)	○ (*9、*10)	—	○ (*9、 *10)	○ (*9、*10)	○ (*9、 *10、*19)
designatedEditionL abel	○ (*9、 *10、 *18)	○ (*9、* 10)	○ (*9、*10、 *11)	○ (*9、*10)	—	○ (*9、 *10)	○ (*9、*10)	○ (*9、 *10、*19)
oldStatus	○ (*10、 *18)	○ (*10)	○ (*10)	○ (*10)	○	○ (*10)	○ (*10)	○ (*10、 *19)
revisionComment	○	—	○	—	—	○	○ (*21)	○ (*21)

- ◎： 必須
- ： 有効
- △： 条件により有効
- ： 無視
- ×： 指定するとエラー

- \* 1： multipleLocation は、新規登録となった場合にだけ有効となる。対象オブジェクトが複数該当した場合は、無条件にエラーとなる。
- \* 2： targetLatestEdition、targetCondition、targetDrepld のいずれかの指定が必須となる。
- \* 3： ここで指定されたキャビネットに対して、targetLatestEdition や targetCondition で処理対象のオブジェクトを特定することになる。
- \* 4： refMode に "normal"、"hard" を指定した場合は、refServiceld、refCabinetld の指定が必須である。
- \* 5： マージ対象オブジェクトがフォルダーの場合、実体ファイルを指定するとエラーになる。
- \* 6： storePath の指定がなかった場合は、コンテンツを持たないドキュメントとして登録する。
- \* 7： 対象オブジェクトが存在せず、新規登録となった場合だけ有効となる。
- \* 8： overWriteMode は、上書き対象オブジェクトが見つかり上書き動作となった場合にのみ有効となる。新規登録となった場合には、無視される。
- \* 9： designatedEditionNumber と designatedEditionLabel の両方が指定された場合は、designatedEditionNumber の内容を優先する。
- \* 10： editionKey パラメーターが有効になった場合のみ有効となる。
- \* 11： リファレンスオブジェクトには、反映されない。
- \* 12： storedConformation パラメーターを使用する場合は必須となる。
- \* 13： specifyLocation に "location" を指定した場合は、locationServiceld、locationCabinetld の指定が必須である。specifyLocation に "location" 以外の値を指定した場合は、locationServiceld、locationCabinetld の指定をする必要がなく、指定してもその値は無視される。

- \* 14 :refSpecifyLocation に "location" を指定した場合は、refLocationServiceId,refLocationCabinetId の指定が必須である。refSpecifyLocation に "location" 以外の値を指定した場合は、refLocationServiceId、refLocationCabinetId の指定をする必要はない。指定しても、その値は無視される。
- \* 15 :XXXXObjectId パラメーターを指定した場合は、XXXXServiceId パラメーター、XXXXCabinetId パラメーター、XXXXDrawerName パラメーター、XXXXDrepld パラメーターを指定しても、その値は無視される。
- \* 16 :refObjectId パラメーターを指定した場合は、refServiceId パラメーター、refCabinetId パラメーター、refDrawerName パラメーター、refDrepld パラメーター、refEditionKey パラメーター、refEditionNumber パラメーター、refRevisionNumber パラメーターを指定しても、その値は無視される。
- \* 17 :XXXXCondition パラメーターを指定した場合のみ有効となる。
- \* 18 :wregist コマンドの場合は、指定するとエラーとなる。
- \* 19 :wregist コマンドの場合、指定しても、その値は無視される。
- \* 20 :encoding パラメーターと contentCharset を同時に指定した場合はエラーとなる。
- \* 21 :新規登録の場合のみ、revisionComment パラメーターを指定できる。新規登録処理以外の場合では、指定しても、その値は、無視される。

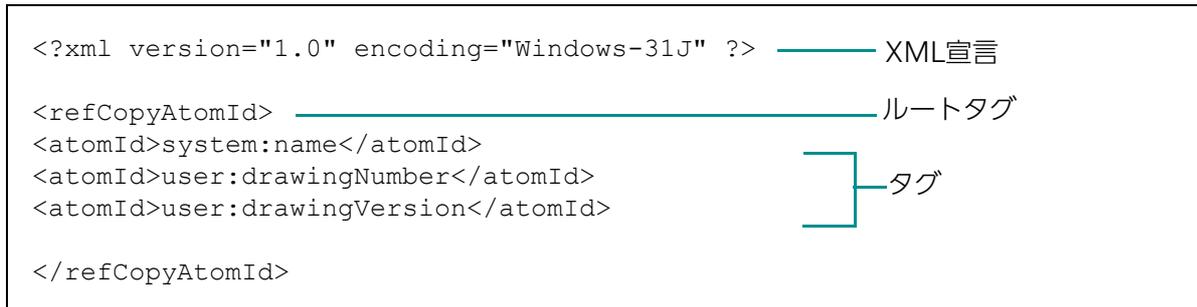


## 4 参照先属性転記ファイルを用意する

一括登録実行のために用意する、参照先属性転記ファイルの記述内容について説明します。

## 4.1 参照先属性転記ファイルの構成要素

参照先属性転記ファイルはXML形式のファイルです。参照先属性転記ファイルは、次の要素から構成されます。



## 4.2 参照先属性転記ファイルのタグ

参照先属性転記ファイル中に指定するタグを次に示します。

### 4.2.1 ルートタグ

参照先属性転記ファイルのルートタグを次に示します。

表：参照先属性転記ファイルのルートタグ

タグ名	説明
refCopyAtomId	参照先属性転記ファイルのルートタグ 一括登録によって生成するリファレンスに対して、参照先オブジェクトから属性値をコピーする属性を指定するための、atomIdタグを含む

### 4.2.2 タグ

参照先属性転記ファイルのタグを次に示します。

表：参照先属性転記ファイルのタグ

タグ名	型	デフォルト値	説明
atomId	string	なし	一括登録によって生成するリファレンスに対して、参照先オブジェクトから属性値をコピーする属性名を指定

参照先属性転記ファイル中のatomIdタグで指定した属性の値が、一括登録によるリファレンス生成時に、参照先オブジェクトからリファレンスにコピーされます。参照先属性転記ファイルに指定できるのはユーザー属性のみです。システム属性は指定できません。

参照先属性転記ファイルの指定が有効になるのは、オブジェクト登録ファイル中のrefCopyAttrパラメーターに「true」が指定されている場合です。また、オブジェクト登録ファイル中のrefCopyAttrパラメーターが省略されていても、基本パラメーターファイル中のrefCopyAttrパラメーターに「true」が指定されていれば、属性値がコピーされます。

オブジェクト登録ファイル中のrefCopyAttrパラメーターに「false」を指定した場合、または、オブジェクト登録ファイル中のrefCopyAttrパラメーターの指定が省略されていて、基本パラメーターファイル中のrefCopyAttrパラメーターに「false」が指定されている場合は、属性値はコピーされません。

refCopyAttrパラメーターに「true」を指定していても、参照属性転記ファイルを指定しなかった場合は、属性値はコピーされません。

リファレンスを生成するときは、参照先オブジェクトから属性値をコピーするほかに、オブジェクト登録ファイルおよび基本パラメーターファイルの指定によって、属性値をリファレンスに設定できます。参照先属性転記ファイル、オブジェクト登録ファイル、および基本パラメーターファイルが、属性値をコピーまたは設定する指定になっている場合は、それぞれの指定をマージして、属性値がリファレンスに設定されます。ただし、1つの属性について、3つのファイルの指定が異なる場合は、次の優先順位で処理されます。

- (1) オブジェクト登録ファイル中で指定した、属性値の設定
- (2) 基本パラメーターファイル中で指定した、属性値のデフォルトの設定
- (3) 参照先属性転記ファイルで指定した、属性値のコピー



# 5 一括登録を実行する

一括登録コマンドの実行方法について説明します。

## 5.1 一括登録コマンドを実行する

一括登録を実行するためのコマンドは次のとおりです。

- ・ drregist
- ・ wfregist

### 5.1.1 drregist

ドキュメント管理サービスにオブジェクト（ドキュメント、フォルダー、リファレンス）を登録したり、改版、リビジョンアップ、登録済みのドキュメントの上書き、およびマージをしたりすることができます。

#### コマンド形式

```
drregist [-n {specified-row} ] [-param {parameter-file} ] [-refcopyattr  
{refcopyattr-file} ] -csv {registry-file} -user {userName}  
[-passwd {password} ]
```

#### コマンドパラメーター

**-n {specified-row}**

オブジェクト登録ファイル中のデータ行のうち、処理対象とする行を指定します。

-nパラメーターの指定を省略すると、オブジェクト登録ファイル中のすべてのデータ行が処理対象となります。

処理対象行の指定には、次のいずれかの形式を使用します。[,] で区切ると、複数の指定を組み合わせることができます。

- ・ a-b：行番号 a から b までの間を処理対象とする（行番号 a と b を含む）
- ・ a-：行番号 a から最終データ行までの間を処理対象とする（行番号 a を含む）
- ・ -b：オブジェクト登録ファイル 2 行目から行番号 b までの間を処理対象とする（行番号 b を含む）
- ・ a,b：行番号 a と b を処理対象とする
- ・ a-b,c：行番号 a から b までの間と、c を処理対象とする（行番号 a と b を含む）

なお、オブジェクト登録ファイルは、1行目がヘッダー行であり、データ行は2行目から始まります。このため、「-b」と指定した場合は、オブジェクト登録ファイルの2行目、つまりデータ行の先頭行から処理を始めることとなります。この行番号は、ログ情報に出力される行番号と一致します。

- 補足**
- ・ 行番号の範囲を指定した場合は、指定した開始行が終了行よりも大きいとエラーとなります。
  - ・ 2未満の行番号を指定すると、エラーとなります。
  - ・ 行番号を重複して指定すると、重複分を無視して処理されます。重複して指定しても、1回しか処理されません。
  - ・ 存在しない行を指定してもエラーになりません。その行が処理されないため、ログにもその行は出力されません。

**-param {parameter-file}**

一括登録処理に使用する基本パラメーターファイルの名前を指定します。

-param/パラメーターの指定は省略できますが、省略する場合は、オブジェクト登録ファイル中で必要な指定をすべて行わなければなりません。

**参照** 基本パラメーターファイルの記述内容については、[\[3 基本パラメーターファイルを用意する\] \(P.233\)](#) を参照してください。

**-refcopyattr {refcopyattr-file}**

一括登録処理によってリファレンスを生成する場合に使用する、参照先属性転記ファイルの名前を指定します。

オブジェクト登録ファイル中のrefCopyAttrパラメーターに「true (属性をコピーする)」を指定した場合、または、オブジェクト登録ファイル中のrefCopyAttrパラメーターの指定を省略し、基本パラメーターファイルのrefCopyAttrタグに「true」を指定した場合は、-refcopyattrコマンドパラメーターを必ず指定しなければなりません。refCopyAttrパラメーターに「true」を指定していても、参照属性転記ファイルを指定しなかった場合は、属性値はコピーされません。

オブジェクト登録ファイルのrefCopyAttrパラメーターに「false (属性をコピーしない)」を指定した場合、またはオブジェクト登録ファイル中のrefCopyAttrパラメーターの指定を省略し、基本パラメーターファイルのrefCopyAttrタグに「false」を指定した場合は、-refcopyattrコマンドパラメーターを指定しても、無視されます。

**参照** 参照先属性転記ファイルの記述内容については、[\[4 参照先属性転記ファイルを用意する\] \(P.246\)](#) を参照してください。

**-csv {registry-file}**

一括登録処理の実行内容を指定するオブジェクト登録ファイルの名前を指定します。

{registry-file} の指定は必須です。

**参照** オブジェクト登録ファイルの記述内容については、[\[2 オブジェクト登録ファイルを用意する\] \(P.178\)](#) を参照してください。

**-user {userName}**

一括登録処理を実行するユーザーのユーザー IDを指定します。RMSに対してユーザー認証が行われます。RMSに登録済みのユーザー IDのみを指定できます。

{userName} の指定は必須です。

**-passwd {password}**

-userコマンドパラメーターで指定した、ユーザー IDに対応するパスワードを指定します。

## 実行結果

オブジェクト登録ファイル中の指定に従って、次の処理が一括で行われます。

- ・ドキュメント登録
- ・リファレンス生成
- ・リファレンス同時生成
- ・フォルダー登録
- ・改版
- ・改訂 (リビジョンアップ)
- ・上書き
- ・マージ

また、基本パラメーターファイル中の指定に従って、ログ情報が出力されます。-paramパラメーターを省略した場合は、正常系ログは標準出力に、エラーログは標準エラー出力に出力されます。

**参照** ログ情報については、[\[6 一括登録のログ\] \(P.256\)](#) を参照してください。

## コマンド戻り値

オブジェクト登録ファイル中の、処理対象のデータ行の処理がすべて正常に終了した場合は、0となります。

1行でもエラーが発生した場合は、1となります。オブジェクト登録ファイルのexistenceCheckパラメーター、または基本パラメーターファイルのexistenceCheckタグに「do」または「skip」を指定して存在チェックを行う場合は、存在チェックエラーが1回でも発生すると、コマンド戻り値が1となります。

## エラー

次の場合にエラーとなります。

- ・オブジェクト登録ファイル、基本パラメーターファイル、または参照先属性転記ファイルの記述に誤りがあった場合
- ・コマンドパラメーターの指定に誤りがあった場合
- ・何らかの原因で、ドキュメント管理サービスにエラーが発生した場合
- ・getAttribute 権のないオブジェクトを参照するリファレンスを生成しようとした場合
- ・ユーザー認証に失敗した場合

### 5.1.2 wfregist

ワークフローの外部コマンドとして使用する場合、ドキュメント管理サービスにオブジェクト（ドキュメント、フォルダー）を登録したり、登録済みのオブジェクトの属性を変更したりできます。オブジェクトが、ワークフローキャビネット内のオブジェクトの場合に、処理を実行します。

## コマンド形式

```
wfregist [-n {specified-row} ] [-param {parameter-file} ] -csv {registry-file} -user {userName} [-passwd {password} ]
```

## コマンドパラメーター

**参照** コマンドパラメーターについては、[\[5.1.1 drregist\] \(P.250\)](#) を参照してください。

## 実行結果

オブジェクト登録ファイル中の指定に従って、次の処理が一括で行われます。

- ・ドキュメント登録
- ・フォルダー登録
- ・マージ

また、基本パラメーターファイル中の指定に従って、ログ情報が出力されます。-paramパラメーターを省略した場合は、正常系ログは標準出力に、エラーログは標準エラー出力に出力されます。

**参照** ログ情報については、[\[6 一括登録のログ\] \(P.256\)](#) を参照してください。

## コマンド戻り値

**参照** コマンド戻り値については、[\[5.1.1 drregist\] \(P.250\)](#) を参照してください。

## エラー

次の場合にエラーとなります。

- ・ワークフローがインストールされていないサーバー（オールインワン構成の場合は ArcSuite サーバー以外、2 台構成の場合はコンポーネントサーバー以外）で実行した場合
- ・登録先にドロワーを指定した場合
- ・「マージ」で、操作対象に、ワークフロードキュメントフォルダーを指定した場合

**参照** そのほかのエラーについては、[\[5.1.1 drregist\] \(P.250\)](#) を参照してください。

## 5.2 一括登録の実行例

一括登録によって、フォルダーを登録し、そのフォルダーにドキュメントを2つ登録し、リファレンスを1つ生成する例を示します。

実行するコマンドは次のとおりです。

```
C:¥usr> drregist -param basicpara.xml -refcopyattr refattr.xml -csv
regist-sample.csv -user dRmgr
```

基本パラメーターファイルbasicpara.xmlには、次の内容を記述します。

```
<?xml version="1.0" encoding="Windows-31J" ?>
<drregistParameter>
<executionParameter>
<logFile>c:¥temp¥log</logFile>
<overflowString>cut</overflowString>
</executionParameter>
<defaultParameter>
<locationServiceId>service1</locationServiceId>
<locationCabinetId>Cabinet1</locationCabinetId>
<refServiceId>service1</refServiceId>
<refCabinetId>Cabinet1</refServiceId>
<refLocationServiceId>service1</refLocationServiceId>
<refLocationCabinetId>Cabinet1</refLocationCabinetId>
<existenceCheckServiceId>service1</existenceCheckServiceId>
<existenceCheckCabinetId>Cabinet1</existenceCheckCabinetId>
</defaultParameter>
</drregistParameter>
```

参照先属性ファイルrefattr.xmlには、次の内容を記述します。

```
<?xml version="1.0" encoding="Windows-31J" ?>

<refCopyAtomId>
<atomId>user:bumon</atomId>
</refCopyAtomId>
```

オブジェクト登録ファイルregist-sample.csvには、次の内容を記述します。

```
entryMode, specifyLocation, locationCondition, name, user:zuban, user:bumon,
system:primary.storeParh, refCopyAttr, refLocationCondition, refCondition
createFolder, location, system:name "Folder1", Folder2, ABC, 100, , , , ... ①
entity, folder, , DOC1, PART1, 110, data1.tif, , , ... ②
entity, folder, , DOC2, PART2, 110, data2.txt, , , ... ③
reference, , , REFDOC1, , , , true, system:name "Folder1", system:name "DOC1" ... ④
```

①のデータ行では、フォルダー「Folder1」に、「Folder2」というフォルダーを登録しています。Folder2のzuban属性値は「ABC」、bumon属性値は「100」です。

②のデータ行では、①で登録したFolder1に、「DOC1」というドキュメントを登録しています。DOC1のプライマリコンテンツは、data1.tifとなります。zuban属性値は「PART1」、bumon属性値は「110」です。

③のデータ行では、①で登録したFolder1に、「DOC2」というドキュメントを登録しています。DOC2のプライマリコンテンツは、data2.txtとなります。zuban属性値は「PART2」、bumon属性値は「110」です。

④のデータ行では、フォルダー「Folder1」に「REFDOC1」というリファレンスを生成しています。REFDOC1は、②で登録したDOC1を参照するリファレンスです。bumon属性値そのものを指定していませんが、属性値をコピーするよう指定していますので、参照先属性ファイルrefattr.xmlの指定に基づいて、DOC1のbumon属性値「110」がREFDOC1にも設定されます。

# 6 一括登録のログ

一括登録コマンドで作成されるログについて説明します。

## 6.1 一括登録のログ情報

一括登録実行時に出力されるログ情報について、次に示します。

### ログ情報の形式

ログ情報の形式は、logJsObjectIdパラメーターの値により次のようになります。

- ・ logJsObjectId パラメーターに true を指定した場合

```
{日時} , {行番号} , {メッセージカテゴリ} , {処理結果} , {メッセージコード} , {メッセージ} , {オブジェクト ID の文字列表現値}
```

- ・ logJsObjectId パラメーターに false (デフォルト) を指定した場合

```
{日時} , {行番号} , {メッセージカテゴリ} , {処理結果} , {メッセージコード} , {メッセージ} , {serviceId} , {cabinetId} , {drepId}
```

### ログに含まれる情報

#### {日時}

ログが出力された時間が示されます。

#### {行番号}

処理した行番号が示されます。オブジェクト登録ファイル中の行番号です。

#### {メッセージカテゴリ}

ログメッセージの種類が示されます。

- ・ start  
処理開始を意味するログメッセージです。オブジェクト登録ファイルのデータ行ごとに 1 回、このログメッセージが出力されます。
- ・ trace  
処理のトレース情報を意味するログメッセージです。オブジェクト登録ファイルのデータ行ごとに複数回、このログメッセージが出力されます。
- ・ error  
処理がエラーになったことを意味するログメッセージです。
- ・ end  
処理終了を意味するログメッセージです。オブジェクト登録ファイルのデータ行ごとに 1 回、このログメッセージが出力されます。

**補足** 基本パラメーターファイルの logMode タグの指定によって、特定のメッセージカテゴリのログメッセージのみを出力できます。

- ・ logMode タグに [all] を指定  
すべてのメッセージカテゴリのログメッセージが出力されます。
- ・ logMode タグに [start] を指定  
start カテゴリのログメッセージのみが出力されます。処理開始の情報のみを収集する場合に指定します。
- ・ logMode タグに [trace] を指定  
trace カテゴリのログメッセージのみが出力されます。トレース情報のみを収集する場合に指定します。
- ・ logMode タグに [error] を指定  
error カテゴリのログメッセージのみが出力されます。エラー情報のみを収集する場合に指定します。
- ・ logMode タグに [end] を指定  
end カテゴリのログメッセージのみが出力されます。処理の最終結果の情報のみを収集する場合に指定します。

### {処理結果}

ログメッセージ出力時の処理結果が示されます。

- ・ success  
処理が正常終了したことを示します。
- ・ skip  
オブジェクト登録ファイルの skipMode パラメーター、または基本パラメーターファイルの skipMode タグの指定により、そのデータ行の処理をスキップしたことを示します。
- ・ failed  
処理がエラー終了したことを示します。

### {メッセージコード}

ログメッセージのメッセージコードが示されます。

- ・ 0  
ログメッセージが正常系のメッセージであることを意味します。
- ・ 1 以上の整数  
ログメッセージがエラー系のメッセージであることを意味します。

### {メッセージ}

メッセージカテゴリーに対応するメッセージ内容が示されます。

- ・ メッセージカテゴリーが start の場合  
「XXX 処理を開始します」
- ・ メッセージカテゴリーが trace の場合  
処理内容が示されます。
- ・ メッセージカテゴリーが error の場合  
エラー内容が示されます。
- ・ メッセージカテゴリーが end の場合  
「XXX 処理が正常終了しました」  
「XXX 処理が異常終了しました」

メッセージは、次のような言語で出力されます。

- ・ 実行ユーザーの RMS 言語指定が日本語の場合、日本語で出力
- ・ 実行ユーザーの RMS 言語指定が日本語以外の場合、英語で出力
- ・ 実行ユーザーの RMS 言語指定値が取得できない場合、  
実行ホストのデフォルト言語が日本語のとき、日本語で出力  
実行ホストのデフォルト言語が日本語以外のとき、英語で出力

### {serviceld}

上書きまたはマージの場合に、登録または変更したオブジェクトの serviceld が示されます。メッセージカテゴリーが trace であり、処理に成功した場合のみ示されます。

### {cabinetId}

上書きまたはマージの場合に、登録または変更したオブジェクトの cabinetId が示されます。メッセージカテゴリーが trace であり、処理に成功した場合のみ示されます。

### {drepld}

上書きまたはマージの場合に、登録または変更したオブジェクトの drepld が示されます。メッセージカテゴリーが trace であり、処理に成功した場合のみ示されます。

### {オブジェクト ID の文字列表現値}

登録/変更したオブジェクトのオブジェクトID {メッセージカテゴリー} が trace のときのみ出力されます。オブジェクトを登録/変更（上書き、マージ）した時に、成功した場合に、そのオブジェクトのオブジェクトID の文字列表現値を出力します。

一括登録コマンドのパラメーターのlogModeに関係があり、logModeにカテゴリー名を記述すると、そのカテゴリーのメッセージのみが出力されます。

- ・ all  
すべてのカテゴリーのメッセージが出力されます。
- ・ error  
error カテゴリーのメッセージのみ出力されます。  
エラー時のみ対処する場合に使用します。
- ・ end  
end カテゴリーのメッセージのみ出力されます。  
処理の最終結果のみ必要な場合に使用します。



# 7 一括登録コマンドの使用例

一括登録コマンドの使用例をサンプルと共に説明します。

## 7.1 サンプル環境

本章では次の環境を想定しています。

項目	値
実行ユーザー名	fuji3
実行ユーザーパスワード	fuji3
サービス ID	drep_ServiceID
キャビネット ID	cabinet01
ドロワー名	Drawer01
DrepId	それぞれ適当な値

## 7.2 一括登録コマンドの使用例 1

指定したドキュメントをドローア直下に一括登録します。

### コマンド実行例

```
C:¥Temp¥iftktest> drregist -param C:¥Temp¥iftktest¥drregist_1¥sample.xml -csv
C:¥Temp¥iftktest¥drregist_1¥sample.csv -user fuji3 -passwd fuji3
```

### 実行パラメーターファイル (C:¥Temp¥iftktest¥drregist\_1¥sample.xml)

この例ではセカンダリコンテンツは生成されません。

**参照** 実体登録と同時に生成したい場合については、[\[7.4 一括登録コマンドの使用例 3\] \(P.265\)](#) を参照してください。

```
<?xml version="1.0" encoding="Windows-31J" ?>
<drregistParameter>
  <executionParameter>
    <logFile>C:¥Temp¥iftktest¥drregist_1¥entry.log</logFile>
    <logMode>all</logMode>
    <entryErrorIgnore>true</entryErrorIgnore>
  </executionParameter>
  <defaultParameter>
    <specifyLocation>location</specifyLocation>
    <locationServiceId>drep_ServiceID</locationServiceId>
  </defaultParameter>
</drregistParameter>
```

### 操作対象オブジェクト指定ファイル (C:¥Temp¥iftktest¥drregist\_1¥sample.csv)

```
entryMode,locationCabinetId,locationDrawerName,name,system:primary.storePath
entity,cabinet01,Drawer01,パフォーマンス仕様書,C:¥Temp¥doc¥050412-Performance.xdw
entity,cabinet01,Drawer01,コンバータ機能仕様書,C:¥Temp¥doc¥050401-Converter.xdw
```

### ログファイル（上記の例を実行した場合 entry.log）

登録した2件分の処理がログに記録されます。

```
2021-04-02T15:30:44JST,2,start,success,0,entity 処理を開始します。,,,
2021-04-02T15:30:45JST,2,trace,success,0,ドキュメントオブジェクトを登録します。,,,
2021-04-02T15:30:45JST,2,trace,success,0,ドキュメントオブジェクトを登録しました。
,drep_ServiceID,cabinet01,111501544534473
2021-04-02T15:30:45JST,2,end,success,0,entity 処理が正常終了しました。,,,
2021-04-02T15:30:45JST,3,start,success,0,entity 処理を開始します。,,,
2021-04-02T15:30:46JST,3,trace,success,0,ドキュメントオブジェクトを登録します。,,,
2021-04-02T15:30:46JST,3,trace,success,0,ドキュメントオブジェクトを登録しました。
,drep_ServiceID,cabinet01,111501544634478
2021-04-02T15:30:46JST,3,end,success,0,entity 処理が正常終了しました。,,,
```

## 7.3 一括登録コマンドの使用例 2

ドロー直接下にフォルダーを一括作成し、それぞれのフォルダーにオブジェクトを登録します。

### コマンド実行例

```
C:¥Temp¥iftktest> drregist -param C:¥Temp¥iftktest¥drregist_2¥sample.xml -csv
C:¥Temp¥iftktest¥drregist_2¥sample.csv -user fuji3 -passwd fuji3
```

### 実行パラメーターファイル (C:¥Temp¥iftktest¥drregist\_2¥sample.xml)

```
<?xml version="1.0" encoding="Windows-31J" ?>
<drregistParameter>
  <executionParameter>
    <logFile>C:¥Temp¥iftktest¥drregist_2¥entry.log</logFile>
    <logMode>all</logMode>
  </executionParameter>
  <defaultParameter>
    <locationServiceId>drep_ServiceID</locationServiceId>
    <locationCabinetId>cabinet01</locationCabinetId>
    <locationDrawerName>Drawer01</locationDrawerName>
  </defaultParameter>
</drregistParameter>
```

### 操作対象オブジェクト指定ファイル (C:¥Temp¥iftktest¥drregist\_2¥sample.csv)

system:primary.storePathの値がNullの場合、属性情報のみ登録します。

フォルダー作成時にfolderLabelを定義しておくこと、その子オブジェクトを登録するときに、登録先として指定できます。folderLabelの有効範囲は、このCSVの中のみです。

```
entryMode, folderLabel, specifyLocation, name, system:primary.storePath
createFolder, A, , FolderA,
createFolder, B, A, FolderB,
createFolder, C, B, FolderC,
entity, , A, DocumentA-1,
entity, , A, A-1 の補足資料, C:¥Temp¥data¥appendix_A-1.xdw
entity, , B, B-1 の資料, C:¥Temp¥data¥B-1.xdw
entity, , C, DocumentC-1,
```

## ログファイル（上記の例を実行した場合 entry.log）

```
2021-04-02T15:55:34JST,2,start,success,0,createFolder 処理を開始します。,,,
2021-04-02T15:55:35JST,2,trace,success,0, フォルダーオブジェクトを登録します。,,,
2021-04-02T15:55:35JST,2,trace,success,0, フォルダーオブジェクトを登録しまし
た。 ,drep_ServiceID,cabinet01,111501693534490
2021-04-02T15:55:35JST,2,end,success,0,createFolder 処理が正常終了しました。,,,
2021-04-02T15:55:35JST,3,start,success,0,createFolder 処理を開始します。,,,
2021-04-02T15:55:35JST,3,trace,success,0, フォルダーオブジェクトを登録します。,,,
2021-04-02T15:55:35JST,3,trace,success,0, フォルダーオブジェクトを登録しました。
,drep_ServiceID,cabinet01,111501693534492
:
:
(後略)
```

## 7.4 一括登録コマンドの使用例 3

既存フォルダーにファイルを一括登録し、同時にセカンダリコンテンツも作成します。

### コマンド実行例

```
C:¥Temp¥iftktest> drregist -param C:¥Temp¥iftktest¥drregist_3¥sample.xml -csv
C:¥Temp¥iftktest¥drregist_3¥sample.csv -user fuji3 -passwd fuji3
```

### 実行パラメーターファイル

(C:¥Temp¥iftktest¥drregist\_3¥sample.xml)

```
<?xml version="1.0" encoding="Windows-31J" ?>
<drregistParameter>
  <executionParameter>
    <logfile>C:¥Temp¥iftktest¥drregist_3¥entry.log</logfile>
    <logMode>all</logMode>
    <entryErrorIgnore>true</entryErrorIgnore>
  </executionParameter>
  <defaultParameter>
    <specifyLocation>location</specifyLocation>
    <updateSecondaryContent>system:view|system:nail</updateSecondaryContent>
    <locationServiceId>drep_ServiceID</locationServiceId>
  </defaultParameter>
</drregistParameter>
```

### 操作対象オブジェクト指定ファイル

(C:¥Temp¥iftktest¥drregist\_3¥sample.csv)

```
entryMode,locationCabinetId,locationCondition,name,
system:primary.storePath,editionKey
entity,cabinet02,"system:name ""ArcSuite""",パフォーマンス仕様書,
C:¥Temp¥doc¥050412-Performance.xdw,"user:drawingnumber ""01-234-56""
entity,cabinet02,"system:name ""ArcSuite""",コンバータ機能仕様書,
C:¥Temp¥doc¥050401-Converter.xdw,"user:drawingnumber ""01-234-78""
```

## ログファイル（上記の例を実行した場合 entry.log）

```
2021-04-02T16:42:37JST,2,start,success,0,entity 処理を開始します。,,,
2021-04-02T16:42:41JST,2,trace,success,0,ドキュメントオブジェクト（edition）を登録しま
す。,,,
2021-04-02T16:42:41JST,2,trace,success,0,ドキュメントオブジェクト（edition）を登録しま
した。 ,drep_ServiceID,cabinet02,111501976134579
2021-04-02T16:42:41JST,2,trace,success,0,内容依存情報を更新します。,,,
2021-04-02T16:42:45JST,2,trace,success,0,内容依存情報を更新しました。,,,
2021-04-02T16:42:45JST,2,end,success,0,entity 処理が正常終了しました。,,,
2021-04-02T16:42:45JST,3,start,success,0,entity 処理を開始します。,,,
2021-04-02T16:42:46JST,3,trace,success,0,ドキュメントオブジェクト（edition）を登録しま
す。,,,
2021-04-02T16:42:46JST,3,trace,success,0,ドキュメントオブジェクト（edition）を登録しま
した。 ,drep_ServiceID,cabinet02,111501976634588
```



# 付録

# 付録 A インストールとアンインストール

ドキュメント管理サービスSDKをインストール、アンインストールする方法について説明します。

**補足** ドキュメント管理サービス SDK をインストールするには、ArcSuite で、ドキュメント管理サービスが登録されている RMS に接続できる環境が必要です。

## 付録 A.1 インストールの前に確認すること

ドキュメント管理サービスSDKのインストール先、ArcSuiteをインストールしたときの [データベースのサーバー情報] 画面、[データベースのRMS用ユーザー情報] 画面、または [データベースのRMS参照専用ユーザー登録] 画面で設定した情報を、あらかじめ確認しておきます。

次の項目を確認します。

### ■ インストール先

ドキュメント管理サービスSDKのインストール先を確認します。

**補足** 初期値は、「{インストールするドライブ} :%Program Files%FUJIFILM%ArcSuite%Tool%dRepTools」です。

### ■ RMS 用データベースのサーバーの情報

次の情報を確認します。

- ・サーバー名
- ・ポート番号
- ・グローバルデータベース名

**補足** ArcSuite のインストールのとき、[データベースのサーバー情報] 画面で入力した情報です。

### ■ RMS 用ユーザーの情報

RMS用のユーザー名を確認します。

**補足** 初期値は「rms」です。ArcSuite のインストールのとき、[データベースの RMS 用ユーザー情報] 画面で入力した情報です。

### ■ RMS 用参照用ユーザーの情報

次の情報を確認します。

- ・ユーザー名
- ・パスワード

**補足** ・ユーザー名の初期値は、「rmsclient」です。  
・パスワードは、ArcSuite のインストールのとき、[データベースの RMS 参照専用ユーザー登録] 画面で入力した情報です。

## 付録 A.2 インストール

次の手順でドキュメント管理サービス SDK をインストールします。

**参照** 古いバージョンがインストールされている場合は、[\[付録 A.5 バージョンアップ\] \(P.271\)](#) を参照してください。

1. ドキュメント管理サービス SDK をインストールするコンピューターに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。

**注記** サインインするユーザー名には、全角スペースまたは次の文字を含めないでください。全角スペースまたは次の文字が含まれているとインストールのときにエラーになります。

∨ (全称記号)、— (ダッシュ)、一 (漢数字の 1)、稀、紀、儀、言、最、部、需、退、刀、謀、堀、耀、椀、囿、愀、戀、攀、箕、蜀、B (ギリシャ字のベータ)、T (ギリシャ字のタウ)、逢、栢、漢、索、嬢、琢、夢、尢、崢、榲、鳩、癩、滕、菴、籠、蠹、錢、鬢

2. [ArcSuite 4.0 SDK] インストールメディアを、ドライブにセットします。

3. [インストールメディア] ¥DocuSDK¥setup.exe をダブルクリックします。

[ArcSuite ドキュメント管理サービス SDK セットアップへようこそ] 画面が表示されます。

4. [次へ] をクリックします。

[ユーザー情報] 画面が表示されます。

**補足** 必要なソフトウェアがインストールされていない場合は、インストールを促す画面が表示されます。その場合は、表示されているソフトウェアをすべてインストールしてください。

インストール後、再起動が必要な場合は、再起動したあと、手順 [1](#) から操作してドキュメント管理サービス SDK をインストールしてください。

5. [ユーザー名] と [会社名] を入力します。

**補足** [ユーザー名] と [会社名] には OS に設定した内容を入力します。

6. [次へ] をクリックします。

[インストール先の選択] 画面が表示されます。

7. ドキュメント管理サービス SDK のインストール先を確認します。

**補足** インストール先の初期値は、次のとおりです。

- OS が 32 ビットの場合

{インストールするドライブ} :%Program Files¥FUJIFILM¥ArcSuite¥Tool¥dRepTools

- OS が 64 ビットの場合

{インストールするドライブ} :%Program Files (x86)¥FUJIFILM¥ArcSuite¥Tool¥dRepTools

8. [次へ] をクリックします。

[RMS 用データベースのサーバー情報] 画面が表示されます。

9. RMS が使用するデータベースの情報を確認します。

10. [次へ] をクリックします。

[RMS 用ユーザー情報] 画面が表示されます。

11. RMS に接続するユーザーの [ユーザー名] を確認します。

12. [次へ] をクリックします。

[RMS 参照用ユーザー情報] 画面が表示されます。

13. RMS に接続する参照用ユーザーの [ユーザー名] と [パスワード] を入力します。

14. [次へ] をクリックします。

[ファイルコピーの開始] 画面が表示されます。

15. インストールする内容を確認し、[次へ] をクリックします。

**補足** 設定内容を変更する場合は、[戻る] をクリックし、変更する画面まで戻ります。

インストールが開始されます。[セットアップステータス] 画面が表示されます。

**注記** ファイアウォールサービスが起動している場合は、インストールの開始前にファイアウォールの設定を確認する画面が表示されます。

設定する場合は [はい] を、すでに手動で設定済み、または Windows ファイアウォールを使用しない場合は、[いいえ] を選択してください。

16. [セットアップの完了] 画面が表示されるので、[完了] をクリックします。

これで、ドキュメント管理サービスSDKのインストールは終了です。

## 付録 A.3 インストールの内容

ドキュメント管理サービスSDKをインストールすると、インストール先に指定したディレクトリーに次のディレクトリーが作成されます。

表 : 作成されるディレクトリー

ディレクトリー名	説明
bin	ドキュメント管理サービスSDKのコマンド群とdllファイルが格納されています
lib	ドキュメント管理サービスSDKで使用するjarファイルが格納されています
conf	ドキュメント管理サービスSDKで使用する環境設定ファイルが格納されています
Java	ドキュメント管理サービスSDKが使用するJREがインストールされます
sample	ドキュメント管理サービスSDKのJavaAPIのJavaDoc APIドキュメントとサンプルプログラムがインストールされます
workflow¥bin	ドキュメント管理サービスSDKのワークフロードキュメントアクセスツールのコマンド群が格納されています

**注記** ドキュメント管理サービス SDK のインストールでは、環境変数「PATH」を設定しません。そのため、ドキュメント管理サービス SDK の各コマンドを実行するには、各コマンドへのフルパスを指定するか、環境変数「PATH」に「bin」および「workflow¥bin」へのパスを設定してください。

---

## 付録 A.4 アンインストール

---

ドキュメント管理サービスSDKをアンインストールする場合は、次の手順を実行します。

1. Windows の [スタート] メニューから、[Windows システムツール] > [コントロールパネル] を選択します。  
[コントロールパネル] 画面が表示されます。
2. [プログラム] の [プログラムのアンインストール] をクリックします。  
[プログラムのアンインストールまたは変更] 画面が表示されます。
3. [ArcSuite ドキュメント管理サービス SDK] を選択し、[アンインストール] をクリックします。  
[ArcSuite ドキュメント管理サービス SDK のアンインストール] 画面が表示されます。
4. [次へ] をクリックします。  
[アンインストールの確認] 画面が表示されます。
5. [OK] をクリックします。  
アンインストールが開始されます。  
アンインストールが終了すると、[アンインストールの完了] 画面が表示されます。
6. [完了] をクリックします。

これで、ドキュメント管理サービスSDKのアンインストールは終了です。

---

## 付録 A.5 バージョンアップ

---

次の手順で、ドキュメント管理サービスSDKをバージョンアップします。

1. 事前に、次のことを確認します。  
ドキュメント管理サービス SDK のインストール先、ArcSuite をインストールしたときの [データベースのサーバー情報] 画面、[データベースの RMS 用ユーザー情報] 画面、または [データベースの RMS 参照専用ユーザー登録] 画面で設定した情報を、あらかじめ確認しておきます。  
**参照** 詳細については、[\[付録 A.1 インストールの前に確認すること\] \(P.268\)](#) を参照してください。
2. 古いバージョンのドキュメント管理サービス SDK をアンインストールします。  
**参照** 詳細については、[\[付録 A.4 アンインストール\] \(P.271\)](#) を参照してください。
3. 新しいバージョンのドキュメント管理サービス SDK をインストールします。  
**参照** 詳細については、[\[付録 A.2 インストール\] \(P.269\)](#) を参照してください。

## 付録 B 検索条件の記述形式

オブジェクトを特定するための検索条件の記述方法について説明します。

ここで記述している内容は、次のファイルで使用します。

- ・ オブジェクト操作コマンドの操作対象オブジェクト指定ファイル  
targetCondition パラメーター、locationCondition パラメーター、nextCondition パラメーター
- ・ 一括登録コマンドのオブジェクト登録ファイル  
targetCondition パラメーター、locationCondition パラメーター、nextCondition パラメーター、  
refCondition パラメーター、reflocationCondition パラメーター、refnextCondition パラメーター、  
existenceCheckCondition パラメーター

検索条件に使える属性の型は、数値型、日時型、文字列型、ブール型、アトム型、プリンシパル型、ユーザーロール型です。URI型は使用できません。

### 付録 B.1 記述フォーマット

対応する条件式は、完全一致とLIKEとISNULLが使用できます。

LIKEは、文字列型の属性を対象とした場合だけ指定できます。文字列型の属性以外にLIKEを指定した場合は、エラーになります。

属性名と条件値を空白で区切って記述します。

多値の属性を検索条件に使用する場合は、ALLVALかONEVALのどちらかを指定する必要があります。どちらも指定しなかった場合は、エラーになります。

単値の属性の検索条件にALLVAL、ONEVALを指定した場合は、エラーになります。

ALLVALは、値のすべてが条件を満たす場合に一致したことになります。

ONEVALは、値の少なくとも1つが条件を満たす場合に一致したことになります。

検索条件は、次の4種類が記述できます。

- ・ 単値属性の検索条件
- ・ 多値属性の検索条件
- ・ NOT 単値属性の検索条件
- ・ NOT 多値属性の検索条件

次に各記述の内容を示します。

- ・ 単値属性の検索条件
  1. 検索条件
- ・ 多値属性の検索条件
  1. ALLVAL  
ALLVAL 検索条件
  2. ONEVAL  
ONEVAL 検索条件
- ・ 検索条件
  1. = (完全一致)  
属性名 条件値
  2. LIKE (部分一致)  
属性名 LIKE 条件値
  3. ISNULL  
属性名 ISNULL

検索条件を空白で区切って、複数記述できます。複数の検索条件を記述した場合は、各条件をANDで結合したことになります。

## 付録 B.2 条件値の入力フォーマット

条件値は、指定した属性の型に合わせて記述します。

ドキュメント管理サービスSDKで特殊な使い方をしている文字が含まれている場合は、エスケープ文字を挿入する必要があります。

ドキュメント管理サービスSDKで特殊な使い方をしている文字列は、「|」 '^」 「¥」 「¥0」 の4つです。

**参照** ドキュメント管理サービス SDK で特殊な使い方をしている文字列については、[\[9.2.1 特殊な使い方をする文字\] \(P.156\)](#) を参照してください。

### 数値型

数値型属性値には「予約文字」が含まれないため、エスケープ文字を挿入する必要はありません。

数値型は、そのまま値を記述します。

たとえば、nameSpaceが「user」で、userIntegerという数値型の属性があり、この属性の値が「999」のオブジェクトを検索する場合は、次のように記述します。

```
,targetCondition,  
,user:userInteger 999,
```

### 日時型

日時型属性の検索条件値は「YYYY-MM-DDThh:mm:ssTZD」のフォーマットで記述します。

日時型属性値には「予約文字」が含まれないため、エスケープ文字を挿入する必要はありません。

たとえば、nameSpaceが「user」で、userDateという日時型の属性があり、この属性の値が日本時間の「2021年03月24日10時10分10秒」のオブジェクトを検索する場合は、次のように記述します。

```
,targetCondition,  
,user:userDate 2021-03-24T10:10:10JST,
```

### 文字列型

文字列型属性値には「予約文字」が含まれる可能性があるため、エスケープ文字を挿入する必要があります。さらに値を"で囲む必要があります。これは値に半角スペースが含まれる可能性があるからです。ただし、ISNULLを"で囲む必要はありません。

検索条件にLIKEを使用できます。LIKEを用いた場合、文字列型属性値に、ワイルドカード（[\*] 任意の文字列にマッチ、[?] 任意の1文字にマッチ）を使用することができます。

**注記** ドキュメント管理サービスでは、「¥」は、ワイルドカードのエスケープ文字として扱います。ドキュメント管理サービス SDK でも、「¥」は、特殊文字のエスケープ文字として扱います。

そのため、LIKE を用いた場合に「\*」および「?」そのものを文字列型属性値に含めたい場合は、「¥¥\*」や「¥¥?」と指定する必要があります。

また、「\」を文字列型属性値に含めたい場合は、「¥¥¥¥」と指定する必要があります。

なお、LIKE 以外の検索演算子を使用した場合でも、エスケープ文字「¥」は無視されるため、「¥」を文字列型属性値に含めたい場合は、「¥¥¥¥」と指定する必要があります。

たとえば、nameSpaceが「user」で、userStringという文字列型の属性の値が「TEST」のオブジェクトを検索する場合は、次のように記述します。セル全体を「"」で囲んで記述できます。このとき、「"」が含まれ

```
,targetCondition,  
,user:userString "TEST",
```

ていた場合は「"""」に置き換えます。

```
,targetCondition,  
, "user:userString ""TEST""",
```

予約文字を含む検索条件は、次のようになります。

```
,targetCondition,  
,user:userString "ab¥^2",
```

上記の例では、userString属性の値が「ab^2」の場合に条件に該当します。

## ブール型

ブール型属性値には「予約文字」が含まれないため、エスケープ文字を挿入する必要はありません。

真の値を検索する場合は、true (1) を記述します。

偽の値を検索する場合は、false (0) を記述します。

たとえば、nameSpaceが「user」のuserBooleanというブール型の属性があり、属性値が「真」のオブジェクトを検索する場合は、次のように記述します。

```
,targetCondition,  
,user:userBoolean true,
```

## アトム型

アトム型属性の検索条件値は、「nameSpace:name」のフォーマットで記述します。

アトム型属性値には「予約文字」が含まれないため、エスケープ文字を挿入する必要はありません。

たとえば、システム属性のobjectCategory属性の値が「system:reference」のオブジェクトを検索する場合は、次のように記述します。

```
,targetCondition,  
,system:objectCategory system:reference,
```

## プリンシパル型

プリンシパル型属性の検索条件値は、RMSのDN形式で記述し、カラム全体を"で囲みます。

プリンシパル型属性値には、「予約文字」が含まれる可能性があるため、エスケープ文字を挿入する必要があります。

たとえば、システム属性の登録者 (createdBy) の属性値が、「uid=yamada,ou=users,dc=FUJIFILM,dc=co,dc=jp」のオブジェクトを検索する場合、次のように記述します。

```
,targetCondition,  
, "system:createdBy uid=yamada,ou=users,dc=FUJIFILM,dc=co,dc=jp",
```

## ユーザーロール型

ユーザーロール型属性の検索条件値は、RMSのDN形式で記述し、カラム全体を " で囲みます。

ユーザーロール型属値には、「予約文字」が含まれる可能性があるため、エスケープ文字を挿入する必要があります。

たとえば、nameSpaceがuserで、userUserRoleというユーザーロール型の属性の値が、「cn=designer,ou=userRoleNames,dc=FUJIFILM,dc=co,dc=jp」のオブジェクトを検索する場合、次のように記述します。

```
,targetCondition,  
,"user:userUserRole cn=designer,ou=userRoleNames,dc=FUJIFILM,dc=co,dc=jp",
```

## 検索条件の記述例

検索条件をCSVで記述した例を示します。

```
,locationCondition,  
,user:userInteger 1,  
,user:userDate 2021-03-04T10:10:10JST,  
,user:userString "TEST",  
,user:userString LIKE "T"*",  
,user:userBoolean true,  
,system:objectCategory system:folder  
,system:name "TEST" user:drawingNumber "DW123",  
,system:name LIKE "T*" user:versionNumber 1,  
,ONEVAL user:userMultiString "ABC",  
,NOT user:userSingleString ISNULL,
```

各行の検索条件で検索される内容は、次のとおりです。

- ・ 2行目の検索条件は、nameSpaceが「user」の数値型属性 userInteger の値が「1」のオブジェクトが条件に該当します。
- ・ 3行目の検索条件は、nameSpaceが「user」の日付型属性 userDate の値が「2021-03-04T10:10:10JST」のオブジェクトが条件に該当します。
- ・ 4行目の検索条件は、nameSpaceが「user」の文字列型属性 userString の値が「TEST」のオブジェクトが条件に該当します。
- ・ 5行目の検索条件は、nameSpaceが「user」の文字列型属性 userString の値が「T」で始まるオブジェクトが条件に該当します。
- ・ 6行目の検索条件は、nameSpaceが「user」のブール型属性 userBoolean の値が「真」のオブジェクトが条件に該当します。
- ・ 7行目の検索条件は、システム属性のATOM型属性 objectType の値が、system:folder のオブジェクトが条件に該当します。
- ・ 8行目の検索条件は、システム属性の文字列型属性 name の値が「TEST」で、かつ nameSpaceが「user」の文字列型属性 drawingNumber の値が DW123 のオブジェクトが条件に該当します。
- ・ 9行目の検索条件は、システム属性の文字列型属性 name 属性の値が「T」から始まる文字列で、かつ nameSpaceが「user」の数値型属性 versionNumber の値が 1 のオブジェクトが条件に該当します。
- ・ 10行目の検索条件は、nameSpaceが「user」の多値の文字列型属性 userMultiString の値の中に「ABC」が含まれるオブジェクトが条件に該当します。
- ・ 11行目の検索条件は、nameSpaceが「user」の文字列型属性 userSingleString の値が Null でないオブジェクトが条件に該当します。

## 付録 C エディションキーパラメーターのフォーマット

エディションキーパラメーターには、次の3種類のパラメーターがあります。

1. 版管理下のオブジェクトを特定するためのtargetEditionKeyパラメーター
2. オブジェクトにエディション属性を付加するeditionKeyパラメーター
3. 参照先の情報を取得したときのrefEditionKeyパラメーター

1.と2.は、入力ファイルの操作対象オブジェクト指定ファイルで使します。

3.は、正常結果情報出力ファイルの属性値として出力されます。

エディションキーパラメーターに使用できる属性の型は、数値型、日時型、文字列型、アトム型です。URI型とブール型は使用できません。

エディションキーパラメーターのフォーマットは、「属性名 属性値」のように、属性名と属性値を半角スペースで区切ります。エディションキーパラメーターが複数の属性を持つ場合も、半角スペースで区切ります。

このフォーマットは、検索条件の記述形式の「完全一致」と同じです。

**参照** 検索条件の記述方法については、[\[付録 B 検索条件の記述形式\] \(P.272\)](#) を参照してください。

たとえば、「オブジェクトのエディションキー追加コマンド」で、エディションキーのnameSpaceが「user」の文字列型属性userStringに、editionKeyパラメーターによって「TEST」という値を付加する場合は、次のように記述します。

```
,editionKey,  
,user:userString "TEST",
```

また、エディションキーが、「user:socumentId」というstring型属性と「user:documentNumber」というinteger型属性で構成されている場合は、次のように記述します。

```
,editionKey,  
,user:documentId "ABC" user:documentNumber 1234,
```

## 付録 D 用語集

用語	定義と簡単な説明
ACE	Access Control Entryの略。アクセスの主体となるユーザーロールとアクセス権を組にしたペアにして規定した、ACLのエントリーです。
ACL	Access Control Listの略。オブジェクトにアクセス権を設定するためのリストです。ACLはACEのリストとなります。
dRepository Id (drepld)	ドキュメント管理サービス IDのことです。キャビネット内のオブジェクトを識別するためのIDです。オブジェクト登録時に自動的に設定されます。
Everyone ACE	すべてのアクセス主体に対して適用するアクセス権を規定する、ACLのエントリーです。
Others ACE	ACL中に明示されたエントリーがないアクセス主体に対して適用する、アクセス権を規定するACLのエントリーです。
RMS	ユーザーや属性などのリソースを管理するサービスです。ユーザー認証やディレクトリーサービスへのアクセスなどを管理します。
RMS 管理ツール	RMSを管理するツールです。RMS管理者が、ドキュメントスペース管理者や一般ユーザーの設定のために使います。
アクセス権	オブジェクトにアクセスするための権限です。たとえば、オブジェクトのコンテンツを取り出すための「getContent」、オブジェクトを表示するための「viewContent」など、操作ごとにアクセス権が設けられています。
アクセス権マスク	ACLで許可されている操作のうち、さらに一部のみを許可するように制限を加える機能です。キャビネットに対するアクセス権マスクと、状態に対応したアクセス権マスクがあります。
アクセスコントロールエントリー	「ACE」を参照してください。
アクセスコントロールリスト	「ACL」を参照してください。
アドレス帳	RMSに登録されているユーザーの検索などを行うためのツールです。ドキュメントスペースでは、一般ユーザーを選択するためにアドレス帳を使います。
アンチェックアウト	チェックアウトを取り消し、チェックアウト前の状態にドキュメントを戻す操作です。チェックアウトによって作成された作業リビジョンが削除されます。チェックアウトによるアクセスの制限も解除されます。
アンロック	ロックを解除する操作です。
インデックスキー	属性検索を高速化するために作成するインデックスです。1～6つの属性によって定義されます。
版管理	ドキュメント、フォルダー、リファレンスの版を管理する機能です。
エディションキー (版管理属性)	オブジェクトが版管理の対象となっていることを示すキー情報です。1～6つのユーザー属性によって、キャビネット単位で定義されます。
版ラベル	ドキュメント、フォルダー、リファレンスのエディションを示す文字列です。
オブジェクト	ドキュメント管理サービスおよびドキュメントスペースにおける操作対象の単位です。オブジェクトの種類には、サービス、キャビネット、ドロワー、フォルダー、ドキュメント、リファレンスがあります。

用語	定義と簡単な説明
オブジェクト ID	オブジェクトを識別するためのIDです。サービスID、キャビネットID、ドキュメント管理サービス IDによって構成されます。
改訂 (リビジョンアップ)	新しいリビジョン番号のドキュメントを登録する操作です。
改版	新しい版番号のオブジェクトを登録する操作です。
管理オブジェクト	基本オブジェクトを管理するオブジェクトです。サービスオブジェクト、キャビネットオブジェクト、ドロワーオブジェクトの総称です。
管理ポータル	ドキュメントスペース管理アプリケーションへの入り口となるWebページを表示するコンポーネントです。
基本オブジェクト	管理の対象となるオブジェクトです。フォルダーオブジェクト、ドキュメントオブジェクト、リファレンスオブジェクトの総称です。
キャビネット	オブジェクトの1つです。オブジェクトの階層では、サービスの下に位置します。検索方法やバージョン管理方法などを設定する単位となります。
キャビネット ID	キャビネットを識別するためのIDです。キャビネット作成時に指定します。
キャビネット管理者	ドキュメント管理サービスのサービス管理者によって設定される、キャビネットに対する管理責任者です。キャビネットおよびドロワーに対する管理権限を持ちます。
検索インデックス	検索のための情報を記録するインデックスです。検索対象のドキュメントのIDや種類などの情報が含まれます。
検索エンジン	検索を処理するコンポーネントです。ドキュメントスペースでは、全文検索のための全文検索エンジン、および関連文書検索のための関連文書検索エンジンを利用します。
検索エンジン連携属性	オブジェクトが持つ属性のうち、検索エンジン上に対応するインデックスを持つキャビネットにおいて、検索エンジンとの連携によって使用できるようになる特殊なシステム属性です。検索エンジンサービス名や検索インデックス名などの各種情報が含まれます。
作業リビジョン	チェックアウトによって作成されるドキュメントです。
サービス	オブジェクトの1つです。ドキュメントスペースの管理単位となる管理オブジェクトです。
サービス ID	サービスを識別するためのIDです。サービス作成時に指定します。
サービス管理者	ドキュメント管理サービスの管理者によって設定される、サービス全体に対する管理責任者です。サービスのほか、キャビネットやドロワーなど、サービス内のすべてのオブジェクトに対する管理権限を持ちます。
システム属性	オブジェクトが持つ属性のうち、あらかじめ定義されている属性です。サービス管理者は変更できません。
状態	ドキュメント、フォルダー、リファレンスが持つシステム属性の1つで、オブジェクトの状態を表すものです。たとえば、ドキュメントの状態が「editable (編集可能)」であれば、ACLで許可されているアクセス主体は、そのドキュメントを編集できます。状態に応じたアクセス権マスクを設定できます。
スコア	関連文書検索において、検索条件に対する結果の関連度を示す数値情報です。
ストレージパス	ストレージ領域を指すパスです。
ストレージ領域	ドキュメントのコンテンツデータを格納する領域です。1つのドロワーに1つのストレージ領域が対応づけられます。

用語	定義と簡単な説明
属性	オブジェクトが持つ、オブジェクトの名前、登録日時などの各種情報です。オブジェクトを管理するために属性値を利用するほか、属性値を指定した検索もできます。
属性制約	オブジェクトが持つ属性値の範囲を設定する機能です。
チェックアウト	ドキュメントに対するアクセス制御のための操作です。ドキュメントの新しいリビジョンを作成する場合に、チェックアウトを行います。チェックアウトすると、作業リビジョンが作成されるので、作業リビジョンを編集します。チェックアウトされたドキュメントについては、編集などのアクセスが制限されます。 <b>参照</b> オブジェクトがチェックアウトされている場合の操作の可否については、 <a href="#">[付録H ロック、チェックアウトによる操作の可否] (P.307)</a> を参照してください。
チェックイン	チェックアウトによって作成された作業リビジョンを新しいリビジョンとする操作です。チェックアウトによるアクセスの制限が解除されます。
デフォルトアクセス権	アクセス権を指定せずにオブジェクトを作成、登録した場合に、オブジェクトにデフォルトで設定するアクセス権です。
デフォルトドメイン	ArcSuiteのコンポーネントから見たときの、コンポーネント自身が属するRMSのドメインです。ドキュメントスペースの場合は、ドキュメントスペースが属するRMSのドメインを意味します。
ドキュメント	オブジェクトの1つです。管理対象のテキストファイル、PDFファイル、図面データファイルなどを、ドキュメントとしてドキュメントスペースに登録します。
ドキュメント管理サービス	文書、図面などのドキュメントを管理するための統合リポジトリのことです。ArcSuiteの基本的なコンポーネントの1つです。
ドキュメント管理サービスID	[dRepository Id] を参照してください。
ドキュメントスペース	ドキュメントスペースにオブジェクトを登録したり、登録済みのオブジェクトを利用したりするためのアプリケーションコンポーネントです。GUI形式で、主に一般ユーザーが操作します。
ドキュメントスペース管理者	ドキュメントスペース管理アプリケーションを使って、ドキュメントスペースに関する設定を行う管理者です。RMS管理者が、ドキュメントスペース管理アプリケーションをRMSに登録します。
ドキュメントスペース管理アプリケーション	ドキュメントスペースに関する各種設定を行うための管理ツールです。具体的には、ドキュメントスペースにおいてオブジェクトの登録や検索のために利用する属性テンプレートの設定、操作内容の設定などを行います。GUI形式で、ドキュメントスペース管理者が操作します。 ドキュメント管理サービスに関する設定を行うための「ドキュメント管理サービスの管理ツール」とは別のものなので、注意してください。
ドキュメント管理サービスの管理ツール	ドキュメント管理サービスに関する設定を行うための管理ツールです。具体的には、サービス、キャビネット、ドロワー、および検索インデックスに関する各種設定を行います。サービス管理者またはキャビネット管理者が操作します。 ドキュメントスペースに関する設定を行うための「ドキュメントスペース管理アプリケーション」とは別のものなので、注意してください。
ドロワー	オブジェクトの1つです。オブジェクトの階層では、キャビネットの下に位置します。ドキュメントの内容そのものを保存する、物理的なメディアに対応しています。
バージョン管理	ドキュメント、フォルダー、リファレンスのバージョンを管理する機能です。ドキュメントスペースでは、ドキュメント、フォルダー、リファレンスの版（エディション）、およびドキュメントの変更履歴（リビジョン）を管理できます。

用語	定義と簡単な説明
フォルダー	オブジェクトの1つです。オブジェクトの階層では、ドロワーの下に位置します。また、1つのフォルダーに複数のフォルダーを置くこともできます。関連する複数のドキュメントやリファレンスをグループ化して管理するために、フォルダーを利用します。
ポータル	ドキュメントスペース、および管理ポータルへの入り口となるWebページを表示するコンポーネントです。
モード	サービス、キャビネットに対するアクセス制御のための機能です。たとえば、サービスのモードが「maintenance（メンテナンス中）」になっているときは、サービス管理者による管理作業のみが可能となり、一般ユーザーはサービスを利用できません。
ユーザー属性	オブジェクトが持つ属性のうち、サービス管理者が定義する独自の属性です。用途に合わせて定義し、属性値を設定できます。
ユニークキー	オブジェクトに設定する属性値に、ユニーク性を持たせるためのキー情報です。1～6つの属性によって定義されます。
リビジョン管理	ドキュメントの変更履歴を管理する機能です。すべてのドキュメントがリビジョン管理の対象となります。
リファレンス	オブジェクトの1つです。別のドキュメントやフォルダーを参照します。
ロック	<p>フォルダー、ドキュメント、リファレンスに対するアクセス制御のための機能です。ロックした本人以外のアクセスが制限されます。</p> <p><b>参照</b> オブジェクトがロックされている場合の操作の可否については、<a href="#">【付録H】ロック、チェックアウトによる操作の可否   (P.307)</a> を参照してください。</p>

## 付録 E XML による検索条件の記述方法

ドキュメント管理サービスSDKでは、検索条件記述ファイルや実行パラメーターファイルのtextSearch要素で指定するファイルにおいて、検索条件をXML形式で記述できます。

XML形式で検索条件を記述することにより、より柔軟な検索ができます。

ここでは、XMLによる検索条件の記述方法について説明します。

- ・ [XML形式での全文検索条件式の記述方法](#)
- ・ [XML形式での属性検索条件式の記述方法](#)

### 付録 E.1 XML形式での全文検索条件式の記述方法

ここでは、実行パラメーターファイルのtextSearch要素で指定するファイルにおいて、XML形式で全文検索条件式を記述する方法を説明します。

#### 記述ルール

XML形式で全文検索条件式を記述するには、XMLスキーマにしたがってXMLを記述する必要があります。次に全文検索条件式のXMLスキーマを示します。

```
<?xml version="1.0" encoding="Windows-31J" ?>
<xs:schema xmlns:xs="http://www.w3.org/2001/XMLSchema">
<!--ELEMENT DEFINITION -->
<xs:element name="textSearch" type="textSearch-type"/>
<xs:element name="ftsAnd" type="condition-type"/>
<xs:element name="ftsOr" type="condition-type"/>
<xs:element name="ftsNot" type="notCondition-type"/>
<xs:element name="text" type="text-type"/>
<xs:element name="near" type="near-type"/>
<xs:element name="wordList" type="list-type"/>
<xs:element name="distance" type="dis-type" default="10"/>
<xs:element name="word" type="word-type"/>
<xs:element name="exword" type="exword-type"/>
<xs:element name="dictionary" type="dic-type"/>
<xs:element name="thesaurus" type="thsr-type"/>
<!-- ATTRIBUTE DEFINITION -->
<!-- SIMPLETYPE DEFINITION -->
<xs:simpleType name="not-type">
<xs:restriction base="xs:boolean"/>
</xs:simpleType>
<xs:simpleType name="inOrder-type">
<xs:restriction base="xs:boolean"/>
</xs:simpleType>
<xs:simpleType name="col-type">
<xs:restriction base="xs:string">
<xs:maxLength value="10"/>
</xs:restriction>
</xs:simpleType>
<xs:simpleType name="dis-type">
<xs:restriction base="xs:int"/>
</xs:simpleType>
```

```

<xs:simpleType name="exword-type">
  <xs:restriction base="xs:string">
    <xs:pattern value="[!%]+"/>
    <xs:minLength value="1"/>
  </xs:restriction>
</xs:simpleType>
<xs:simpleType name="dic-type">
  <xs:restriction base="xs:string">
    <xs:minLength value="1"/>
  </xs:restriction>
</xs:simpleType>
<!-- COMPLEXTYPE DEFINITION -->
<xs:complexType name="textSearch-type">
  <xs:choice>
    <xs:element ref="ftsNot" minOccurs="1" maxOccurs="1"/>
    <xs:group ref="textCondition-group" minOccurs="1" maxOccurs="1"/>
  </xs:choice>
</xs:complexType>
<xs:complexType name="condition-type">
  <xs:choice>
    <xs:element ref="ftsNot" minOccurs="1" maxOccurs="1"/>
    <xs:group ref="textCondition-group" minOccurs="1" maxOccurs="unbounded"/>
  </xs:choice>
</xs:complexType>
<xs:complexType name="notCondition-type">
  <xs:group ref="textCondition-group" minOccurs="1" maxOccurs="1"/>
</xs:complexType>
<xs:complexType name="text-type">
  <xs:sequence>
    <xs:element ref="column" minOccurs="0" maxOccurs="1"/>
    <xs:group ref="wordList-group" minOccurs="1" maxOccurs="1"/>
  </xs:sequence>
</xs:complexType>
<xs:complexType name="near-type">
  <xs:sequence>
    <xs:element ref="column" minOccurs="0" maxOccurs="1"/>
    <xs:group ref="wordList-group" minOccurs="1" maxOccurs="1"/>
    <xs:element ref="distance" minOccurs="1" maxOccurs="1"/>
    <xs:group ref="wordList-group" minOccurs="1" maxOccurs="1"/>
  </xs:sequence>
  <xs:attribute name="inOrder" type="inOrder-type" default="false"/>
</xs:complexType>
<xs:complexType name="list-type">
  <xs:sequence>
    <xs:element ref="word" minOccurs="1" maxOccurs="unbounded"/>
  </xs:sequence>
  <xs:attribute name="op" default="OR">
    <xs:simpleType>
      <xs:restriction base="xs:string">
        <xs:enumeration value="AND"/>
        <xs:enumeration value="OR"/>
      </xs:restriction>
    </xs:simpleType>
  </xs:attribute>
</xs:complexType>

```

```

</xs:attribute>
</xs:complexType>
<xs:complexType name="word-type">
<xs:simpleContent>
<xs:extension base="word-string-type">
<xs:attribute name="style" default="equal">
<xs:simpleType>
<xs:restriction base="xs:string">
<xs:enumeration value="equal"/>
<xs:enumeration value="prefix"/>
<xs:enumeration value="suffix"/>
<xs:enumeration value="substring"/>
</xs:restriction>
</xs:simpleType>
</xs:attribute>
</xs:extension>
</xs:simpleContent>
</xs:complexType>
<xs:simpleType name="word-string-type">
<xs:restriction base="xs:string">
<xs:minLength value="1"/>
</xs:restriction>
</xs:simpleType>
<xs:complexType name="thrsrs-type">
<xs:sequence>
<xs:element ref="exword" minOccurs="1" maxOccurs="1"/>
<xs:element ref="dictionary" minOccurs="1" maxOccurs="1"/>
</xs:sequence>
<xs:attribute name="mode" default="synonym">
<xs:simpleType>
<xs:restriction base="xs:string">
<xs:enumeration value="narrow"/>
<xs:enumeration value="synonym"/>
<xs:enumeration value="broaden"/>
</xs:restriction>
</xs:simpleType>
</xs:attribute>
</xs:complexType>
<!-- xs:group DEFINITION -->
<xs:group name="textCondition-group">
<xs:choice>
<xs:element ref="ftsAnd" minOccurs="1" maxOccurs="1"/>
<xs:element ref="ftsOr" minOccurs="1" maxOccurs="1"/>
<xs:element ref="text" minOccurs="1" maxOccurs="1"/>
<xs:element ref="near" minOccurs="1" maxOccurs="1"/>
</xs:choice>
</xs:group>
<xs:group name="wordList-group">
<xs:choice>
<xs:element ref="wordList" minOccurs="1" maxOccurs="1"/>
<xs:element ref="thesaurus" minOccurs="1" maxOccurs="1"/>
</xs:choice>
</xs:group>
</xs:schema>

```

## XML の要素

全文検索条件式で使用するXMLスキーマの定義内容を、要素 (ELEMENT) ごとに説明します。

### ■ 条件全体 : textSearch

[条件全体 : textSearch] とは、検索条件全体を表す要素です。入力必須の項目であり、1つのXML文書につき、1つだけ記述します。

この要素の子要素として含まれる要素は、NOT条件かtextCondition-group型の条件です。これらの条件のいずれか1つを要素として記述します。

- ・ [ftsNot] : NOT 条件
- ・ [textCondition-group] : AND による組み合わせ条件
- ・ [textCondition-group] : OR による組み合わせ条件
- ・ [textCondition-group] : 文字列検索条件
- ・ [textCondition-group] : 近傍検索条件

**参照** textCondition-group 型の要素の詳細については、次の各項目を参照してください。

- ・ [\[■ AND 条件 : ftsAnd\] \(P.284\)](#)
- ・ [\[■ OR 条件 : ftsOr\] \(P.284\)](#)
- ・ [\[■ 文字列検索 : text\] \(P.284\)](#)
- ・ [\[■ 近傍検索 : near\] \(P.284\)](#)

### ■ AND 条件 : ftsAnd

[AND条件 : ftsAnd] とは、ANDによる組み合わせの条件を表す要素です。

この要素の子要素として含まれる要素は、前述の「条件全体 : textSearch」に記載された要素と同じです。

### ■ OR 条件 : ftsOr

[OR条件 : ftsOr] とは、ORによる組み合わせの条件を表す要素です。

この要素の子要素として含まれる要素は、前述の「条件全体 : textSearch」に記載された要素と同じです。

### ■ 文字列検索 : text

[文字列検索 : text] とは、文字列検索を表す要素です。

次に示す子要素で構成されます。

- ・ [wordList-group]  
検索語リストを表す要素です。

**参照** [wordList-group] 要素の詳細については、[\[■ 検索語リスト : wordList-group\] \(P.285\)](#) を参照してください。

### ■ 近傍検索 : near

[近傍検索 : near] とは、近傍検索を表す要素です。

次に示す子要素で構成されます。

- ・ [wordList-group]  
検索語リスト A を表す要素です。

**参照** [wordList-group] 要素の詳細については、[\[■ 検索語リスト : wordList-group\] \(P.285\)](#) を参照してください。

- ・ [distance]  
検索語リストの単語間の距離を表します。デフォルトは 10 バイトです。

指定可能な範囲は、1～2 GB（最大テキストサイズ）までの整数値です。  
それ以外の値の場合は検索できません。

- ・ [wordList-group]  
検索語リスト B を表す要素です。

**参照** [wordList-group] 要素の詳細については、[検索語リスト：wordList-group | \(P.285\)](#) を参照してください。

属性として次の設定ができます。

- ・ [inOrder]  
検索語リスト A と B の出現順を表します。  
この属性は省略できます。属性を省略すると false（出現順を無視する）設定となります。

## ■ 検索語リスト：wordList-group

[検索語リスト：wordList-group] とは、検索語のリストを表す要素です。

次に示す子要素のいずれか1つで構成されています。

- ・ [wordList]  
単語集合を表します。

**参照** [wordList] 要素の詳細については、[単語集合：wordList | \(P.285\)](#) を参照してください。

- ・ [thesaurus]  
シソーラスによる展開語を表します。

**参照** [thesaurus] 要素の詳細については、[シソーラス展開：thesaurus | \(P.286\)](#) を参照してください。

## ■ 単語集合：wordList

[単語集合：wordList] とは、単語集合を表す要素です。

次に示す子要素で構成されます。

- ・ [word]  
1 語の検索単語を表します。検索単語は 1 文字以上の文字列です。  
属性として、検索単語との一致方法を設定できます。

**参照** [word] 要素の詳細については、[検索語：word | \(P.285\)](#) を参照してください。

単語集合の各単語間の関係を指定するために、[単語集合：wordList] の属性 [op] として、次のいずれかの値を設定できます。ただし、[近傍検索：near] ではこの属性は無視され、必ず or で処理されます。

- ・ [AND]：AND による検索処理
- ・ [OR]：OR による検索処理

デフォルトは [OR] です。

## ■ 検索語：word

[検索語：word] とは、検索語を表す要素です。

次に示す子要素で構成されます。

- ・ 文字列  
1 文字以上の文字列を表します。文字列中に記号を含む場合には、その記号は任意の 1 文字として検索処理されます。  
文字列にスペースがある場合、スペースを任意の文字、あるいは無視した文字列を検索語として検索処理されます。

アンダースコア「\_」は任意の1文字、パーセント記号「%」は任意の0文字以上のワイルドカードとして検索処理されます。

検索対象単語の一致方法を指定するために、[検索語：word] の属性 [style] として、次のいずれかの値を設定できます。

- ・ [equal]：完全一致
- ・ [prefix]：前方一致
- ・ [suffix]：後方一致
- ・ [substring]：部分一致

デフォルトは [equal] です。

## ■ 距離：distance

[距離：distance] とは、検索語リストの単語間の距離を表します。デフォルトは10バイトです。

指定可能な範囲は、1~2 GB（最大テキストサイズ）までの整数値です。

それ以外の値の場合は検索されません。

## ■ シソーラス展開語：exword

[シソーラス展開語：exword] とは、シソーラス展開のキーとなる単語を表す要素です。検索語を表す [word] とは異なり、シソーラス内の語と完全一致の場合だけ有効です。

設定可能な範囲は、1文字以上の文字列です。文字列中にはスペースおよび記号を設定することはできません。

## ■ 辞書：dictionary

[辞書：dictionary] とは、シソーラス辞書名を表す要素です。この要素は1回だけ記述できます。

設定可能な範囲は、1文字以上8文字以下の文字列です。あらかじめシソーラスの管理者によって作成／登録されている辞書名を設定します。文字列にスペースを使用することはできません。

シソーラスを用いた展開の場合は、シソーラス展開語の展開方法を表すために、[辞書：dictionary] の属性 [mode] として、次のどれかの値を設定できます。

- ・ [synonym]：同義語展開
- ・ [narrow]：上位語展開
- ・ [broaden]：下位語展開

デフォルトは [synonym] です。

## ■ シソーラス展開：thesaurus

[シソーラス展開：thesaurus] とは、シソーラス展開を表す要素です。

[シソーラス展開：thesaurus] は、次の要素で構成されます。

- ・ [exword]  
シソーラス展開語を表す要素です。

**参照** [exword] 要素の詳細については、[「シソーラス展開語：exword」\(P.286\)](#) を参照してください。

- ・ [dictionary]  
シソーラス辞書を表す要素です。

**参照** [dictionary] 要素の詳細については、[「辞書：dictionary」\(P.286\)](#) を参照してください。

## 検索条件の記述例

XMLによる全文検索条件式の記述例を次に示します。

```
<textSearch>
<ftsOr>
<ftsAnd>
<text>
<wordList op="OR">
<word> 富士 </word>
<word style="prefix"> ファイルム </word>
</wordList>
</text>
<text>
<thesaurus mode="narrow">
<exword>FAX</exword>
<dictionary>normaldic1</dictionary>
</thesaurus>
</text>
</ftsAnd>
<near inOrder="TRUE">
<wordList>
<word style="substring"> 複写機 </word>
</wordList>
<distance>10</distance>
<thesaurus mode="narrow">
<exword> プリンタ </exword>
<dictionary>normaldic1</dictionary>
</thesaurus>
</near>
</ftsOr>
</textSearch>
```

- \* 1 : 全文検索サービスの検索条件全体を表すタグが必ず 1 つ存在します。
- \* 2 : 文字列検索条件の例です。1 つ以上の <word> . . . . . </word> を指定します。
- \* 3 : 文字列検索条件の例です。<wordlist> の代わりに <thesaurus> でシソーラス展開した語の or 演算の検索条件を指定します。
- \* 4 : 近傍検索条件の例です。2 つの <wordlist> (この場合 1 つは <thesaurus> を利用) と、距離を指定します。

## 付録 E.2 XML 形式での属性検索条件式の記述方法

ここでは、検索条件記述ファイルにおいて、XML形式で属性検索条件式を記述する方法を説明します。

### 記述ルール

XML形式で属性検索条件式を記述するには、XMLスキーマにしたがってXMLを記述する必要があります。次に属性検索条件式のXMLスキーマを示します。

```
<?xml version="1.0" encoding="Windows-31J" ?>
<schema xmlns="http://www.w3.org/2001/XMLSchema" xmlns:api="http://
www.fujifilm.com/fb/2021/09/drep/api">
<!-- COMPARISON OPERATOR GROUP -->
<group name="atsComparison-group">
<choice>
<element ref="api:between" minOccurs="0" maxOccurs="1"/>
<element ref="api:equal" minOccurs="0" maxOccurs="1"/>
<element ref="api:greaterEqual" minOccurs="0" maxOccurs="1"/>
<element ref="api:greaterThan" minOccurs="0" maxOccurs="1"/>
<element ref="api:in" minOccurs="0" maxOccurs="1"/>
<element ref="api:isNull" minOccurs="0" maxOccurs="1"/>
<element ref="api:isNotNull" minOccurs="0" maxOccurs="1"/>
<element ref="api:lessEqual" minOccurs="0" maxOccurs="1"/>
<element ref="api:like" minOccurs="0" maxOccurs="1"/>
<element ref="api:lessThan" minOccurs="0" maxOccurs="1"/>
<element ref="api:notBetween" minOccurs="0" maxOccurs="1"/>
<element ref="api:notEqual" minOccurs="0" maxOccurs="1"/>
<element ref="api:notIn" minOccurs="0" maxOccurs="1"/>
<element ref="api:notLike" minOccurs="0" maxOccurs="1"/>
</choice>
</group>
<!-- LOGICAL OPERATOR GROUP -->
<group name="atsLogical-group">
<choice>
<element ref="api:atsAnd" minOccurs="0" maxOccurs="1"/>
<element ref="api:atsOr" minOccurs="0" maxOccurs="1"/>
<element ref="api:atsNot" minOccurs="0" maxOccurs="1"/>
</choice>
</group>
<!-- MULTI VALUE OPERATOR GROUP -->
<group name="atsMultiValue-group">
<choice>
<element ref="api:allval" minOccurs="0" maxOccurs="1"/>
<element ref="api:oneval" minOccurs="0" maxOccurs="1"/>
</choice>
</group>
<element name="atsCondition">
<complexType>
<choice>
<group ref="api:atsComparison-group"/>
<group ref="api:atsLogical-group"/>
<group ref="api:atsMultiValue-group"/>
</choice>
```

```

</complexType></element>
<complexType name="atsConditionList-type">
<choice minOccurs="1" maxOccurs="unbounded">
<group ref="api:atsComparison-group"/>
<group ref="api:atsLogical-group"/>
<group ref="api:atsMultiValue-group"/>
</choice>
</complexType>
<element name="between" type="api:atsComparison-type"/>
<element name="equal" type="api:atsComparison-type"/>
<element name="greaterEqual" type="api:atsComparison-type"/>
<element name="greaterThan" type="api:atsComparison-type"/>
<element name="in" type="api:atsComparison-type"/>
<element name="isNull" type="api:atsComparison-type"/>
<element name="isNotNull" type="api:atsComparison-type"/>
<element name="lessEqual" type="api:atsComparison-type"/>
<element name="like" type="api:atsComparison-type"/>
<element name="lessThan" type="api:atsComparison-type"/>
<element name="notEqual" type="api:atsComparison-type"/>
<element name="notIn" type="api:atsComparison-type"/>
<element name="notLike" type="api:atsComparison-type"/>
<element name="atsAnd" type="api:atsConditionList-type"/>
<element name="atsOr" type="api:atsConditionList-type"/>
<element name="atsNot" type="api:atsConditionList-type"/>
<complexType name="atsMultiValue-type">
<choice minOccurs="1" maxOccurs="1">
<group ref="api:atsComparison-group"/>
</choice>
</complexType>
<element name="allval" type="api:atsMultiValue-type"/>
<element name="oneval" type="api:atsMultiValue-type"/>
<complexType name="atsComparison-type">
<choice minOccurs="1" maxOccurs="unbounded">
<element ref="api:idExpr" minOccurs="0" maxOccurs="unbounded"/>
<element ref="api:valueExpr" minOccurs="0" maxOccurs="unbounded"/>
<element ref="api:funcExpr" minOccurs="0" maxOccurs="unbounded"/>
</choice>
</complexType>
<element name="idExpr">
<complexType>
<sequence>
<any minOccurs="1" maxOccurs="1"/>
</sequence>
</complexType>
</element>
<element name="valueExpr">
<complexType>
<sequence>
<group ref="api:atsValue-group"/>
</sequence>
</complexType>
</element>

```

```

<element name="funcExpr">
<complexType>
<sequence>
<any minOccurs="0" maxOccurs="1"/>
</sequence>
<attribute ref="api:operation"/>
</complexType>
</element>
<attribute name="operation" type="string"/>
<!-- VALUE GROUP -->
<group name="atsValue-group">
<choice>
<element ref="api:stringValue" minOccurs="1" maxOccurs="1"/>
<element ref="api:booleanValue" minOccurs="1" maxOccurs="1"/>
<element ref="api:principalValue" minOccurs="1" maxOccurs="1"/>
<element ref="api:userRoleValue" minOccurs="1" maxOccurs="1"/>
<element ref="api:integerValue" minOccurs="1" maxOccurs="1"/>
<element ref="api:doubleValue" minOccurs="1" maxOccurs="1"/>
<element ref="api:longValue" minOccurs="1" maxOccurs="1"/>
<element ref="api:atomValue" minOccurs="1" maxOccurs="1"/>
<element ref="api:dateValue" minOccurs="1" maxOccurs="1"/>
</choice>
</group>
<element name="stringValue" type="string"/>
<element name="integerValue" type="int"/>
<element name="longValue" type="long"/>
<element name="doubleValue" type="double"/>
<element name="booleanValue" type="boolean"/>
<element name="dateValue" type="string"/>
<element name="atomValue" type="string"/>
<element name="principalValue">
<complexType>
<choice>
<element ref="api:general" minOccurs="1" maxOccurs="1"/>
<element ref="api:admin" minOccurs="1" maxOccurs="1"/>
</choice>
</complexType>
</element>
<element name="general ">
<complexType>
<sequence>
<element ref="api:rmsEntryValue" minOccurs="1" maxOccurs="1"/>
</sequence>
</complexType>
</element>
<element name="admin">
<complexType>
<sequence>
<element ref="api:rmsEntryValue" minOccurs="1" maxOccurs="1"/>
</sequence>
</complexType>
</element>

```

```

<element name="userRoleValue">
  <complexType>
    <sequence>
      <element ref="api:rmsEntryValue" minOccurs="1" maxOccurs="1"/>
    </sequence>
  </complexType>
</element>
<element name="rmsEntryValue">
  <complexType>
    <sequence>
      <element ref="api:id" minOccurs="1" maxOccurs="1"/>
      <element ref="api:name" minOccurs="1" maxOccurs="1"/>
    </sequence>
    <attribute ref="api:type"/>
  </complexType>
</element>
<element name="id">
  <complexType>
    <sequence>
      <element ref="api:stringValue" minOccurs="1" maxOccurs="1"/>
    </sequence>
  </complexType>
</element>
<element name="name">
  <complexType>
    <sequence>
      <element ref="api:stringValue" minOccurs="1" maxOccurs="1"/>
    </sequence>
  </complexType>
</element>
</schema>

```

## XML の要素

属性検索条件式で使用するXMLスキーマの定義内容を説明します。

### ■ 論理検索条件

論理検索条件で使用される演算子を表す3つの要素について説明します。

#### ◆ atsAnd

AND演算子を表す要素です。この要素の直下に検索条件を2つ以上記述して使用します。

#### ◆ atsOr

OR演算子を表す要素です。この要素の直下に検索条件を2つ以上記述して使用します。

#### ◆ atsNot

NOT演算子を表す要素です。この要素の直下に検索条件を1つだけ記述して使用します。

### ■ 比較検索条件

比較検索条件で使用される演算子を表す要素について説明します。

#### ◆ equal

"="演算子を表現する要素です。この要素の直下に条件式の左辺となる属性名を表す要素と、右辺となる属性値を表す要素を順番に記述して使用します。

### ◆ notEqual

"!="演算子を表現する要素です。この要素の直下に条件式の左辺となる属性名を表す要素と、右辺となる属性値を表す要素を順番に記述して使用します。

### ◆ greaterEqual

">="演算子を表現する要素です。この要素の直下に条件式の左辺となる属性名を表す要素と、右辺となる属性値を表す要素を順番に記述して使用します。

### ◆ greaterThan

">"演算子を表現する要素です。この要素の直下に条件式の左辺となる属性名を表す要素と、右辺となる属性値を表す要素を順番に記述して使用します。

### ◆ lessEqual

"<="演算子を表現する要素です。この要素の直下に条件式の左辺となる属性名を表す要素と、右辺となる属性値を表す要素を順番に記述して使用します。

### ◆ lessThan

"<"演算子を表現する要素です。この要素の直下に条件式の左辺となる属性名を表す要素と、右辺となる属性値を表す要素を順番に記述して使用します。

### ◆ between

"between"演算子を表現する要素です。この要素の直下に条件式の左辺となる属性名を表す要素と、右辺となる2つの属性値を表す要素を順番に記述して使用します。

### ◆ notBetween

"not between"演算子を表現する要素です。この要素の直下に条件式の左辺となる属性名を表す要素と、右辺となる2つの属性値を表す要素を順番に記述して使用します。

### ◆ in

"in"演算子を表現する要素です。この要素の直下に条件式の左辺となる属性名を表す要素と、右辺となる1つ以上の属性値を表す要素を順番に記述して使用します。

### ◆ notIn

"not in"演算子を表現する要素です。この要素の直下に条件式の左辺となる属性名を表す要素と、右辺となる1つ以上の属性値を表す要素を順番に記述して使用します。

### ◆ isNull

"isNull"演算子を表現する要素です。この要素の直下に属性名を表す要素を記述して使用します。

### ◆ isNotNull

"isNotNull"演算子を表現する要素です。この要素の直下に属性名を表す要素を記述して使用します。

### ◆ like

"like"演算子を表現する要素です。この要素の直下に条件式の左辺となる属性名を表す要素と、右辺となる属性値を表す要素を順番に記述して使用します。

### ◆ notLike

"not like"演算子を表現する要素です。この要素の直下に条件式の左辺となる属性名を表す要素と、右辺となる属性値を表す要素を順番に記述して使用します。

**注記** 属性検索条件では、isNull および isNotNull を除き、属性値を持たないものは評価対象にならないので、注意が必要です。たとえば、(A notEqual 100) で検索すると、属性 A の値が 100 でないオブジェクトはヒットしますが、属性 A に値が設定されていないオブジェクトはヒットしません。

## ■ 多値属性の検索条件

多値属性の検索条件で使用される演算子を表す要素について説明します。

### ◆ allval

多値属性用の論理演算子“ALLVAL”を表現する要素です。すべての値が指定された条件を満足する場合のみ真となります。この要素の直下に多値属性を使用した比較検索条件を1つだけ記述して使用します。

### ◆ oneval

多値属性用の論理演算子“ONEVAL”を表現する要素です。指定された条件を満たす値が一つでもあれば真になります。この要素の直下に多値属性を使用した比較検索条件を1つだけ記述して使用します。

## ■ 関数式

関数式を記述するための要素について説明します。

### ◆ funcExpr

関数式を表現する要素です。すべての関数式はこの要素で表現され、関数式の種類はこの要素のoperation属性の値によって表現されます。

ここでは、operation属性に記述できる値について説明します。

- ・ sum  
“+”を表す値です。funcExpr 要素の直下に属性値を表す要素を 2 つ記述して使用します。
- ・ subtract  
“-”を表す値です。funcExpr 要素の直下に属性値を表す要素を 2 つ記述して使用します。
- ・ multiply  
“\*”を表す値です。funcExpr 要素の直下に属性値を表す要素を 2 つ記述して使用します。
- ・ divide  
“/”を表す値です。funcExpr 要素の直下に属性値を表す要素を 2 つ記述して使用します。
- ・ mod  
“%”を表す値です。funcExpr 要素の直下に属性値を表す要素を 2 つ記述して使用します。
- ・ average  
“AVERAGE”を表す値です。funcExpr 要素の直下に属性値を表す要素を 2 つ以上記述して使用します。
- ・ max  
“MAX”を表す値です。funcExpr 要素の直下に属性名を表す要素を 1 つ記述して使用します。
- ・ min  
“MIN”を表す値です。funcExpr 要素の直下に属性名を表す要素を 1 つ記述して使用します。
- ・ upper  
“UPPER”を表す値です。funcExpr 要素の直下に属性値（文字列型）を表す要素を 1 つ記述して使用します。
- ・ lower  
“LOWER”を表す値です。funcExpr 要素の直下に属性値（文字列型）を表す要素を 1 つ記述して使用します。
- ・ substr  
“SUBSTR”を表す値です。funcExpr 要素の直下に部分文字列を抽出する属性値、開始地点を表す属性値、終了地点を表す属性値を表す要素を順番に記述して使用します。

## ■ 属性

属性名と属性値を表現する要素について説明します。

### ◆ idExpr

属性名を表現する要素です。この要素の直下に属性IDを表現する要素を記述して使用します。属性IDを表現する要素とは属性IDの名前を要素名とし、属性IDの名前空間接頭辞と名前空間をそのままその要素に使用したものを指します。

システム属性を記述する場合には、名前空間接頭辞に次の文字列を指定します。

```
xmlns:system="http://www.fujifilm.com/fb/2021/09/drep/atom/system"
```

記述例は、次のとおりです。(システム属性 system:name の例)

```
<eappli:idExpr>
  <system:name xmlns:system="http://www.fujifilm.com/fb/2021/09/drep/atom/
system"/>
</eappli:idExpr>
```

ユーザー属性を記述する場合には、名前空間接頭辞に次の文字列を指定します。

```
xmlns:user="http://www.fujifilm.com/fb/2021/09/drep/atom/user"
```

(下線部には、ユーザー属性が登録されているネームスペースを記述)

記述例は、次のとおりです。(ユーザー属性 tokyo:drawingNumber の例)

```
<eappli:idExpr>
  <tokyo:drawingNumber xmlns:tokyo="http://www.fujifilm.com/fb/2021/09/drep/
atom/tokyo"/>
</eappli:idExpr>
```

### ◆ valueExpr

属性値を表現する要素です。この要素の直下に値を表現する要素を記述して使用します。次に値を表現する要素を示します。

### ◆ atomValue

アトム型の値を表す要素です。アトムは「名前空間接頭辞：アトム名」で指定します。

### ◆ booleanValue

ブール型の値を表す要素です。「true」あるいは「false」で指定します。

### ◆ dateValue

日時型の値を表す要素です。「yyyy-MM-dd HH:mm:ss z」形式で指定します。

yyyy：4桁の西暦年

MM：2桁の月

dd：2桁の日

HH：2桁の時（24時間制）

mm：2桁の分

ss：2桁の秒

z：タイムゾーン

### ◆ doubleValue

double型の数値を表す要素です。任意の数値で指定します。

---

◆ **integerValue**

integer型の数値を表す要素です。任意の数値で指定します。

◆ **longValue**

long型の数値を表す要素です。任意の数値で指定します。

◆ **stringValue**

文字列型の値を表す要素です。任意の文字列で指定します。

◆ **principalValue**

プリンシパル型の値を表す要素です。次の要素で構成されます。

- ・ general  
principalValue 要素の直下に位置し、一般ユーザーを表す場合に使用されます。
- ・ admin  
principalValue 要素の直下に位置し、管理ユーザーを表す場合に使用されます。
- ・ rmsEntryValue  
general 要素、admin 要素の直下に位置し、RMS のエントリーを表します。
- ・ type  
rmsEntryValue 要素が持つ属性です。「user」、「group」、「userRoleName」などの値で RMS のエントリータイプを指定します。

◆ **id**

rmsEntryValue要素の直下に位置し、エントリー IDを表す要素です。

◆ **name**

rmsEntryValue要素の直下に位置し、DN値を表す要素です。

◆ **UserRoleValue**

ユーザーロール型の値を表す要素です。rmsEntryValue要素を直下に持ちます。

## 検索条件の記述例

XMLによる属性検索条件式の記述例を次に示します。

```
<?xml version="1.0" encoding="Windows-31J" ?>

<search>
<attrSearch>
<api:atsAnd xmlns:api="http://www.fujifilm.com/fb/2021/09/drep/api">
<api:equal>
<api:funcExpr api:operation="upper">
<api:idExpr>
<system:name xmlns:system="http://www.fujifilm.com/fb/2021/09/drep/atom/system"/
>
</api:idExpr>
</api:funcExpr>
<api:funcExpr api:operation="upper">
<api:valueExpr>
<api:stringValue>document</api:stringValue>
</api:valueExpr>
</api:funcExpr>
</api:equal>
<api:between>
<api:idExpr>
<user:drawingNumber xmlns:user="http://www.fujifilm.com/fb/2021/09/drep/atom/
user"/>
</api:idExpr>
<api:valueExpr>
<api:integerValue>10000</api:integerValue>
</api:valueExpr>
<api:valueExpr>
<api:integerValue>30000</api:integerValue>
</api:valueExpr>
</api:between>
</api:atsAnd>
</attrSearch>
</search>
```

**注記** ドキュメント管理サービス SDK の検索条件記述ファイルでは、ルート要素を「<search>」とし、その子要素に「<attrSearch>」を記述し、「<attrSearch>」の子要素として、XML スキーマに沿った検索条件式を記述します。

また、「<search>」と「<attrSearch>」を除き、検索条件式にはプレフィックス「api:」を記述することとし、最初に出現する要素（例では「<api:atsAnd>」）には、名前空間の宣言 xmlns:api=「http://www.fujifilm.com/fb/2021/09/drep/api」を記述してください。

# 付録 F JavaAPI

## 付録 F.1 JavaAPI の概要

ここでは、ドキュメント管理サービスIFTKおよび一括登録コマンドの機能を実現するためのJava™のAPIについて説明します。

JavaのAPIには、次の種類があります。

- ・ ライブラリ版  
ドキュメント管理サービス IFTK と一括登録コマンドの機能をそのまま実現します。
- ・ API 版  
ドキュメント管理サービス内のオブジェクトに対する単一の操作を実行します。

### ライブラリ版

ライブラリ版は、ドキュメント管理サービスIFTKと一括登録コマンドの機能を、そのまま実現できるJavaのAPIを提供します。

ドキュメント管理サービスのオブジェクトの指定やオブジェクト登録に必要な次のファイルは、ドキュメント管理サービスIFTKや一括登録コマンドで指定するファイルと同じファイルフォーマットで記述します。

- ・ 実行パラメーターファイル
- ・ 操作対象オブジェクト指定ファイル
- ・ オブジェクト登録ファイル

操作対象オブジェクトや登録するオブジェクトは、コマンド版と同じCSVファイルで指定するため、CSVファイルの1行単位で処理を実行します。

コマンド版と異なり、実行経過のログは、出力先が指定されなかった場合には、CSVファイルを1行処理するごとに、APIから取得することになります。

- 参照**
- ・ ライブラリ版の仕様やインターフェースの詳細については、JavaDoc API ドキュメントを参照してください。
  - ・ また、ライブラリ版を使用したサンプルプログラムが JavaDoc API ドキュメントに同梱されています。プログラミング方法、クラスパスの設定、Java の実行時オプションの設定などについては、サンプルプログラムを参照してください。

### API 版

API版は、ドキュメント管理サービス内のオブジェクトに対する属性取得や属性設定など、単一の操作を実現するJavaのAPIを提供します。

API版では、ドキュメント管理サービス内の1つのオブジェクトをJavaの1つのオブジェクトとして扱います。そのため、1つのオブジェクトに対して、属性取得、属性設定、内容依存情報の更新を1回の処理で行うなど、ライブラリ版ではCSVファイルや実行パラメーターファイルを変更しなければならない複雑な操作を、API版ではアプリケーションを作成することで実現できます。

取得対象の属性や設定する属性の指定方法は、処理するオブジェクト単位にJavaのオブジェクトで指定できます。そのため、ライブラリ版と同様に、すべての処理対象で同じ属性を取得することや、処理対象のオブジェクトカテゴリーによって別々の属性を取得するようなアプリケーションを作成できます。

コマンド版やライブラリ版と異なり、API版では、実行経過のログは作成されず、実行結果はメソッドの戻り値であるJavaのオブジェクトとなります。そのため、コマンド版やライブラリ版と同様のログを出力するためには、ログを出力するようにアプリケーションで対応しなければなりません。

- 参照**
- ・ API 版の仕様やインターフェースの詳細については、JavaDoc API ドキュメントを参照してください。
  - ・ また、API 版を使用したサンプルプログラムが JavaDoc API ドキュメントに同梱されています。プログラミング方法、クラスパスの設定、Java の実行時オプションの設定などについては、サンプルプログラムを参照してください。

## 付録 F.2 API ドキュメントとサンプルプログラムの利用

ライブラリ版およびAPI版に関するJavaDoc APIドキュメントとサンプルプログラムは、ドキュメント管理サービスSDKインストール時に、次のディレクトリおよび圧縮ファイルとして保存されます。

{ドキュメント管理サービス SDK のインストールディレクトリ} ¥sample¥dRepSDKAPI.zip

- 補足** {ドキュメント管理サービス SDK のインストールディレクトリ} は、プログラムのインストール先のディレクトリです。インストール時に指定します。

この圧縮ファイルには、ライブラリ版とAPI版それぞれに関するJavaDoc APIドキュメントとサンプルプログラムが含まれます。

JavaDoc APIのドキュメントとサンプルプログラムは、この圧縮ファイルを任意のディレクトリに展開すると使用できるようになります。展開後のディレクトリ構成は、次のとおりです。

表：展開後のディレクトリ構成

ディレクトリ名	説明
API/javadoc	API版のJavaDoc APIドキュメントが格納される。
API/sample/bin	API版のサンプル実行用のバッチファイルが格納される。
API/sample/src	API版のサンプルプログラムが格納される。
LIB/javadoc	ライブラリ版のJavaDoc APIドキュメントが格納される。
LIB/sample/bin	ライブラリ版のサンプル実行用のバッチファイルが格納される。
LIB/sample/src	ライブラリ版のサンプルプログラムが格納される。

## 付録 F.3 サンプルプログラム

ここでは、JavaDoc APIのドキュメントに含まれる、サンプルプログラムについて説明します。

### ライブラリ版

ライブラリ版のサンプルプログラムとして、次のプログラムを提示しています。

- ・ドキュメント管理サービス IFTK と一括登録コマンドの機能を、プログラム実行時の引数により切り分け、1つのコマンドとして実現する方法
- ・対象のオブジェクトをロックして、コンテンツを差し替え、アンロックする一連の操作を行う方法

**参照** サンプルプログラムの実行方法については、サンプルプログラム中のコメントや実行用のバッチファイルを参照してください。

### API 版

API版のサンプルプログラムでは、APIとして提供している属性取得、属性設定、ドキュメント登録などの機能ごとに、その実現方法を提示しています。

**参照** サンプルプログラムで実現している機能や実行方法については、サンプルプログラム中のコメントや実行用のバッチファイルを参照してください。

## 付録 F.4 動作環境

Javaの実行環境は、ドキュメント管理サービス SDKが使用するJRE、またはドキュメント管理サービス SDKが使用するJREと同じバージョンのJava SEのJREを使用してください。ドキュメント管理サービス SDKが使用するJREは、次のフォルダーにインストールされています。

{ドキュメント管理サービス SDKのインストールディレクトリー} ¥Java

**補足** {ドキュメント管理サービス SDKのインストールディレクトリー} は、プログラムのインストール先のディレクトリーです。インストール時に指定します。

### ■ インストールされた Java のバージョンを確認する手順

1. ドキュメント管理サービス SDK をインストールしたサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. [管理者：コマンド プロンプト] 画面を表示します。

#### ◆ Windows Server 2016、Windows Server 2019、Windows 10 の場合

- (1) Windows の [スタート] メニューから、[Windows システムツール] > [コマンドプロンプト] を右クリックし、[その他] > [管理者として実行] を選択します。

#### ◆ Windows 8.1 の場合

- (1) Windows のスタート画面で、左下に表示された [↓] をクリックします。
- (2) [Windows システムツール] カテゴリの [コマンドプロンプト] を右クリックし、[管理者として実行] を選択します。

**補足** [ユーザーアカウント制御] 画面が表示された場合は、[はい] をクリックします。

3. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
cd {ドキュメント管理サービス SDK をインストールしたドライブ} :¥Program Files¥FUJIFILM¥ArcSuite¥Tool¥dRepTools¥Java¥jre¥bin
```

4. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
.¥java -version
```

5. 「java version」以降の「」で囲まれた値を確認します。

## ■ ドキュメント管理サービス SDK のライブラリーについて

ドキュメント管理サービスを使用して作成したアプリケーションを動作させるためには、ドキュメント管理サービス SDKのライブラリーが使用するライブラリーを適切に設定してください。

ドキュメント管理サービス SDKを使用するライブラリーは、次の通りです。

**注記** 必ず ArcSuite 4.0 のライブラリーを使用してください。旧バージョンのライブラリーを使用した場合には、アプリケーションが動作しない可能性があります。

また、このドキュメント管理サービス SDKが依存するライブラリーについては、ドキュメント管理サービス SDKインストール時にインストールされる次の表のライブラリーを使用してください。

このドキュメント管理サービス SDKを使用して作成したアプリケーションを動作させる場合には、次の表のライブラリーを使用するように設定しなければなりません。同じライブラリーの異なるバージョンを使用した場合には、アプリケーションが動作しないなどの不具合が発生する可能性があります。

表 : 使用可能なライブラリー

種別	ライブラリー名	バージョン	格納先	ファイル名
ArcSuite			lib	arcsuite.jar
ArcSuite			lib	arcsuite_onlinebackup.jar
ArcSuite			lib	arcsuite_registry.jar
ArcSuite			lib	arcsuite_resource_default.jar
ArcSuite			lib	arcsuite_resource_en.jar
ArcSuite			lib	arcsuite_resource_ko.jar
ArcSuite			lib	arcsuite_resource_zh_CN.jar
ArcSuite			lib	arcsuite_resource_zh_TW.jar
Other	Apache Axis	1.4	lib	axis.jar
ArcSuite			lib	cmessage.jar
Other	Commons Codec	1.9	lib	commons-codec-1.9.jar
Other	Commons Collections	3.2.2	lib	commons-collections-3.2.2.jar
Other	Commons Discovery	0.5	lib	commons-discovery-0.5.jar
Other	Commons Lang	2.6	lib	commons-lang-2.6.jar
Other	Commons Logging	1.1.1	lib	commons-logging-1.1.1.jar
Other	Commons Pool	1.6	lib	commons-pool-1.6.jar
Other	Apache CXF	3.1.6	lib	cxf-core-3.1.6.jar
Other	Apache CXF	3.1.6	lib	cxf-rt-bindings-soap-3.1.6.jar
Other	Apache CXF	3.1.6	lib	cxf-rt-databinding-jaxb-3.1.6.jar

表 :使用可能なライブラリー (続き)

種別	ライブラリー名	バージョン	格納先	ファイル名
Other	Apache CXF	3.1.6	lib	cxfrtfrontendjaxws-3.1.6.jar
Other	Apache CXF	3.1.6	lib	cxfrtfrontend-simple-3.1.6.jar
Other	Apache CXF	3.1.6	lib	cxfrttransports-http-3.1.6.jar
Other	Apache CXF	3.1.6	lib	cxfrtwSDL-3.1.6.jar
ArcSuite			lib	drep_tool.jar
Other	JavaMail API	1.6.0	lib	javax.mail.jar
Other	JAXB Reference Implementation	2.1.16	lib	jaxb1-impl.jar
Other	JAX-RPC	1.4	lib	jaxrpc.jar
ArcSuite			lib	conv-2.0.jar
ArcSuite			lib	csv-2.0.1.jar
Other	Log4j	1.2.16	lib	log4j-1.2.16.jar
ArcSuite			lib	monitoring_action.jar
ArcSuite			lib	monitoring_action_cmessage.jar
ArcSuite			lib	monitoring_action_util.jar
ArcSuite			lib	nim-auth.jar
ArcSuite			lib	nim-backup.jar
ArcSuite			lib	nim-cipher.jar
ArcSuite			lib	nim-dbcore.jar
ArcSuite			lib	nim-exception.jar
ArcSuite			lib	nim-log.jar
ArcSuite			lib	nim-login.jar
ArcSuite			lib	nim-sync.jar
Other	Oracle JDBC	19.3.0.0	lib	ojdbc8.jar
Other	Oracle RAC	19.3.0.0	lib	ons.jar
ArcSuite			lib	rms.jar
ArcSuite			lib	rms_log.jar
ArcSuite			lib	sc.jar
ArcSuite			lib	sc_container.jar
ArcSuite			lib	sc_entrance.jar
ArcSuite			lib	sc_javasvc.jar
ArcSuite			lib	sc_oracle.jar
Other	Stax2 API	3.1.4	lib	stax2-api-3.1.4.jar
ArcSuite			lib	swpf_mail.jar
ArcSuite			lib	swpf-i18n-1.0.3.jar

表 :使用可能なライブラリー (続き)

種別	ライブラリー名	バージョン	格納先	ファイル名
ArcSuite			lib	swpf-logging-1.0.20.jar
ArcSuite			lib	swpf-logging-log4j-1.0.20.jar
ArcSuite			lib	swpf-logging-log4j-provider-1.0.20.jar
ArcSuite			lib	transformer.jar
Other	Oracle JDBC	19.3.0.0	lib	ucp.jar
Other	Woodstox XML-processor	4.4.1	lib	woodstox-core-asl-4.4.1.jar
Other	WSDL4J	1.6.3	lib	wSDL4j-1.6.3.jar
Other	XmlSchema Core	2.2.1	lib	xmlschema-core-2.2.1.jar
ArcSuite			bin	arcsuite_registry.dll
ArcSuite			bin	entrance.dll

- ・ 上記の表中における種別の意味は次のとおりです。
  - ArcSuite で提供しているものは ArcSuite
  - それ以外は Other
- ・ Other の場合には、ライブラリー名とバージョンを記載しています。
- ・ 表中の「格納先」は、次の通りです。
  - lib
    - {ドキュメント管理サービス SDK のインストールディレクトリー} ¥lib
  - bin
    - {ドキュメント管理サービス SDK のインストールディレクトリー} ¥bin

---

## 付録 F.5 注意事項

---

このJavaAPIの利用者は、ドキュメント管理サービス、ドキュメント管理サービスIFTK、一括登録コマンド、およびJavaに関する基本的な知識を持っていることを前提とします。

**参照** API版およびライブラリ版固有の注意事項については、それぞれのJavaDoc APIドキュメントを参照してください。

# 付録 G Windows のファイアウォール機能に対する設定内容

ArcSuiteのインストーラーは、Windowsのファイアウォールサービスが稼動している場合、必要な設定を自動的に行います。ここでは、その設定内容について記載します。

## 付録 G.1 Windows のファイアウォール機能について

Windowsのファイアウォール機能には、「セキュリティが強化されたWindowsファイアウォール」と「Windowsファイアウォール」の2種類が存在します。

ArcSuiteのインストーラーでは、「セキュリティが強化されたWindowsファイアウォール」が利用可能な環境では、「セキュリティが強化されたWindowsファイアウォール」に対して設定を行います。利用できない場合は、「Windowsファイアウォール」に対して設定を行います。

**補足** Windows のファイアウォールのサービスが停止している場合は、設定を行いません。

## 付録 G.2 「セキュリティが強化された Windows ファイアウォール」に対する設定

「セキュリティが強化されたWindowsファイアウォール」は、送受信全体の拒否/許可、個々の通信を拒否/許可する規則を登録することで設定を行います。

表：「セキュリティが強化された Windows ファイアウォール」の挙動と設定方法

通信の向き	デフォルトの挙動	設定方法
受信	すべて拒否	「規則」を登録することで、受信の許可/拒否を設定できる
送信	すべて許可	「規則」を登録することで、送信の許可/拒否を設定できる

**補足** 「規則」には、プログラムとポートのどちらも指定可能です。ArcSuite のインストーラーでは、ポートを指定する場合には、プログラムの指定はせずに「規則」を登録します。逆に、プログラムを指定する場合には、ポートは指定せずに「規則」を登録します。

**参照** ArcSuite のインストーラーにより登録される「例外」については、[\[付録 G.4 登録される「例外」、\[規則\]一覧\] \(P.306\)](#) を参照してください。

次に、ArcSuiteのインストーラーが「規則」に指定する値を示します。

表：インストーラーが登録する「規則」の設定値

規則のタイプ [ポート/プログラム]	設定区分	項目名	設定値 (太字：「規則」で共通の値 太字以外：「規則」ごとに異なる値)	
ポート	全般	名前	プログラムごとの名前	
		説明	プログラムごとの説明（名前と同じ値）	
		操作	<b>接続を許可する</b>	
	プログラムおよびサービス	プログラム	<b>指定なし</b>	
		サービス	<b>指定なし</b>	
	リモートコンピューター	承認されているコンピューター	<b>指定なし</b>	
		例外	<b>指定なし</b>	
	プロトコルおよびポート	プロトコルの種類	<b>TCP</b>	
		ローカルポート	プログラムごとのポート	
		リモートポート	プログラムごとのポート	
	スコープ	ローカルIPアドレス	<b>任意のIPアドレス</b>	
		リモートIPアドレス	<b>任意のIPアドレス</b>	
	詳細設定	プロファイル	<b>すべてのプロファイル</b>	
		インターフェイスの種類	<b>指定なし</b>	
		エッジトラバーサル	<b>指定なし</b>	
	プログラム	全般	名前	プログラムごとの名前
			説明	プログラムごとの説明（名前と同じ値）
			操作	<b>接続を許可する</b>
プログラムおよびサービス		プログラム	プログラムごとのパス	
		サービス	<b>指定なし</b>	
リモートコンピューター		承認されているコンピューター	<b>指定なし</b>	
		例外	<b>指定なし</b>	
プロトコルおよびポート		プロトコルの種類	<b>TCP</b>	
		ローカルポート	<b>すべてのポート</b>	
		リモートポート	<b>すべてのポート</b>	
スコープ		ローカルIPアドレス	<b>任意のIPアドレス</b>	
		リモートIPアドレス	<b>任意のIPアドレス</b>	
詳細設定		プロファイル	<b>すべてのプロファイル</b>	
		インターフェイスの種類	<b>指定なし</b>	
		エッジトラバーサル	<b>指定なし</b>	

## 付録 G.3 「Windows ファイアウォール」 に対する設定

「Windowsファイアウォール」は、すべての受信を拒否する動作に対し、例外を設けることで設定を行います。

表：「Windows ファイアウォール」の挙動と設定方法

通信の向き	挙動	設定方法
受信	すべて許可（固定）	「例外」を登録することで、受信の許可を設定
送信	すべて許可（固定）	設定不可

**補足** 「例外」には、プログラム、または、ポートのどちらかが指定可能です。

**参照** ArcSuite のインストーラーにより登録される「例外」については、[\[付録 G.4 登録される「例外」、規則\] 一覧 \(P.306\)](#) を参照してください。

「例外」の項目と値は、次の表に示す通りです。

表：インストーラーが登録する「例外」の設定値

例外のタイプ [ポート/プログラム]	項目名	値 (太字：「例外」で共通の値 太字以外：「例外」ごとに異なる値)
ポート	名前	プログラムごとの名前
	パス	プログラムごとのパス
	スコープ	<b>指定なし</b>
プログラム	名前	プログラムごとの名前
	ポート番号	プログラムごとのポート番号
	スコープ	<b>指定なし</b>

## 付録 G.4 登録される「例外」、規則 一覧

ArcSuiteのインストーラーがWindowsのファイアウォール機能に対して登録する、「例外」または「規則」を次に示します。

### プログラムを指定して登録される「例外」、規則 の一覧

表：インストーラーが登録するプログラム指定の「規則」、例外 一覧

名前	プログラムのパス	「例外」または「規則」の設定条件
ArcSuite DocumentManagement Service SDK	{ArcSuiteのインストールディレクトリ} ¥Tool¥dRepTools¥Java¥jre ¥bin¥java.exe	ドキュメント管理サービスSDKインストール時

**補足** ドキュメント管理サービス SDK のインストーラーでは、ポートを指定して登録される「例外」、規則 はありません。

## 付録 H ロック、チェックアウトによる操作の可否

オブジェクトがロックされている場合や、チェックアウトされている場合には、操作が制限されます。それぞれの場合において、可能な操作と不可能な操作は次のとおりです。

表：ロックされている場合の操作可否

○：誰でも可、●：ロックオーナーだけが可、×：誰でも不可、－：該当なし

操作	ロックされている場合の操作可否						
	操作対象	操作対象の子	操作対象の親	登録先／移動先	操作対象がハードリファレンスだった場合の参照先	操作対象が分類ビュー／フォルダーだった場合の分類範囲	操作対象が分類ビュー／フォルダーだった場合の登録設定の登録先
登録	－	－	－	●	●	○	○
削除	●	●	●	－	●	○	○
コピー	○	○	○	●	●	○	○
移動	○	○	●	●	○	○	○
属性取得 / オブジェクト取得 / 表示用のオブジェクト取得 / 印刷用のオブジェクト取得	○	○	○	－	○	○	○
オブジェクトのパスの取得	○	○	○	－	○	○	○
オブジェクト ID の取得	○	○	○	－	○	○	○
属性変更 / オブジェクト変更	●	○	○	－	○	○	○
クラスの変更	●	○	○	－	○	○	○
エディションキーの変更	●	○	○	－	○	○	○
エディションリストの取得	○	○	○	－	○	○	○
内容依存情報の更新	●	○	○	－	○	○	○
スタンプ	●	○	○	－	○	○	○
ロック	●	●	○	－	○	○	○
アンロック	●	●	○	－	○	○	○
チェックアウト	×	○	○	－	○	○	○
チェックイン	×	○	○	－	○	○	○
アンチェックアウト	×	○	○	－	○	○	○
リビジョンの追加	×	○	○	－	○	○	○
リビジョンの削除	●	○	○	－	○	○	○

表：ロックされている場合の操作可否

○：誰でも可、●：ロックオーナーだけが可、×：誰でも不可、－：該当なし

操作	ロックされている場合の操作可否						
	操作対象	操作対象の子	操作対象の親	登録先／移動先	操作対象がハードリファレンスだった場合の参照先	操作対象が分類ビュー／フォルダーだった場合の分類範囲	操作対象が分類ビュー／フォルダーだった場合の登録設定の登録先
リビジョンリストの取得	○	○	○	－	○	○	○
アクセス権の変更	●	●	○	－	○	○	○
デフォルトアクセス権の変更	●	●	○	－	○	○	○
状態の変更	●	●	○	－	○	○	○
リファレンスの実体化	●	○	○	－	●	○	○
ハードリファレンスリストの取得	○	○	○	－	○	○	○
検索	○	○	○	－	○	○	○
一覧	○	○	○	－	○	○	○
キャビネットの一覧	○	○	－	－	○	○	○
キャビネットの取得	○	○	○	－	○	○	○
ごみ箱への移動	●	●	●	○	○	○	○
ごみ箱からの復元	●	●	○	●	○	○	○
操作ログの取得	○	○	○	－	○	○	○
オブジェクトカテゴリーの変更	●	○	○	－	○	○	○
プライマリコンテンツキャッシュの挿入	●	○	○	－	○	○	○
分類ビューの登録	○	○	○	●	○	●	●
分類ビューの変更	●	●	○	－	○	●	●
該当件数の更新	●	●	○	－	○	○	○
該当オブジェクトの一覧取得	○	○	○	－	○	○	○
該当オブジェクトを対象とした検索	○	○	○	－	○	○	○
タイマーイベント発行	○	○	○	－	○	○	○

表：チェックアウトされている場合の操作可否

○：誰でも可、●：ロックオーナーだけが可、△：ロックオーナーだけが校訂に関しては可、×：誰でも不可、－：該当なし

操作	チェックアウトされている場合の操作可否						
	操作対象	操作対象の子	操作対象の親	登録先／移動先	操作対象がハードリファレンスだった場合の参照先	操作対象が分類ビュー／フォルダーだった場合の分類範囲	操作対象が分類ビュー／フォルダーだった場合の登録設定の登録先
登録	－	－	－	－	●	－	－
削除	×	×	－	－	●	－	－
コピー	○	○	－	－	●	－	－
移動	○	○	－	－	○	－	－
属性取得 / オブジェクト取得 / 表示用のオブジェクト取得 / 印刷用のオブジェクト取得	○	○	－	－	○	－	－
オブジェクトのパスの取得	○	○	－	－	○	－	－
オブジェクト ID の取得	○	○	－	－	○	－	－
属性変更 / オブジェクト変更	△	○	－	－	○	－	－
クラスの変更	×	○	－	－	○	－	－
エディションキーの変更	×	○	－	－	○	－	－
エディションリストの取得	○	○	－	－	○	－	－
内容依存情報の更新	△	○	－	－	○	－	－
スタンプ	●	○	－	－	○	－	－
ロック	×	×	－	－	○	－	－
アンロック	×	×	－	－	○	－	－
チェックアウト	●	○	－	－	○	－	－
チェックイン	●	○	－	－	○	－	－
アンチェックアウト	●	○	－	－	○	－	－
リビジョンの追加	×	○	－	－	○	－	－
リビジョンの削除	×	○	－	－	○	－	－
リビジョンリストの取得	○	○	－	－	○	－	－
アクセス権の変更	×	×	－	－	○	－	－

表：チェックアウトされている場合の操作可否

○：誰でも可、●：ロックオーナーだけが可、△：ロックオーナーだけが校訂に関しては可、×：誰でも不可、－：該当なし

操作	チェックアウトされている場合の操作可否						
	操作対象	操作対象の子	操作対象の親	登録先／移動先	操作対象がハードリファレンスだった場合の参照先	操作対象が分類ビュー／フォルダーだった場合の分類範囲	操作対象が分類ビュー／フォルダーだった場合の登録設定の登録先
デフォルトアクセス権の変更	×	×	－	－	○	－	－
状態の変更	×	×	－	－	○	－	－
リファレンスの実体化	○	○	－	－	○	－	－
ハードリファレンスリストの取得	○	○	－	－	○	－	－
検索	○	○	－	－	○	－	－
一覧	○	○	－	－	○	－	－
キャビネットの一覧	○	○	－	－	○	－	－
キャビネットの取得	○	○	－	－	○	－	－
ごみ箱への移動	×	×	－	－	○	－	－
ごみ箱からの復元	×	×	－	－	○	－	－
操作ログの取得	○	○	－	－	○	－	－
オブジェクトカテゴリーの変更	×	○	－	－	○	－	－
プライマリコンテンツキャッシュの挿入	×	○	－	－	○	－	－
分類ビューの登録	○	○	－	－	○	－	－
分類ビューの変更	○	○	－	－	○	－	－
該当件数の更新	○	○	－	－	○	－	－
該当オブジェクトの一覧取得	○	○	－	－	○	－	－
該当オブジェクトを対象とした検索	○	○	－	－	○	－	－
タイマーイベント発行	○	○	－	－	○	－	－